

# 第3章 調査結果

## 1 豊田市の住みよさ

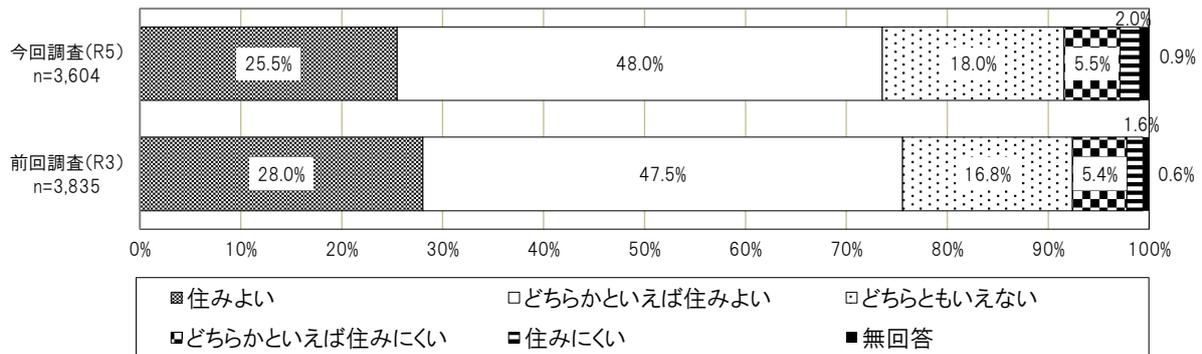
### (1) 豊田市の住みよさ

問 1	あなたは、豊田市を住みよいまちだと思えますか。(○はひとつ)
-----	--------------------------------

#### 1) 全体集計結果

豊田市が住みよいまちだと思う市民の割合（「住みよい」＋「どちらかといえば住みよい」）は73.5%となっており、前回調査と比較すると2.0ポイント減少しています。また、豊田市が住みにくいと思う市民の割合（「住みにくい」＋「どちらかといえば住みにくい」）は7.5%となっており、0.5ポイント増加しています。

図表3-1-1 豊田市の住みよさ(前回調査との比較)

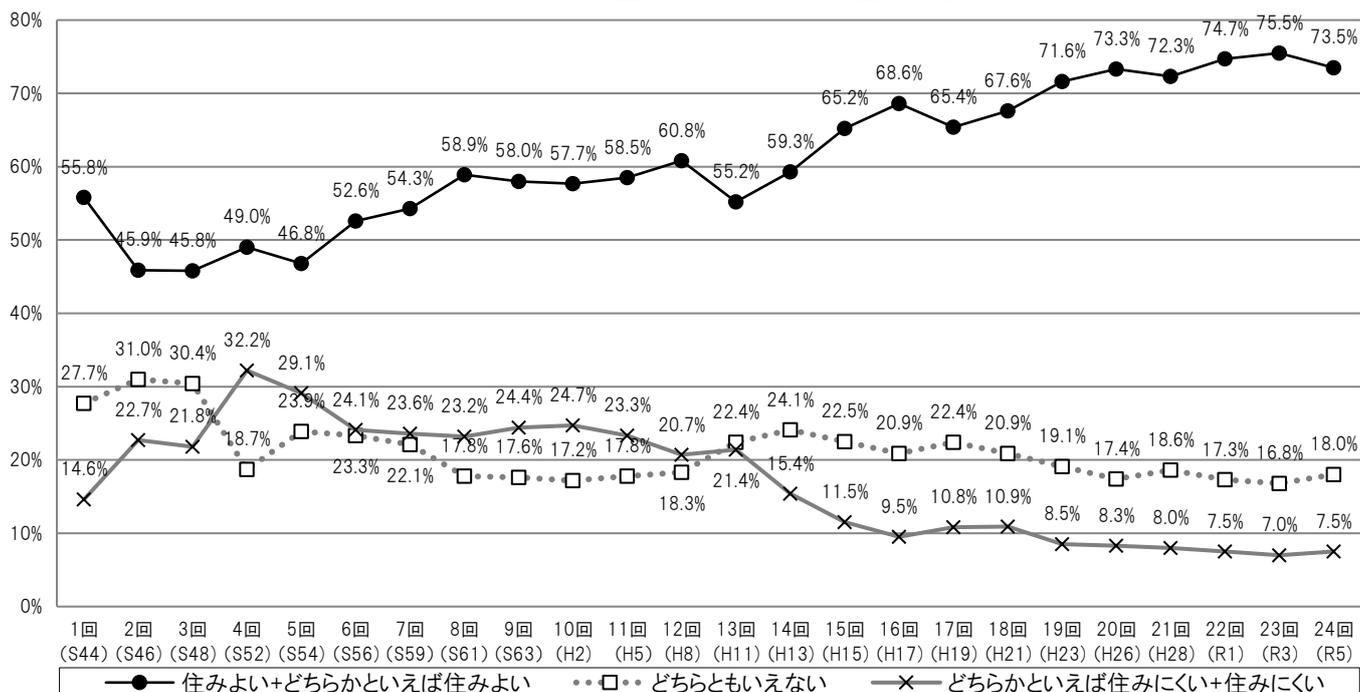


## 2) 過去の調査との比較

第1回（昭和44年度実施）からの調査結果の推移をみると、豊田市が住みよいまちだと思う市民の割合は増加傾向にあり、第15回（平成15年度実施）以降は60%を超え、第19回（平成23年度実施）以降は70%を超えています。今回の調査では73.5%となっています。

一方、豊田市が住みにくいと思う市民の割合は、第18回（平成21年度実施）以降、減少傾向にあります。

図表3-1-2 豊田市の住みよさ(経年比較)



※調査方法については、第1回、第2回は「面接調査」、第3回～第12回までは、「調査員による配布・回収調査」、第13回以降は「郵送による配布・回収調査」、第23回以降は「郵送による配布・郵送又はインターネットによる回収調査」と手法が異なります。

※調査対象の抽出方法及び調査対象者数については、第1回、第2回は「単純無作為二段階抽出法」(1,200件)、第3回「等間隔抽出法」(2,442件)、第4回～第12回「ゾーン別等間隔無作為抽出法」(約3,000件)、第13回～第17回「地区別等間隔無作為抽出法」(5,000～6,500件)、第18回～第24回は「等間隔無作為抽出法」を行った後、抽出数の少なかった地区についてそれぞれの調査で設定した条件を満たすよう対象者を追加しました。このように調査時期によって抽出方法、対象者数が異なります。

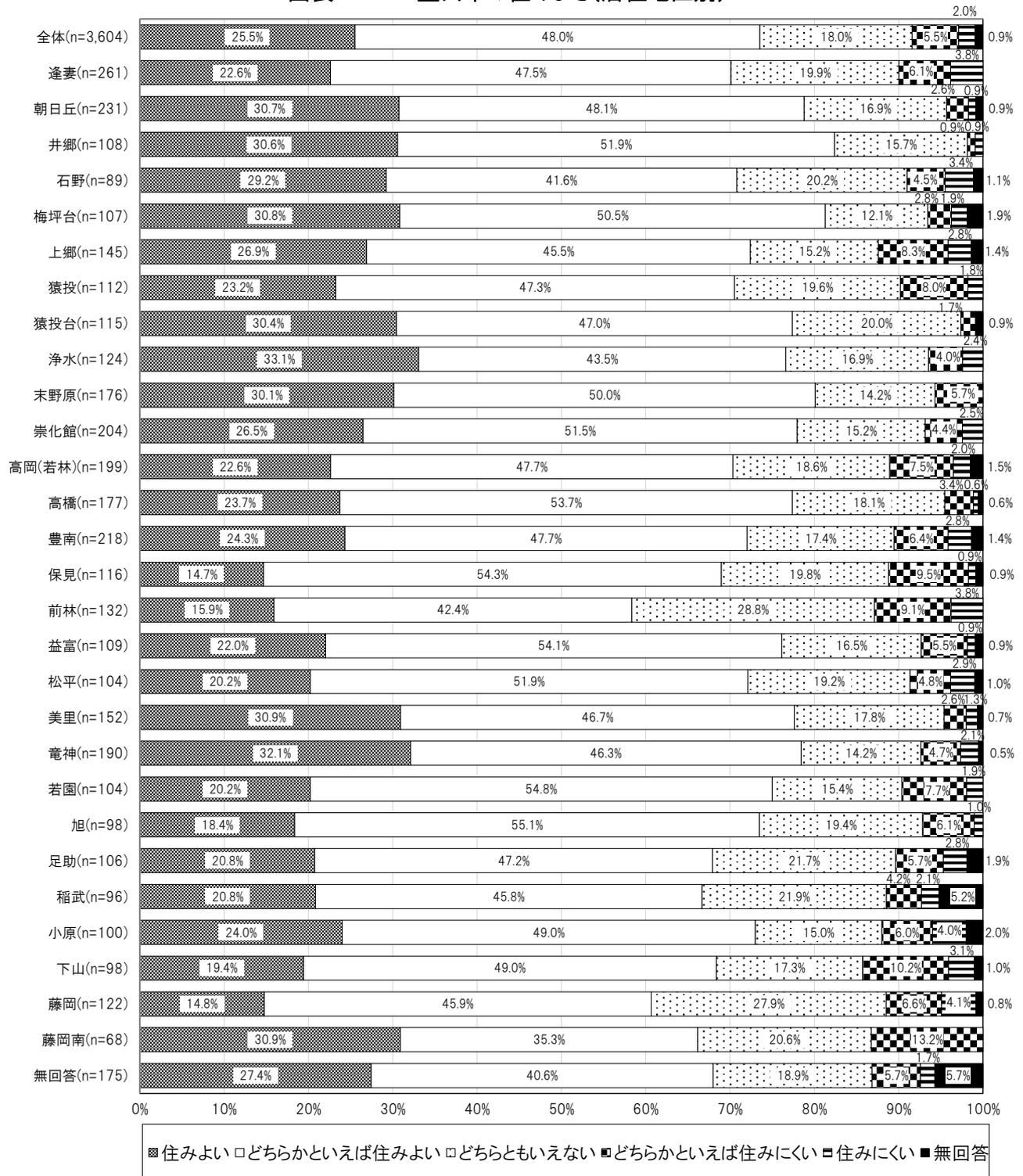
## 3) 属性分析結果

ここでは特徴的な結果が得られた「居住地区別」「年齢別」「居住年数別」「家族構成別」の属性分析を行います。

### ① 居住地区別

居住地区別にみると、豊田市が住みよいまちだと思ふ市民の割合は、井郷が 82.5%と最も高く、次いで梅坪台が 81.3%、末野原が 80.1%となっています。一方、前林は 58.3%、藤岡は 60.7%、藤岡南は 66.2%と低くなっています。

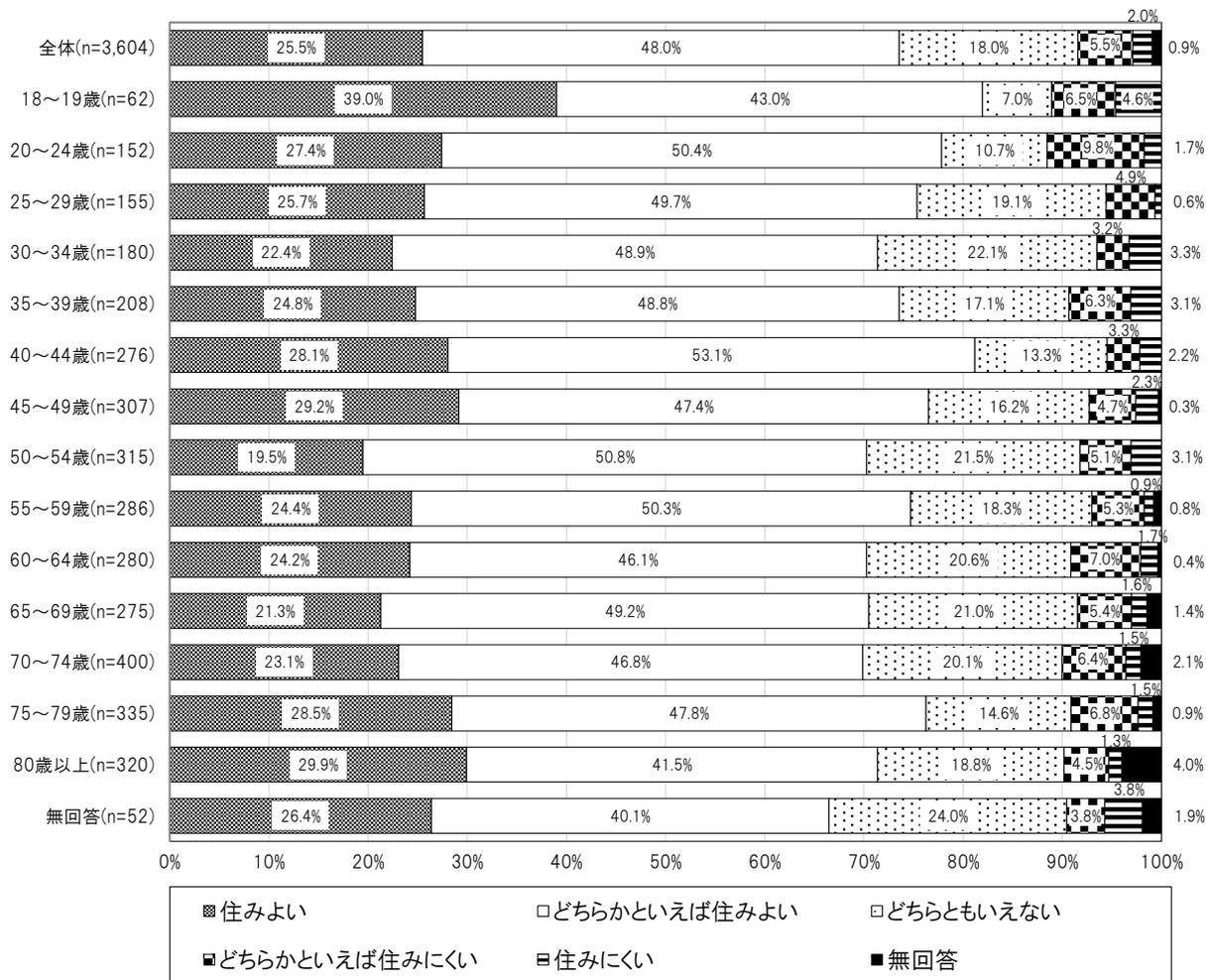
図表3-1-3 豊田市の住みよさ(居住地区別)



## ② 年齢別

年齢別にみると、豊田市が住みよいまちだと思ふ市民の割合は、18～19歳が82.0%と最も高く、次いで40～44歳が81.2%、20～24歳が77.8%となっています。一方、70～74歳は69.9%と低くなっています。

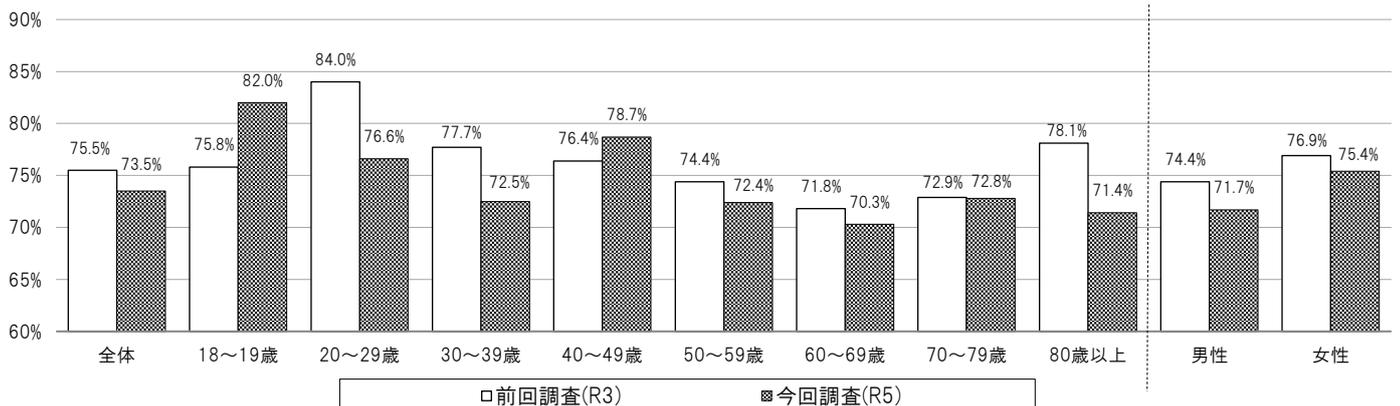
図表3-1-4 豊田市の住みよさ(年齢別)



前回調査と比較すると、18～19歳、40～49歳の年齢層で、豊田市が住みよいまちだと思ふ市民の割合が増加しています。特に18～19歳が増えています。

図表3-1-5 豊田市の住みよさ(年齢別・男女別(前回調査との比較))

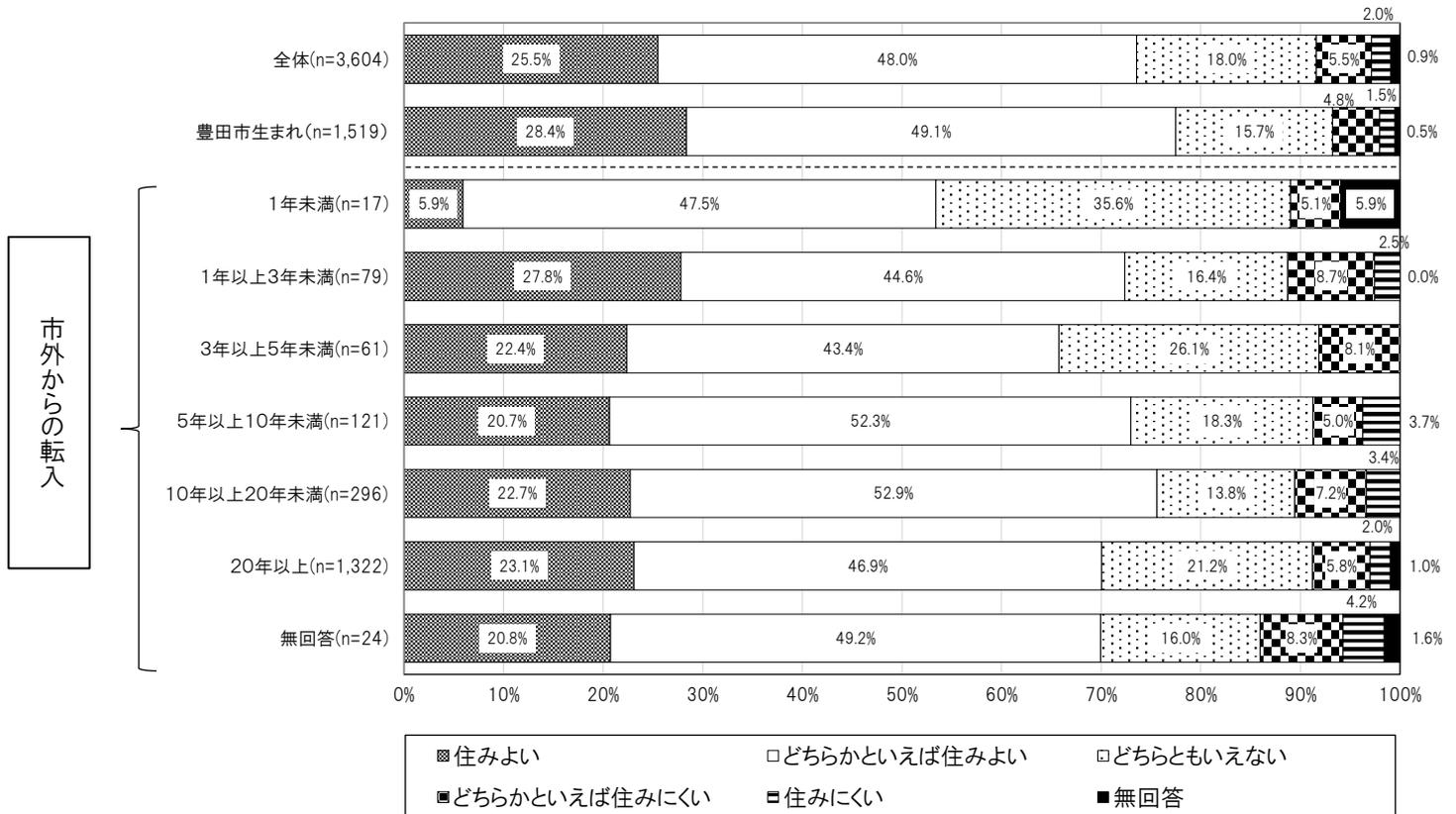
n=3,604



### ③ 居住年数別

居住年数別にみると、豊田市が住みよいまちだと思ふ市民の割合は、豊田市生まれで 77.5% となっています。一方、1 年未満は 53.4%、3 年以上 5 年未満は 65.8%と低くなっています。

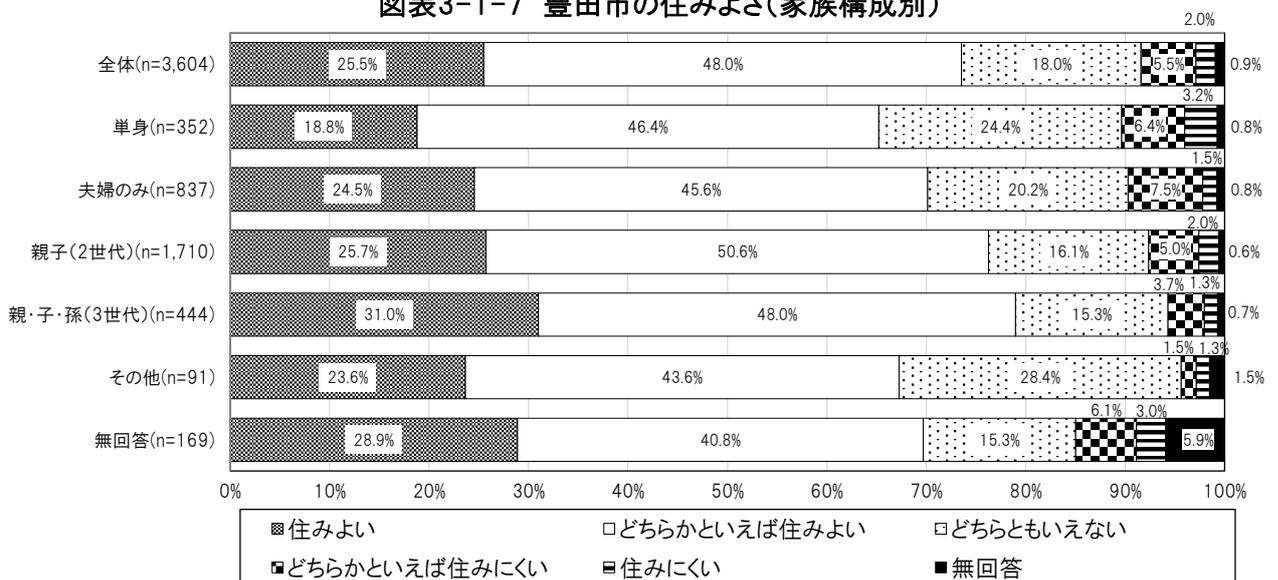
図表3-1-6 豊田市の住みよさ(居住年数別)



### ④ 家族構成別

家族構成別にみると、豊田市が住みよいまちだと思ふ市民の割合は、親・子・孫（3世代）世帯で 79.0%と最も高くなっています。

図表3-1-7 豊田市の住みよさ(家族構成別)



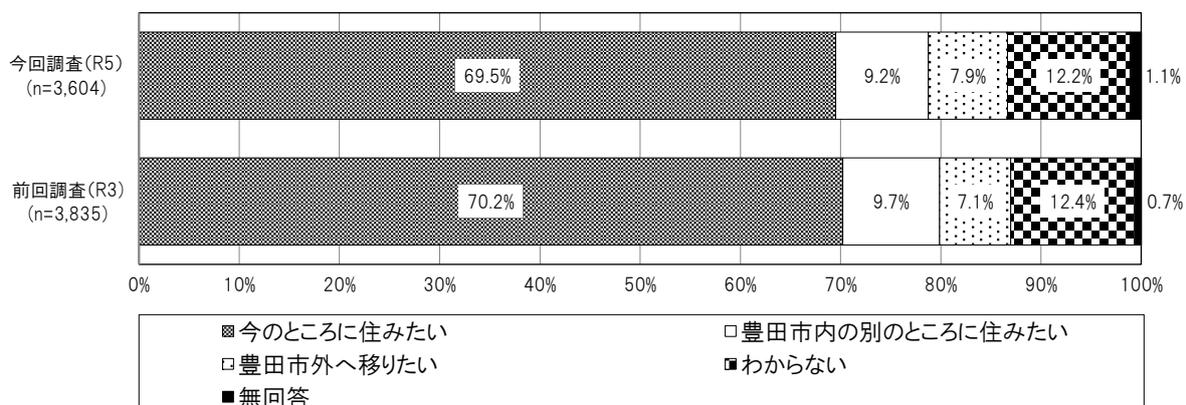
## (2) 定住意識

<b>問 2 - 1</b>	あなたは、今住んでいるところに、これからも長く住み続けたいと思いますか。(○はひとつ)
----------------	---

### 1) 全体集計結果

豊田市に長く住みたいと思う市民の割合(「今のところに住みたい」+「豊田市内の別の所に住みたい」)は78.7%となっており、前回調査と比較すると、1.2ポイント減少しています。一方、「豊田市外へ移りたい」と回答した市民の割合は7.9%と前回調査より0.8ポイント増加しています。

図表3-2-1 定住意識(前回調査との比較)

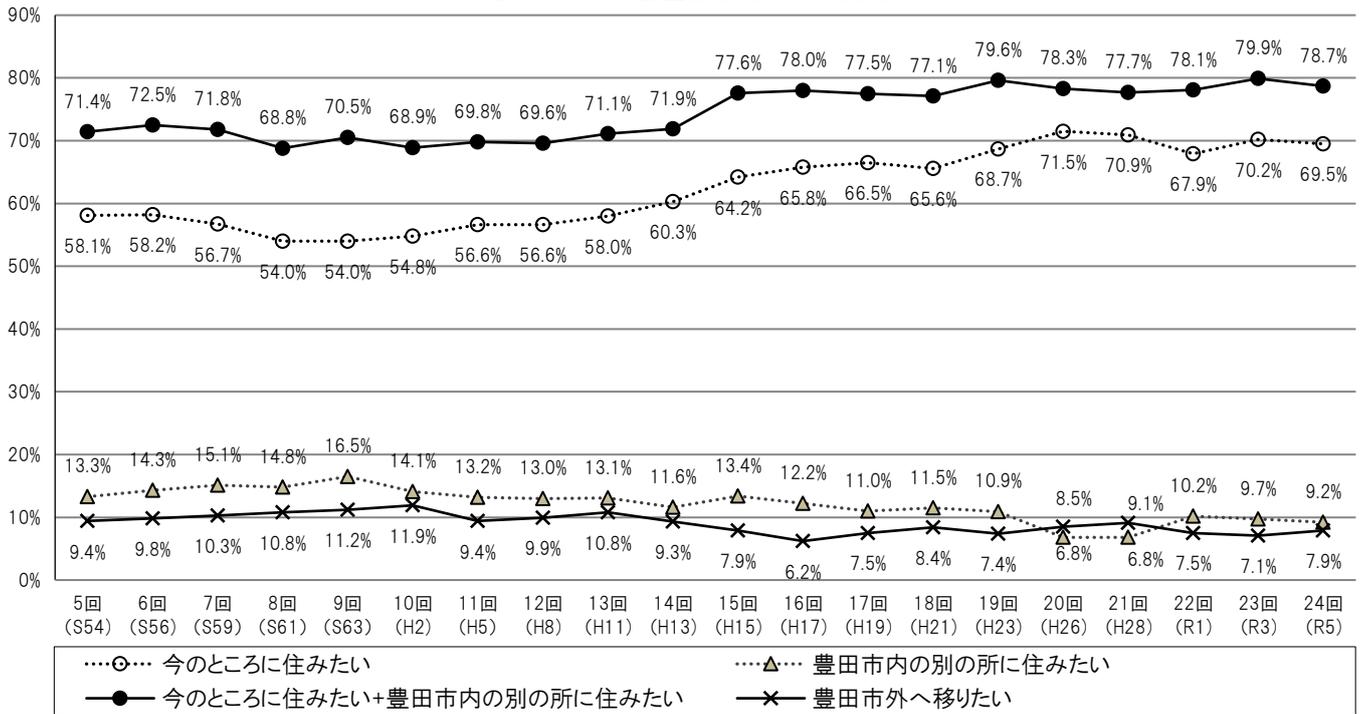


### 2) 過去の調査との比較

本問を設定した第5回(昭和54年度実施)からの調査結果の推移をみると、「今のところに住みたい」と回答した市民の割合は、第14回(平成13年度実施)以降、60%を超えています。

一方、「豊田市外へ移りたい」と回答した市民の割合は、第14回(平成13年度実施)以降、10%未満で推移しています。

図表3-2-2 定住意識(経年比較)



※10 ページの「豊田市の住みよさ」と同様に、調査方法、調査対象者抽出方法及びサンプル数は、実施年度ごとに異なります。

### 3) 属性分析結果

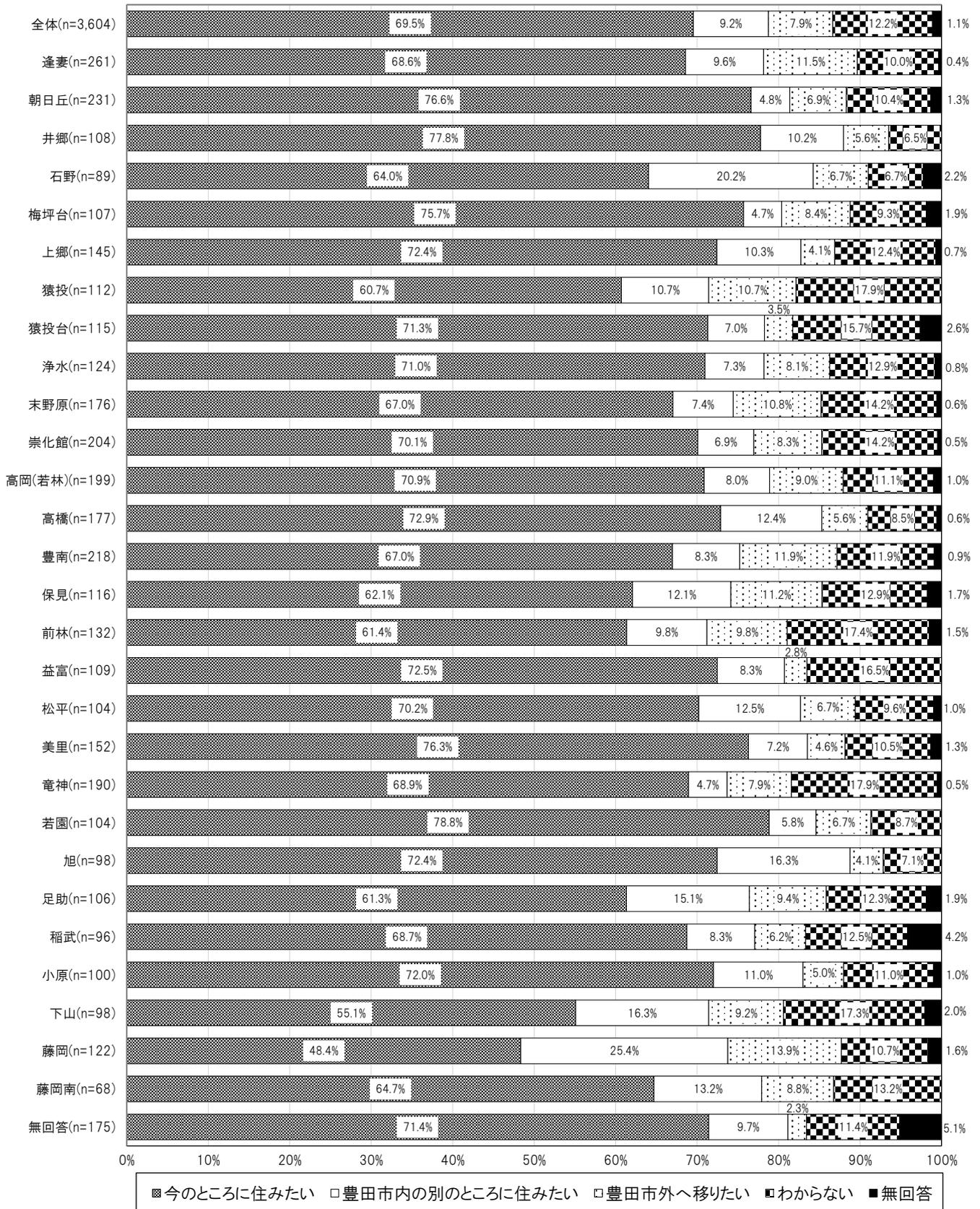
ここでは特徴的な結果が得られた「居住地区別」「年齢別」「職業別」「家族構成別」「居住形態別」「居住年数別」の属性分析を行います。

#### ① 居住地区別

居住地区別にみると、「今のところに住みたい」と回答した市民の割合は若園が78.8%と最も高く、次いで井郷が77.8%、朝日丘が76.6%となっています。一方、藤岡は48.4%、下山は55.1%、猿投は60.7%と低くなっています。

また、「豊田市内の別のところに住みたい」と回答した市民の割合は、藤岡が25.4%、石野が20.2%、旭と下山が16.3%と多くなっており、「豊田市外へ移りたい」と回答した市民の割合は、藤岡が13.9%、豊南が11.9%、逢妻が11.5%と多くなっています。

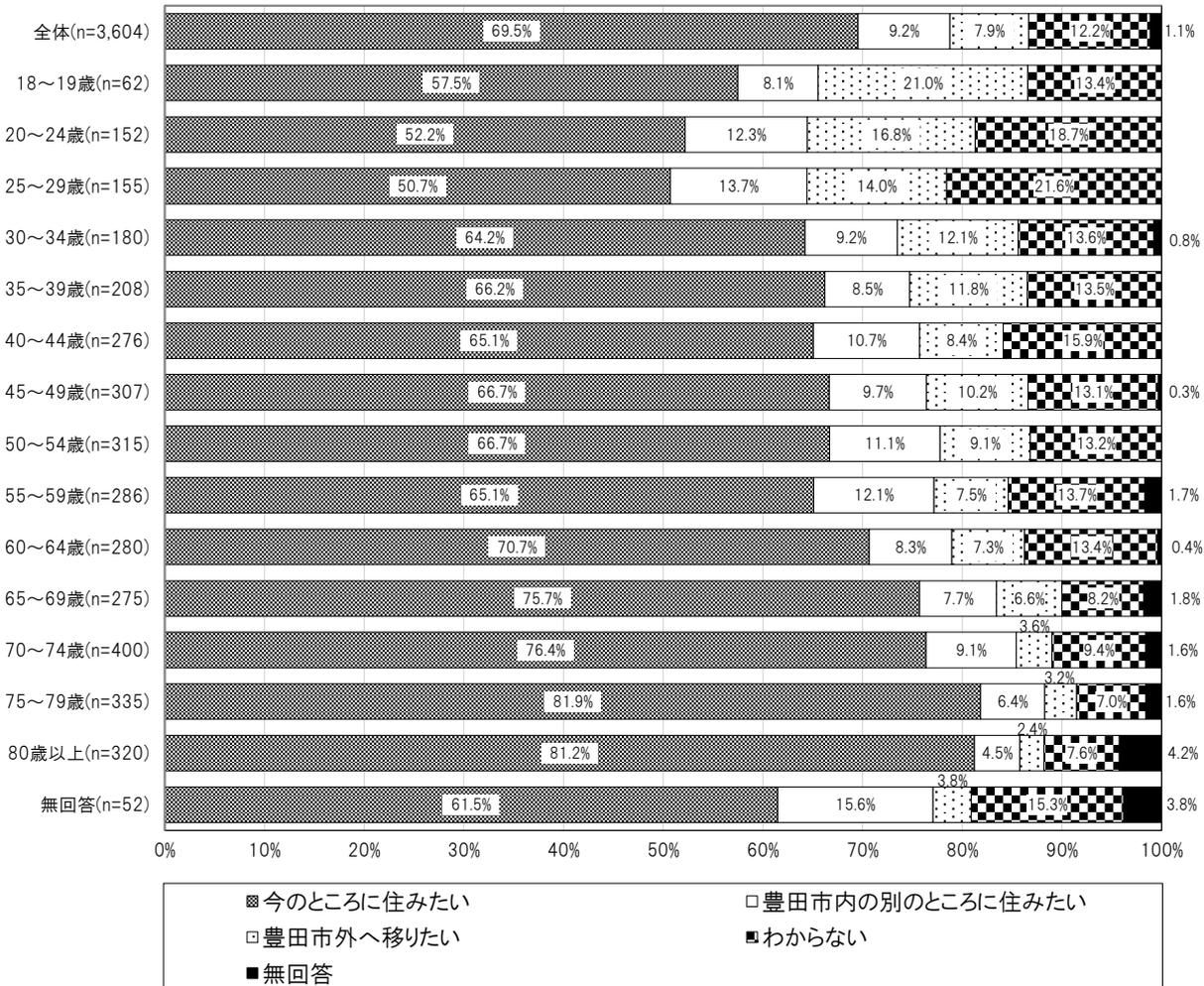
図表3-2-3 定住意識(居住地区別)



## ② 年齢別

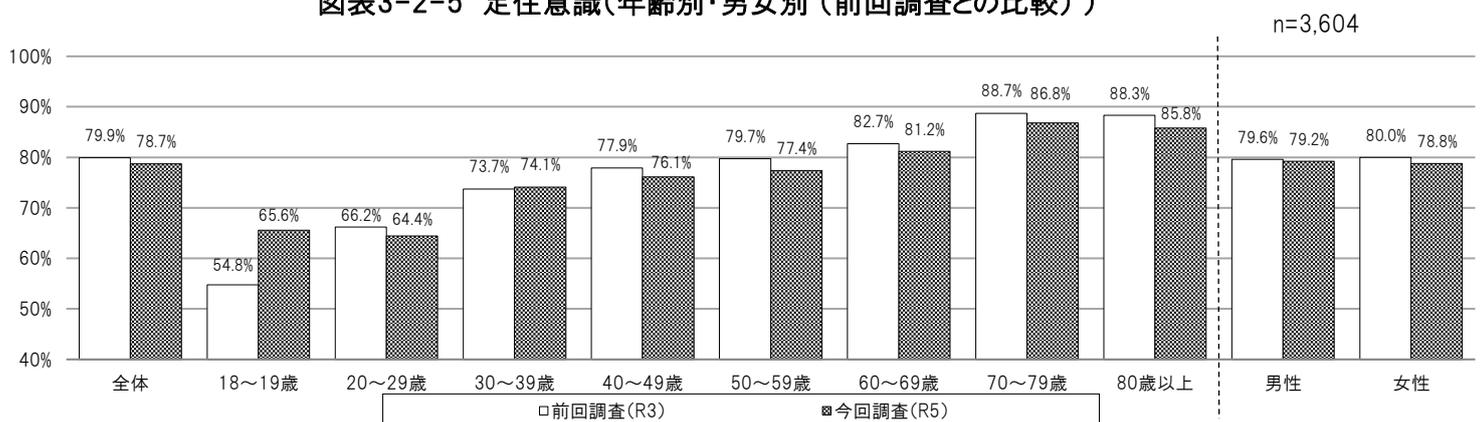
年齢別にみると、豊田市に長く住みたいと思う市民の割合は、65歳以上は80%を超えています。一方、25～29歳は64.4%、20～24歳は64.5%と低くなっています。

図表3-2-4 定住意識(年齢別)



前回調査と比較すると、18～19歳で10.8ポイント、30～39歳で0.4ポイント、豊田市に長く住みたいと思う市民の割合が増加している一方、その他の年代では減少しています。また、性別では男女ともに豊田市に長く住みたいと思う割合が減少しています。

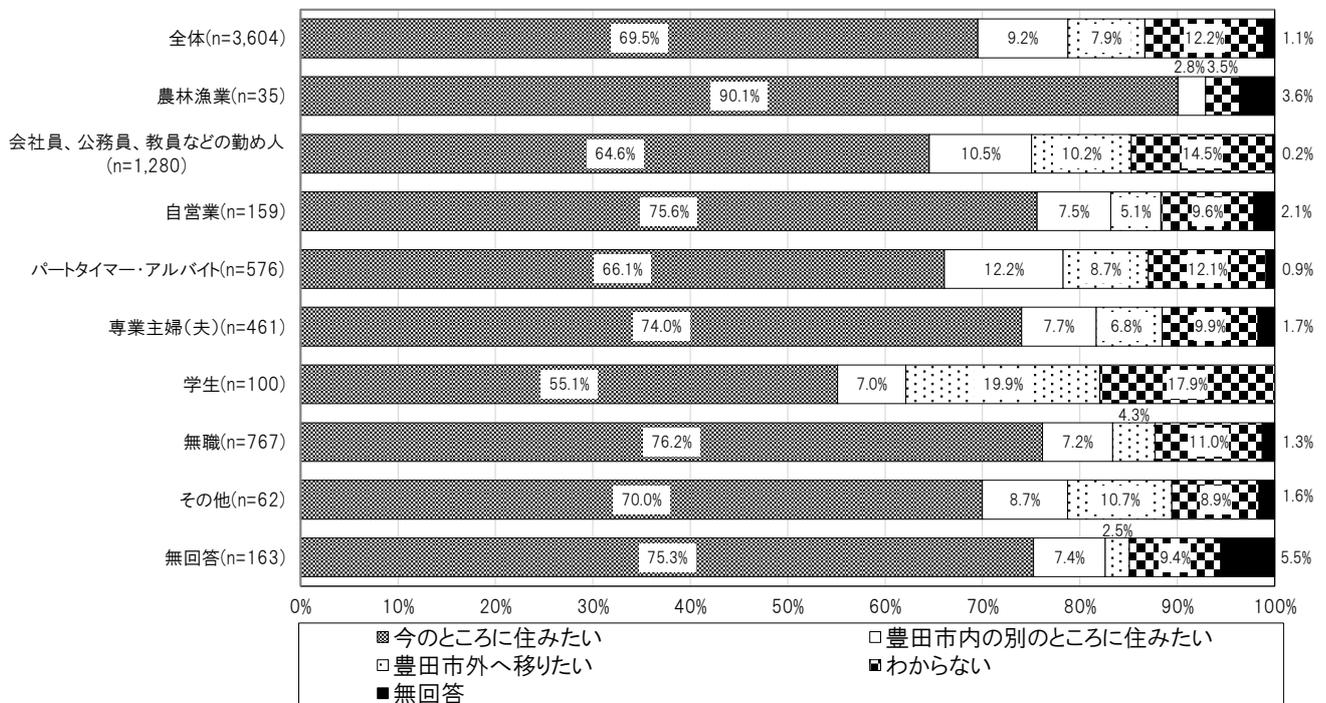
図表3-2-5 定住意識(年齢別・男女別(前回調査との比較))



### ③ 職業別

職業別にみると、豊田市に長く住みたいと思う市民の割合は、農林漁業で 92.9%と最も高く、次いで無職が 83.4%となっています。一方、学生は 62.1%と最も低くなっています。また、学生は「わからない」と回答した割合が 17.9%と高くなっています。

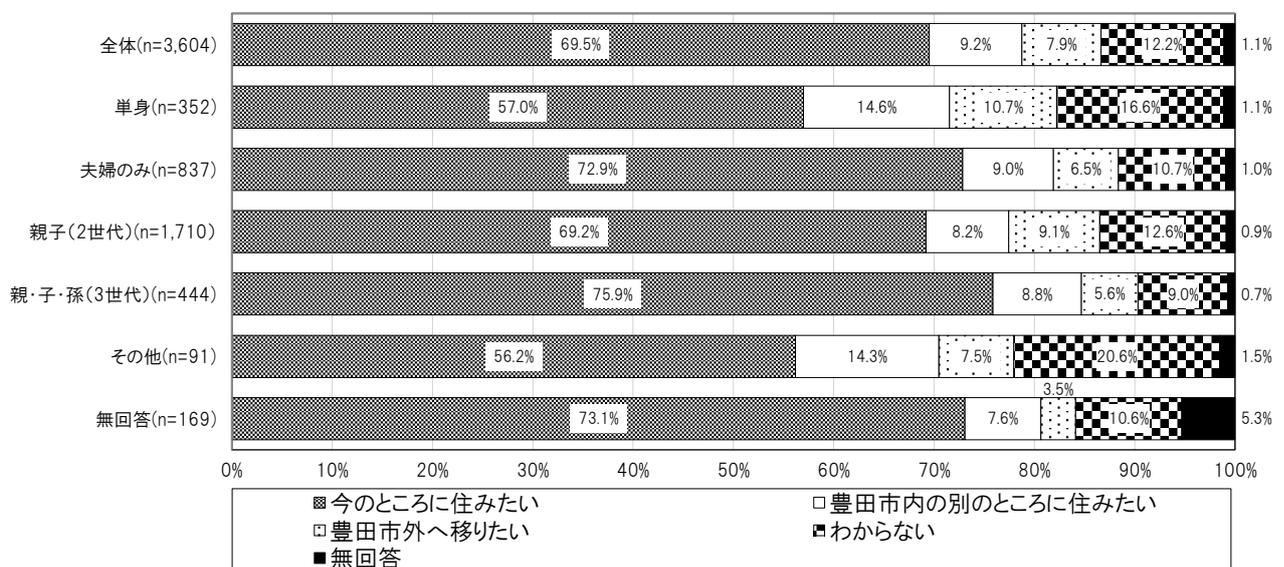
図表3-2-6 定住意識(職業別)



### ④ 家族構成別

家族構成別にみると、豊田市に長く住みたいと思う市民の割合は、親・子・孫（3世代）世帯で 84.7%と最も高くなっています。一方、単身世帯は 71.6%と最も低くなっています。

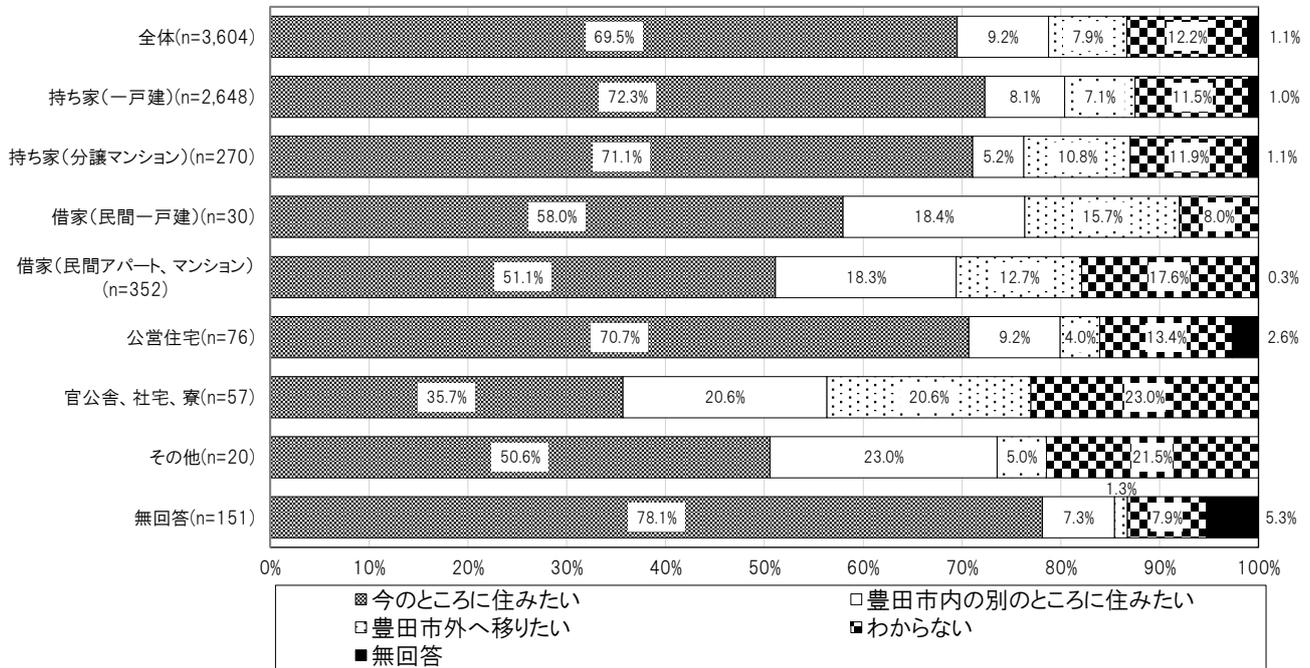
図表3-2-7 定住意識(家族構成別)



### ⑤ 居住形態別

居住形態別にみると、豊田市に長く住みたいと思う市民の割合は、持ち家(一戸建)で80.4%と最も高くなっています。一方、官公舎、社宅、寮は56.3%と最も低くなっています。また、官公舎、社宅、寮では、「豊田市外へ移りたい」と回答した割合が20.6%と高くなっています。

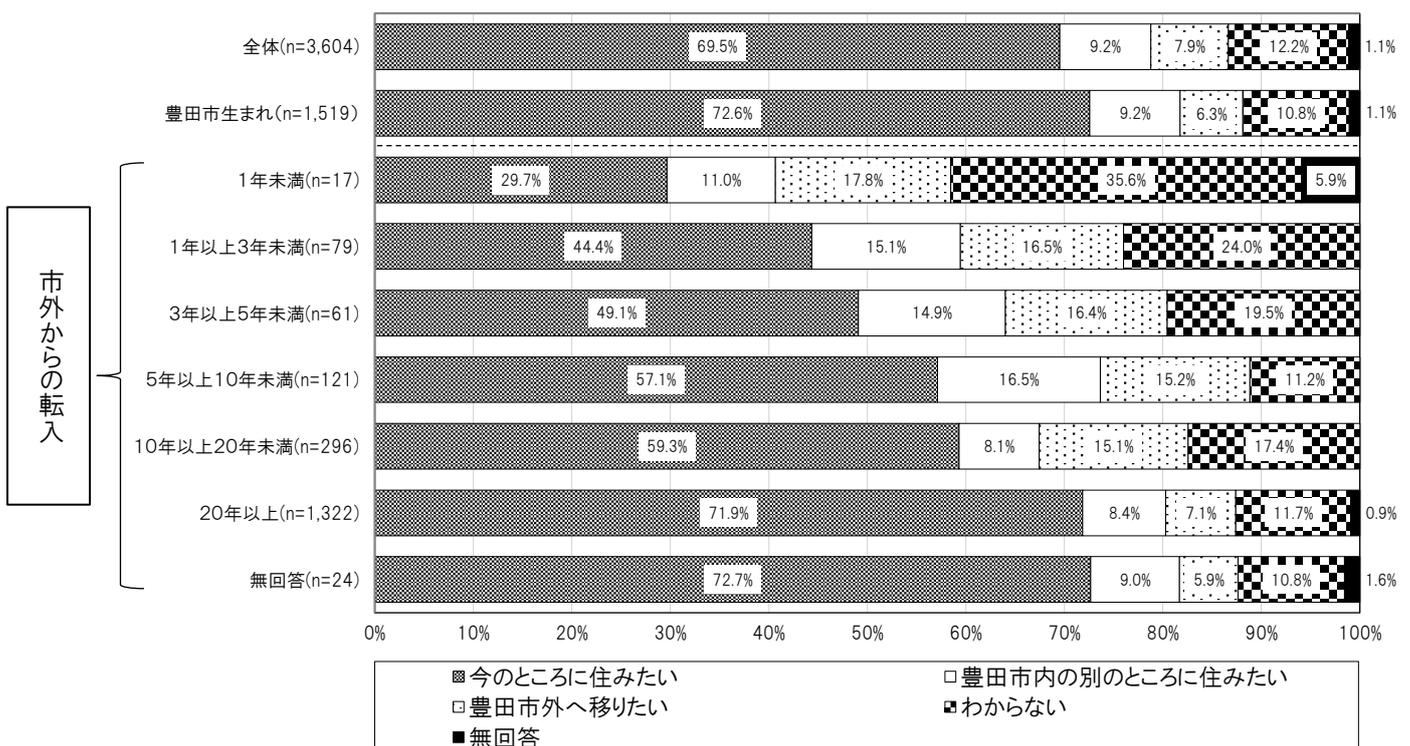
図表3-2-8 定住意識(居住形態別)



### ⑥ 居住年数別

居住年数別にみると、豊田市に長く住みたいと思う市民の割合は、豊田市生まれで81.8%と最も高くなっています。豊田市に長く住みたいと思う市民の割合は、おおむね居住年数が長くなるほど増加する傾向にあります。

図表3-2-9 定住意識(居住年数別)

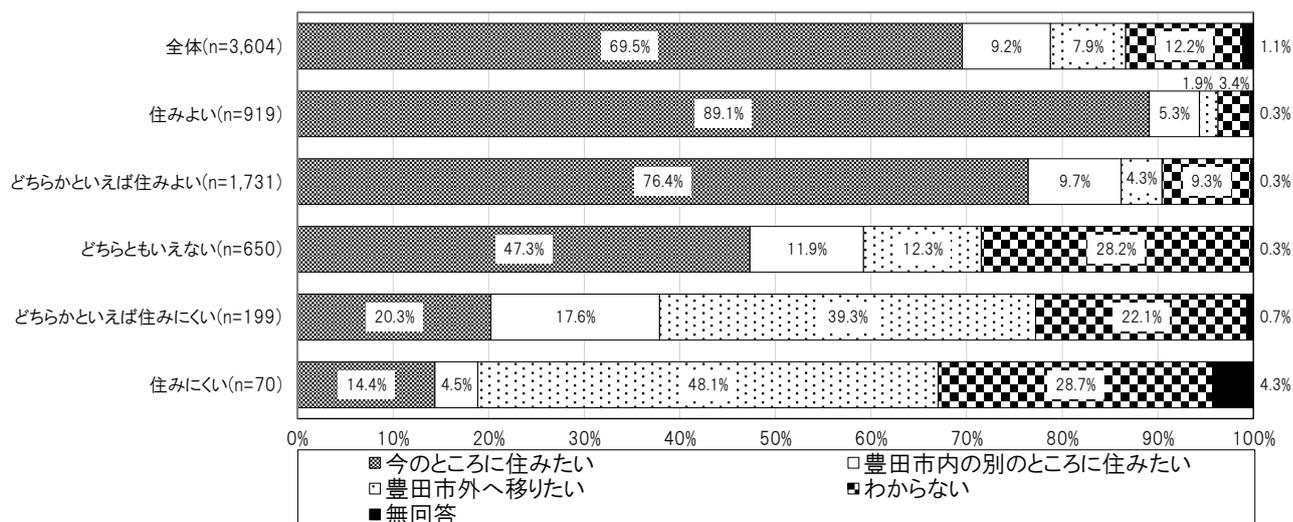


#### 4) 設問間分析結果

ここでは、特徴的な結果が得られた「定住意識」と「住みよさ」の設問間分析を行います。

住みよさ別にみると、豊田市に長く住みたいと思う市民の割合は、「住みよい」と回答した市民で 94.4%と最も高くなっています。一方、「住みにくい」と回答した市民では 18.9%と低くなっています。また、「住みにくい」と回答した市民の内の 48.1%と「どちらかといえば住みにくい」と回答した市民の内の 39.3%が、「豊田市外へ移りたい」と回答しています。

図表3-2-10 定住意識(住みよさ別)



問2-2

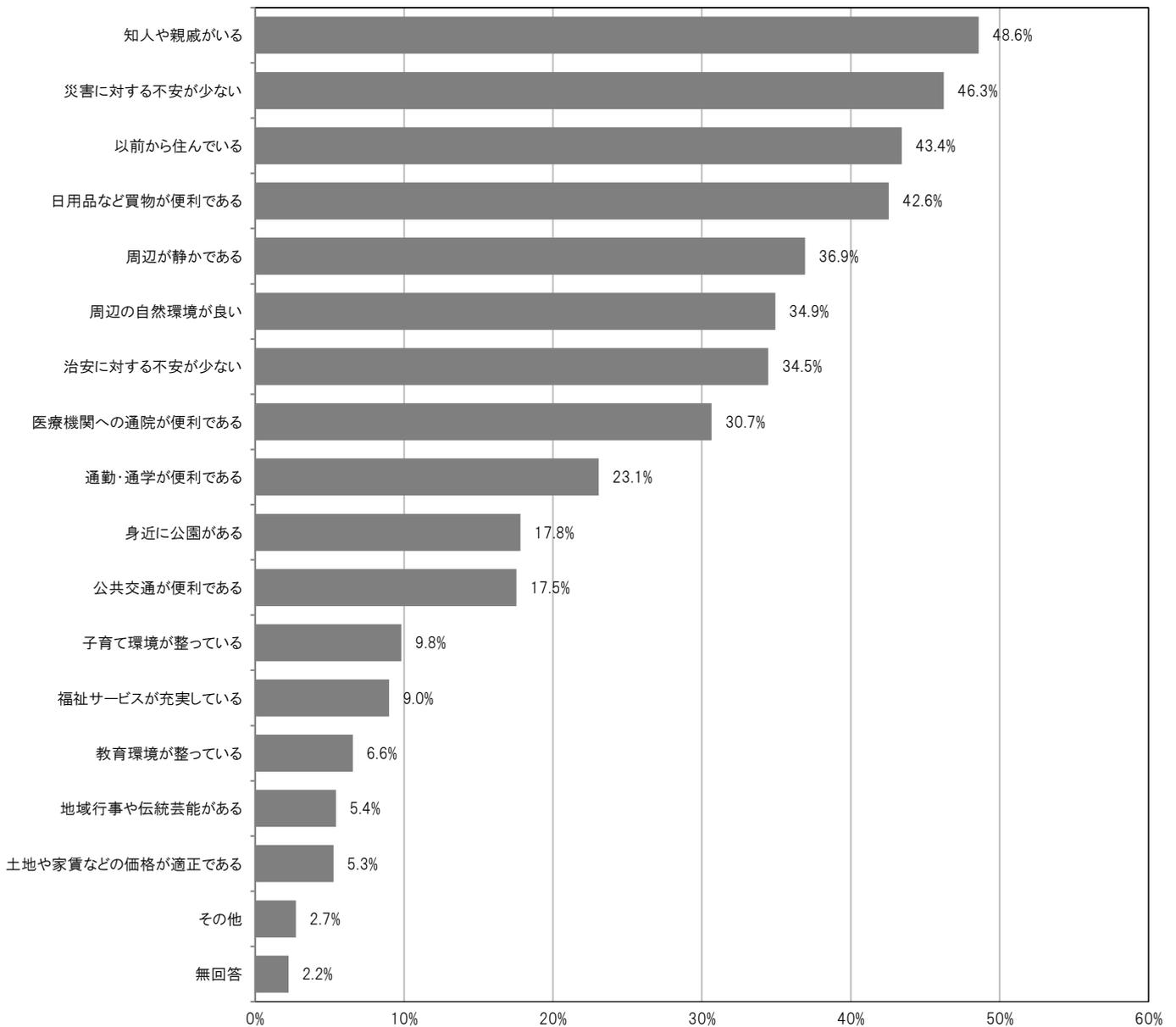
問2-1で「1 今のところに住みたい」とお答えの方にお聞きします。  
今のところに住みたいと思う主な理由は何ですか。(当てはまるもの全てに○)

1) 全体集計結果

「今のところに住みたい」と回答した市民が住みたい理由として選んだのは、「知人や親戚がいる」が48.6%と最も高く、次いで「災害に対する不安が少ない」が46.3%、「以前から住んでいる」が43.4%、「日用品などの買物が便利である」が42.6%、「周辺が静かである」が36.9%となっています。

図表3-3-1 今のところに住みたい理由

n=2,506



## 2) 属性分析結果

ここで特徴的な結果が得られた「年齢別」の属性分析を行います。

### ① 年齢別

年齢別にみると、「知人や親戚がいる」「日用品など買い物が便利である」は各年齢とも高くなっています。「災害に対する不安が少ない」は年齢が高いほど高くなっています。

図表3-3-2 今のところに住みたい理由（年齢別）

n=2,506

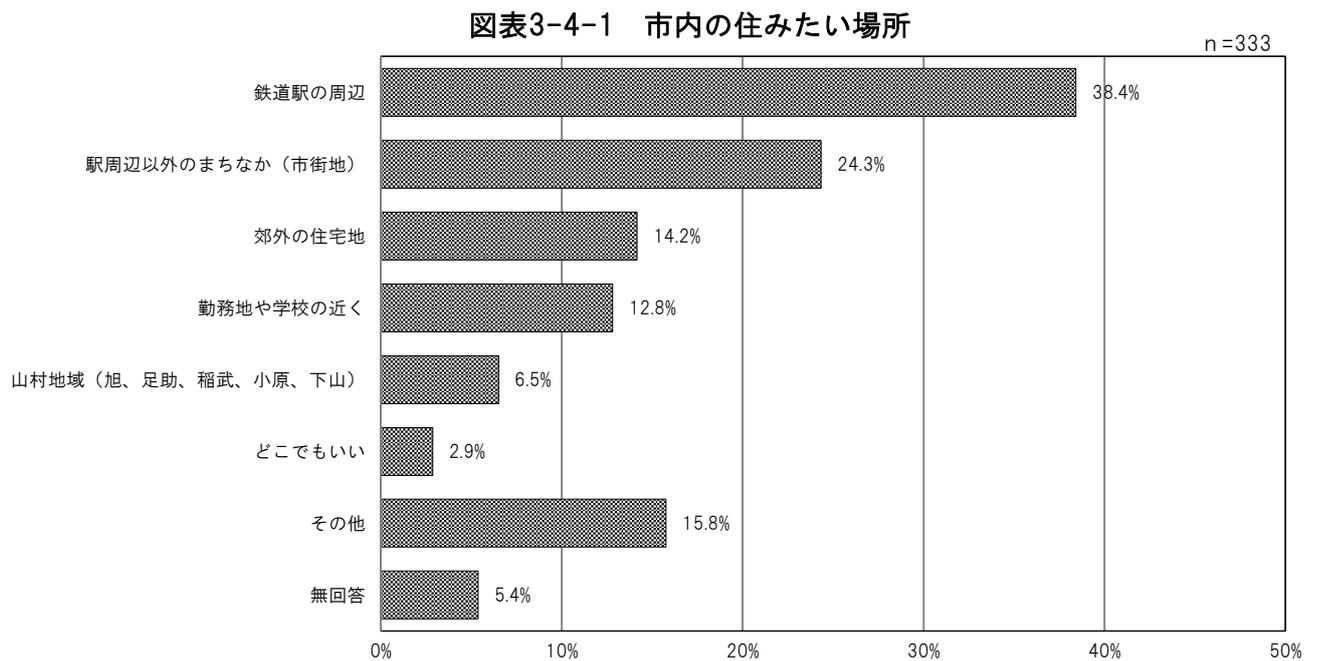
	知人や親戚がいる	災害に対する不安が少ない	以前から住んでいる	日用品など買い物が便利である	周辺が静かである	周辺の自然環境が良い	治安に対する不安が少ない	医療機関への通院が便利である	通勤・通学が便利である	身近に公園がある	公共交通が便利である	子育て環境が整っている	福祉サービスが充実している	教育環境が整っている	地域行事や伝統芸能がある	土地や家賃などの価格が適正である	その他	無回答
全体 (n=2,506)	48.6%	46.3%	43.4%	42.6%	36.9%	34.9%	34.5%	30.7%	23.1%	17.8%	17.5%	9.8%	9.0%	6.6%	5.4%	5.3%	2.7%	2.2%
18～19歳 (n=36)	53.5%	34.3%	46.0%	30.9%	33.8%	25.9%	36.4%	19.7%	39.3%	16.9%	33.7%	2.8%	5.6%	2.8%	6.2%	5.6%	0.0%	0.0%
20～24歳 (n=79)	57.5%	21.4%	42.3%	41.0%	26.3%	24.0%	31.5%	18.9%	30.0%	16.0%	23.9%	3.6%	3.8%	6.1%	7.8%	1.1%	1.3%	1.3%
25～29歳 (n=78)	51.0%	26.3%	38.0%	39.9%	25.0%	28.6%	32.3%	20.4%	37.8%	16.1%	13.6%	14.0%	10.2%	6.4%	3.6%	3.8%	3.8%	2.5%
30～34歳 (n=116)	51.4%	21.4%	32.3%	48.2%	31.8%	27.3%	33.2%	20.7%	37.3%	24.2%	13.0%	19.8%	2.6%	6.9%	2.5%	6.5%	2.3%	3.5%
35～39歳 (n=138)	51.8%	33.6%	34.6%	42.2%	25.6%	25.4%	31.9%	19.4%	38.8%	20.2%	18.0%	27.3%	4.4%	8.3%	7.7%	3.5%	4.4%	3.6%
40～44歳 (n=180)	53.0%	38.7%	35.4%	47.7%	27.6%	26.9%	23.6%	26.6%	35.5%	18.8%	19.6%	16.8%	8.3%	8.5%	2.9%	4.5%	2.4%	2.7%
45～49歳 (n=205)	40.5%	41.7%	39.2%	48.6%	35.6%	32.3%	31.5%	31.2%	37.1%	18.6%	21.4%	15.8%	4.4%	8.3%	4.2%	6.0%	3.8%	1.7%
50～54歳 (n=210)	45.4%	40.4%	46.3%	45.3%	31.6%	34.9%	36.2%	26.1%	24.5%	11.3%	17.1%	7.1%	8.3%	8.5%	4.5%	7.3%	2.4%	2.9%
55～59歳 (n=186)	36.6%	44.8%	36.2%	40.5%	34.9%	36.9%	35.7%	27.8%	30.3%	8.2%	16.6%	5.0%	4.9%	1.2%	3.4%	6.5%	5.0%	2.0%
60～64歳 (n=198)	44.6%	45.1%	48.8%	40.8%	39.8%	42.0%	33.0%	28.1%	20.2%	16.7%	18.3%	6.8%	8.4%	4.7%	7.8%	6.4%	2.9%	3.2%
65～69歳 (n=209)	47.5%	50.8%	52.1%	44.1%	43.3%	38.9%	37.5%	34.3%	13.5%	13.3%	14.4%	8.8%	7.8%	4.4%	5.2%	6.3%	3.4%	2.1%
70～74歳 (n=305)	52.9%	58.8%	49.1%	45.0%	42.8%	36.4%	37.5%	38.9%	11.4%	21.0%	19.3%	6.0%	11.0%	6.3%	4.9%	5.6%	0.5%	2.8%
75～79歳 (n=274)	56.7%	62.8%	45.7%	42.0%	39.6%	39.6%	36.6%	38.7%	12.1%	20.6%	14.8%	7.5%	13.6%	8.4%	9.0%	4.1%	2.9%	0.5%
80歳以上 (n=260)	49.5%	58.0%	48.8%	33.7%	47.3%	39.9%	38.3%	38.1%	10.8%	24.0%	16.3%	5.3%	17.0%	7.7%	5.8%	4.6%	2.8%	2.1%
無回答 (n=32)	22.0%	53.3%	22.9%	28.0%	47.4%	42.2%	32.3%	31.1%	6.2%	15.5%	12.4%	0.0%	15.5%	3.1%	3.1%	0.0%	0.0%	0.0%

※回答を見やすくするよう、回答率40%以上に濃い影、20%以上40%未満に薄い影をつけました。

<b>問 2 - 3</b>	問 2 - 1 で「2 豊田市内の別のところに住みたい」とお答えの方にお聞きします。市内のどのような場所に住みたいですか。(当てはまるもの全てに○)
----------------	--

### 1) 全体集計結果

「豊田市内の別のところに住みたい」と回答した市民が希望している場所は、「鉄道駅の周辺」が 38.4%と最も高く、次いで「駅周辺以外のまちなか（市街地）」が 24.3%、「郊外の住宅地」が 14.2%となっています。



<b>問3</b>	あなたは、現在の生活全般にどの程度満足していますか。「全く満足していない」を0点、「非常に満足している」を10点として、何点くらいになると思いますか。(〇はひとつ)
-----------	--

### (3) 生活全般の満足度

ここでは、市民が現在の生活全般にどの程度満足しているのか(=満足度)を把握します。満足度は図表3-5-1のとおり、11段階で評価し、設問ごとに平均値を出しています。この評点を指標として、満足度の分析を行いました。

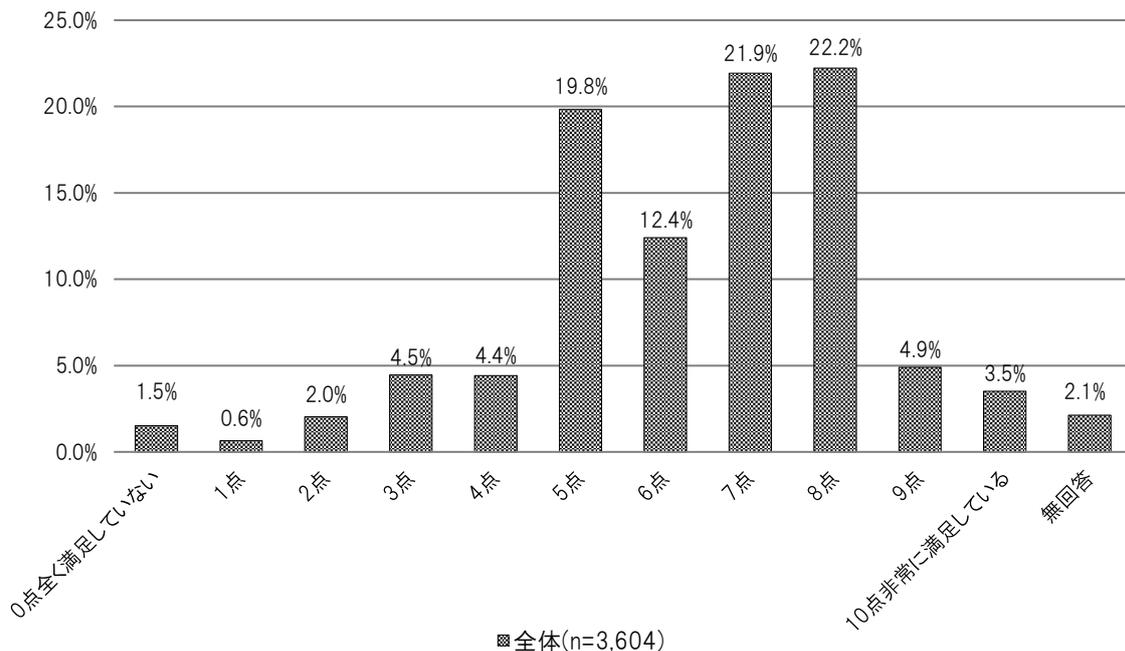
**図表 3-5-1 満足度の数値**



#### 1) 全体集計結果

生活全般の満足度の点数別の分布をみると、最頻値は8点(22.2%)、次いで7点(21.9%)、5点(19.8%)となり、全体の63.9%が5点と7~8点に集中しています。満足度が5点以上と回答した市民の割合は、全体の84.7%となっています。

**図表3-5-2 生活全般の満足度(全体)**



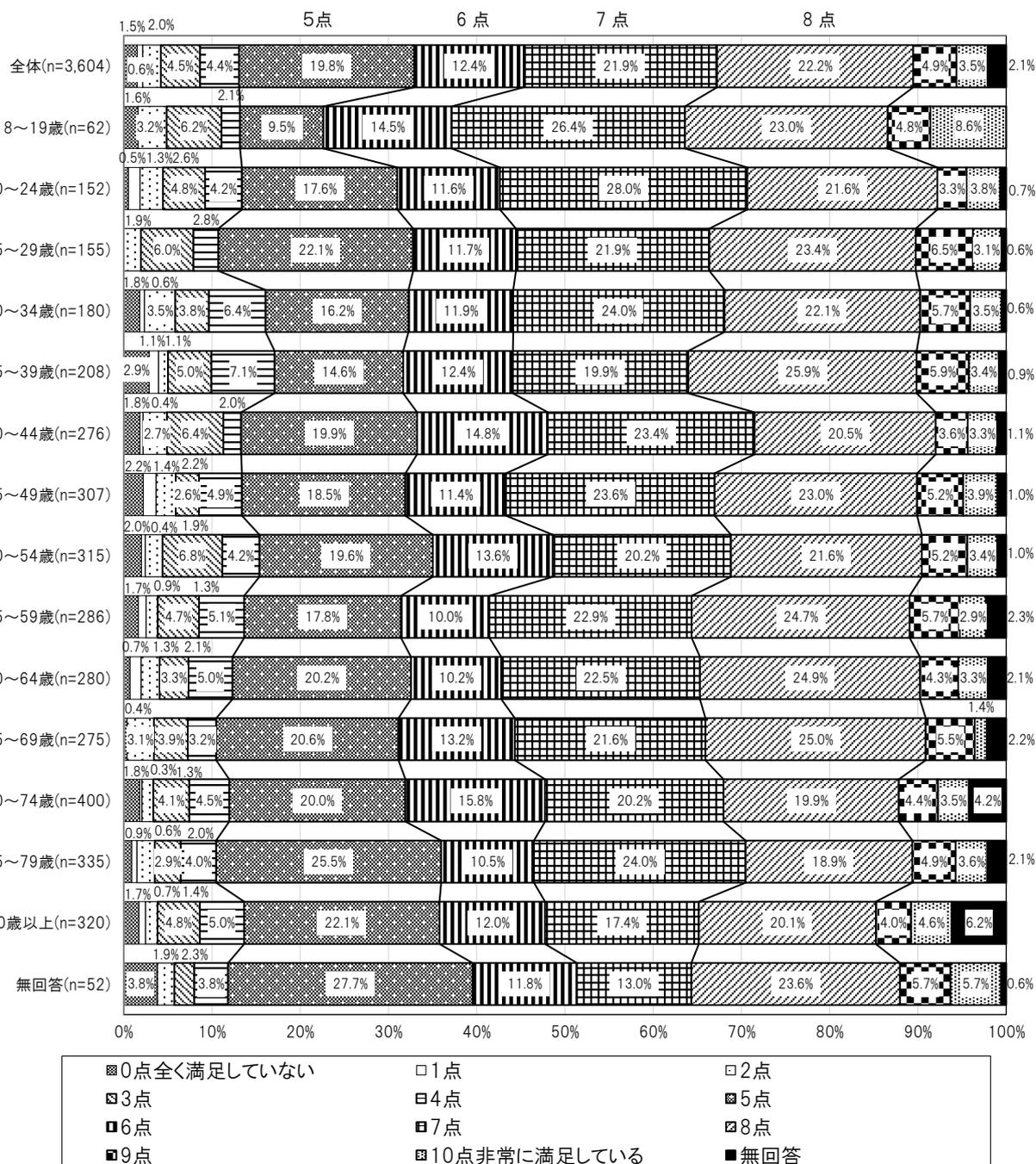
#### 2) 属性分析結果

ここでは「年齢別」「居住地区別」「居住形態別」「職業別」「居住年数別」「家族構成別」の属性分析を行います。

### ① 年齢別

年齢別にみると、満足度が5点以上と回答した市民の割合は、すべての年代で80%を超えています。最も高いのは25～29歳の88.7%、次いで、75～79歳の87.4%、65～69歳の87.3%となっています。

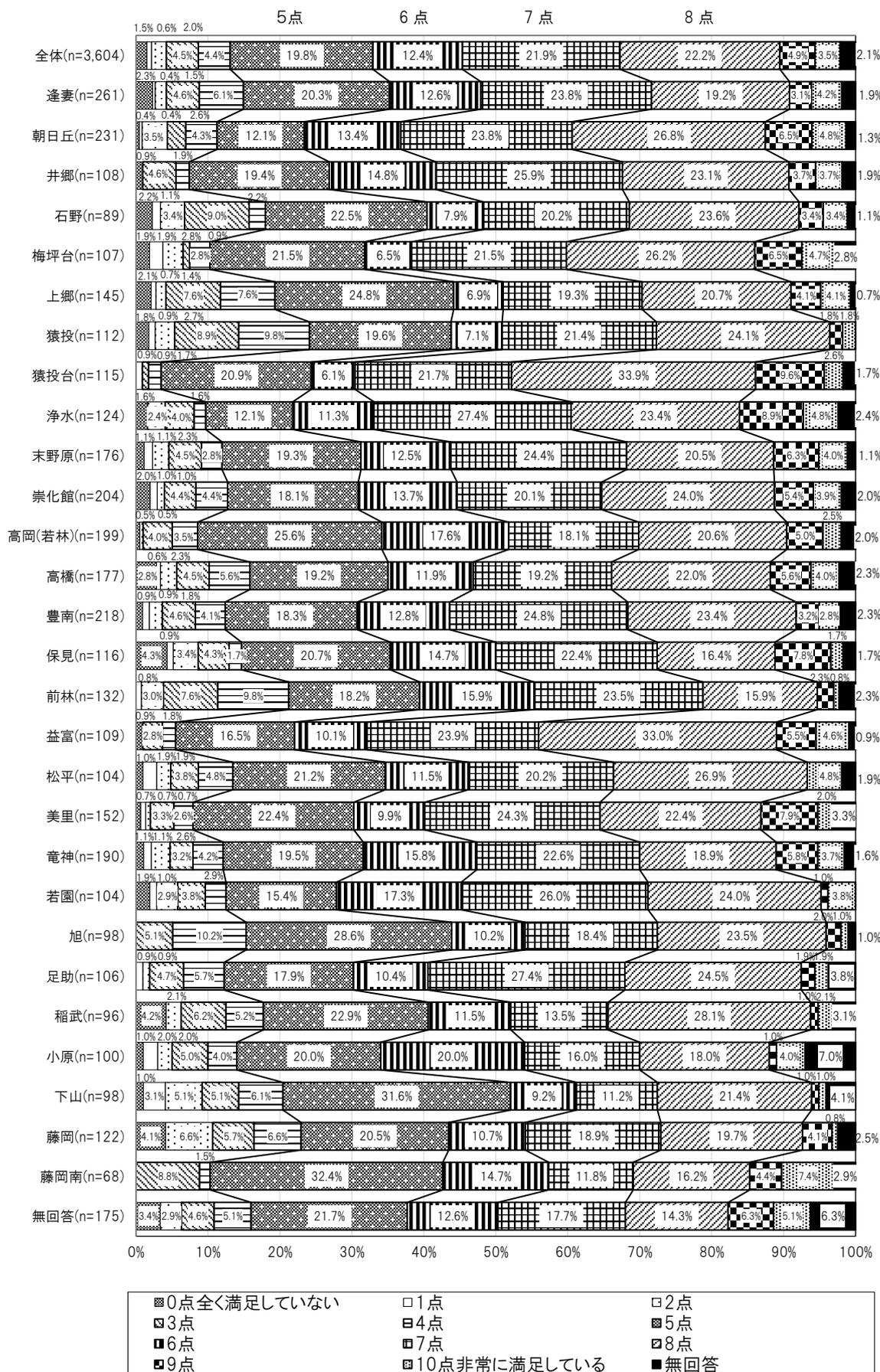
図表3-5-3 生活全般の満足度(年齢別)



### ② 居住地区別

居住地別にみると、満足度が5点以上と回答した市民の割合は、すべての地域で70%を超えており、最も高いのは猿投台の94.8%、次いで益富の93.6%、井郷の90.6%となっています。一方、藤岡が74.7%と一番低く、次いで下山の75.4%、猿投の75.8%となっています。

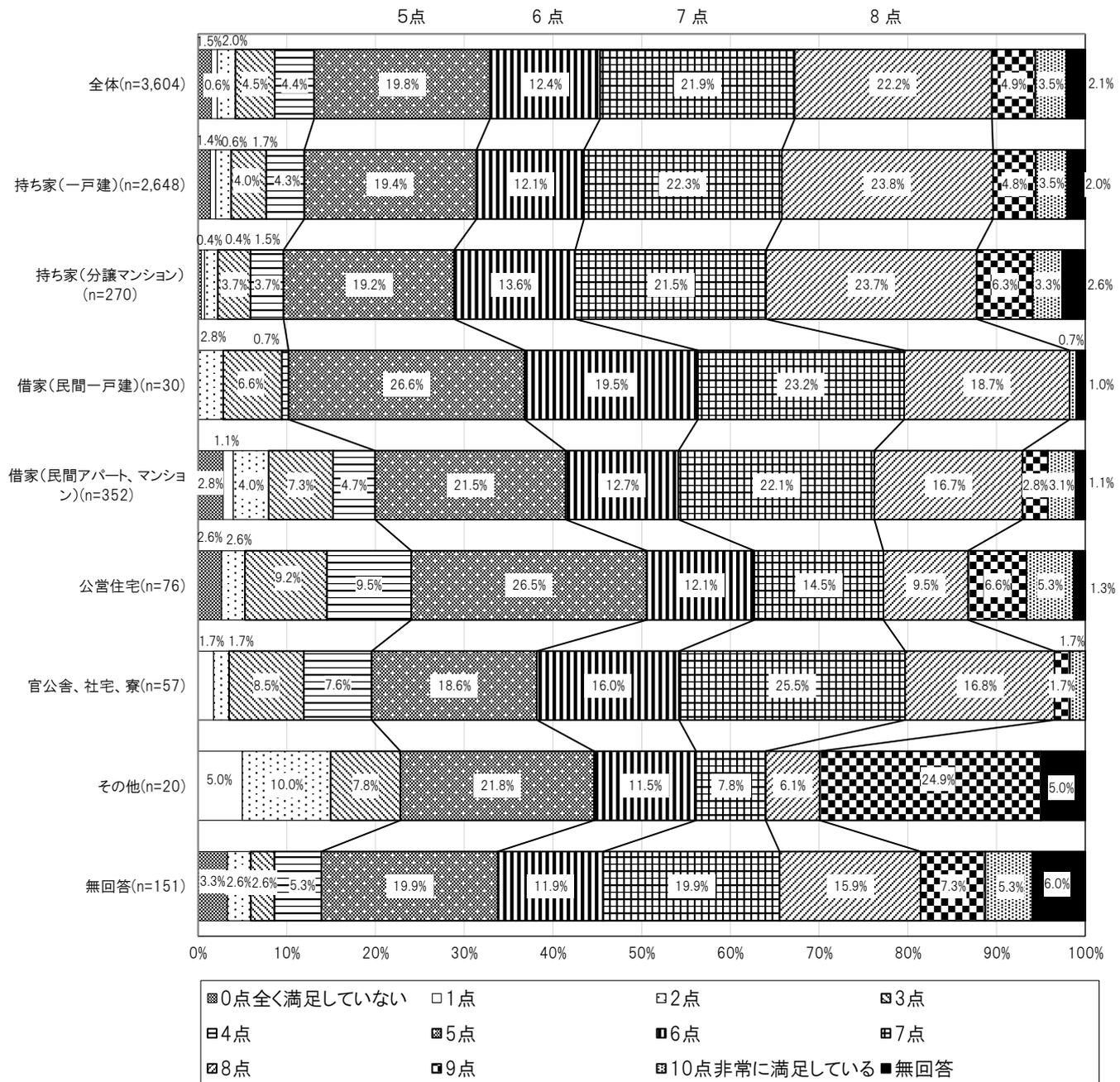
図表3-5-4 生活全般の満足度(居住地別)



### ③ 居住形態別

居住形態別で見ると、満足度が5点以上と回答した市民の割合は、借家（民間一戸建）が88.7%と最も高く、次いで持ち家（分譲マンション）の87.6%、持ち家（一戸建）の85.9%となっています。一方、公営住宅が74.5%と一番低くなっています。

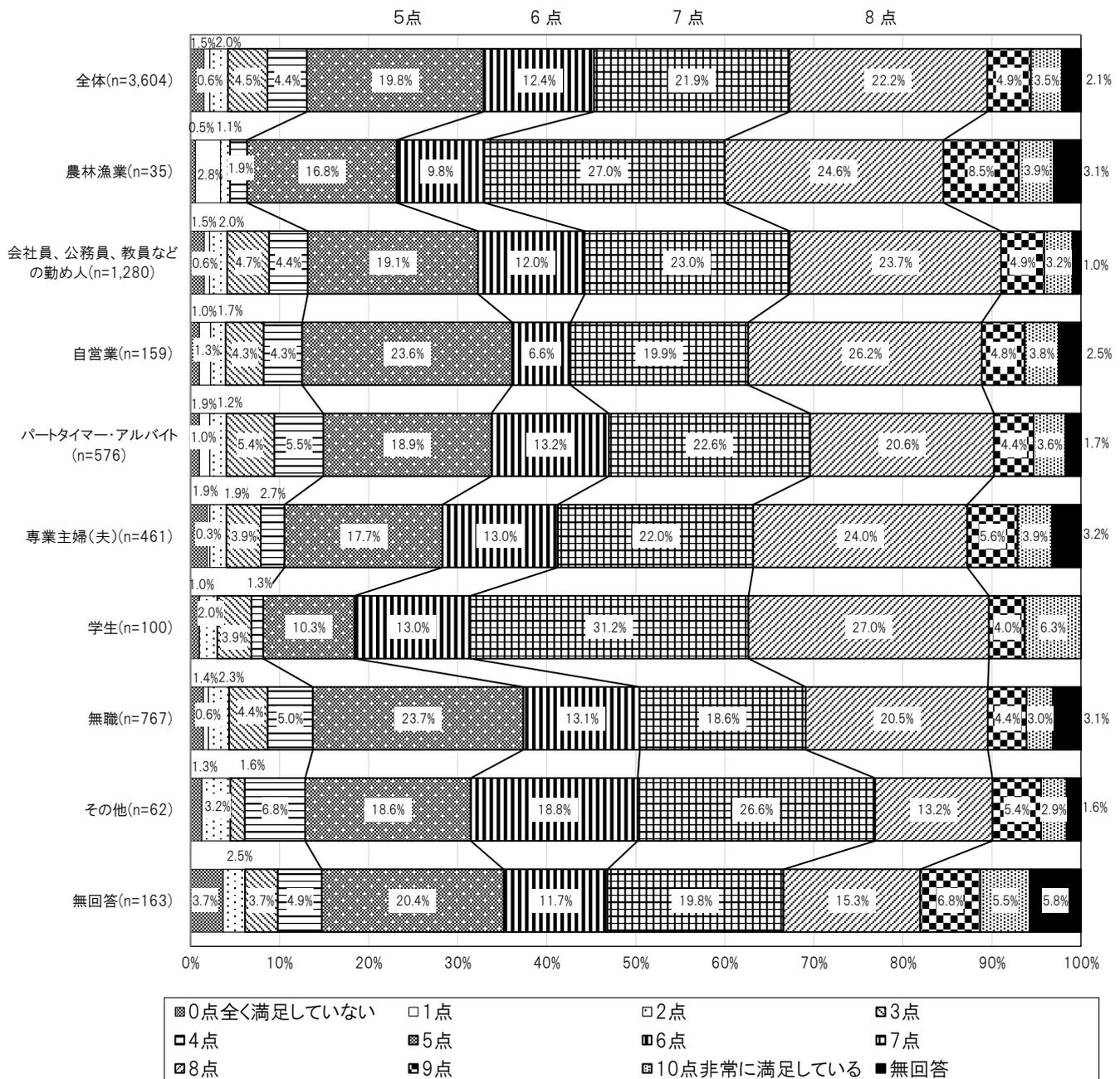
図表3-5-5 生活全般の満足度(居住形態別)



#### ④ 職業別

職業別で見ると、満足度が5点以上と回答した市民の割合は、学生が91.8%と最も高く、次いで農林漁業の90.6%、専業主婦（夫）の86.2%となっています。一方、無職とパートタイマー・アルバイトが83.3%と一番低くなっています。

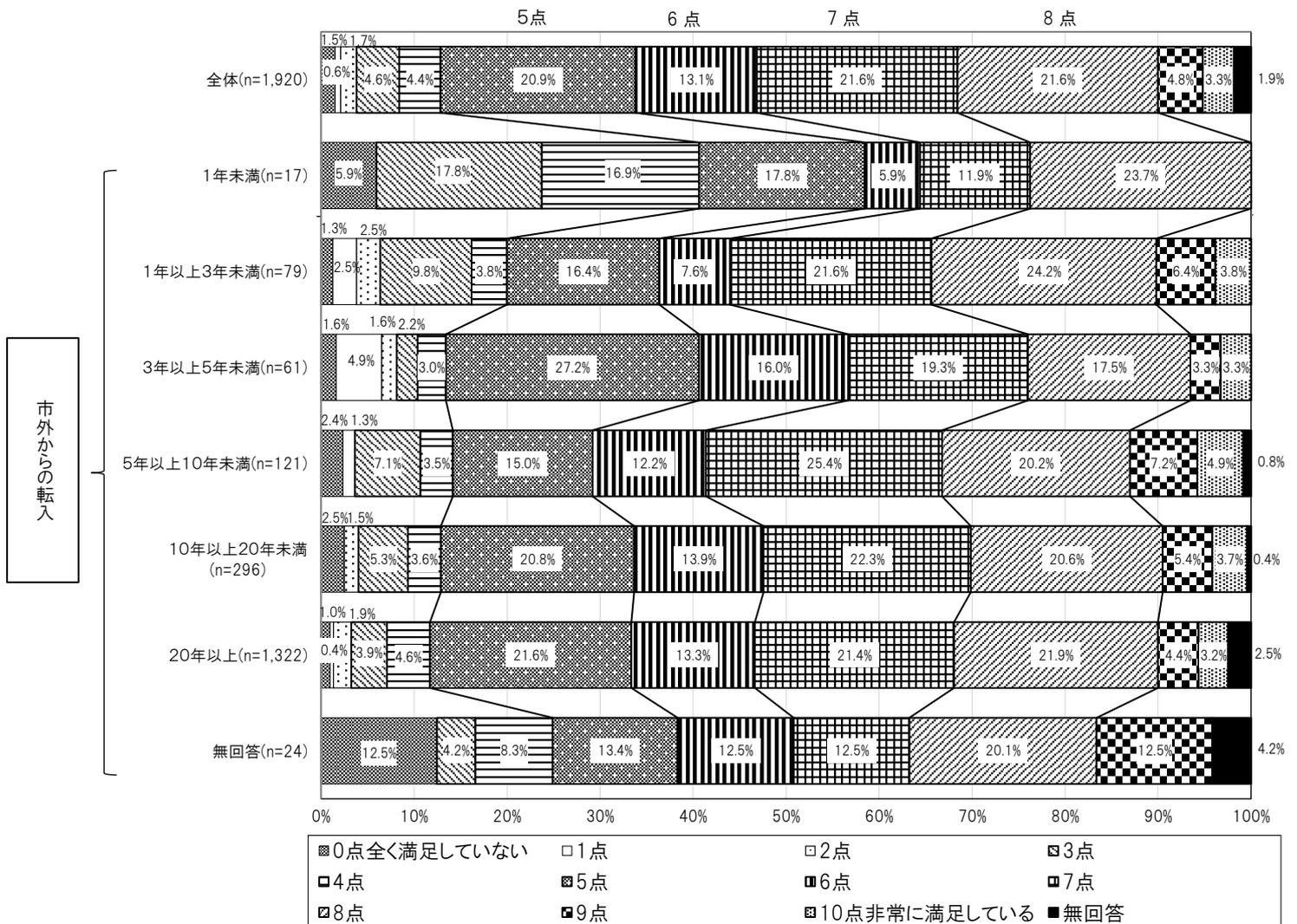
図表 3-5-6 生活全般の満足度(職業別)



### ⑤ 居住年数別

住居年数別で見ると、満足度が5点以上と回答した市民の割合は、10年以上20年未満が86.7%と最も高く、次いで3年以上5年未満の86.6%、20年以上の85.8%となっています。一方、1年未満が59.3%と一番低くなっています。

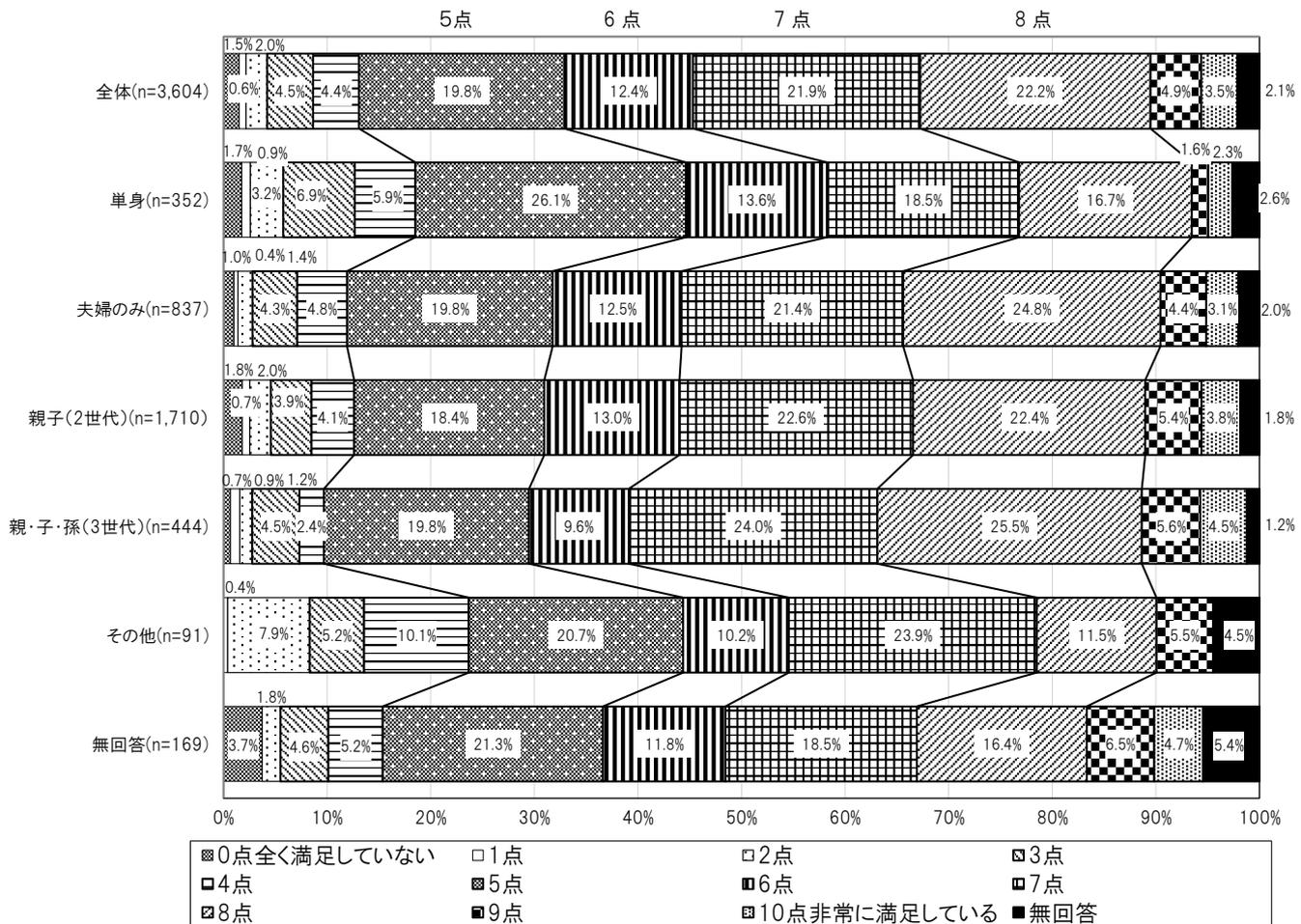
図表 3-5-7 生活全般の満足度(居住年数別)



## ⑥ 家族構成別

家族構成別で見ると、満足度が5点以上と回答した市民の割合は、親・子・孫（3世代）が89.0%と最も高く、次いで夫婦のみの86.0%、親子（2世代）の85.6%と続き、単身が78.8%と一番低くなっています。

図表 3-5-8 生活全般の満足度(家族構成別)



### 3) 設問間分析結果

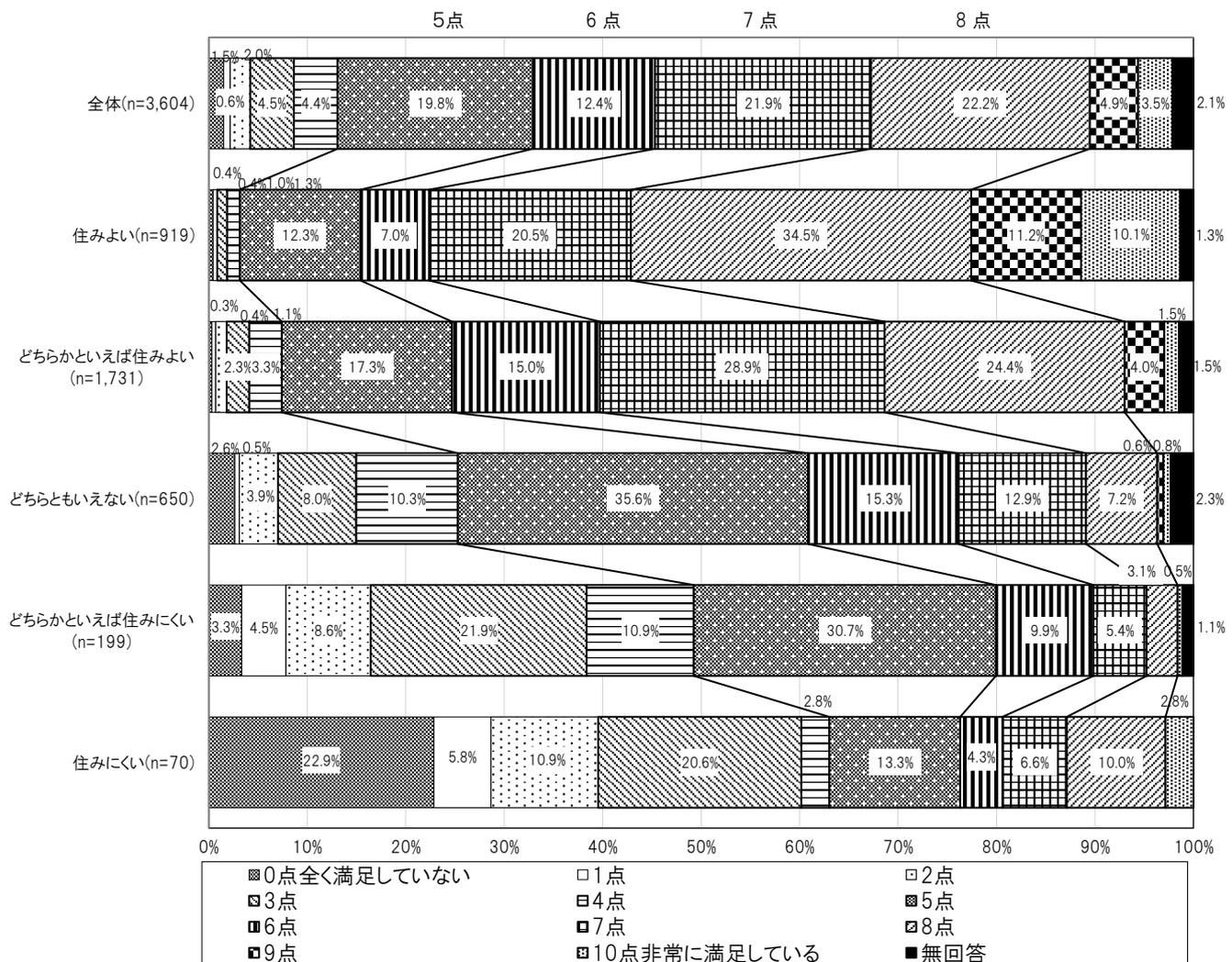
ここでは、特徴的な結果が得られた「生活全般の満足度」と「住みよさ」「定住意識」「地域に対しての愛着」「生きがい」の設問間分析を行います。

#### ① 住みよさ別

住みよさ別（5段階）でみると、満足度が5点以上と回答した市民の割合は、「住みよい」が95.6%、次いで「どちらかといえば住みよい」が91.1%となっています。一方、「どちらかといえば住みにくい」が49.6%、「住みにくい」が37.0%となっています。

「住みよい」と回答した市民は生活全般の満足度が高い傾向にあり、「住みにくい」と回答した市民は生活全般の満足度が低い傾向にあります。

図表3-5-9 生活全般の満足度(住みよさ別)

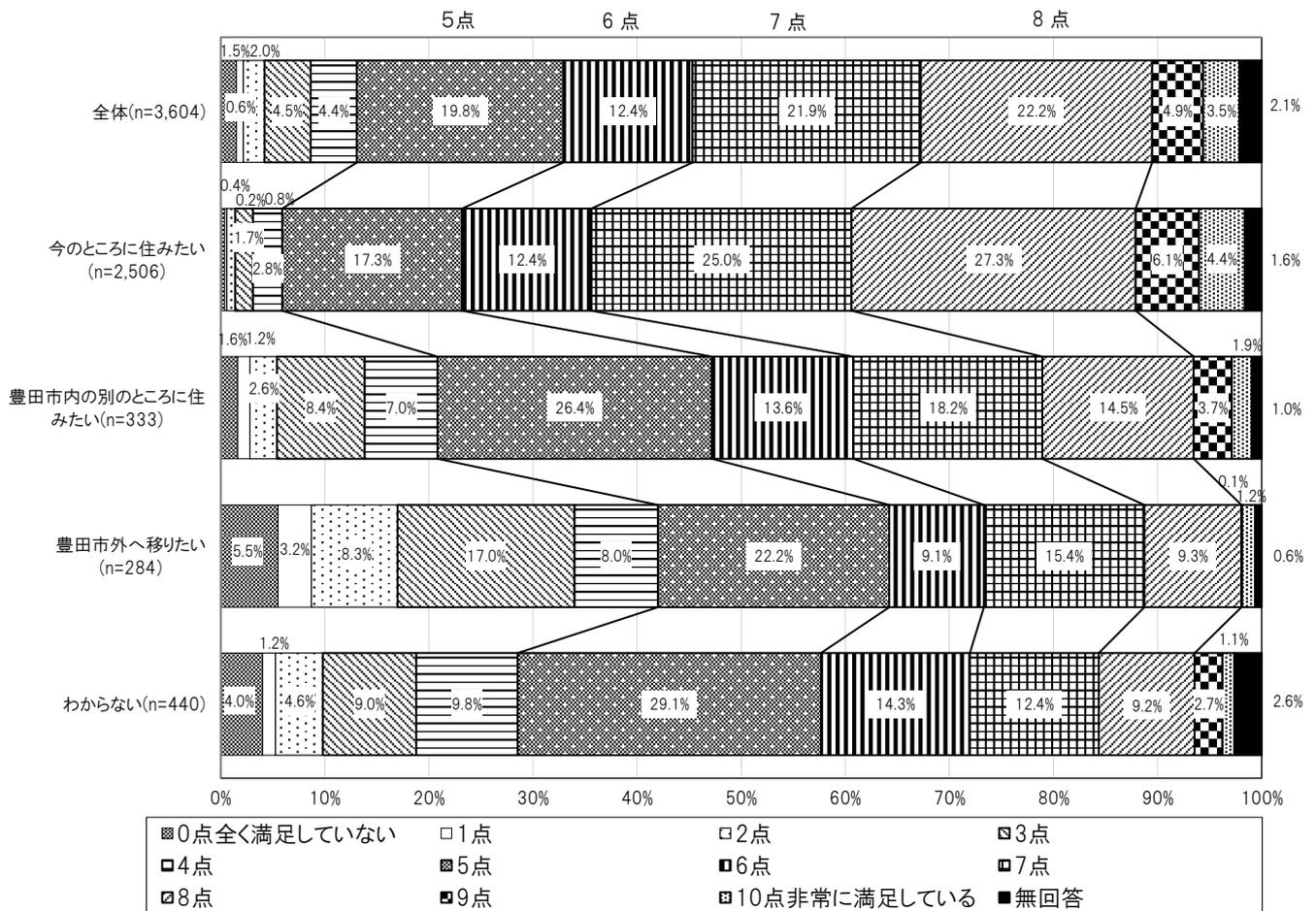


## ② 定住意識別

定住意識別（4 段階）でみると、満足度が5点以上と回答した市民の割合は、「今のところに住みたい」が 92.5%、「豊田市内の別のところに住みたい」が 78.3%となっています。一方、「豊田市外へ移りたい」が 57.3%となっています。

「今のところに住みたい」と回答した市民は生活全般の満足度が高い傾向にあり、「豊田市外へ移りたい」と回答した市民は生活全般の満足度が低い傾向にあります。

図表 3-5-10 生活全般の満足度(定住意識別)

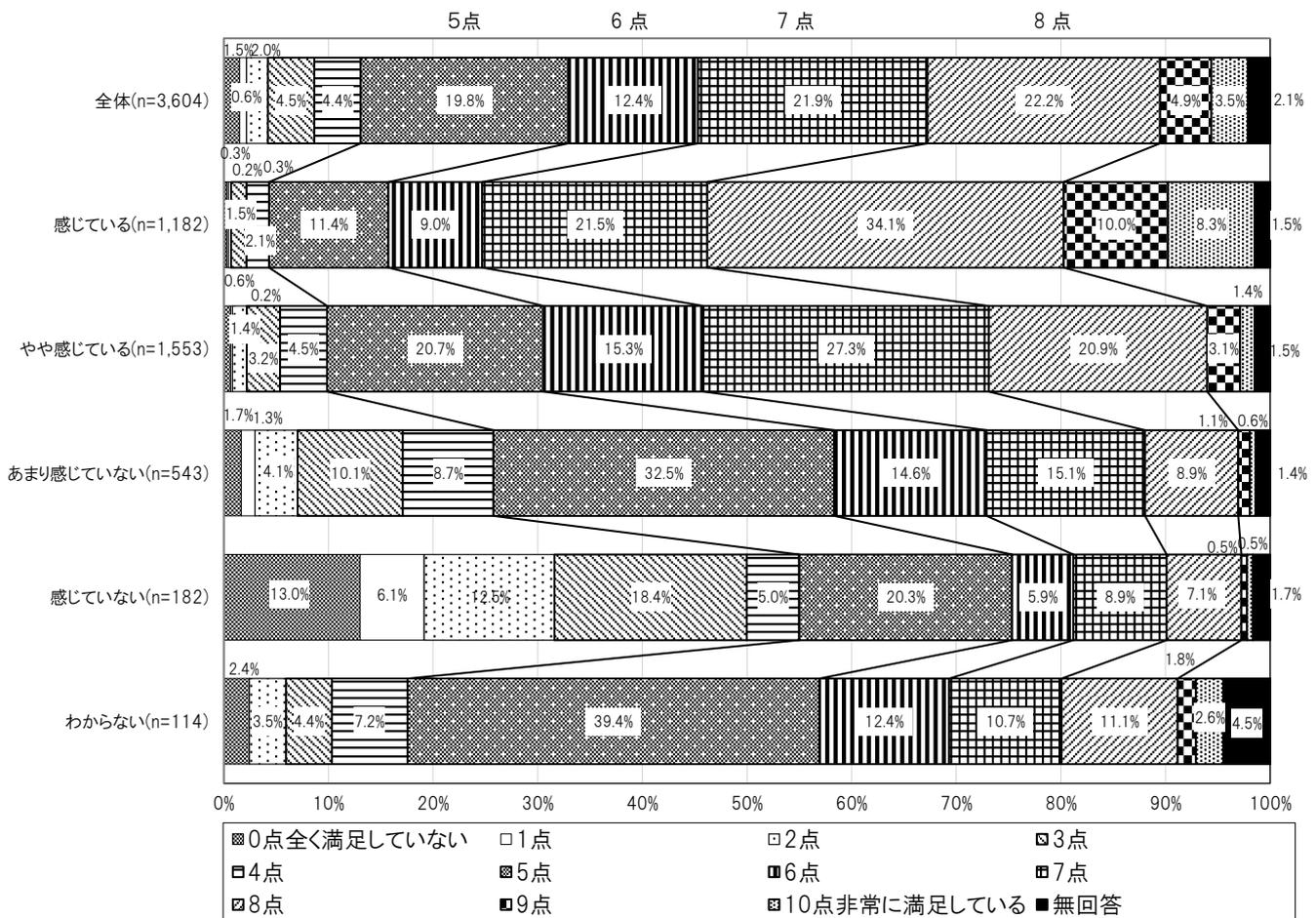


### ③ 豊田市や居住地域への愛着別

豊田市や居住地域への愛着別（5段階）でみると、満足度が5点以上と回答した市民の割合は、「感じている」が94.3%、「やや感じている」が88.7%となっています。一方、「あまり感じていない」が72.8%、「感じていない」が43.2%となっています。

豊田市や居住地域への愛着別の生活全般満足度は、愛着を「感じている」と回答した市民は生活全般の満足度が高い傾向にあり、「感じていない」と回答した市民は生活全般の満足度が低い傾向にあります。

図表 3-5-11 生活全般の満足度(地域への愛着別)

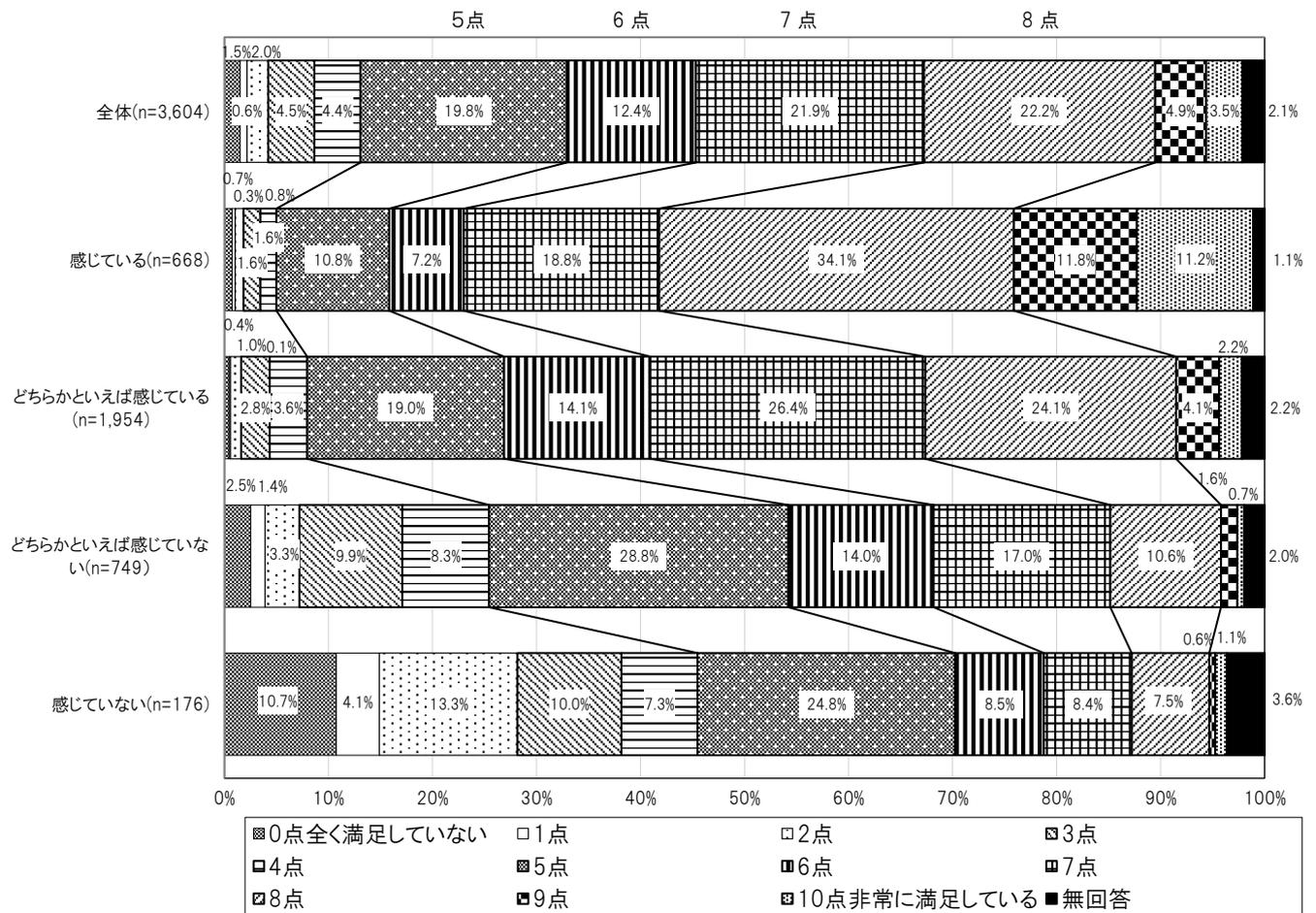


#### ④ 生きがい別

定住意識別（4段階）で見ると、満足度が5点以上と回答した市民の割合は、「感じている」が93.9%、「どちらかといえば感じている」が89.9%となっています。一方、「どちらかといえば感じていない」が72.7%、「感じていない」が50.9%となっています

「感じている」と回答した市民は生活全般の満足度が高い傾向にあり、「感じていない」と回答した市民は生活全般の満足度が低い傾向にあります

図表 3-5-12 生活全般の満足度(生きがい別)



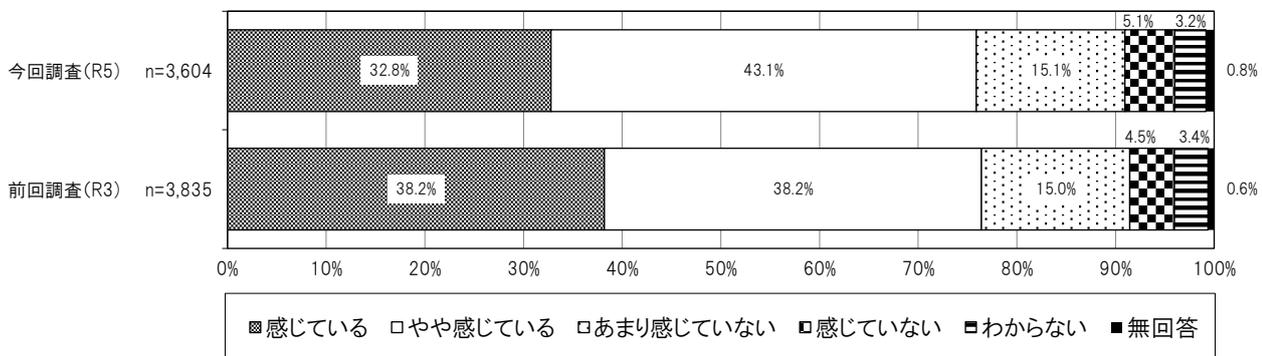
## (4) 豊田市や居住地域への愛着

**問 4** あなたは、豊田市やお住まいの地域に対して愛着を感じていますか。(○はひとつ)

### 1) 全体集計結果

豊田市や居住地域に愛着を感じている市民の割合（「感じている」+「やや感じている」）は75.9%となっており、前回調査と比較すると、0.5ポイント減少しています。一方、「あまり感じていない」、「感じていない」と回答した市民の割合は20.2%と前回調査より0.7ポイント増加しています。

図表3-6-1 今の豊田市や居住地域への愛着（前回調査との比較）



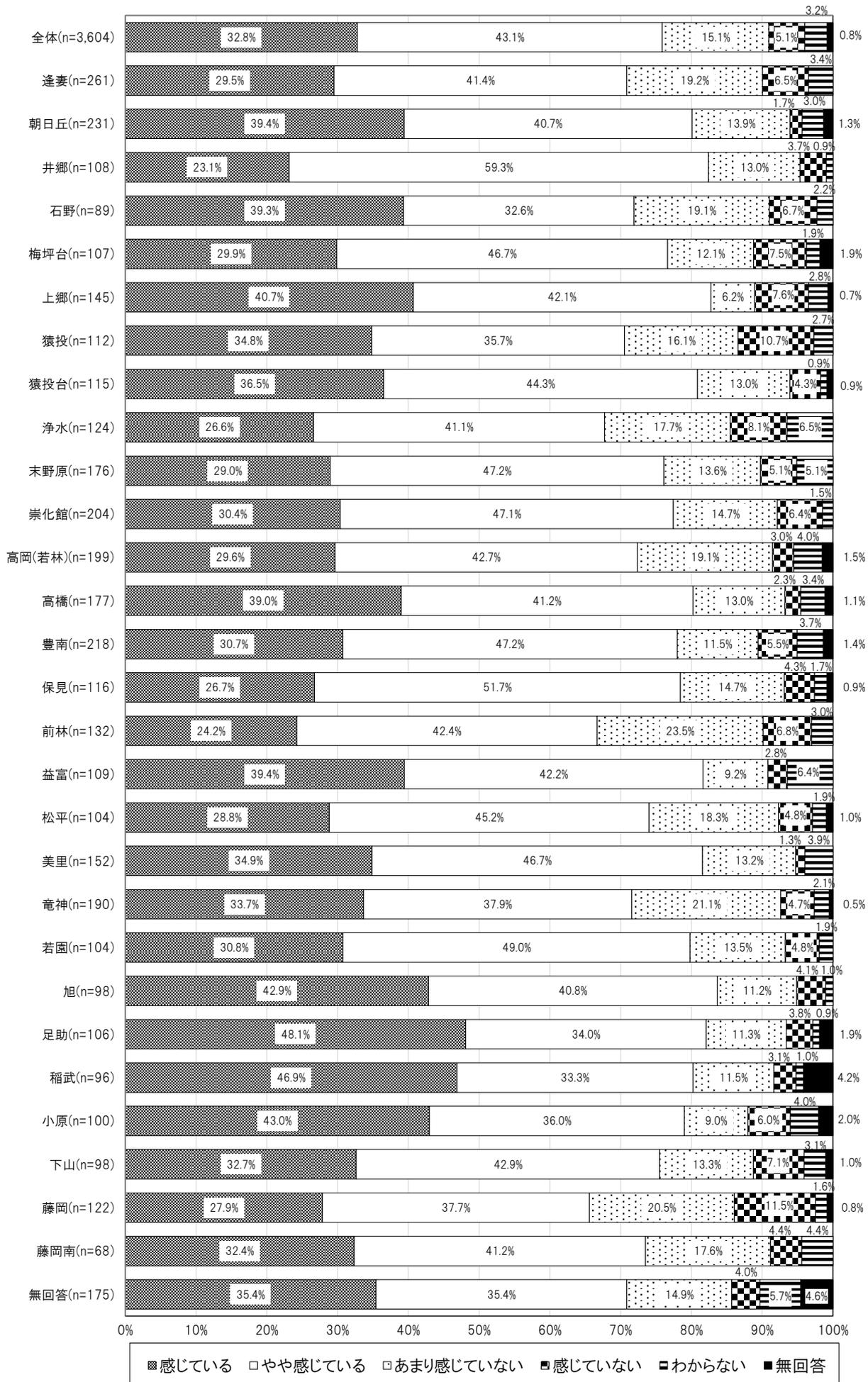
### 2) 属性分析結果

ここでは特徴的な結果が得られた「居住地区別」「年齢別」の属性分析を行います。

#### ① 居住地区別

居住地区別にみると、豊田市や居住地域に愛着を感じている市民の割合は、旭が83.7%と最も高く、次いで上郷が82.8%、井郷が82.4%となっています。一方、藤岡が65.6%、前林が66.6%、浄水が67.7%と低くなっています。

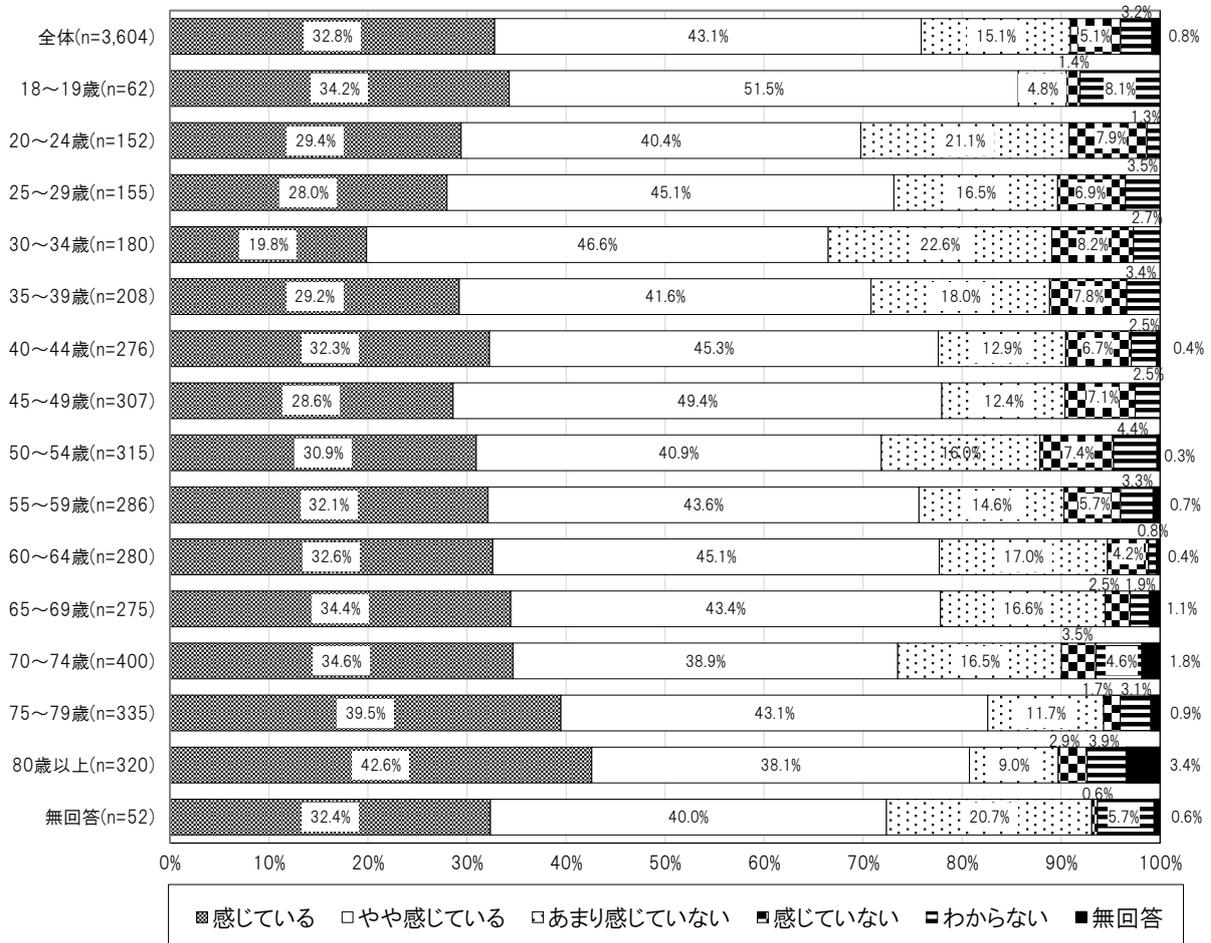
図表3-6-2 今の豊田市や居住地域への愛着(居住地区別)



## ② 年齢別

年齢別にみると、豊田市や居住地域に愛着を感じている市民の割合は、18～19歳が85.7%と最も高く、次いで75～79歳が82.6%、80歳以上が80.7%となっています。一方、30～34歳が66.4%、20～24歳が69.8%、35～39歳が70.8%と低くなっています。

図表3-6-3 今の豊田市や居住地域への愛着(年齢別)



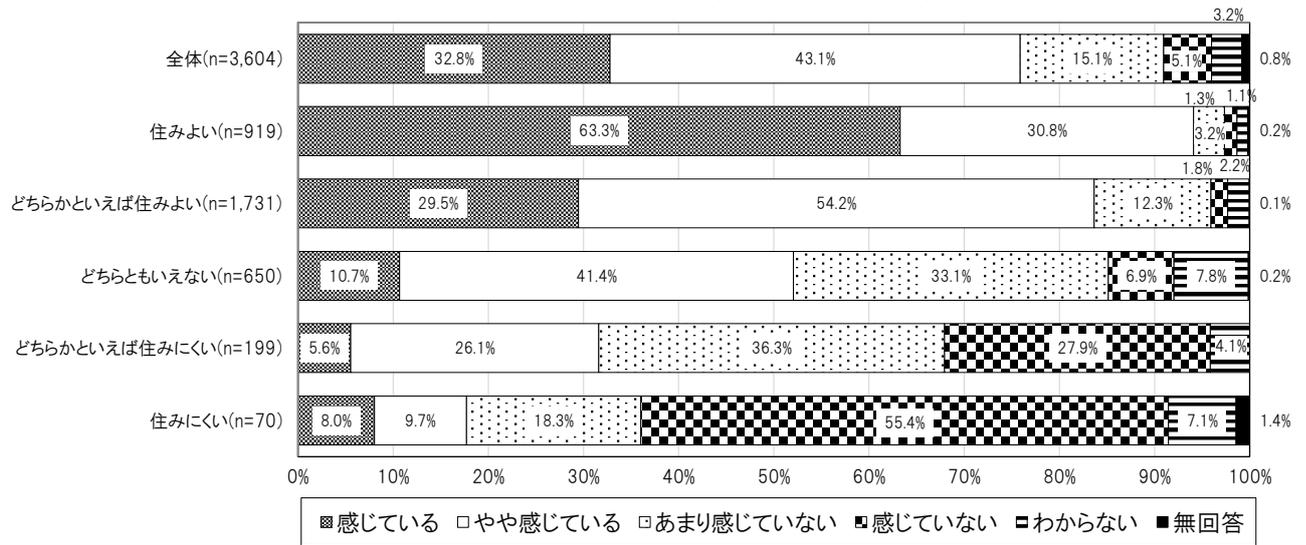
## 3) 設問間分析結果

ここでは、特徴的な結果が得られた「豊田市や居住地域への愛着」と「住みよさ」「定住意識」の設問間分析を行います。

### ① 住みよさ別

住みよさ別にみると、豊田市や居住地域に愛着を感じている市民の割合は、「住みよい」と回答した市民で94.1%と最も高くなっています。一方、「住みにくい」と回答した市民では17.7%と低くなっています。

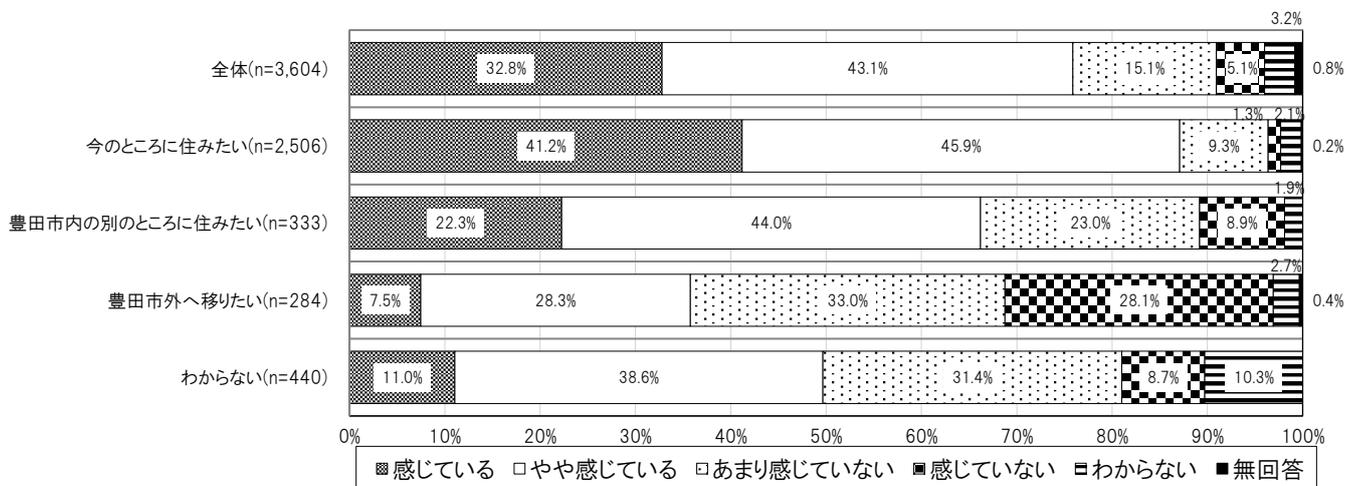
図表3-6-4 今の豊田市や居住地への愛着(住みよさ別)



② 定住意識別

定住意識別にみると、豊田市や居住地への愛着を感じている市民の割合は、「今のところに住みたい」と回答した市民で 87.1%と最も高くなっています。一方、「豊田市外へ移りたい」と回答した市民では 35.8%と低くなっています。

図表3-6-5 今の豊田市や居住地への愛着(定住意識別)



## 2 豊田市のまち

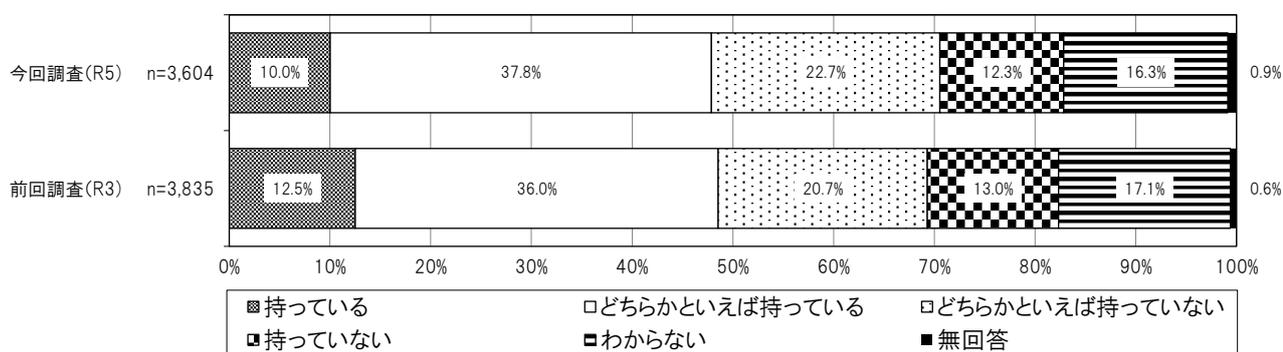
### (1) 豊田市の歴史・文化への愛着や誇り

問5 あなたは、豊田市の歴史・文化に誇りや愛着を持っていますか。(○はひとつ)

#### 1) 全体集計結果

豊田市の歴史・文化に対する愛着や誇りを持っている市民の割合(「持っている」+「どちらかといえば持っている」)は47.8%となっており、前回調査と比較すると、0.7ポイント減少しています。

図表3-7-1 豊田市の歴史・文化に対する愛着や誇り(前回調査との比較)



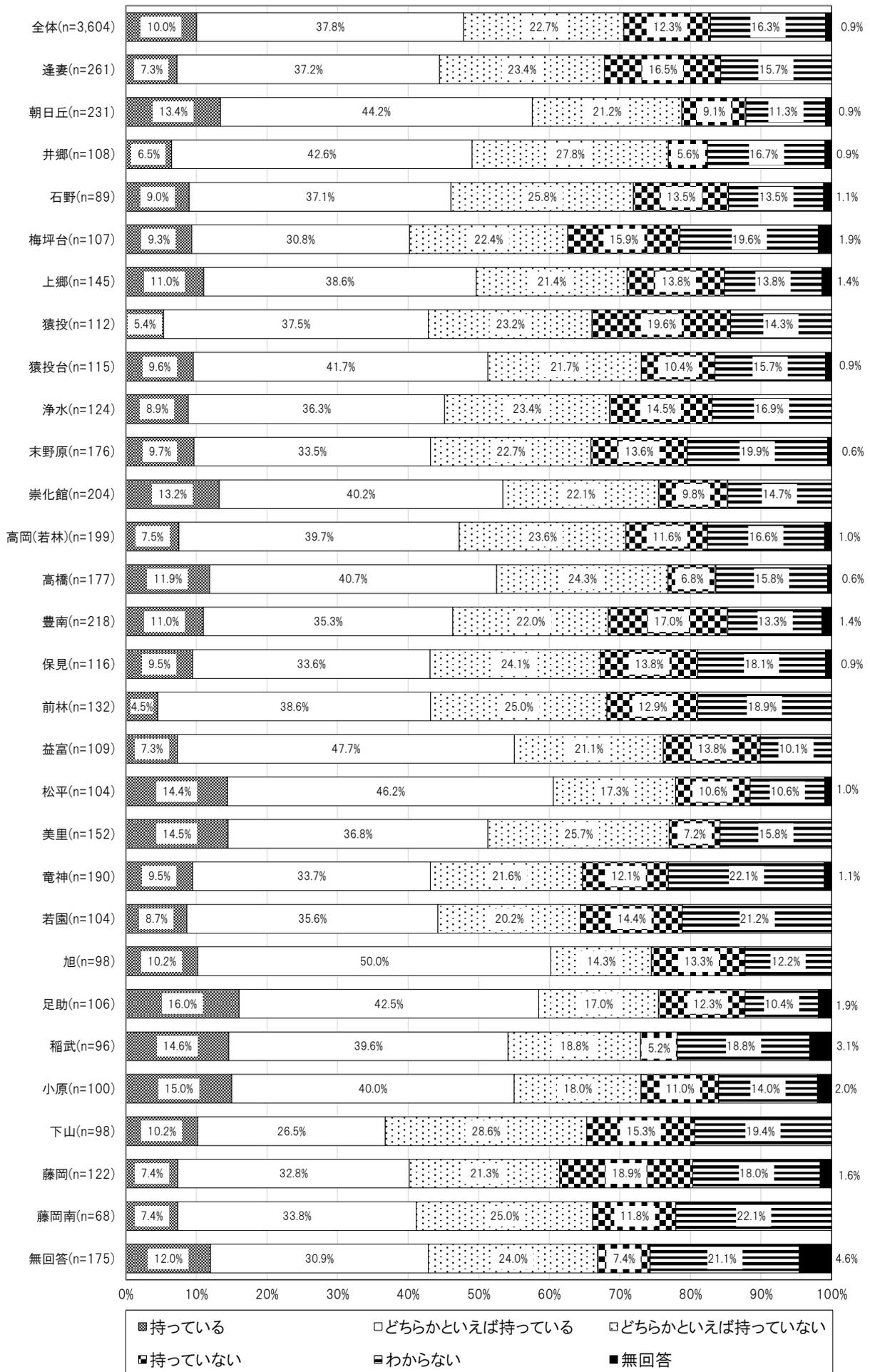
#### 2) 属性分析結果

ここでは特徴的な結果が得られた「居住地区別」「年齢別」「居住年数別」の属性分析を行います。

##### ① 居住地区別

居住地区別にみると、豊田市の歴史・文化に対して愛着や誇りを持っている市民の割合は、松平が60.6%と最も高く、次いで旭が60.2%となっています。一方、下山が36.7%、梅坪台が40.1%と低くなっています。

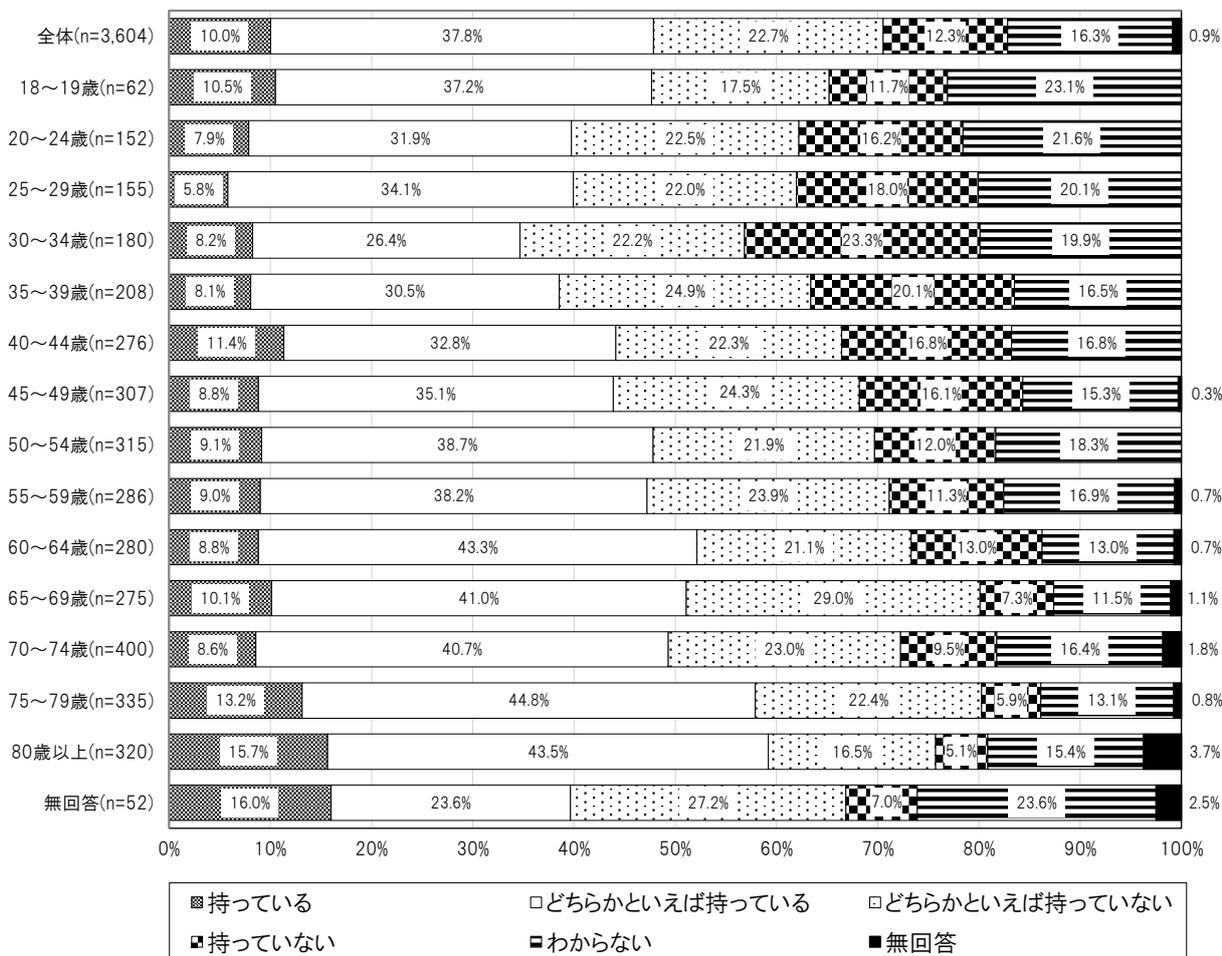
図表3-7-2 豊田市の歴史・文化に対する愛着や誇り(居住地区別)



## ② 年齢別

年齢別にみると、豊田市の歴史・文化に対して愛着や誇りを持っている市民の割合は、80歳以上が59.2%と最も高く、次いで75～79歳が58.0%となっています。一方、30～34歳が34.6%、35～39歳が38.6%と低くなっています。

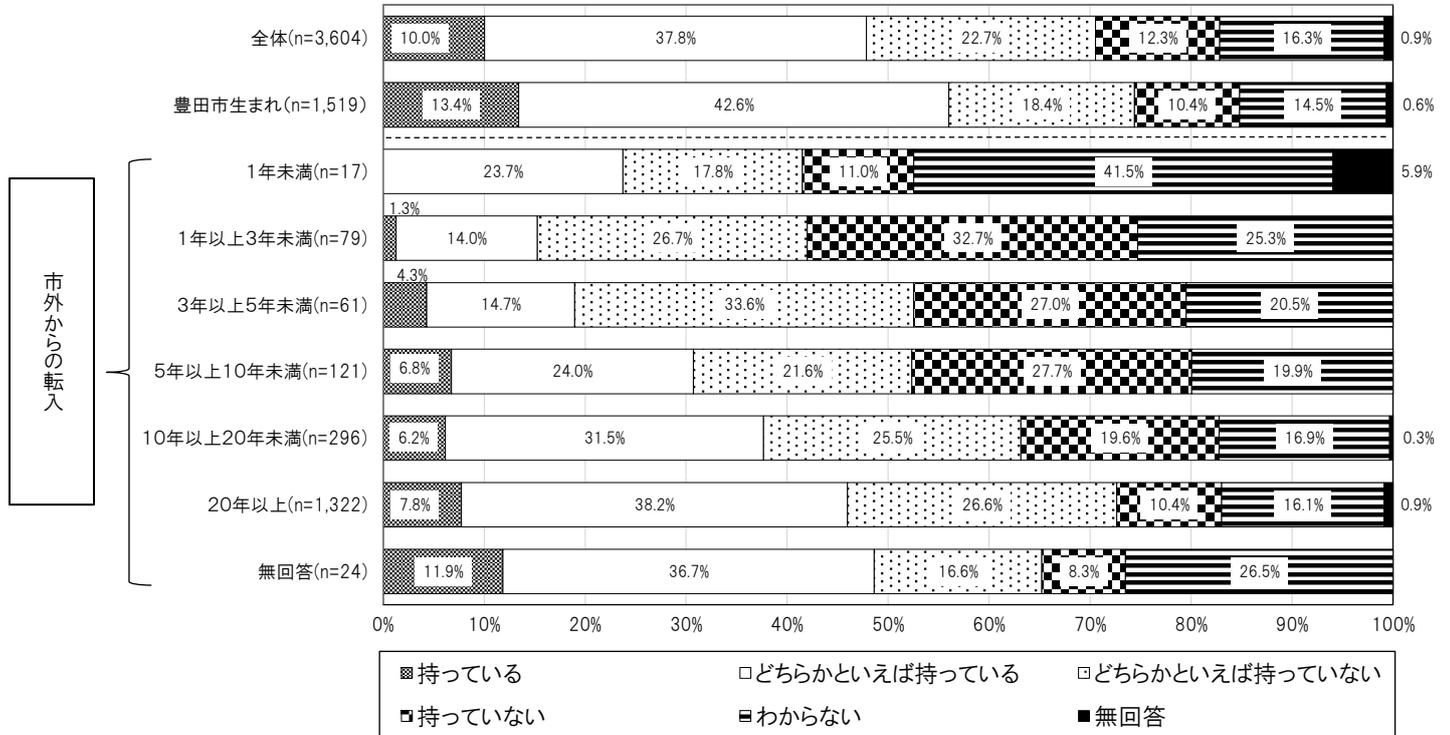
図表3-7-3 豊田市の歴史・文化に対する愛着や誇り(年齢別)



### ③ 居住年数別

居住年数別にみると、豊田市の歴史・文化に対して愛着や誇りを持っている市民の割合は、豊田市生まれで 56.0%と最も高くなっています。豊田市の歴史・文化に対して愛着や誇りを持っている市民の割合は、おおむね居住年数が長くなるのに比例して高くなる傾向にあります。

図表3-7-4 豊田市の歴史・文化に対する愛着や誇り(居住年数別)



## (2) 豊田市の中心市街地のにぎわい

問 6

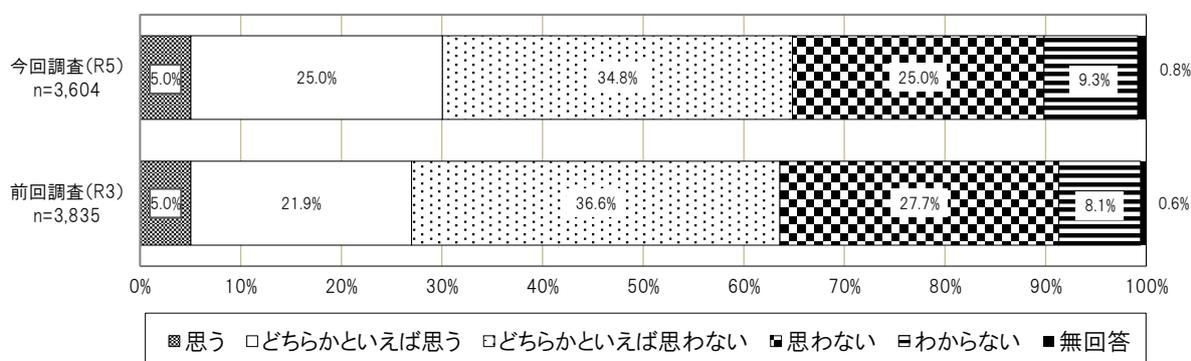
あなたは、豊田市の中心市街地（名鉄豊田市駅の周辺）のにぎわいや魅力があると思いますか。（○はひとつ）

### 1) 全体集計結果

中心市街地のにぎわいや魅力があると感じている市民の割合（「思う」+「どちらかといえば思う」）は30.0%となっており、前回調査と比較すると、3.1ポイント増加しています。

一方、中心市街地のにぎわいや魅力があると感じていない市民の割合（「どちらかといえば思わない」+「思わない」）は59.8%となっており、前回調査と比較すると、4.5ポイント減少しています。

図表3-8-1 中心市街地のにぎわいや魅力の有無(前回調査との比較)



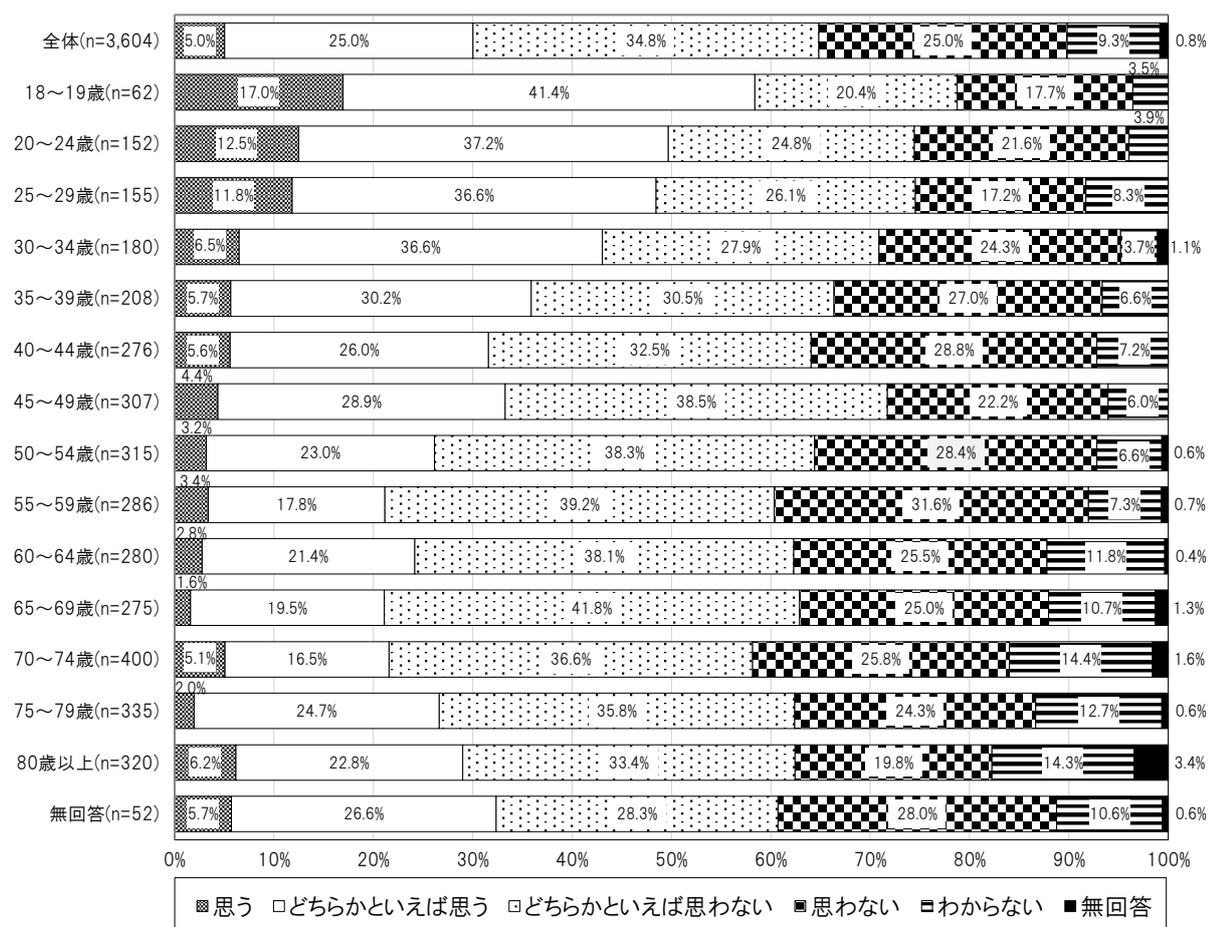
### 2) 属性分析結果

ここでは特徴的な結果が得られた「年齢別」「家族構成別」の属性分析を行います。

#### ① 年齢別

年齢別にみると、中心市街地のにぎわいや魅力があると感じている市民の割合は、18～19歳が58.4%と最も高く、次いで20～24歳以上が49.7%となっています。一方、65～69歳が21.1%、55～59歳が21.2%と低くなっています。

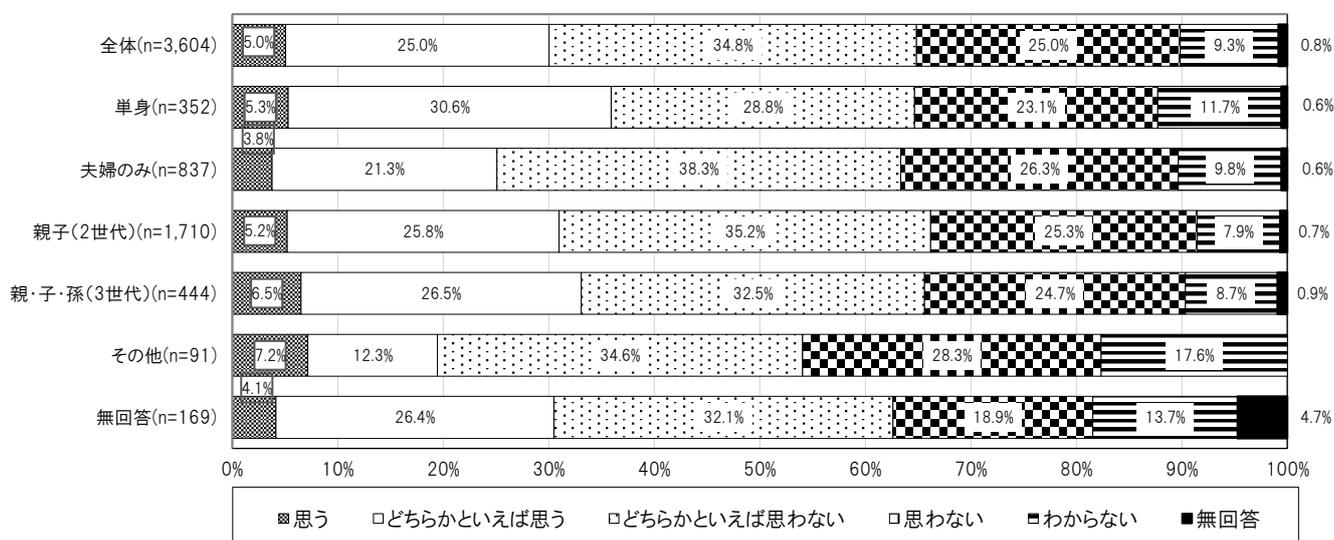
図表3-8-2 中心市街地のにぎわいや魅力の有無(年齢別)



② 家族構成別

家族構成別にみると、中心市街地ににぎわいや魅力があると感じている市民の割合は、単身世帯が35.9%と最も高く、次いで親・子・孫(3世代)世帯が33.0%となっています。一方、夫婦のみ世帯が25.1%と低くなっています。

図表3-8-3 中心市街地のにぎわいや魅力の有無(家族構成別)



### 3 生活全般

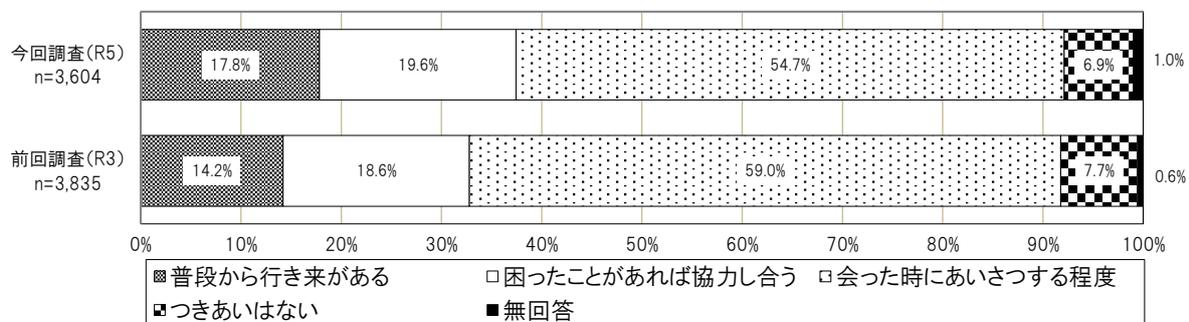
#### (1) 近所とのつきあい

問7 あなたは、近所とのつきあいがどれくらいありますか。(○はひとつ)

##### 1) 全体集計結果

近所づきあいについて、「会った時にあいさつする程度」と回答した市民の割合が最も高く、54.7%となっており、前回調査と比較して 4.3 ポイント減少しています。次いで「困ったことがあれば協力し合う」が 19.6%で、前回調査と比較して 1.0 ポイント増加しています。また、「普段から行き来がある」と回答した市民の割合は、17.8%となっており、3.6 ポイント増加しています。

図表3-9-1 実際の近所づきあい(前回調査との比較)



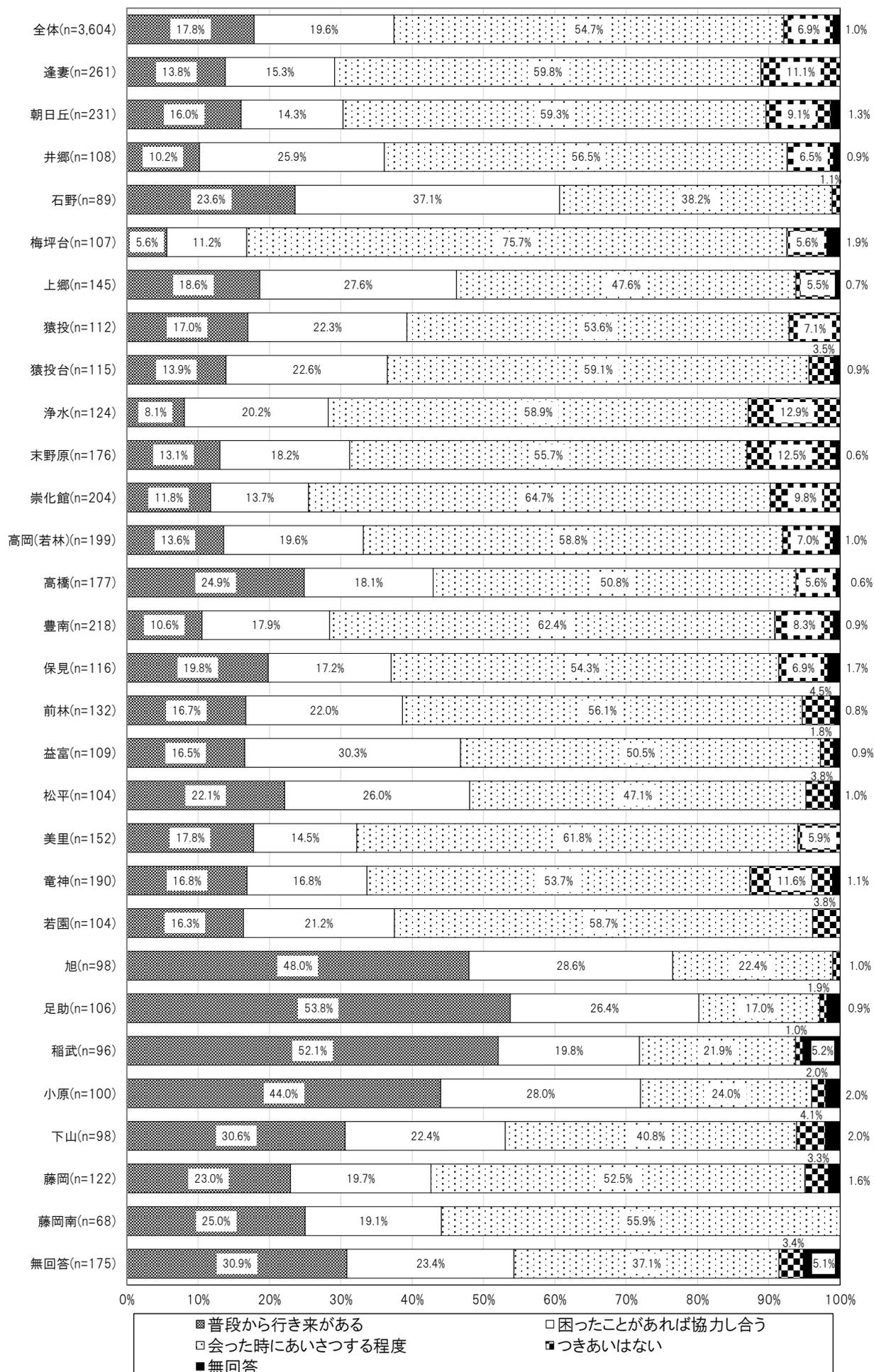
##### 2) 属性分析結果

ここでは特徴的な結果が得られた「居住地区別」「年齢別」「家族構成別」「居住形態別」の属性分析を行います。

###### ① 居住地区別

居住地区別にみると、近所づきあいがあると回答した市民の割合(「普段から行き来がある」+「困ったことがあれば協力し合う」)は、足助が 80.2%と最も高く、次いで旭が 76.6%、小原が 72.0%となっています。一方、梅坪台が 16.8%と低くなっています。

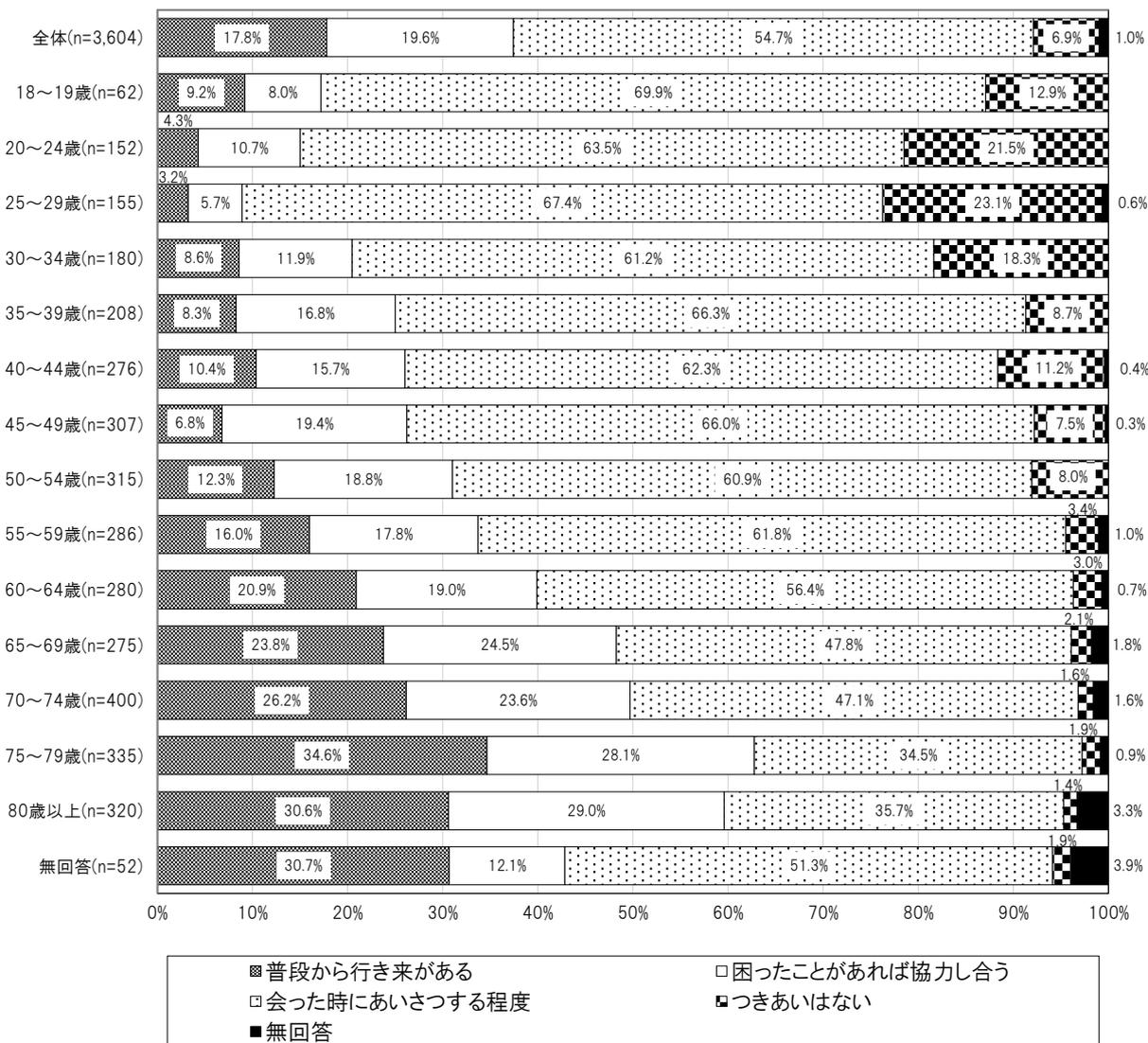
図表3-9-2 実際の近所づきあい(居住地区別)



## ② 年齢別

年齢別にみると、近所づきあいがあると回答した市民の割合は、おおむね年齢が高くなるほど増加する傾向にあります。また、「つきあいはない」と回答した市民の割合が25～29歳で23.1%と高くなっています。

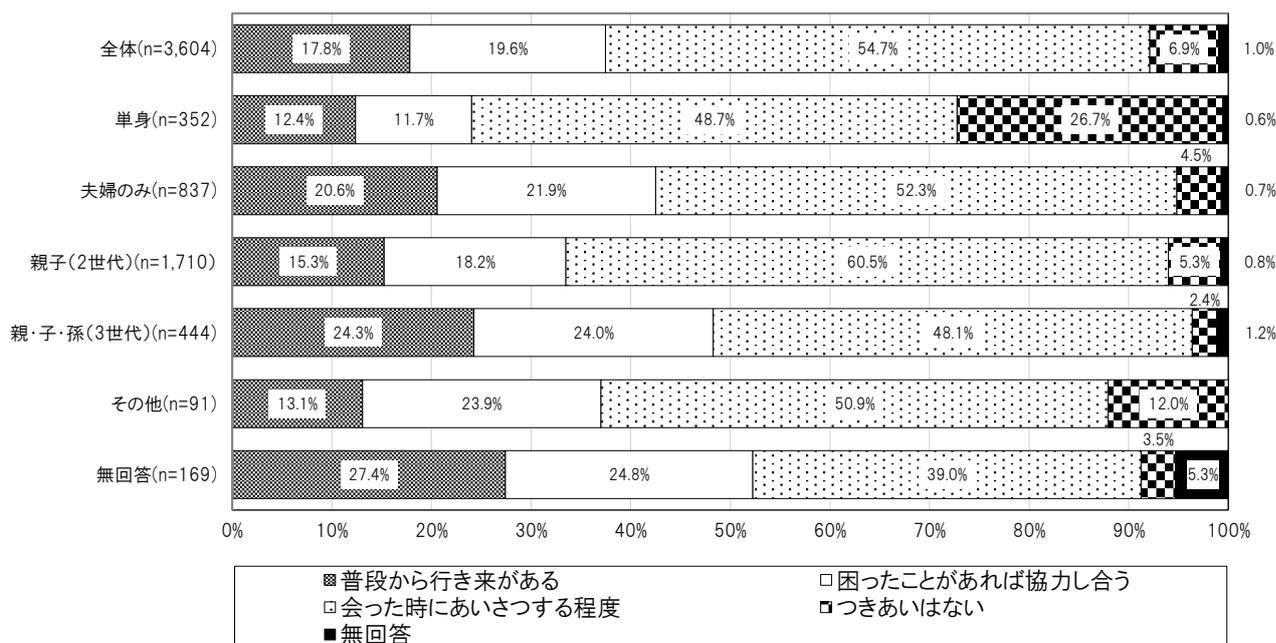
図表3-9-3 実際の近所づきあい(年齢別)



## ③ 家族構成別

家族構成別にみると、近所づきあいがあると回答した市民の割合は、親・子・孫（3世代）世帯が最も高く48.3%、次いで夫婦のみ世帯が42.5%となっています。一方、単身世帯が24.1%と低くなっています。また、「つきあいはない」と回答した市民の割合は、単身世帯で26.7%と高くなっています。

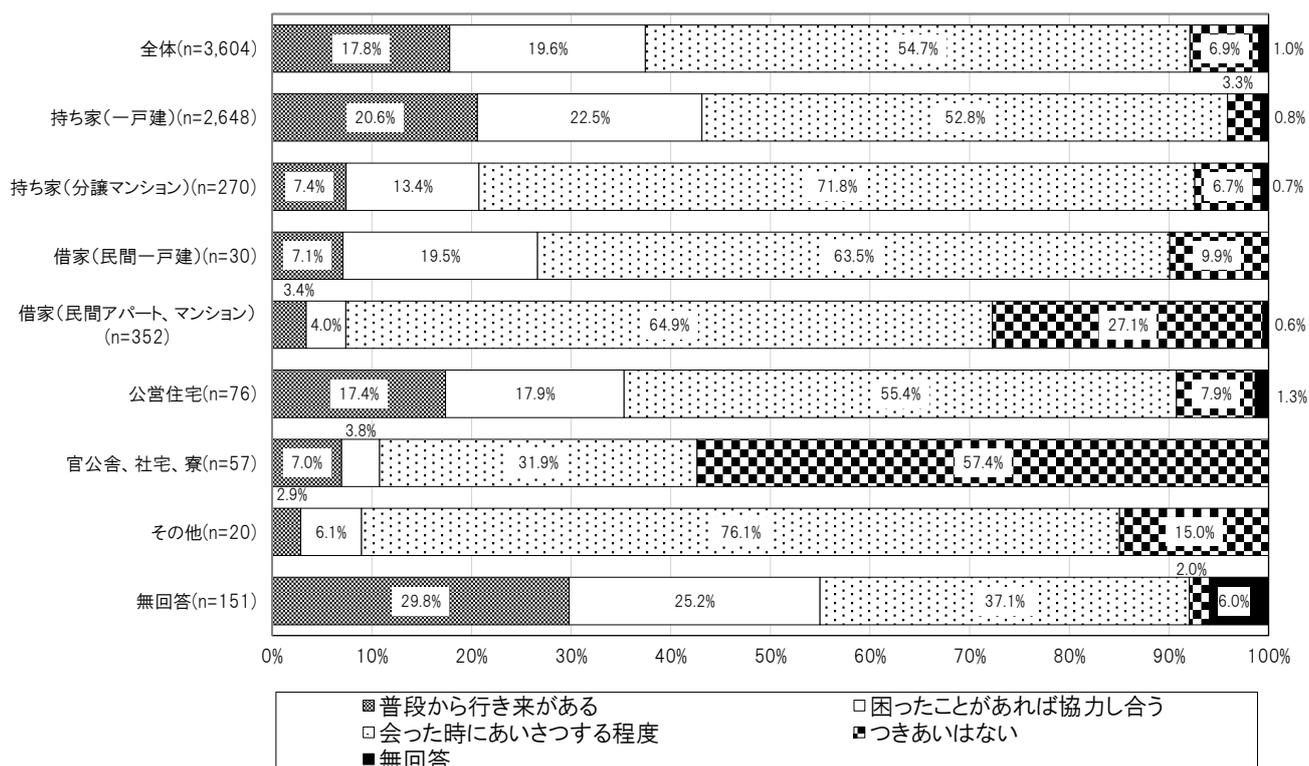
図表3-9-4 実際の近所づきあい(家族構成別)



#### ④ 居住形態別

居住形態別にみると、近所づきあいがあると回答した市民の割合は、持ち家（一戸建）が43.1%と最も高くなっています。次いで公営住宅が35.3%となっています。一方、借家（民間アパート、マンション）が7.4%と低くなっています。また、「つきあいはない」と回答した市民の割合は、官公舎、社宅、寮で57.4%、借家（民間アパート、マンション）で27.1%と高くなっています。

図表3-9-5 実際の近所づきあい(居住形態別)



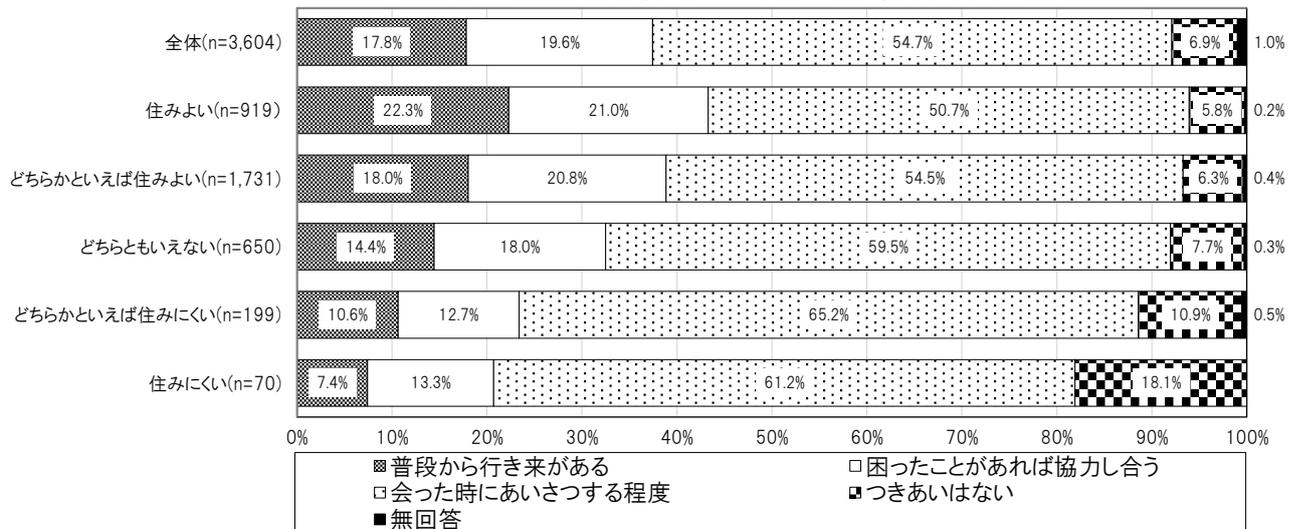
### 3) 設問間分析結果

ここでは、特徴的な結果が得られた「実際の近所づきあい」と「住みよさ」「定住意識」の設問間分析を行います。

#### ① 住みよさ別

住みよさ別にみると、近所づきあいがあると回答した市民の割合は、「住みよい」と回答した市民で 43.3%と最も高くなっています。一方、「住みにくい」と回答した市民では 20.7%と低くなっています。

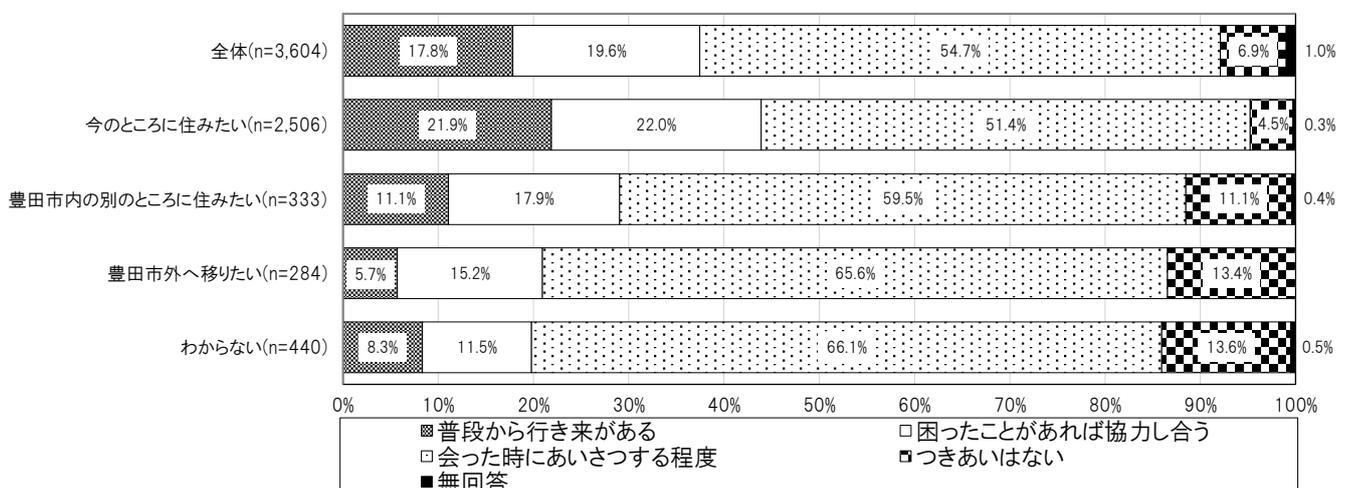
図表3-9-6 実際の近所づきあい(住みよさ別)



#### ② 定住意識別

定住意識別にみると、近所づきあいがあると回答した市民の割合は、「今のところに住みたい」と回答した市民が 43.9%と最も高くなっています。一方、「豊田市外へ移りたい」と回答した市民では 20.9%と低くなっています。

図表3-9-7 実際の近所づきあい(定住意識別)



## (2) 生きがいの有無

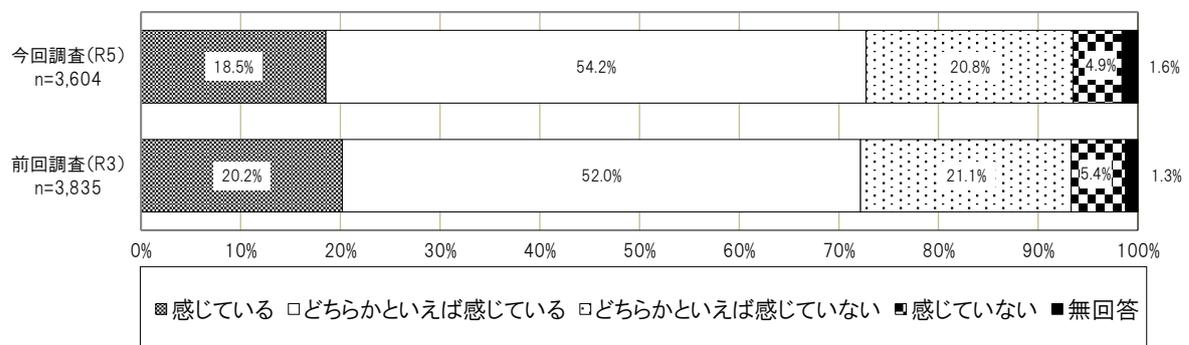
問 8-1

あなたは、日ごろの生活の中で生きがいを感じていますか。(○はひとつ)

### 1) 全体集計結果

日ごろの生活の中で生きがいを感じている(「感じている」+「どちらかといえば感じている」)と回答した市民の割合は、72.7%となっており、前回調査と比較して0.5ポイント増加しています。一方、生きがいを感じていない(「どちらかといえば感じていない」+「感じていない」)と回答した市民の割合は、25.7%となっており、0.8ポイント減少しています。

図表3-10-1 生きがいの有無(前回調査との比較)



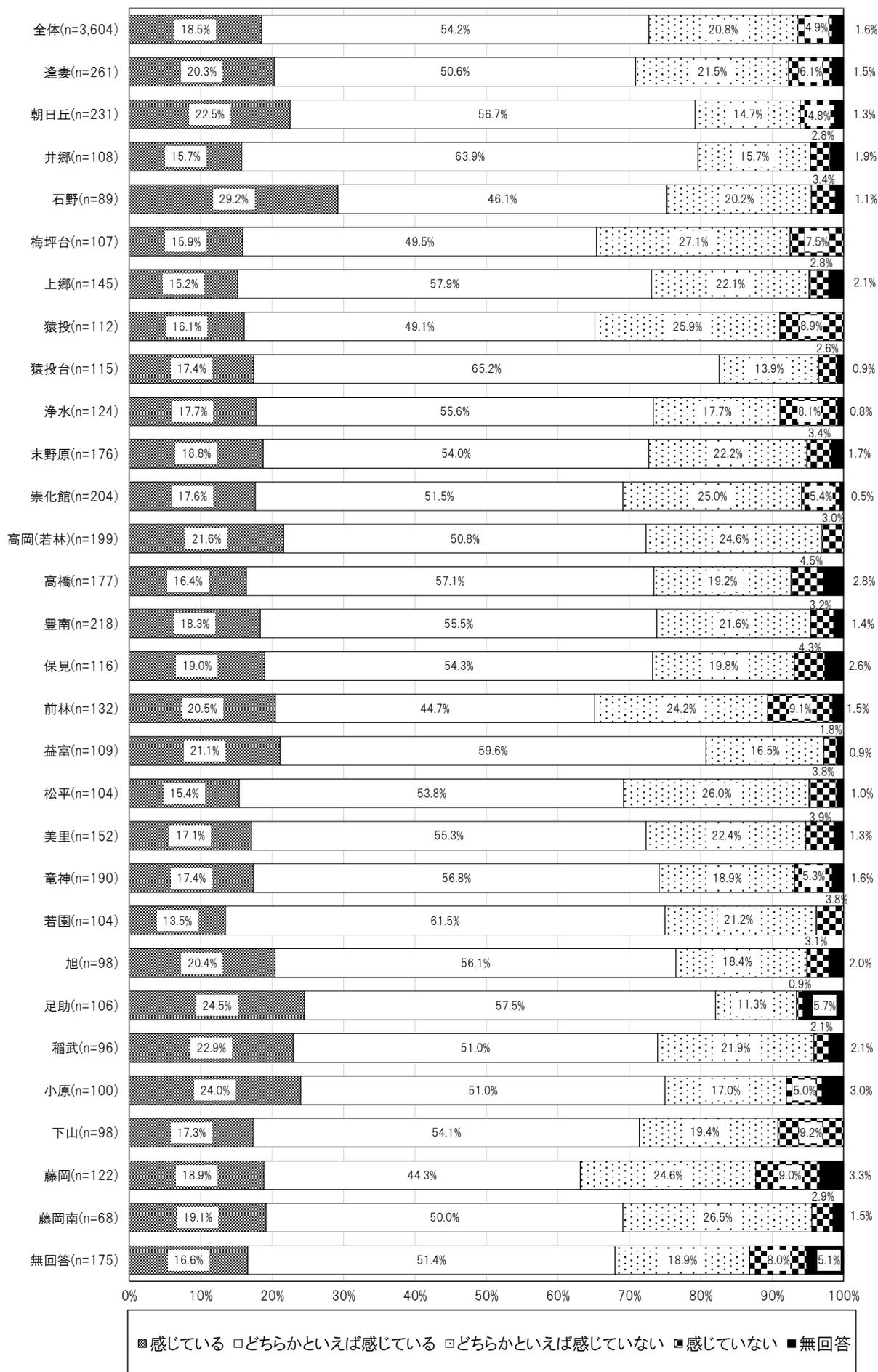
### 2) 属性分析結果

ここでは特徴的な結果が得られた「居住地区別」「年齢別」「職業別」「家族構成別」の属性分析を行います。

#### ① 居住地区別

居住地区別にみると、生きがいを感じている市民の割合は、猿投台が82.6%と最も高く、次いで足助が82.0%となっています。一方、藤岡が63.2%と最も低く、次いで猿投と前林が65.2%となっています。

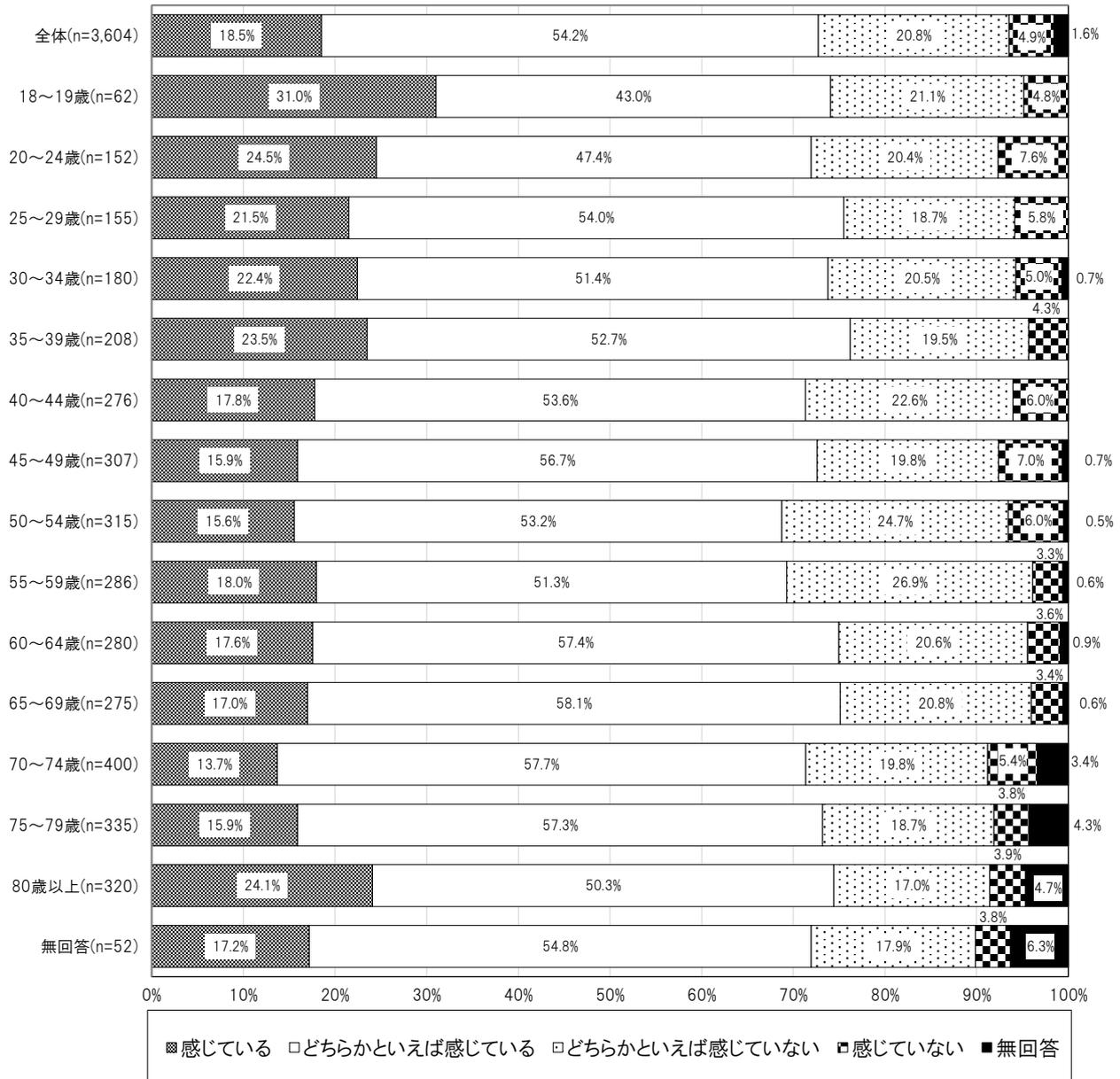
図表3-10-2 生きがいの有無(居住地区別)



## ② 年齢別

年齢別にみると、生きがいを感じている市民の割合は、35～39歳が76.2%と最も高く、次いで25～29歳が75.5%となっています。

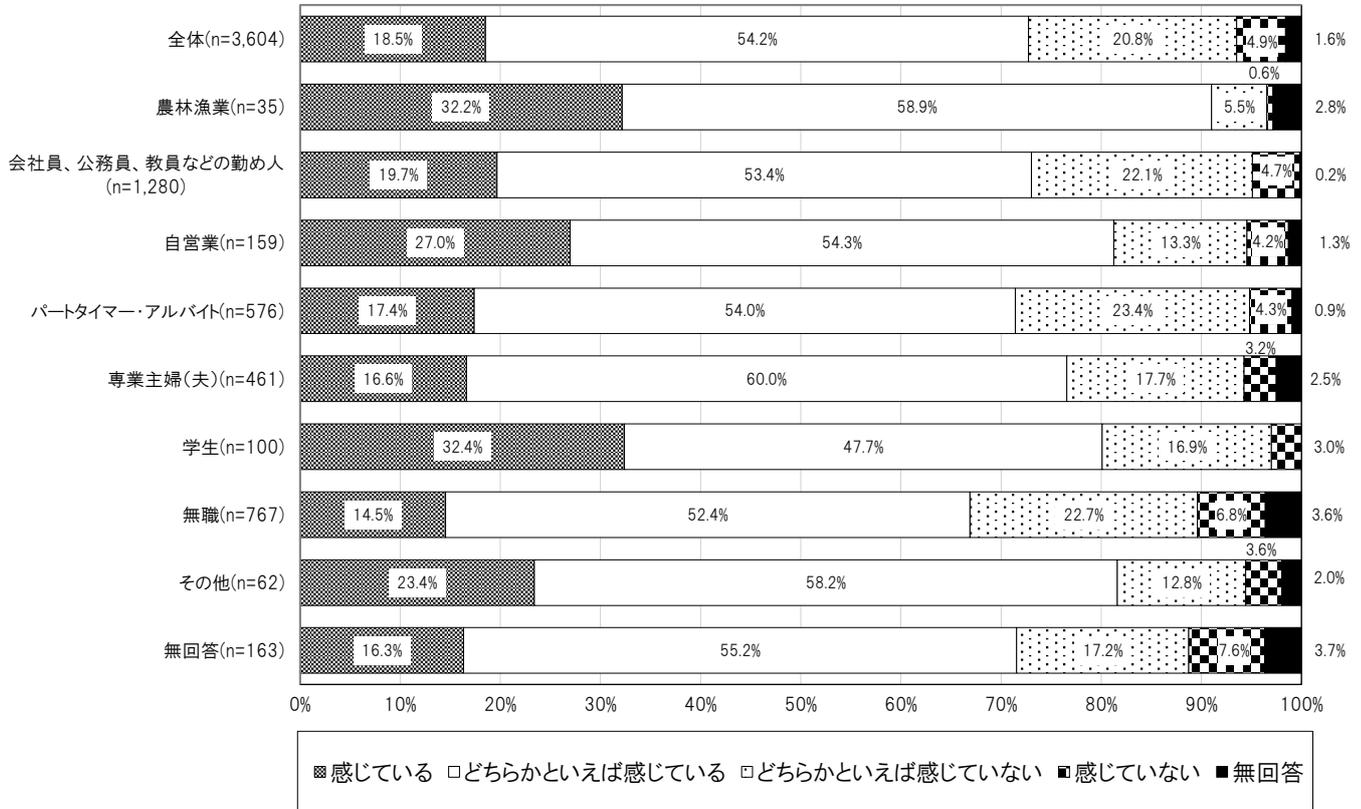
図表3-10-3 生きがいの有無(年齢別)



### ③ 職業別

職業別にみると、生きがいを感じている市民の割合は、農林漁業が 91.1%と最も高く、次いで自営業が 81.3%となっています。一方、無職が 66.9%と低くなっています。

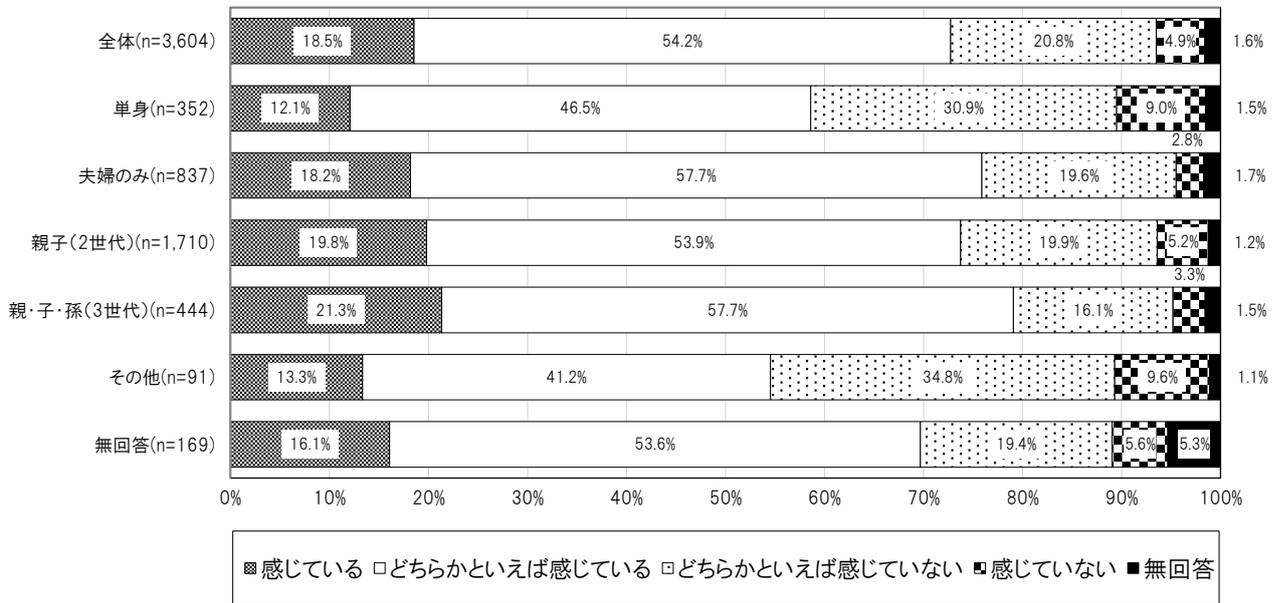
図表3-10-4 生きがいの有無(職業別)



#### ④ 家族構成別

家族構成別にみると、生きがいを感じている市民の割合は、親・子・孫(3世代)世帯が79.0%と最も高く、次いで夫婦のみ世帯が75.9%となっています。一方、単身世帯が58.6%と低くなっています。

図表3-10-5 生きがいの有無(家族構成別)



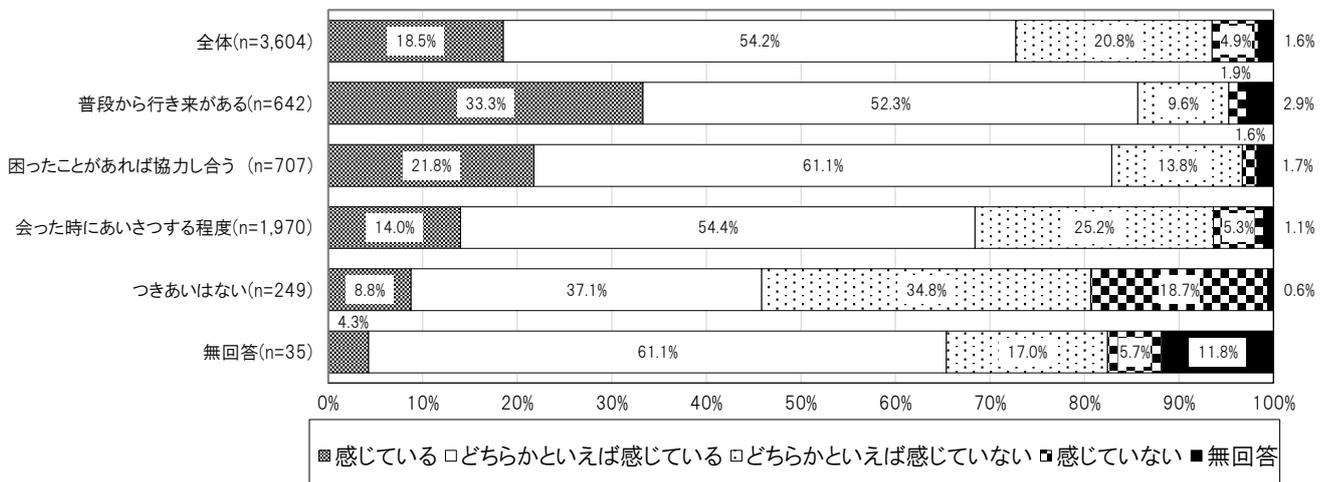
### 3) 設問間分析結果

ここでは、特徴的な結果が得られた「生きがいの有無」と「実際の近所づきあい」の設問間分析を行います。

#### ① 実際の近所づきあい別

実際の近所づきあいについて「普段から行き来がある」と回答した市民は、「つきあいはない」と回答した市民に比べて生きがいを感じている割合が高い傾向にあります。

図表3-10-6 生きがいの有無(実際の近所づきあい別)



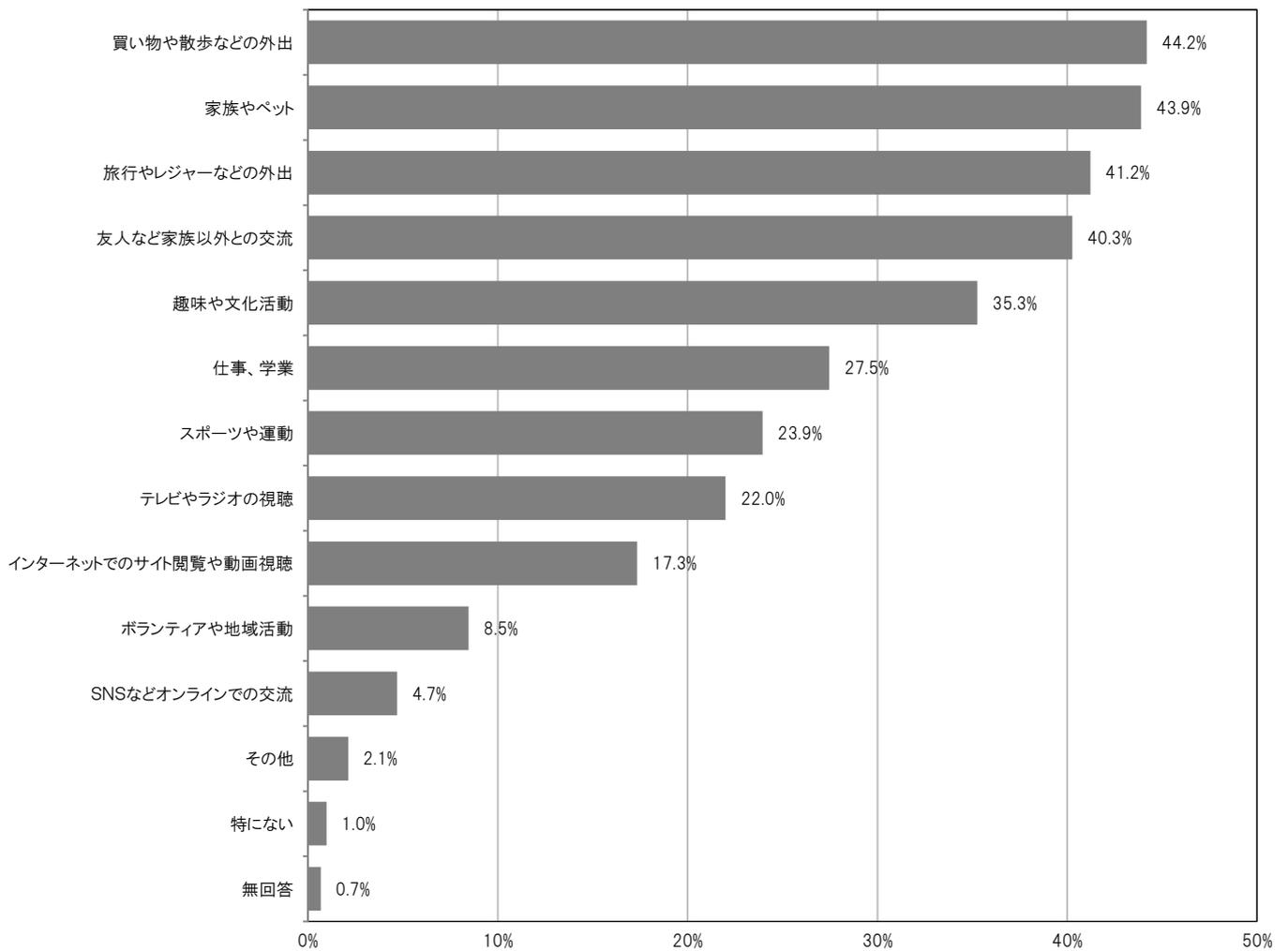
<b>問 8-2</b>	8-1で「1 感じている」または「2 どちらかといえば感じている」とお答えの方にお聞きします。どのようなことに生きがいを感じますか。(当てはまるもの全てに○)
--------------	---

## 1) 全体集計結果

生きがいを感じている事柄として、「買い物や散歩などの外出」が44.2%と最も多く、次いで「家族やペット」が43.9%となっています。

図表3-11-1 生きがいを感じている事柄

n=2,621



## 2) 属性分析結果

ここでは特徴的な結果が得られた「年齢別」の属性分析を行います。

年齢別にみると、生きがいを感じている事柄として「家族やペット」と回答した市民の割合は、25～64歳までの多くの年齢層で高くなっています。また、「旅行やレジャーなどの外出」と回答した市民の割合は、18～69歳までの幅広い年齢層で高くなっています。

図表3-11-2 生きがいを感じている事柄（年齢別）

n=2,621

	買い物や散歩などの外出	家族やペット	旅行やレジャーなどの外出	友人など家族以外との交流	趣味や文化活動	仕事、学業	スポーツや運動	テレビやラジオの視聴	インターネットでの閲覧や動画視聴	ボランティアや地域活動	SNSなどオンラインでの交流	その他	特にない	無回答
全体 (n=2,621)	44.2%	43.9%	41.2%	40.3%	35.3%	27.5%	23.9%	22.0%	17.3%	8.5%	4.7%	2.1%	1.0%	0.7%
18～19歳 (n=46)	48.3%	34.8%	40.7%	49.1%	54.8%	32.7%	30.9%	17.8%	43.3%	2.8%	17.5%	0.0%	0.0%	0.0%
20～24歳 (n=110)	47.5%	38.1%	51.0%	48.4%	51.6%	23.5%	27.2%	15.0%	45.9%	2.0%	14.6%	0.0%	0.0%	0.9%
25～29歳 (n=117)	45.1%	47.6%	57.3%	40.1%	42.6%	30.0%	25.7%	11.7%	28.6%	3.4%	8.7%	0.9%	0.0%	0.9%
30～34歳 (n=133)	44.6%	62.7%	52.7%	35.8%	34.3%	36.4%	17.7%	11.6%	21.5%	3.0%	7.7%	1.4%	1.0%	1.0%
35～39歳 (n=159)	37.3%	70.4%	46.3%	38.2%	32.0%	32.3%	23.4%	9.4%	16.5%	7.2%	2.8%	3.6%	0.6%	0.5%
40～44歳 (n=197)	36.4%	62.6%	46.1%	35.6%	31.7%	36.5%	19.1%	13.9%	20.7%	2.7%	4.9%	0.5%	1.0%	0.9%
45～49歳 (n=223)	41.5%	59.9%	41.4%	34.7%	35.4%	43.1%	18.1%	15.8%	19.5%	5.0%	4.5%	1.1%	1.8%	0.4%
50～54歳 (n=217)	36.2%	59.2%	42.9%	39.5%	39.3%	38.2%	21.8%	18.8%	22.8%	4.2%	7.3%	1.7%	2.3%	0.5%
55～59歳 (n=198)	38.7%	57.7%	46.2%	33.3%	34.3%	41.8%	29.4%	20.6%	13.8%	8.6%	3.3%	0.9%	0.5%	0.3%
60～64歳 (n=210)	44.8%	47.1%	48.1%	38.4%	37.4%	31.0%	27.6%	24.9%	17.4%	8.2%	5.7%	3.4%	0.5%	0.0%
65～69歳 (n=207)	43.0%	32.9%	40.7%	35.7%	32.0%	24.7%	26.2%	24.4%	14.0%	14.3%	2.2%	3.0%	1.3%	0.0%
70～74歳 (n=285)	49.0%	21.6%	35.5%	44.8%	34.9%	16.7%	24.3%	33.2%	10.4%	12.7%	0.7%	2.9%	1.1%	1.1%
75～79歳 (n=245)	51.7%	27.0%	29.9%	51.5%	32.3%	9.3%	26.8%	31.9%	10.0%	17.5%	3.5%	3.2%	0.4%	1.3%
80歳以上 (n=238)	53.5%	17.2%	24.0%	45.0%	29.6%	7.3%	24.7%	33.4%	4.9%	10.7%	2.3%	2.8%	0.9%	0.5%
無回答 (n=38)	45.1%	19.5%	29.1%	27.8%	21.7%	18.6%	10.2%	23.9%	10.6%	13.3%	0.0%	5.3%	3.2%	3.7%

※回答を見やすくするよう、回答率40%以上に濃い影、20%以上40%未満に薄い影をつけました。

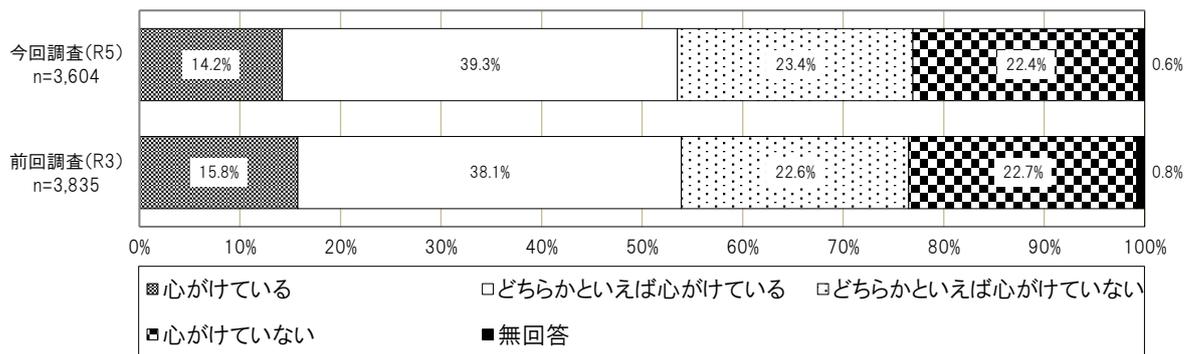
### (3) 市内農産物の購入意識

**問 9** あなたは、市内で採れた農産物を購入するよう心がけていますか。(○はひとつ)

#### 1) 全体集計結果

市内で採れた農産物を購入するよう心がけている市民の割合(「心がけている」+「どちらかといえば心がけている」)は53.5%となっており、前回調査と比較して0.4ポイント減少しています。

図表3-12-1 市内産農産物の購入意識(前回調査との比較)



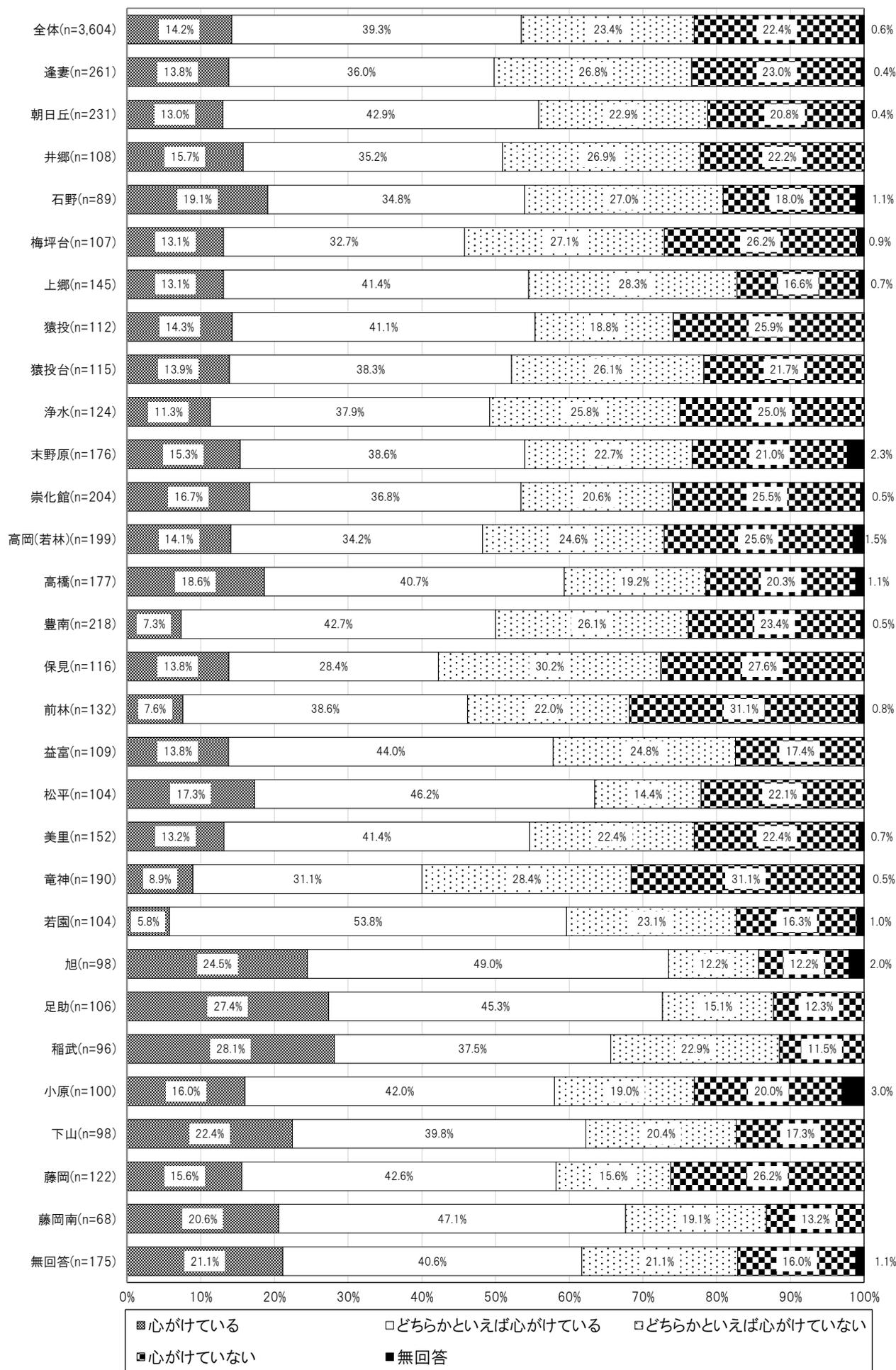
#### 2) 属性分析結果

ここでは特徴的な結果が得られた「居住地区別」「性別」「年齢別」の属性分析を行います。

##### ① 居住地区別

居住地区別にみると、市内で採れた農産物を購入するよう心がけている市民の割合は、旭が73.5%で最も高く、次いで足助が72.7%、藤岡南が67.7%となっています。一方、竜神が40.0%、保見が42.2%と低くなっています。

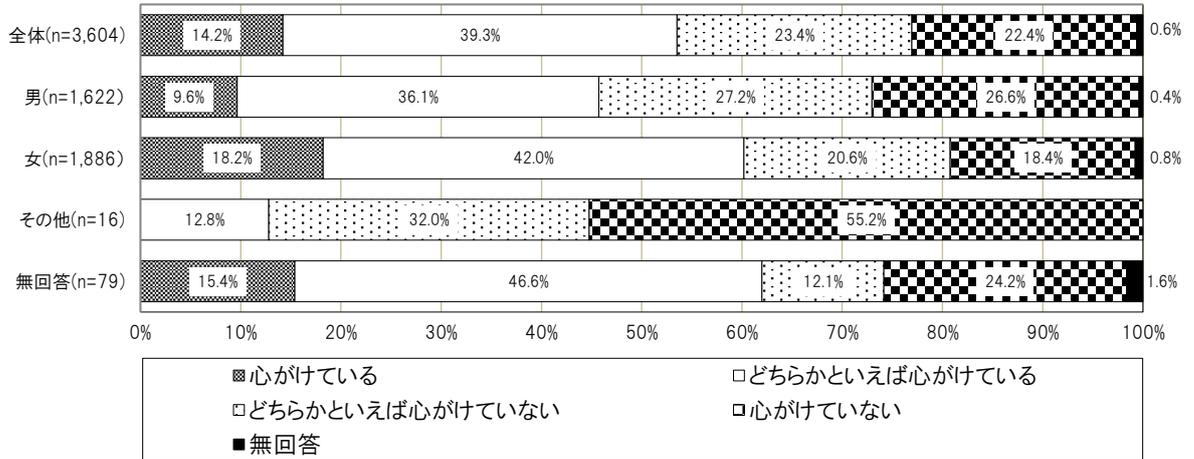
図表3-12-2 市内産農産物の購入意識(居住地区別)



## ② 性別

性別で見ると、市内で採れた農産物を購入するように心がけている市民の割合は、女性は60.2%で、男性では45.7%となっています。

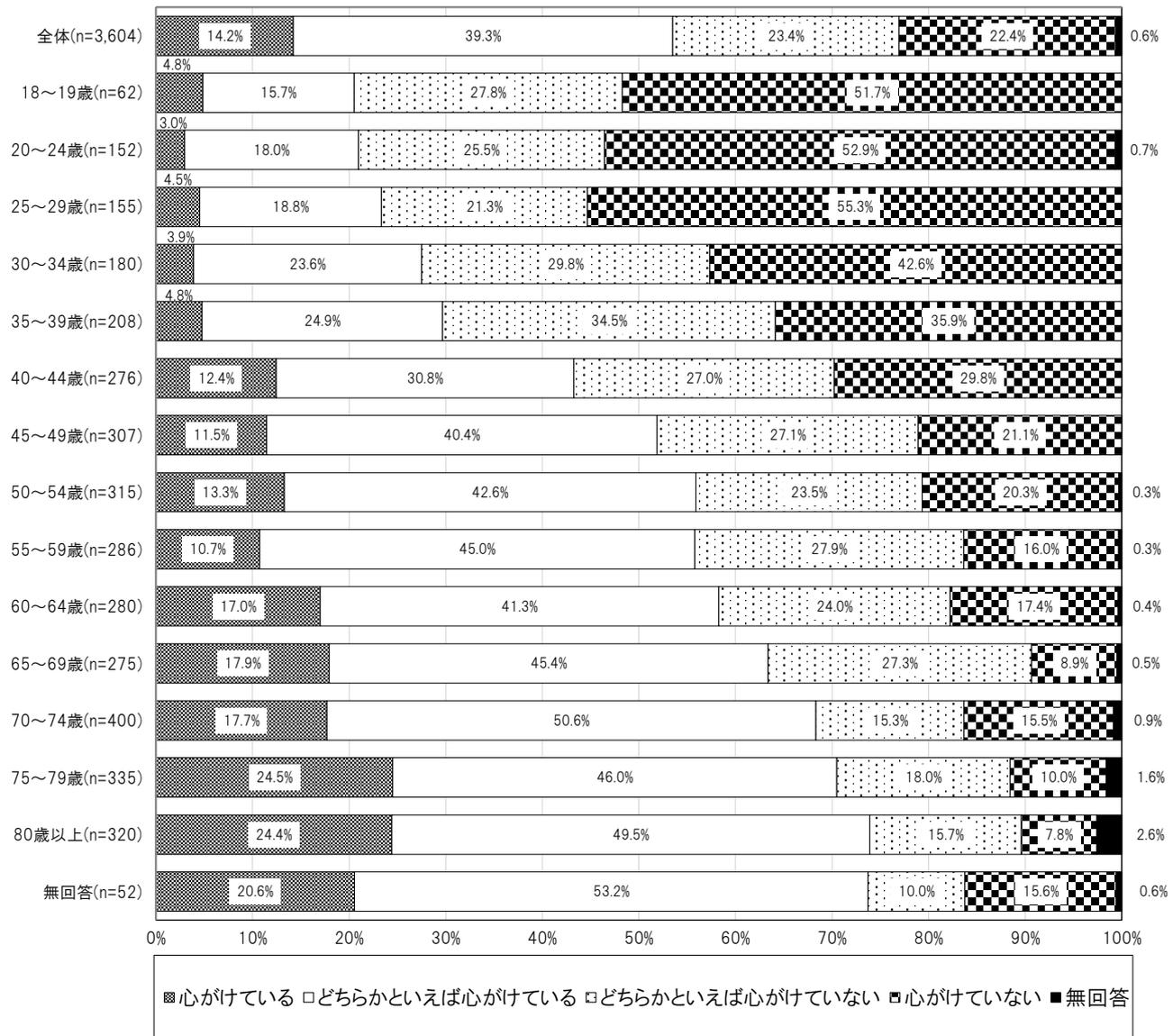
図表3-12-3 市内産農産物の購入意識(性別)



### ③ 年齢別

年齢別にみると、市内で採れた農産物を購入するように心がけている市民の割合は、80歳以上が73.9%で最も高く、次いで75～79歳が70.5%となっています。一方、18～19歳が20.5%、20～24歳が21.0%と低くなっています。市内で採れた農産物を購入するように心がけている市民の割合は、おおむね年齢が高くなるほど増加する傾向にあります。

図表3-12-4 市内産農産物の購入意識(年齢別)



## 4 子ども・子育て

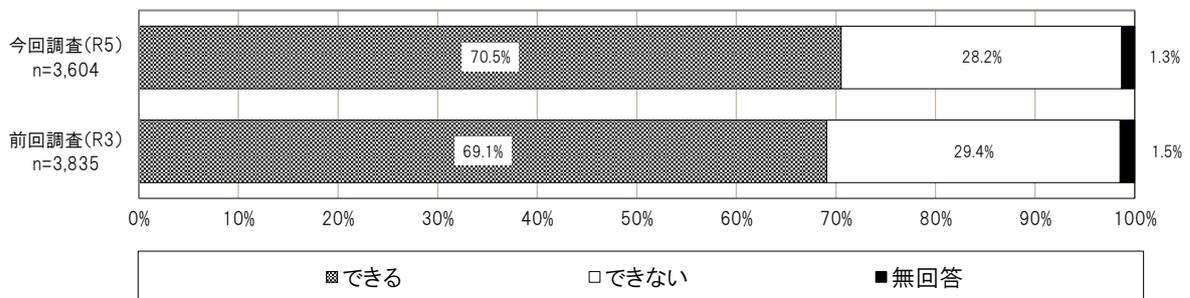
### (1) 児童虐待発見時の対応

<b>問10-1</b>	あなたは、近所で児童虐待を受けていると思われる子どもを見つけたとき、市役所（こども家庭課）、児童相談所または警察に連絡できますか。（○はひとつ）
--------------	--

#### 1) 全体集計結果

近所で児童虐待を受けていると思われる子どもを見つけたときに、市役所（こども家庭課）、児童相談所または警察に連絡できると答えた市民の割合は、70.5%となっており、前回調査と比較すると1.4ポイント増加しています。一方、連絡できないと答えた市民の割合は28.2%で、前回調査から1.2ポイント減少しています。

図表3-13-1 児童虐待発見時の対応(前回調査との比較)



問10-2

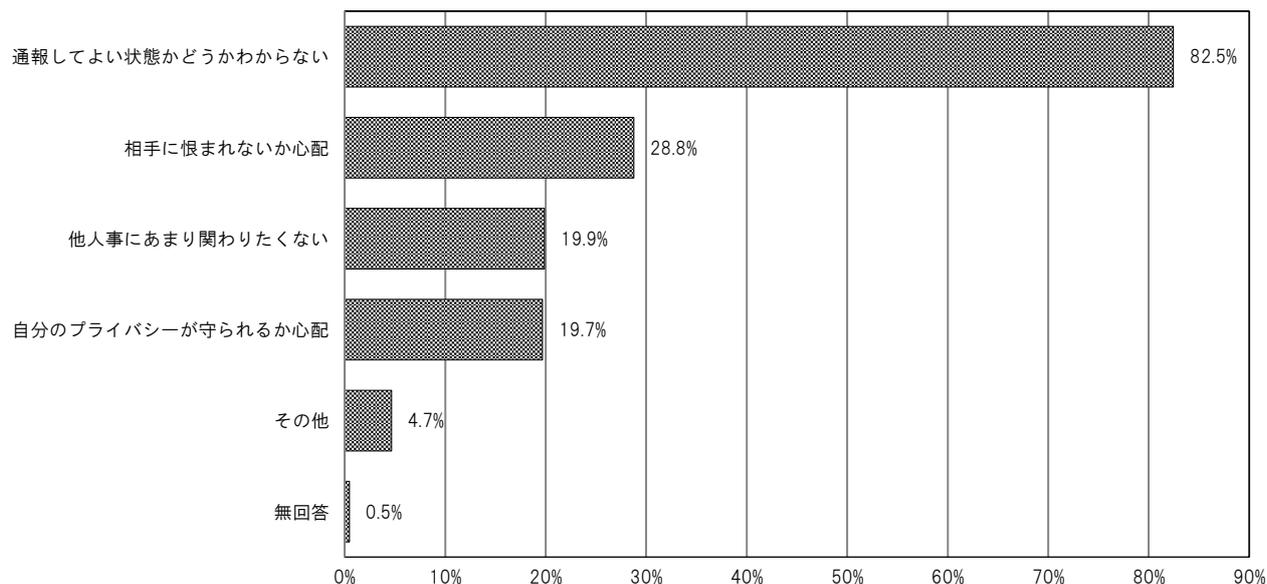
問10-1で「2 できない」とお答えの方にお聞きします。連絡できない理由は何ですか。(当てはまるもの全てに○)

1) 全体集計結果

近所で児童虐待を受けていると思われる子どもを見つけたときに、連絡できない理由として、「通報してよい状態かどうかわからない」と回答した市民の割合が82.5%と、最も多くなっています。

図表3-14-1 連絡できない理由

n=1,015



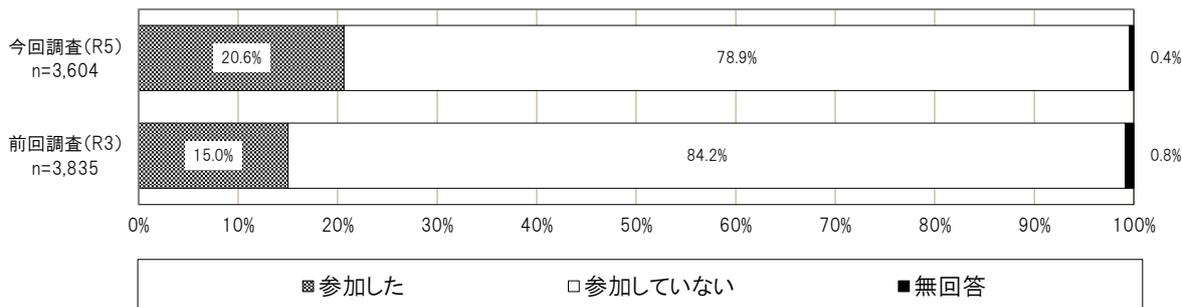
## (2) 児童生徒と行う地域活動への参加

<b>問 11</b>	あなたは、この1年以内に、小中学校の活動または児童生徒とともにを行う地域の活動に参加しましたか。(○はひとつ)
-------------	---

### 1) 全体集計結果

小中学校の活動または児童生徒とともにを行う地域の活動に「参加した」と回答した市民の割合が、20.6%となっており、前回調査と比較して 5.6 ポイント増加しています。

図表3-15-1 児童生徒とともにを行う地域活動への参加(前回調査との比較)



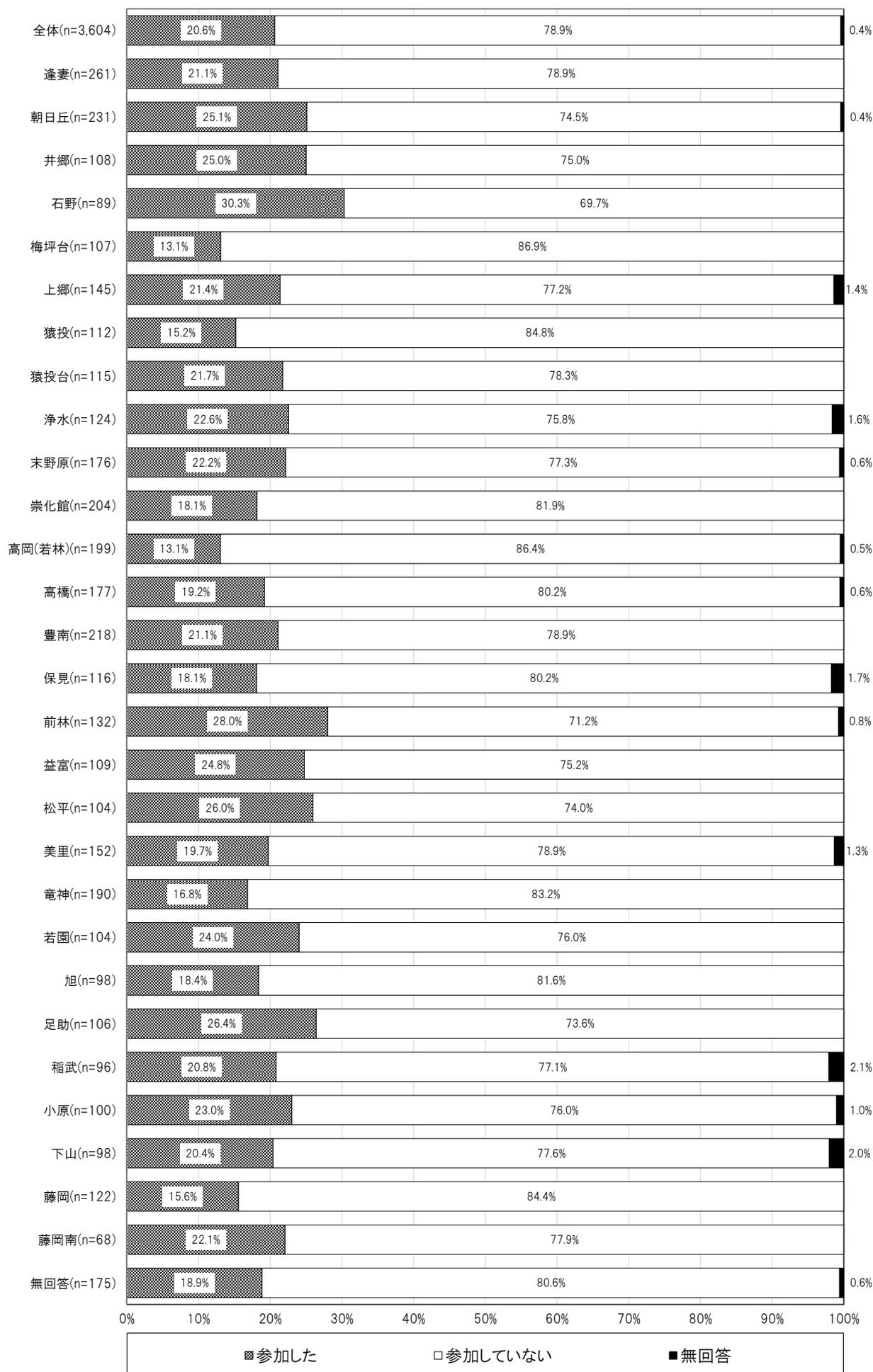
### 2) 属性分析結果

ここでは特徴的な結果が得られた「居住地区別」「年齢別」「家族構成別」の属性分析を行います。

#### ① 居住地区別

居住地区別にみると、小中学校の活動または児童生徒とともにを行う地域の活動に「参加した」と回答した市民の割合は、石野が 30.3%と最も高くなっています。

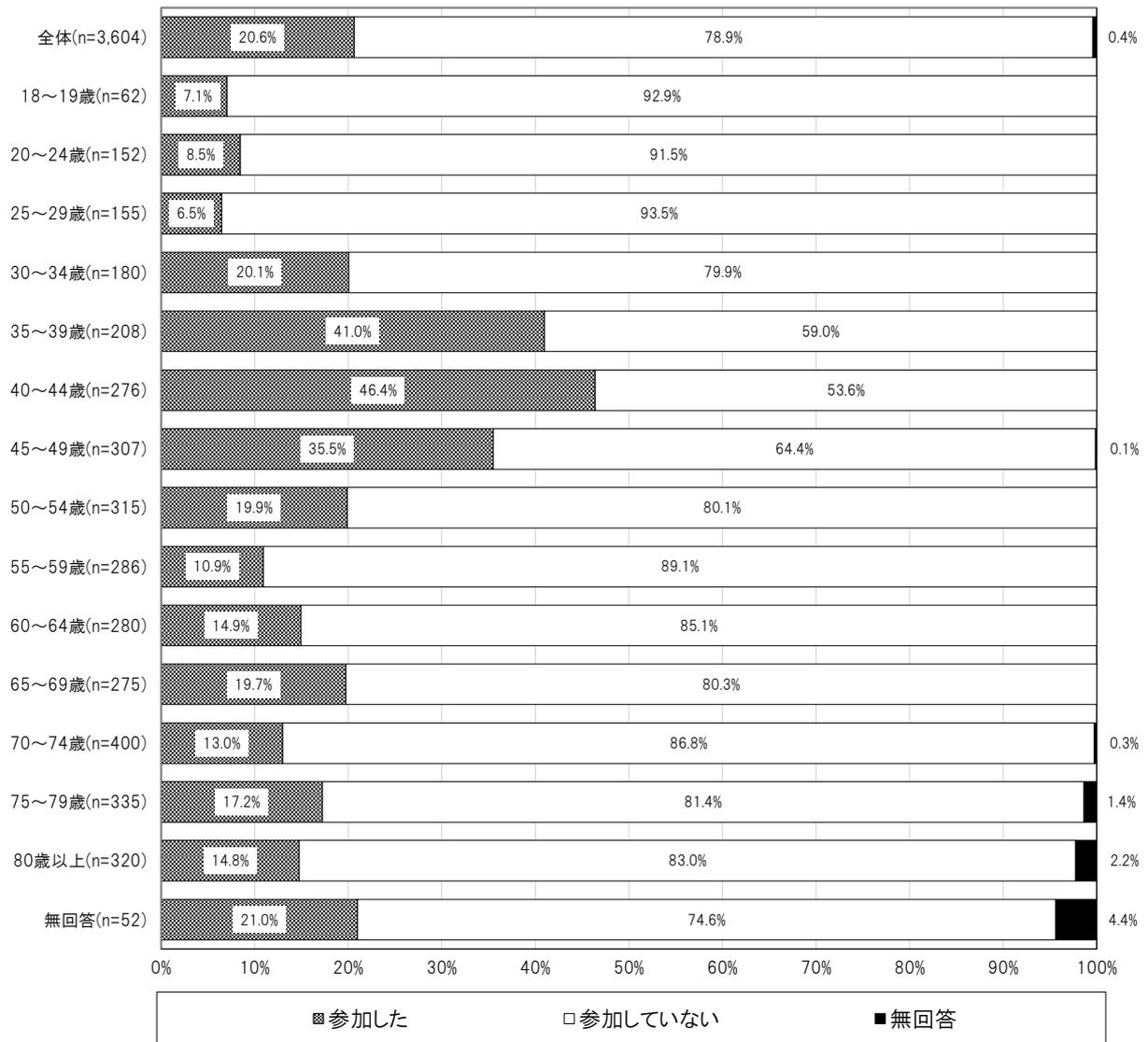
図表3-15-2 児童生徒とともに行う地域活動への参加(居住地区別)



## ② 年齢別

年齢別にみると、小中学校の活動または児童生徒とともにを行う地域の活動に「参加した」と回答した市民の割合は、40～44歳が46.4%と最も高く、次いで35～39歳が41.0%となっています。

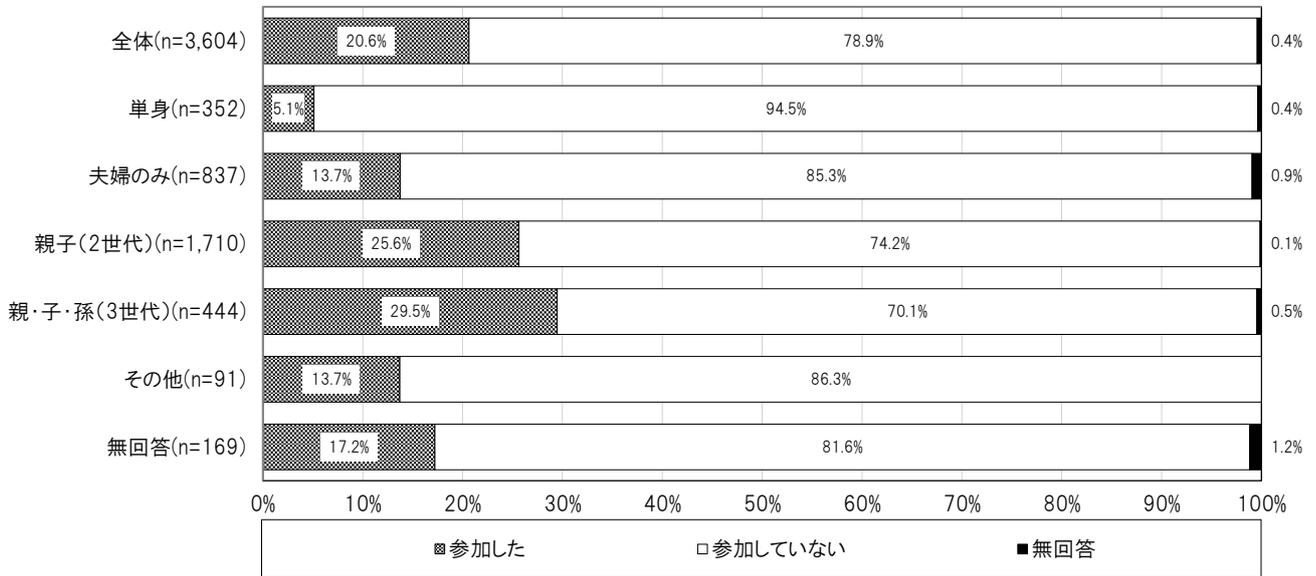
図表3-15-3 児童生徒とともにを行う地域活動への参加(年齢別)



### ③ 家族構成別

家族構成別にみると、小中学校の活動または児童生徒とともに行う地域の活動に「参加した」と回答した市民の割合は、親・子・孫（3世代）世帯が29.5%と最も高くなっています。一方、単身世帯が5.1%と低くなっています。

図表3-15-4 児童生徒とともに行う地域活動への参加（家族構成別）

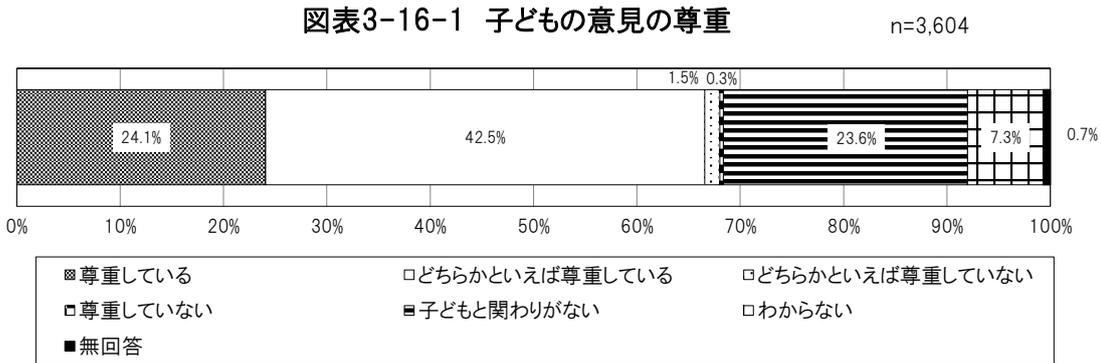


### (3) 子どもの意見・権利

**問 12** あなたは、自分と関わりのある子どもの意見を尊重していますか。(○はひとつ)

#### 1) 全体集計結果

自分と関わりのある子どもの意見を尊重していると回答した市民の割合（「尊重している」+「どちらかといえば尊重している」）は66.6%でした。

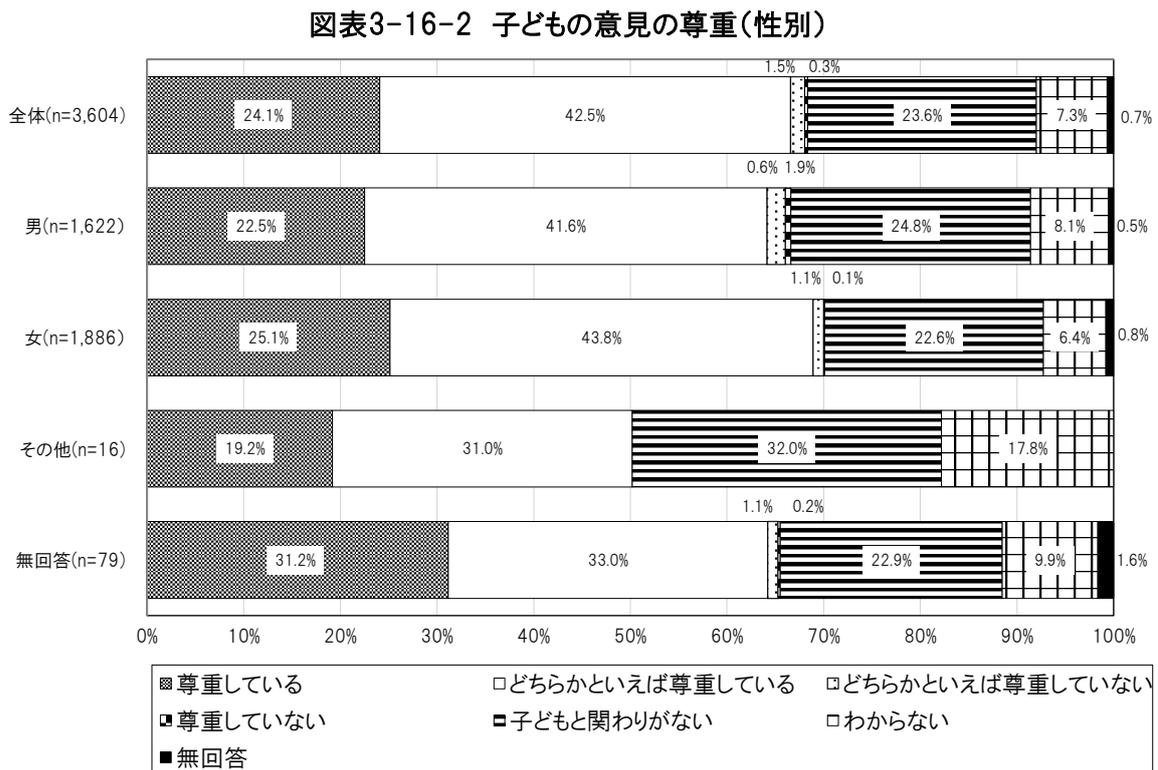


#### 2) 属性分析結果

ここでは特徴的な結果が得られた「性別」「年齢別」の属性分析を行います。

##### ① 性別

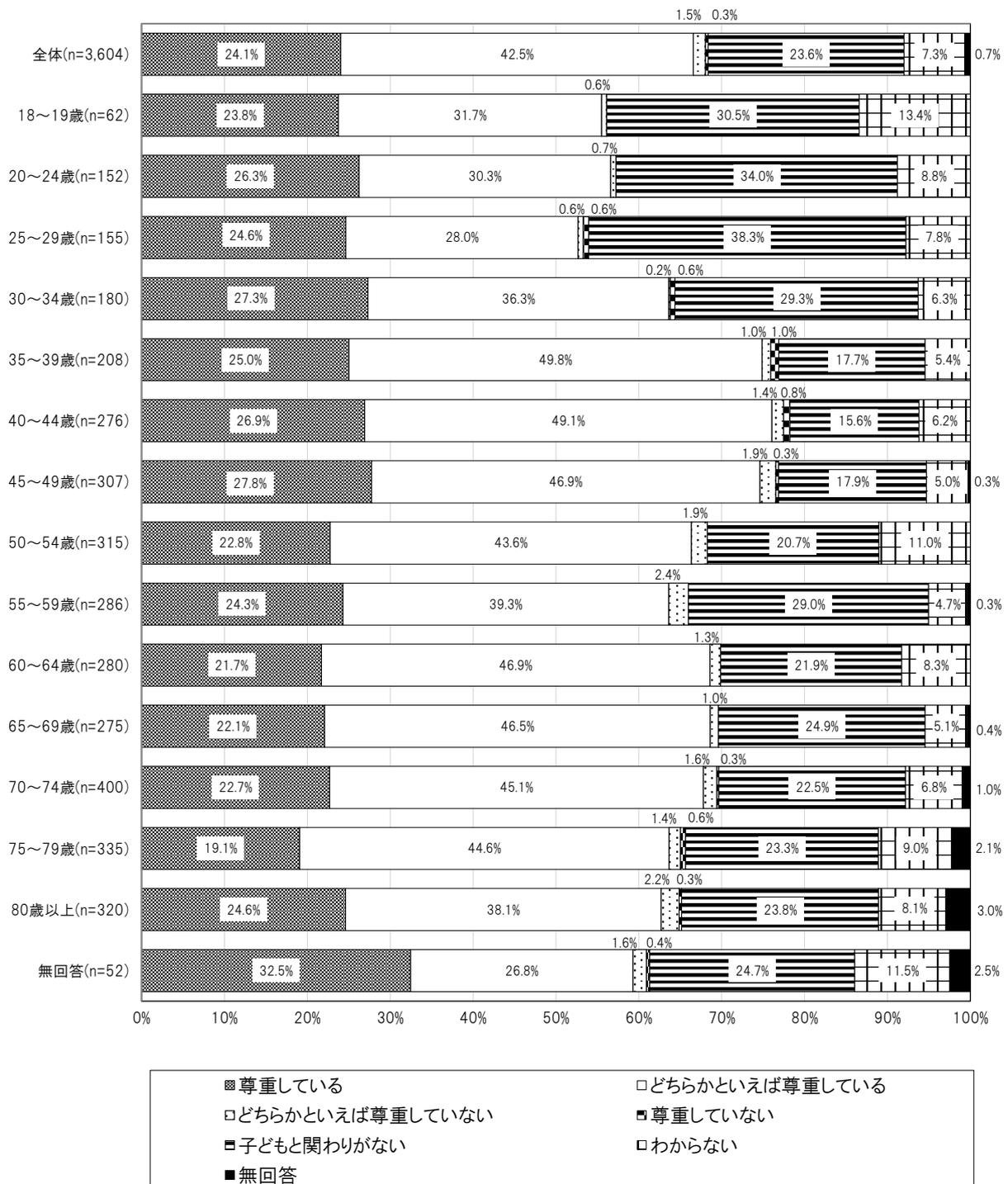
性別でみると、自分と関わりのある子どもの意見を尊重していると回答した市民の割合は、男性は64.1%で、女性では68.9%となっています。



## ② 年齢別

年齢別にみると、自分と関わりのある子どもの意見を尊重していると回答した市民の割合は、40～44歳が76.0%と一番高く、次いで35～39歳の74.8%、45～49歳の74.7%と続いています。

図表3-16-3 子どもの意見の尊重(年齢別)

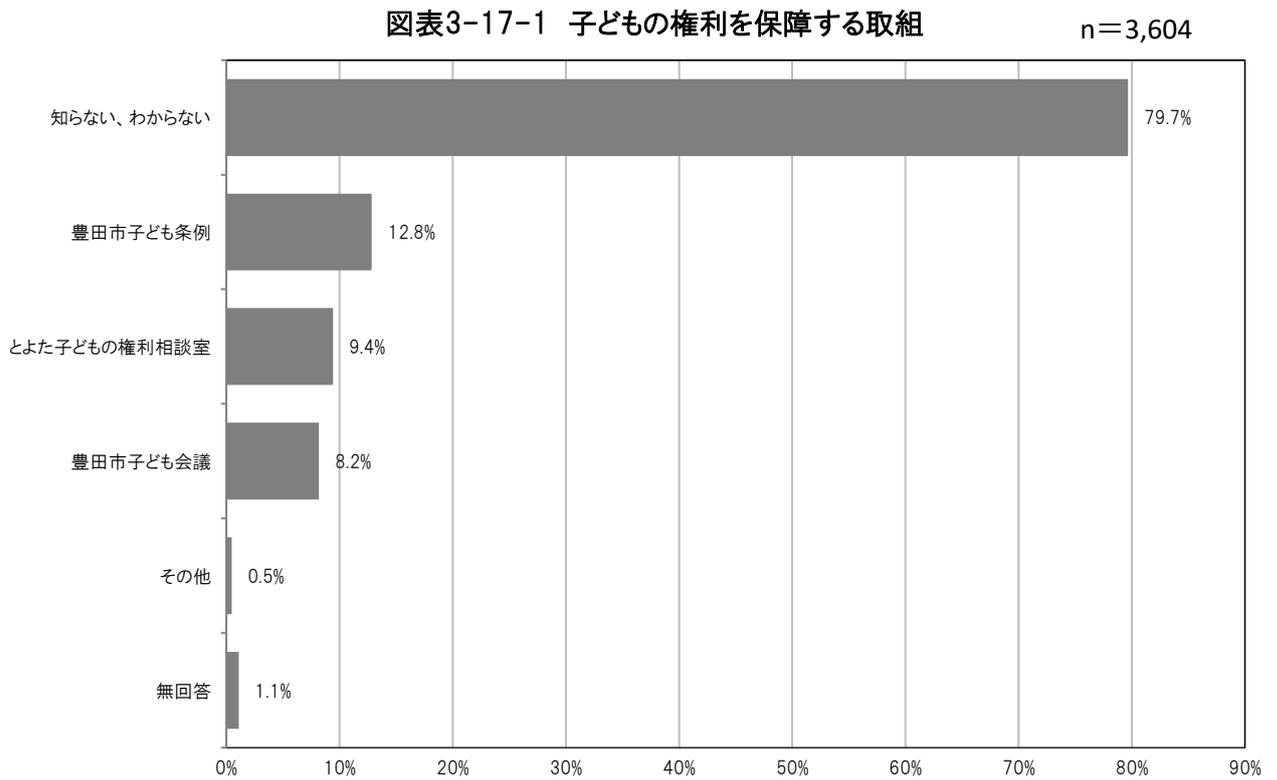


**問 13**

あなたは、豊田市の子どもの権利を保障する取組について知っていますか。  
知っている取組に○をつけてください。(当てはまるもの全てに○)

**1) 全体集計結果**

豊田市の子どもの権利を保障する取組について「知らない、わからない」と回答した市民の割合は 79.7%で大半を占めています。



## 2) 属性分析結果

ここでは特徴的な結果が得られた「性別」「年齢別」の属性分析を行います。

### ① 性別

性別で見ると、「知らない、わからない」と回答した市民の割合は、男性は84.3%で、女性では75.9%となっています。

図表3-17-2 子どもの権利を保障する取組 (性別) n=3,604

	知らない、 わからない	豊田市子ども 条例	談とよ 室た子 子どもの 権利相	豊 田 市 子 ど も 会 議	そ の 他	無 回 答
全体 (n=3,604)	79.7%	12.8%	9.4%	8.2%	0.5%	1.1%
男 (n=1,622)	84.3%	10.3%	5.9%	6.1%	0.5%	0.6%
女 (n=1,886)	75.9%	15.2%	12.5%	10.0%	0.3%	1.3%
その他 (n=16)	75.4%	18.2%	6.4%	24.6%	0.0%	0.0%
無回答 (n=79)	75.0%	7.0%	10.3%	5.0%	2.5%	6.7%

※回答を見やすくするよう、回答率40%以上に濃い影、20%以上40%未満に薄い影をつけました。

## ② 年齢別

年齢別にみると、「知らない、わからない」と回答した市民の割合は、25～29歳で85.5%と最も高く、次いで65～69歳が85.1%、70～74歳が84.7%となっています。一方、45～49歳が66.2%と最も低くなっています。

図表3-17-3 子どもの権利を保障する取組（年齢別）

n=3,604

	知らない、 わからない	豊田市子ども 条例	とよた子ども の権利相 談室	豊田市子ども 会議	その他	無回答
全体 (n=3,604)	79.7%	12.8%	9.4%	8.2%	0.5%	1.1%
18～19歳 (n=62)	71.2%	22.4%	17.7%	9.5%	0.0%	0.0%
20～24歳 (n=152)	84.3%	13.7%	4.0%	7.2%	0.0%	0.0%
25～29歳 (n=155)	85.5%	11.2%	3.9%	6.5%	0.0%	0.0%
30～34歳 (n=180)	77.8%	17.9%	10.0%	8.9%	0.0%	0.0%
35～39歳 (n=208)	74.0%	18.3%	16.5%	8.4%	0.5%	0.2%
40～44歳 (n=276)	73.5%	15.5%	18.3%	7.9%	0.4%	0.4%
45～49歳 (n=307)	66.2%	20.0%	17.6%	14.5%	1.9%	0.0%
50～54歳 (n=315)	76.0%	16.8%	13.3%	11.8%	0.0%	0.2%
55～59歳 (n=286)	82.1%	12.6%	8.0%	10.5%	0.0%	0.0%
60～64歳 (n=280)	82.6%	11.3%	7.5%	10.4%	0.0%	0.0%
65～69歳 (n=275)	85.1%	10.0%	6.3%	6.7%	0.8%	0.0%
70～74歳 (n=400)	84.7%	8.3%	5.3%	5.0%	0.8%	1.6%
75～79歳 (n=335)	82.8%	9.3%	4.7%	4.9%	0.6%	3.2%
80歳以上 (n=320)	84.0%	6.7%	4.3%	4.2%	0.0%	5.2%
無回答 (n=52)	78.4%	3.8%	11.5%	7.6%	3.8%	6.3%

※回答を見やすくするよう、回答率40%以上に濃い影、20%以上40%未満に薄い影をつけました。

## 5 医療・健康づくり

### (1) 健康づくりへの取組状況

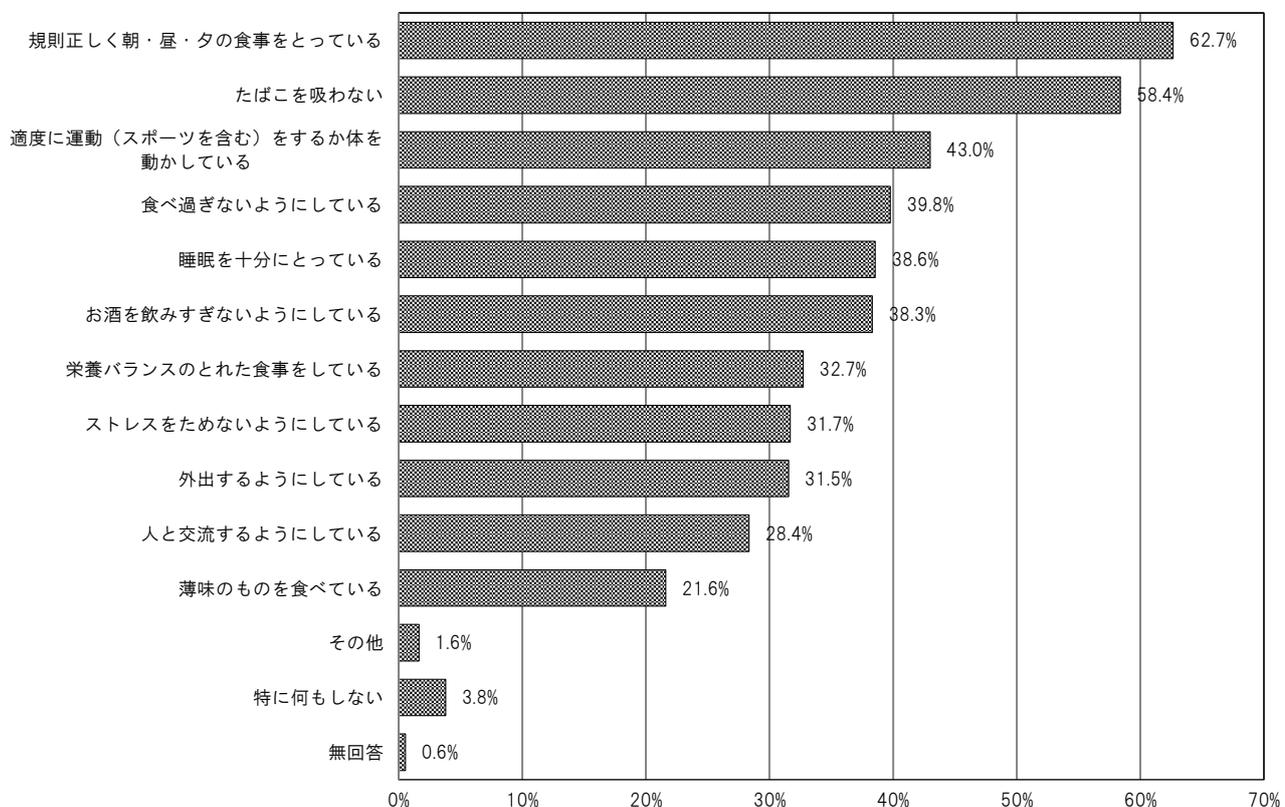
問14-1	あなたは、日ごろ健康づくりのため、どのようなことに取り組んでいますか。 (当てはまるもの全てに○)
-------	--

#### 1) 全体集計結果

日ごろ健康づくりのために取り組んでいる内容は、「規則正しい朝・昼・夕の食事をとっている」が62.7%と最も高く、次いで「たばこを吸わない」が58.4%、「適度に運動（スポーツを含む）をするか体を動かしている」が43.0%となっています。一方、「特に何もしない」と回答した市民の割合は3.8%となっています。

図表3-18-1 日ごろの健康づくりのために取り組んでいる内容

n=3,604



#### 2) 属性分析結果

ここでは特徴的な結果が得られた「居住地区別」「年齢別」の属性分析を行います。

##### ① 居住地区別

居住地区別にみると、日ごろ健康づくりのために取り組んでいる内容は、すべての地区において「規則正しく朝・昼・夕の食事をとっている」と回答した市民の割合が高くなっています。また、「たばこを吸わない」や「適度に運動をするか体を動かしている」と回答した市民の割合もおおむね全ての地区で高い傾向にあります。

図表3-18-2 日ごろの健康づくりのために取り組んでいる内容(居住地区別)

n=3,604

	を規則正しく朝・昼・夕の食事をとっている	たばこを吸わない	適度に運動(スポーツを含む)をするか体を動かしている	食べ過ぎないようにしている	睡眠を十分にとっている	お酒を飲みすぎないようにしている	栄養バランスのとれた食事をしている	ストレスをためないようにしている	外出するようにしている	人と交流するようにしている	薄味のもの食べている	特に何もしない	その他	無回答
全体(n=3,604)	62.7%	58.4%	43.0%	39.8%	38.6%	38.3%	32.7%	31.7%	31.5%	28.4%	21.6%	3.8%	1.6%	0.6%
逢妻(n=261)	56.3%	58.6%	36.4%	38.3%	38.3%	39.5%	33.0%	33.3%	30.7%	25.3%	20.7%	4.6%	1.1%	0.4%
朝日丘(n=231)	57.1%	64.1%	41.1%	39.8%	42.0%	41.1%	33.3%	32.5%	29.0%	30.3%	16.9%	1.7%	0.4%	0.4%
井郷(n=108)	58.3%	60.2%	46.3%	27.8%	32.4%	41.7%	30.6%	28.7%	25.9%	23.1%	11.1%	4.6%	2.8%	0.9%
石野(n=89)	58.4%	59.6%	34.8%	41.6%	38.2%	44.9%	25.8%	31.5%	23.6%	32.6%	16.9%	5.6%	2.2%	0.0%
梅坪台(n=107)	57.0%	57.9%	39.3%	35.5%	34.6%	37.4%	29.0%	30.8%	28.0%	23.4%	23.4%	5.6%	2.8%	0.0%
上郷(n=145)	64.8%	58.6%	41.4%	42.8%	33.8%	35.9%	30.3%	30.3%	28.3%	27.6%	18.6%	3.4%	2.8%	0.7%
猿投(n=112)	54.5%	58.9%	44.6%	33.0%	33.9%	44.6%	33.0%	25.0%	31.3%	34.8%	25.0%	4.5%	2.7%	0.0%
猿投台(n=115)	73.0%	60.0%	50.4%	41.7%	44.3%	43.5%	35.7%	27.8%	39.1%	37.4%	21.7%	2.6%	1.7%	0.0%
浄水(n=124)	64.5%	62.9%	41.9%	39.5%	34.7%	41.1%	32.3%	27.4%	33.1%	22.6%	15.3%	2.4%	2.4%	0.0%
末野原(n=176)	61.9%	54.5%	47.7%	42.6%	35.2%	35.2%	30.7%	33.0%	34.7%	29.5%	25.6%	2.8%	0.0%	1.7%
崇化館(n=204)	61.3%	61.8%	44.6%	43.1%	42.2%	39.2%	34.8%	32.8%	35.8%	30.9%	21.1%	2.9%	2.0%	0.0%
高岡(若林)(n=199)	60.8%	53.8%	43.7%	38.7%	40.2%	37.2%	33.2%	35.7%	38.7%	28.6%	23.1%	1.5%	3.0%	0.5%
高橋(n=177)	65.5%	52.5%	41.8%	39.5%	38.4%	33.9%	35.0%	27.7%	27.1%	24.3%	28.8%	5.6%	1.7%	1.1%
豊南(n=218)	64.2%	66.5%	44.5%	40.4%	41.7%	46.3%	34.4%	30.3%	33.9%	30.7%	21.1%	1.8%	0.9%	0.0%
保見(n=116)	61.2%	56.0%	41.4%	39.7%	37.9%	35.3%	31.0%	29.3%	28.4%	26.7%	17.2%	6.0%	3.4%	0.9%
前林(n=132)	62.1%	56.8%	40.9%	37.1%	32.6%	37.9%	28.8%	28.0%	27.3%	25.0%	18.2%	5.3%	0.0%	1.5%
益富(n=109)	71.6%	61.5%	54.1%	49.5%	42.2%	46.8%	39.4%	49.5%	36.7%	33.9%	23.9%	1.8%	0.9%	0.0%
松平(n=104)	71.2%	60.6%	48.1%	41.3%	38.5%	31.7%	26.0%	33.7%	32.7%	23.1%	19.2%	2.9%	1.9%	1.0%
美里(n=152)	59.9%	55.9%	35.5%	35.5%	40.1%	33.6%	28.9%	28.9%	28.9%	27.0%	23.7%	5.9%	1.3%	1.3%
竜神(n=190)	57.9%	61.1%	39.5%	38.9%	34.2%	39.5%	35.8%	34.7%	33.7%	28.4%	21.1%	4.2%	1.6%	0.0%
若園(n=104)	63.5%	55.8%	45.2%	37.5%	43.3%	32.7%	36.5%	30.8%	32.7%	28.8%	14.4%	3.8%	1.0%	0.0%
旭(n=98)	74.5%	58.2%	41.8%	39.8%	53.1%	34.7%	34.7%	30.6%	28.6%	29.6%	21.4%	1.0%	2.0%	1.0%
足助(n=106)	71.7%	58.5%	42.5%	40.6%	53.8%	49.1%	35.8%	32.1%	29.2%	34.9%	32.1%	0.0%	3.8%	1.9%
稲武(n=96)	74.0%	54.2%	34.4%	33.3%	52.1%	32.3%	37.5%	37.5%	25.0%	36.5%	28.1%	3.1%	0.0%	0.0%
小原(n=100)	62.0%	46.0%	38.0%	32.0%	37.0%	35.0%	22.0%	26.0%	29.0%	33.0%	18.0%	5.0%	4.0%	0.0%
下山(n=98)	67.3%	54.1%	33.7%	46.9%	30.6%	31.6%	24.5%	23.5%	25.5%	22.4%	21.4%	6.1%	3.1%	0.0%
藤岡(n=122)	54.1%	51.6%	41.8%	35.2%	36.1%	24.6%	29.5%	28.7%	23.0%	23.0%	24.6%	9.8%	1.6%	1.6%
藤岡南(n=68)	72.1%	52.9%	47.1%	39.7%	35.3%	33.8%	38.2%	26.5%	33.8%	26.5%	27.9%	2.9%	1.5%	0.0%
無回答(n=175)	73.1%	55.4%	50.9%	49.7%	38.3%	36.0%	33.7%	37.1%	33.7%	32.0%	29.1%	5.1%	0.6%	0.6%

※回答を見やすくするよう、回答率40%以上に濃い影、20%以上40%未満に薄い影をつけました。

## ② 年齢別

年齢別にみると、日ごろ健康づくりのために取り組んでいる内容として、年齢が高くなるにつれて「規則正しく朝・昼・夕の食事をとっている」、「適度に運動をするか体を動かしている」、「食べ過ぎないようにしている」や「睡眠を十分にとっている」と回答した市民の割合が高くなる傾向にあります。また、「たばこを吸わない」と回答した市民の割合はおおむね全ての年齢で高くなっています。

図表3-18-3 日ごろの健康づくりのために取り組んでいる内容(年齢別)

n=3,604

	規則正しく朝・昼・夕の食事をとっている	たばこを吸わない	適度に運動(スポーツを含む)をするか体を動かしている	食べ過ぎないようにしている	睡眠を十分にとっている	お酒を飲みすぎないようにしている	栄養バランスのとれた食事をしている	ストレスをためないようにしている	外出するようにしている	人と交流するようにしている	薄味のもの食べている	特に何もしない	その他	無回答
全体 (n=3,604)	62.7%	58.4%	43.0%	39.8%	38.6%	38.3%	32.7%	31.7%	31.5%	28.4%	21.6%	3.8%	1.6%	0.6%
18～19歳 (n=62)	60.1%	48.2%	40.4%	31.6%	31.3%	12.2%	22.4%	16.7%	27.8%	29.1%	9.7%	1.6%	0.0%	0.0%
20～24歳 (n=152)	43.9%	60.7%	33.2%	26.0%	43.4%	48.7%	21.4%	19.7%	30.8%	29.6%	5.0%	4.4%	0.6%	0.0%
25～29歳 (n=155)	47.5%	53.8%	31.6%	28.4%	34.1%	38.5%	24.0%	27.8%	31.3%	20.7%	7.2%	7.9%	1.3%	0.6%
30～34歳 (n=180)	49.4%	61.2%	26.3%	34.4%	38.4%	42.4%	22.9%	26.3%	30.3%	23.8%	9.8%	7.1%	0.5%	0.0%
35～39歳 (n=208)	51.1%	54.1%	29.7%	29.6%	34.7%	39.7%	32.1%	22.3%	26.5%	20.9%	11.5%	7.2%	1.9%	0.9%
40～44歳 (n=276)	52.0%	59.5%	33.2%	28.8%	36.0%	39.4%	30.3%	24.6%	24.0%	18.3%	8.9%	3.7%	2.2%	0.4%
45～49歳 (n=307)	49.2%	58.8%	30.5%	39.1%	33.2%	45.7%	30.7%	26.4%	25.2%	22.3%	13.3%	7.1%	1.8%	0.7%
50～54歳 (n=315)	52.7%	58.6%	37.7%	36.3%	28.6%	36.4%	32.8%	30.1%	25.8%	21.5%	21.9%	6.7%	1.3%	0.6%
55～59歳 (n=286)	56.4%	54.6%	40.3%	39.9%	29.2%	31.5%	29.4%	30.2%	26.6%	22.8%	22.4%	4.4%	1.7%	0.7%
60～64歳 (n=280)	64.5%	59.8%	49.5%	40.0%	34.9%	37.1%	36.0%	37.0%	34.8%	22.0%	30.1%	1.6%	0.8%	1.6%
65～69歳 (n=275)	73.1%	55.2%	56.1%	47.7%	43.8%	36.9%	35.5%	41.6%	29.2%	28.2%	29.8%	0.8%	1.6%	0.4%
70～74歳 (n=400)	76.6%	60.3%	55.0%	46.8%	39.0%	40.3%	35.8%	37.0%	34.5%	33.5%	28.7%	2.0%	1.7%	0.0%
75～79歳 (n=335)	79.7%	59.5%	56.0%	47.1%	50.7%	39.2%	39.4%	39.4%	44.3%	47.1%	31.1%	1.1%	1.7%	0.8%
80歳以上 (n=320)	84.8%	63.9%	55.6%	51.8%	54.3%	36.1%	41.2%	38.2%	41.6%	43.7%	35.4%	0.5%	3.4%	0.6%
無回答 (n=52)	69.9%	48.9%	34.9%	48.0%	33.4%	26.5%	32.4%	27.4%	30.9%	32.3%	29.2%	5.7%	1.9%	0.0%

※回答を見やすくするよう、回答率40%以上に濃い影、20%以上40%未満に薄い影をつけました。

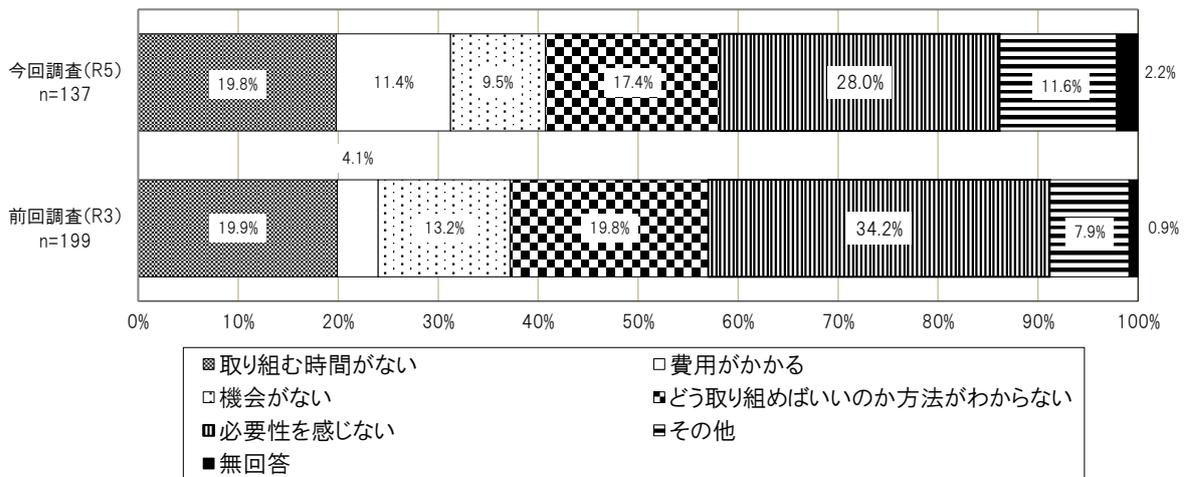
問14-2

問14-1で「13 特に何もしない」とお答えの方にお聞きします。取り組んでいない理由は何ですか。（○はひとつ）

1) 全体集計結果

日ごろの健康づくりについて、「特に何もしない」と回答した理由として、「必要性を感じない」と回答した市民の割合が28.0%と最も高く、前回調査と比較すると6.2ポイント減少しています。一方「費用がかかる」は11.4%で前回調査と比較すると7.3ポイント増加しています。

図表3-19-1 日ごろの健康づくりに取り組んでいない理由(前回調査との比較)



## (2) 地域包括支援センターの認知状況

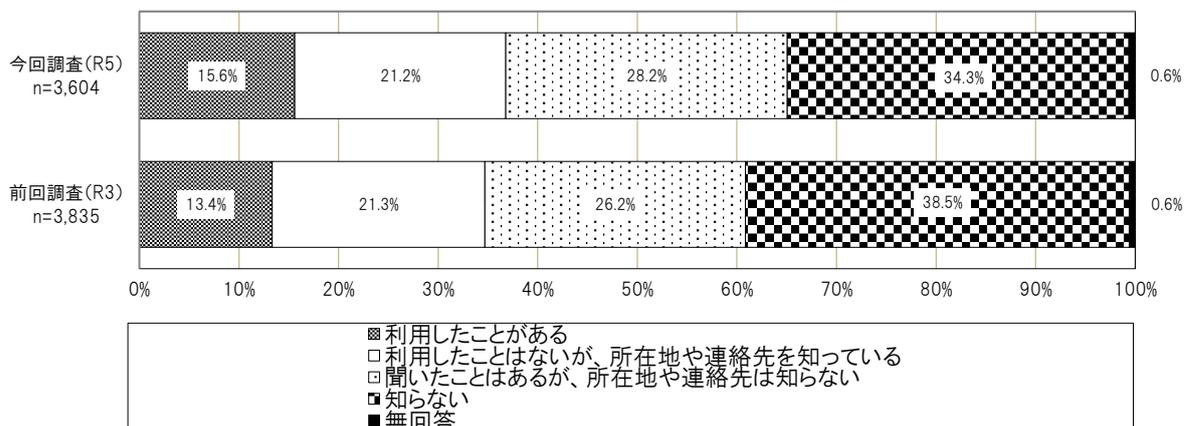
<b>問 15</b>	あなたがお住まいの地域の、高齢者の介護や福祉の相談窓口（地域包括支援センター※）を知っていますか。（○はひとつ）
-------------	--

※地域包括支援センター：市内 28 か所において高齢者の生活や介護に関する各種相談や権利擁護の相談、要支援者等の介護予防ケアマネジメントなどを行っています。

### 1) 全体集計結果

お住まいの地域の、高齢者の介護や福祉の相談窓口（地域包括支援センター）を認知しているかについて、知っている（「利用したことがある」+「利用したことはないが、所在地や連絡先を知っている」）と回答した市民の割合は 36.8%で、前回調査と比較すると 2.1 ポイント増加しています。一方、「知らない」と回答した市民の割合は 34.3%で前回調査と比較すると 4.2 ポイント減少しています。

図表3-20-1 地域包括支援センターの認知状況(前回調査との比較)



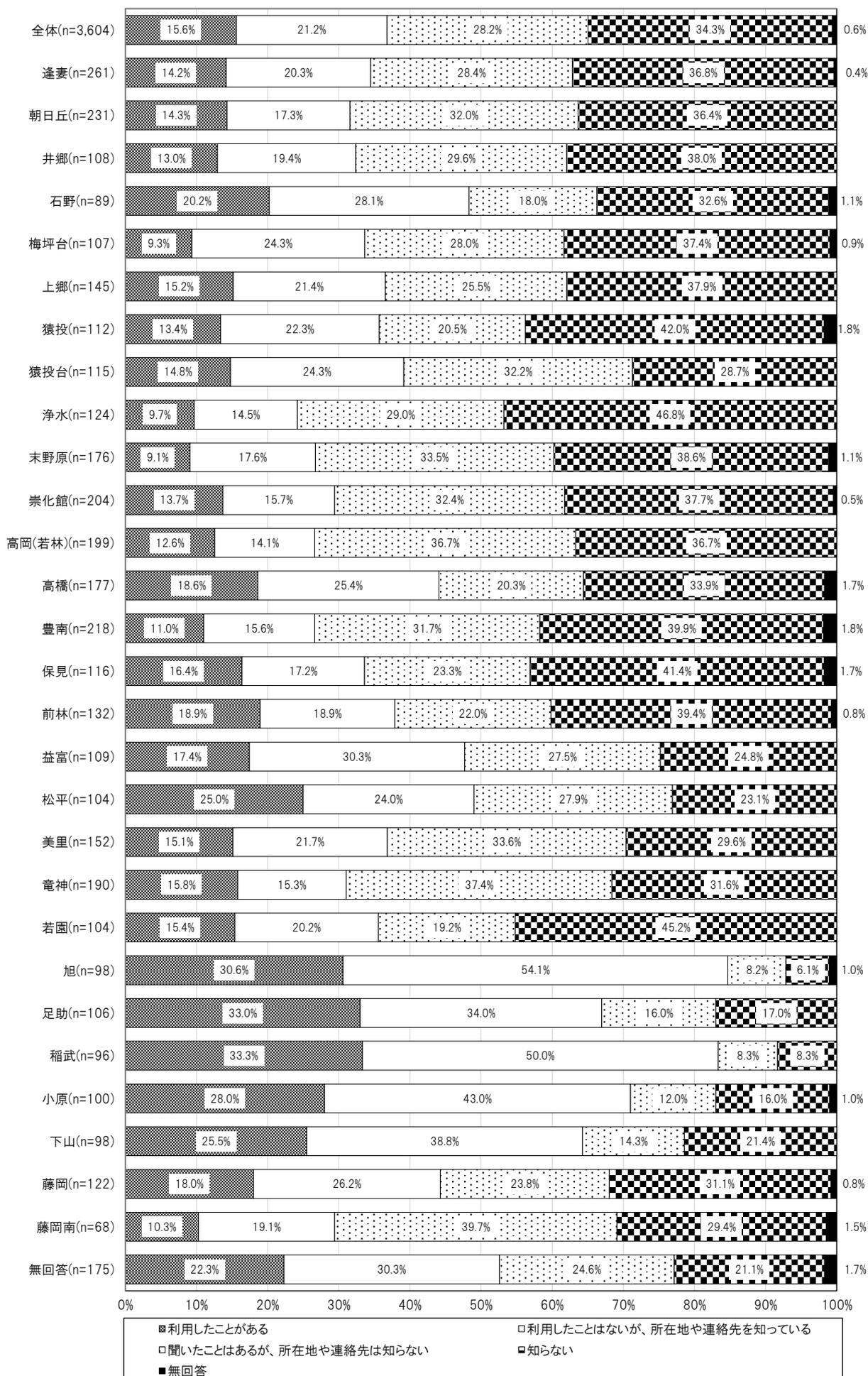
### 2) 属性分析結果

ここでは特徴的な結果が得られた「居住地区別」「年齢別」「家族構成別」の属性分析を行います。

#### ① 居住地区別

居住地区別にみると、お住まいの地域の、高齢者の介護や福祉の相談窓口（地域包括支援センター）を認知しているかについて、知っていると回答した市民の割合は、旭が 84.7%と最も高く、次いで稲武が 83.3%、小原が 71.0%となっています。一方、知らないと回答した市民の割合は、浄水が 46.8%と最も高く、次いで若園が 45.2%、猿投が 42.0%となっています。

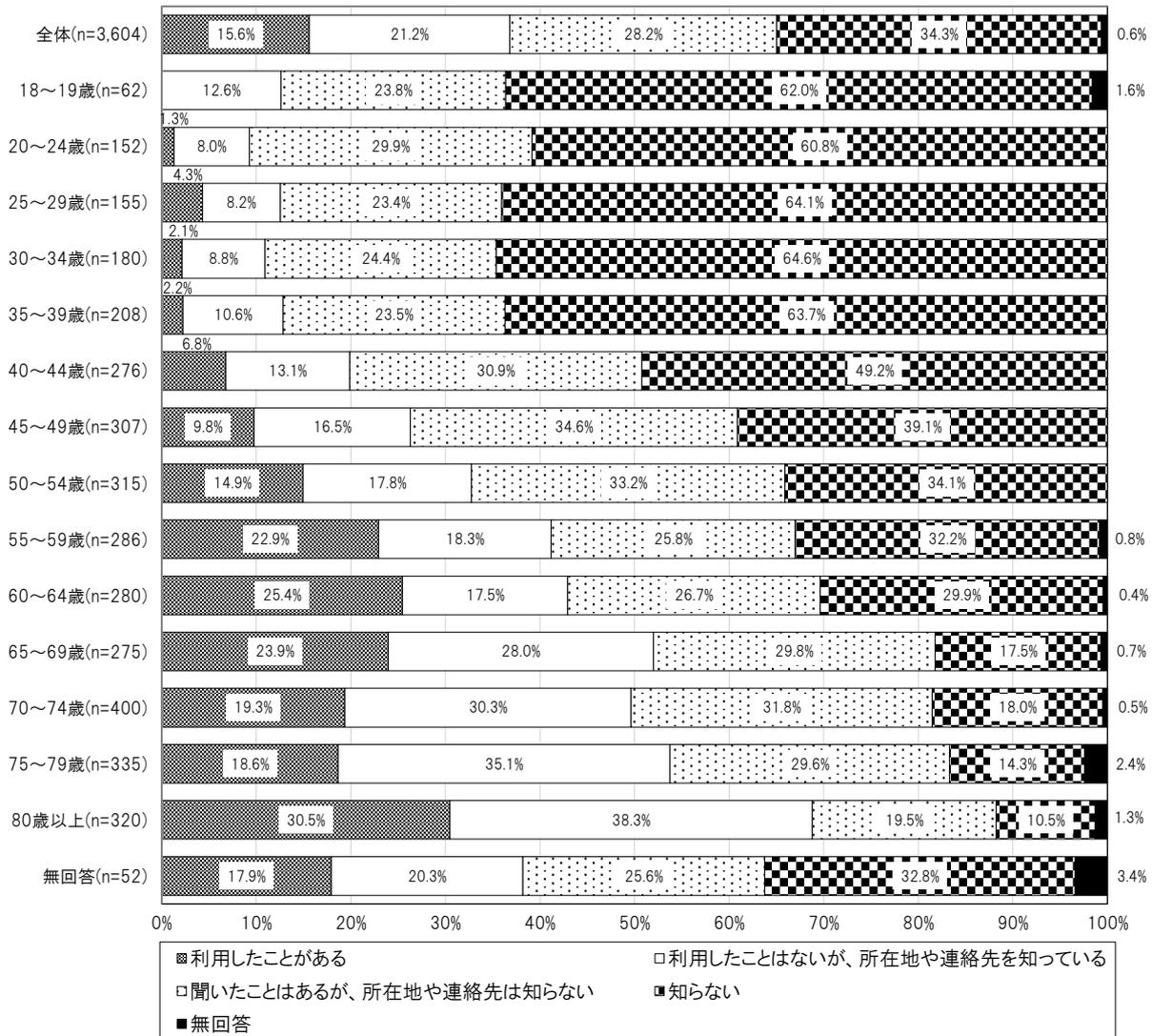
図表3-20-2 地域包括支援センターの認知状況(居住地区別)



## ② 年齢別

年齢別にみると、お住まいの地域の、高齢者の介護や福祉の相談窓口（地域包括支援センター）を認知しているかについて、知っていると回答した市民の割合は、おおむね年齢が高くなるほど増加し、80歳以上では68.8%となっています。一方、知らないと回答した市民の割合は、おおむね年齢が低くなるのに比例して増加し、30～34歳では64.6%となっています。

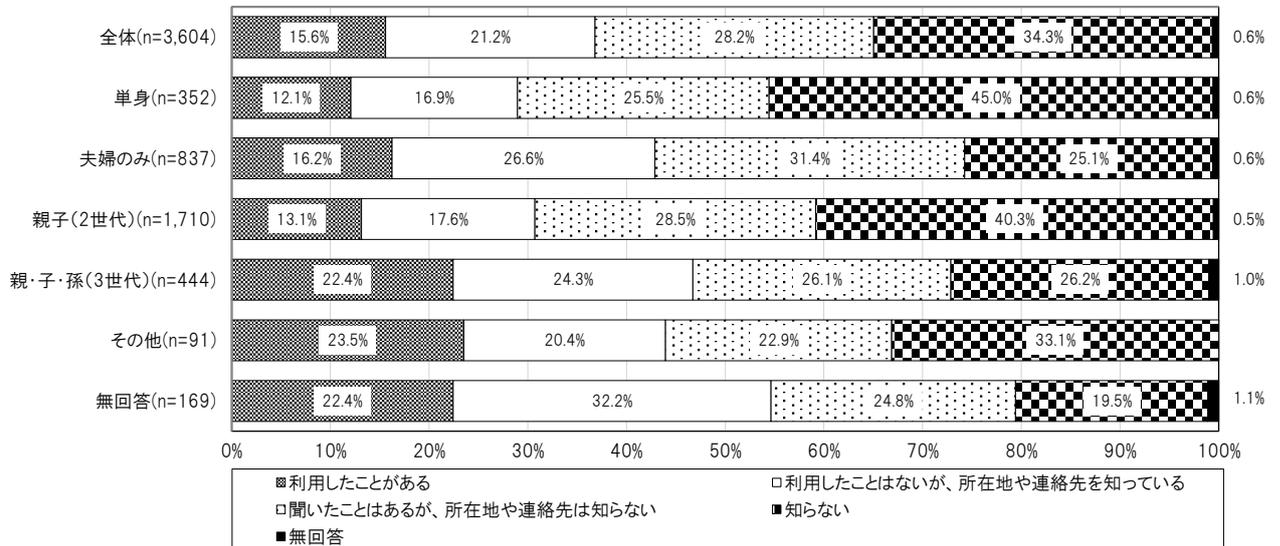
図表3-20-3 地域包括支援センターの認知状況（年齢別）



### ③ 家族構成別

家族構成別にみると、お住まいの地域の、高齢者の介護や福祉の相談窓口（地域包括支援センター）を認知しているかについて、知っていると回答した市民の割合は、親・子・孫（3世代）世帯が46.7%と最も高く、次いで夫婦のみ世帯が42.8%となっています。一方、知らないと回答した市民の割合は、単身世帯が45.0%と高くなっています。

図表3-20-4 地域包括支援センターの認知状況（家族構成別）



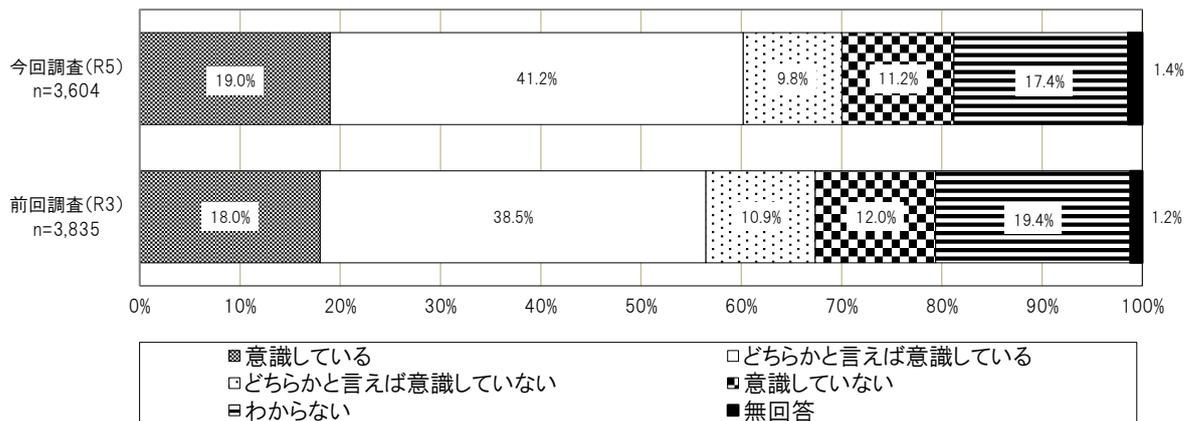
### (3) 要配慮者との意思疎通に関する意識

<b>問 16</b>	日常生活や仕事・地域などで活動する中で、障がい者・外国人・高齢者・子どもなどへ情報発信や会話をする際に、分かりやすい表現や伝え方を意識していますか。(〇はひとつ)
-------------	---

#### 1) 全体集計結果

日常生活や仕事・地域などで活動する中で、障がい者・外国人・高齢者・子どもなどへ情報発信や会話をする際に、分かりやすい表現や伝え方を意識しているかについて、意識している（「意識している」+「どちらかと言えば意識している」）と回答した市民の割合は60.2%で、前回調査と比較すると3.7ポイント増加しています。一方、意識していない（「どちらかと言えば意識していない」+「意識していない」）と回答した市民の割合は21.0%で、前回調査と比較すると1.9ポイント減少しています。

図表3-21-1 要配慮者との意思疎通に関する意識(前回調査との比較)



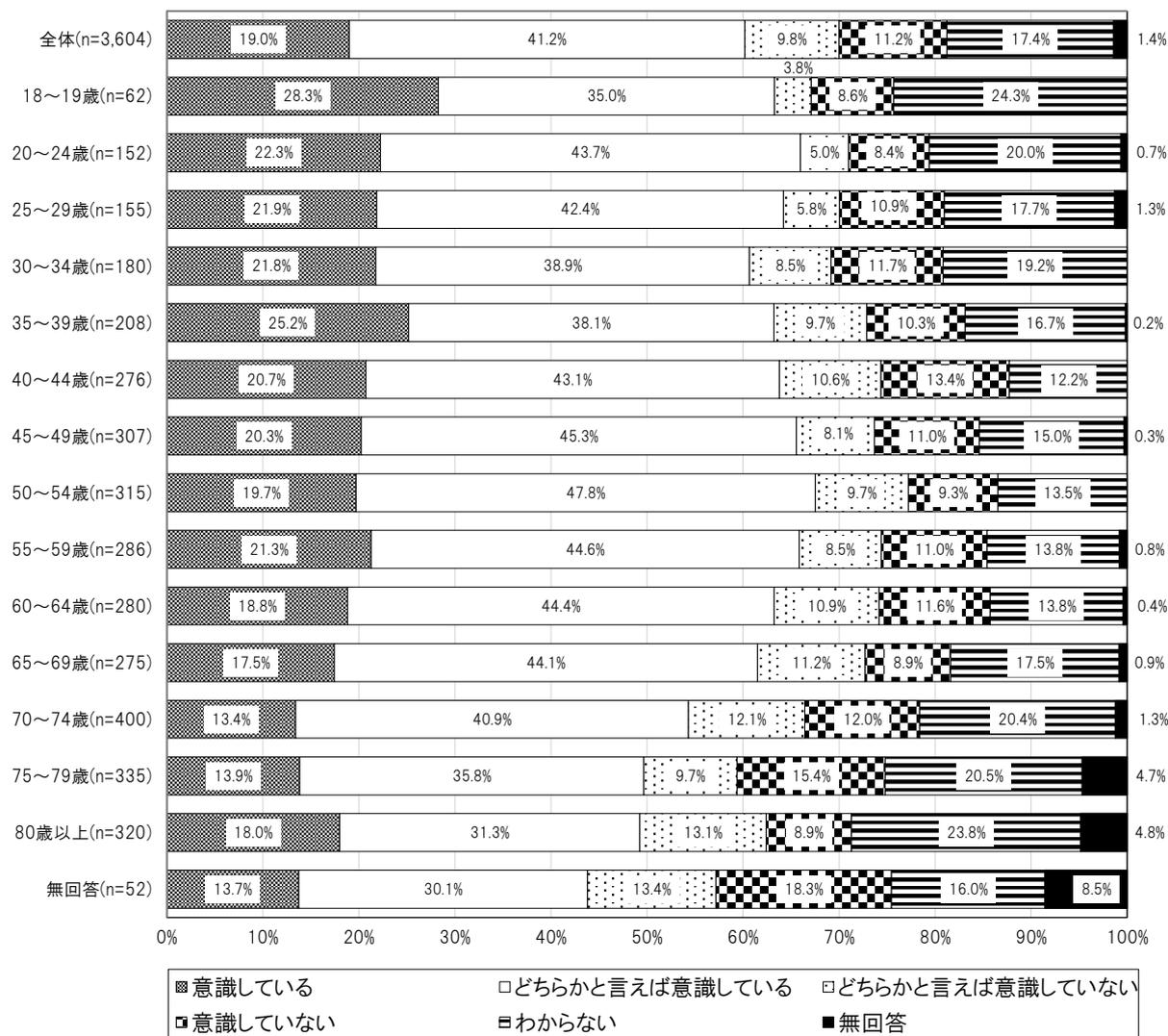
#### 2) 属性分析結果

ここでは「年齢別」「同居の家族別」の属性分析を行います。

##### ① 年齢別

年齢別にみると、意識していると回答した市民の割合は、50～54歳が67.5%と最も高く、次いで20～24歳が66.0%、55～59歳が65.9%となっています。一方、意識していないと回答した市民の割合は、75～79歳が25.1%と最も高く、次いで70～74歳が24.1%、40～44歳が24.0%となっています。

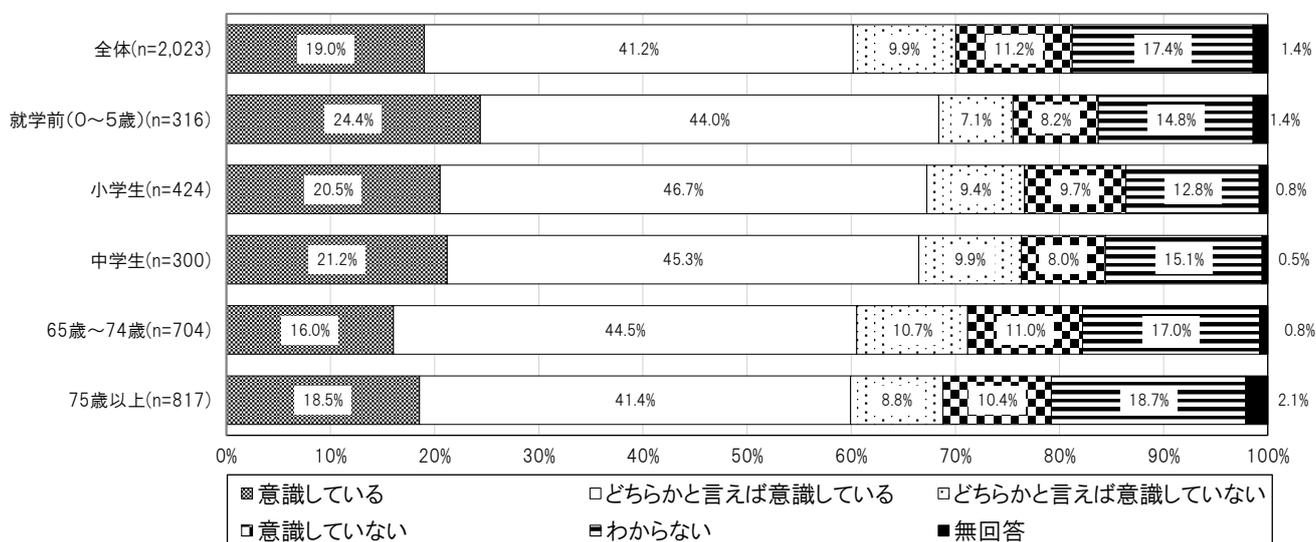
図表3-21-2 要配慮者との意思疎通に関する意識(年齢別)



② 同居の家族別

同居の家族別にみると、どの同居の家族がいても大きな差はみられませんでした。

図表3-21-3 要配慮者との意思疎通に関する意識(同居の家族別)



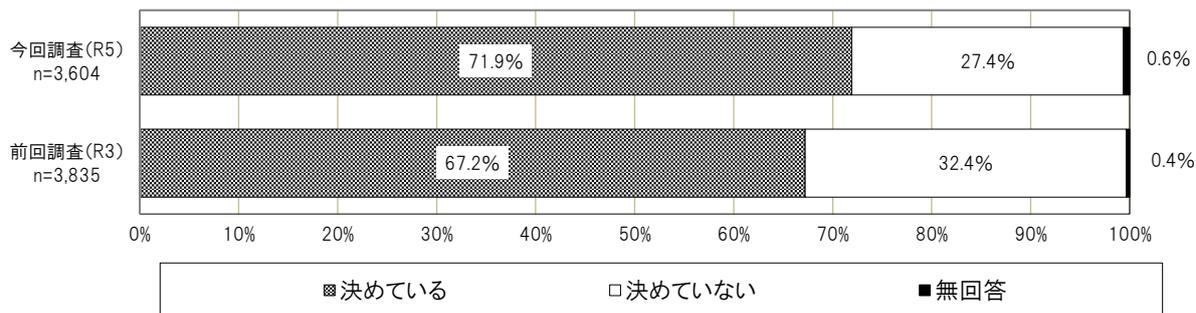
## (4) かかりつけ医の有無

問17 あなたは、かかりつけ医を決めていますか。(○はひとつ)

### 1) 全体集計結果

かかりつけ医を決めている市民の割合は、71.9%となっており、前回調査と比較すると、4.7ポイント増加しています。

図表3-22-1 かかりつけ医の有無(前回調査との比較)



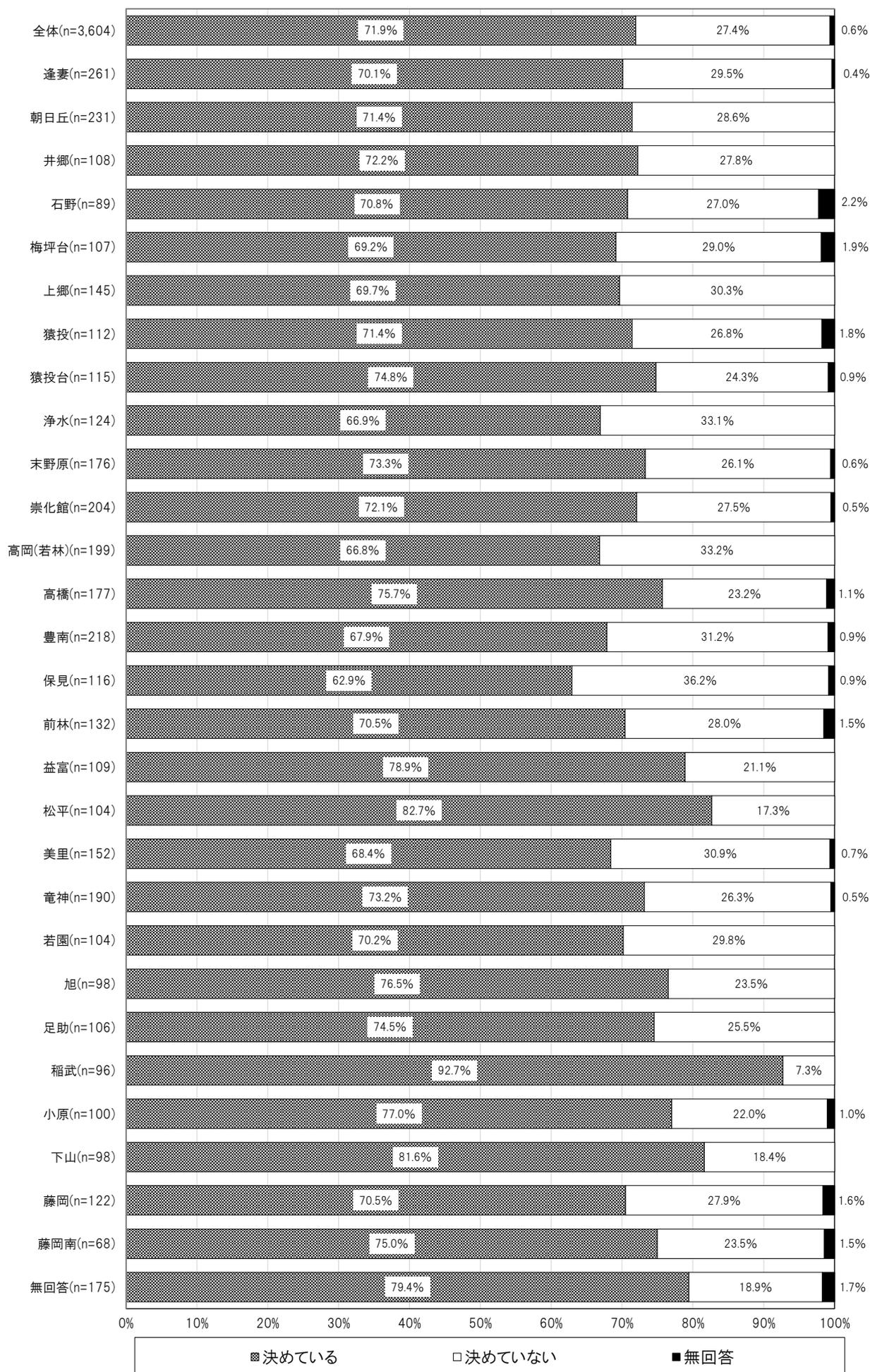
### 2) 属性分析結果

ここでは特徴的な結果が得られた「居住地区別」「年齢別」の属性分析を行います。

#### ① 居住地区別

居住地区別にみると、かかりつけ医を決めている市民の割合は、稲武が92.7%と最も高く、次いで松平が82.7%、下山が81.6%となっています。一方、保見が62.9%、高岡(若林)が66.8%と低くなっています。

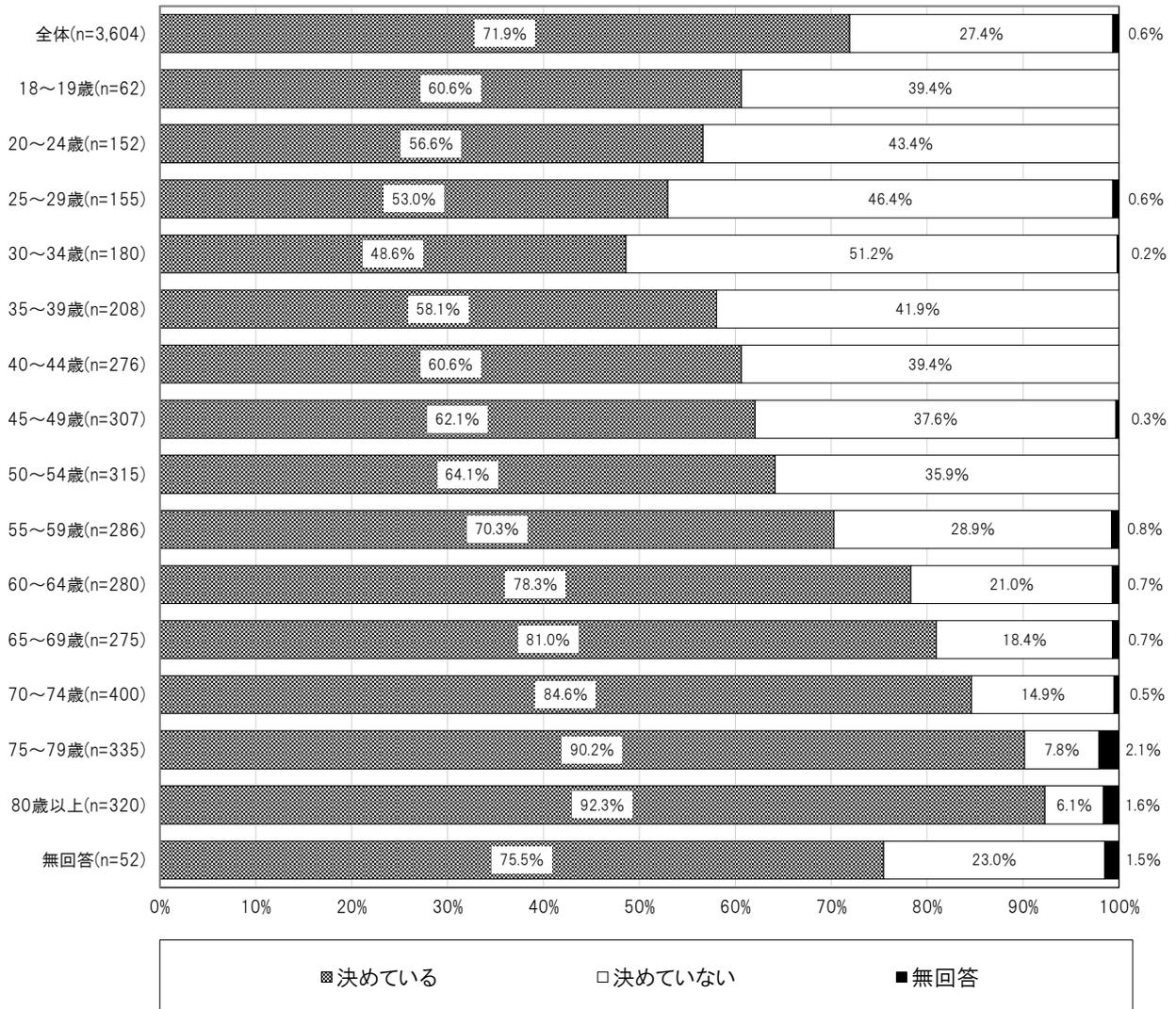
図表3-22-2 かかりつけ医の有無(居住地区別)



## ② 年齢別

年齢別にみると、かかりつけ医を決めている市民の割合は、80歳以上で92.3%と最も高くなっています。また、30歳以上ではおおむね年齢が高くなるほど増加する傾向にあります。

図表3-22-3 かかりつけ医の有無(年齢別)



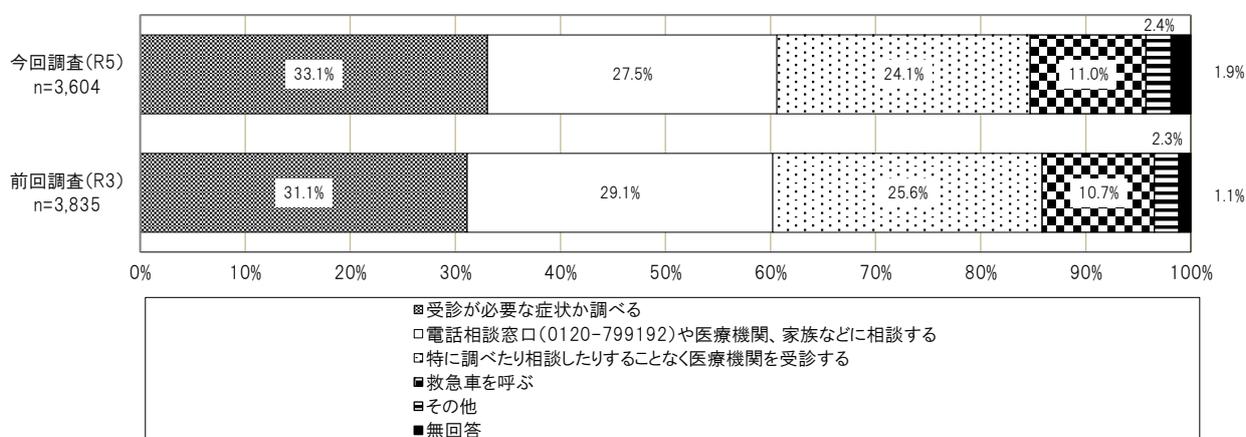
## (5) 夜間・休日の医療機関での受診

<b>問 18-1</b>	あなたは、夜間や休日に医療機関を受診するかどうか判断に迷ったとき、どうしますか。(○はひとつ)
---------------	---

### 1) 全体集計結果

夜間や休日に医療機関を受診するかどうか判断に迷った時の対応は、「受診が必要な症状か調べる」と回答した市民の割合が 33.1%と最も高く、前回調査と比較して 2.0 ポイント増加しています。次いで「電話相談窓口 (0120-799192) や医療機関、家族などに相談する」が 27.5%となっていますが、前回調査と比較すると 1.6 ポイント減少しています。

図表3-23-1 夜間・休日の医療機関での受診(前回調査との比較)



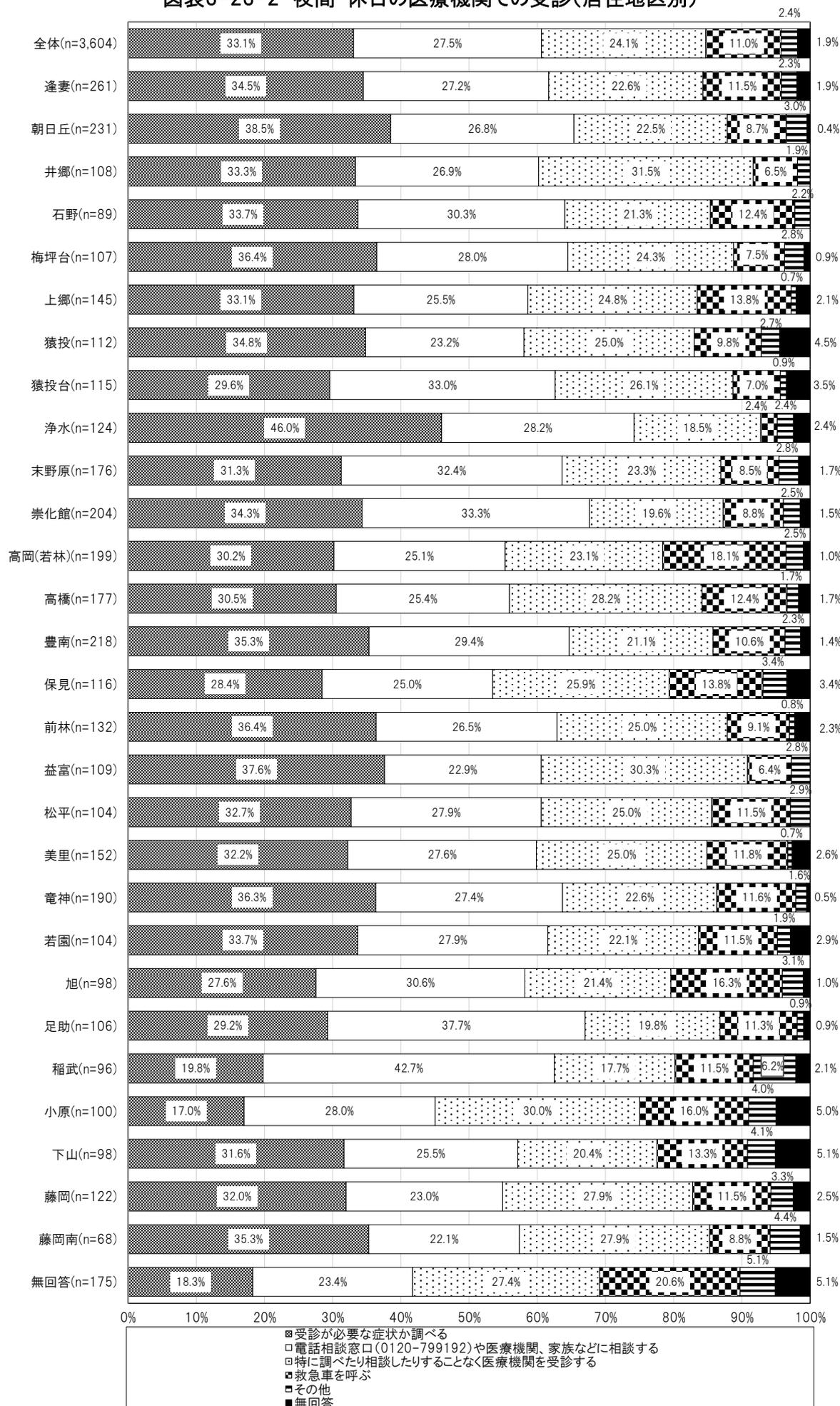
### 2) 属性分析結果

ここでは特徴的な結果が得られた「居住地区別」「年齢別」の属性分析を行います。

#### ① 居住地区別

居住地区別にみると、浄水では「受診が必要な症状か調べる」と回答した市民の割合が高くなっています。一方で、稲武、小原では「受診が必要な症状か調べる」と回答した市民の割合が低くなっています。また、高岡(若林)、旭、小原では「救急車を呼ぶ」と回答した市民の割合が高い傾向にあります。

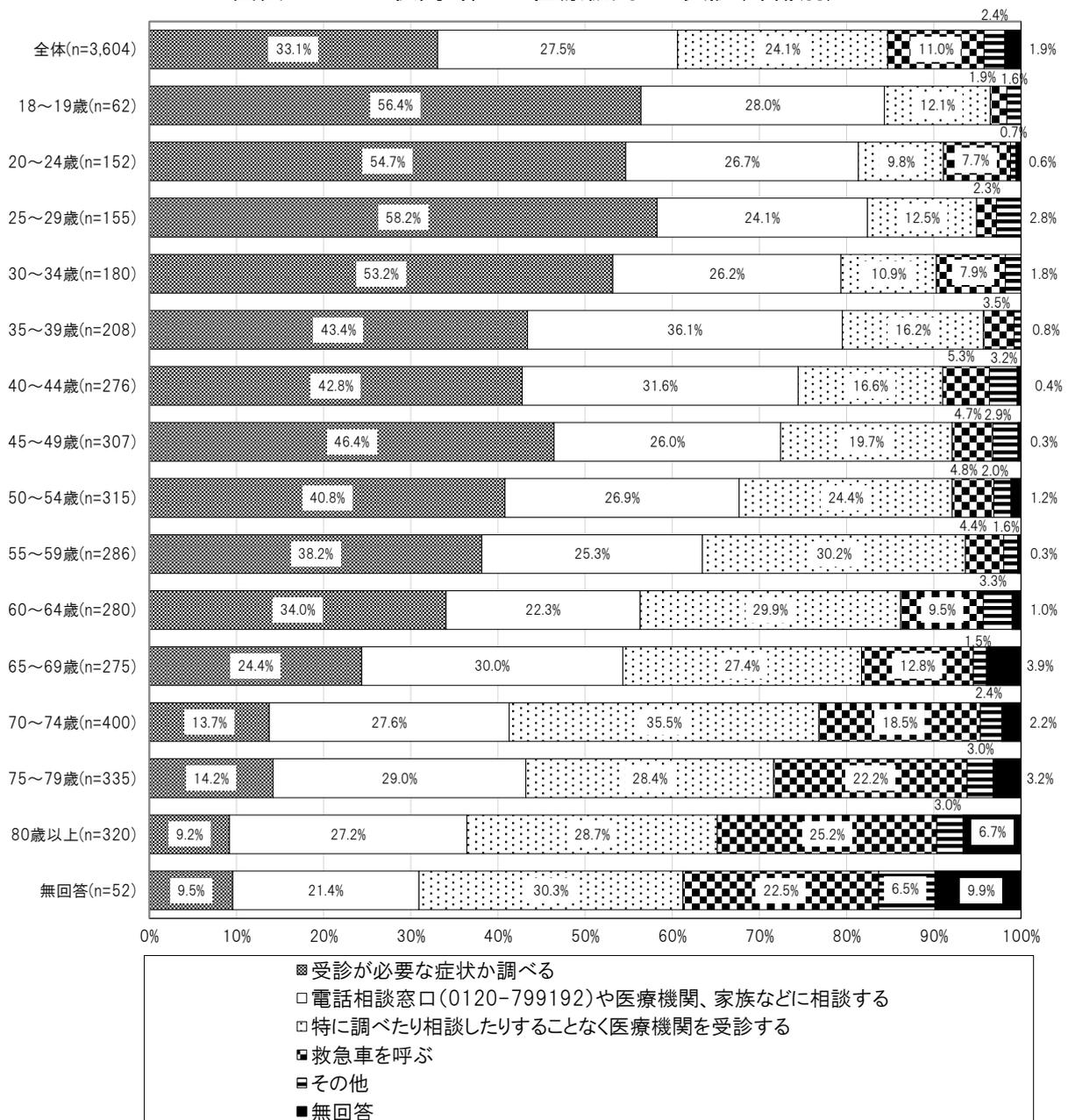
図表3-23-2 夜間・休日の医療機関での受診(居住地区別)



## ② 年齢別

年齢別にみると、「受診が必要な症状か調べる」と回答した市民の割合は、おおむね年齢が高くなるのに比例して減少しています。一方、「救急車を呼ぶ」と回答した市民の割合は、年齢が高くなるのに比例して増加する傾向が見られます。

図表3-23-3 夜間・休日の医療機関での受診(年齢別)

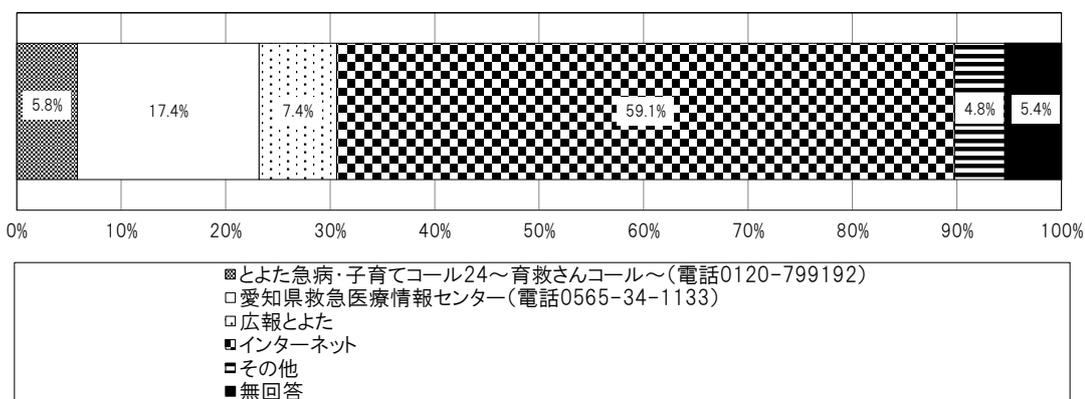


<b>問 18-2</b>	問 18-1 で「1 受診が必要な症状か調べる」とお答えの方にお聞きします。 調べた結果、受診が必要との判断に至ったとき、どのようにして医療機関を探しますか。(○はひとつ)
---------------	---

## 1) 全体集計結果

受診が必要との判断に至ったときの医療機関の探し方の割合は、「インターネット」が 59.1%と最も多く、次いで「愛知県救急医療情報センター（電話 34-1133）」が 17.4%となっています。

図表3-24-1 受診が必要との判断に至った時の医療機関の探し方 n=1,192

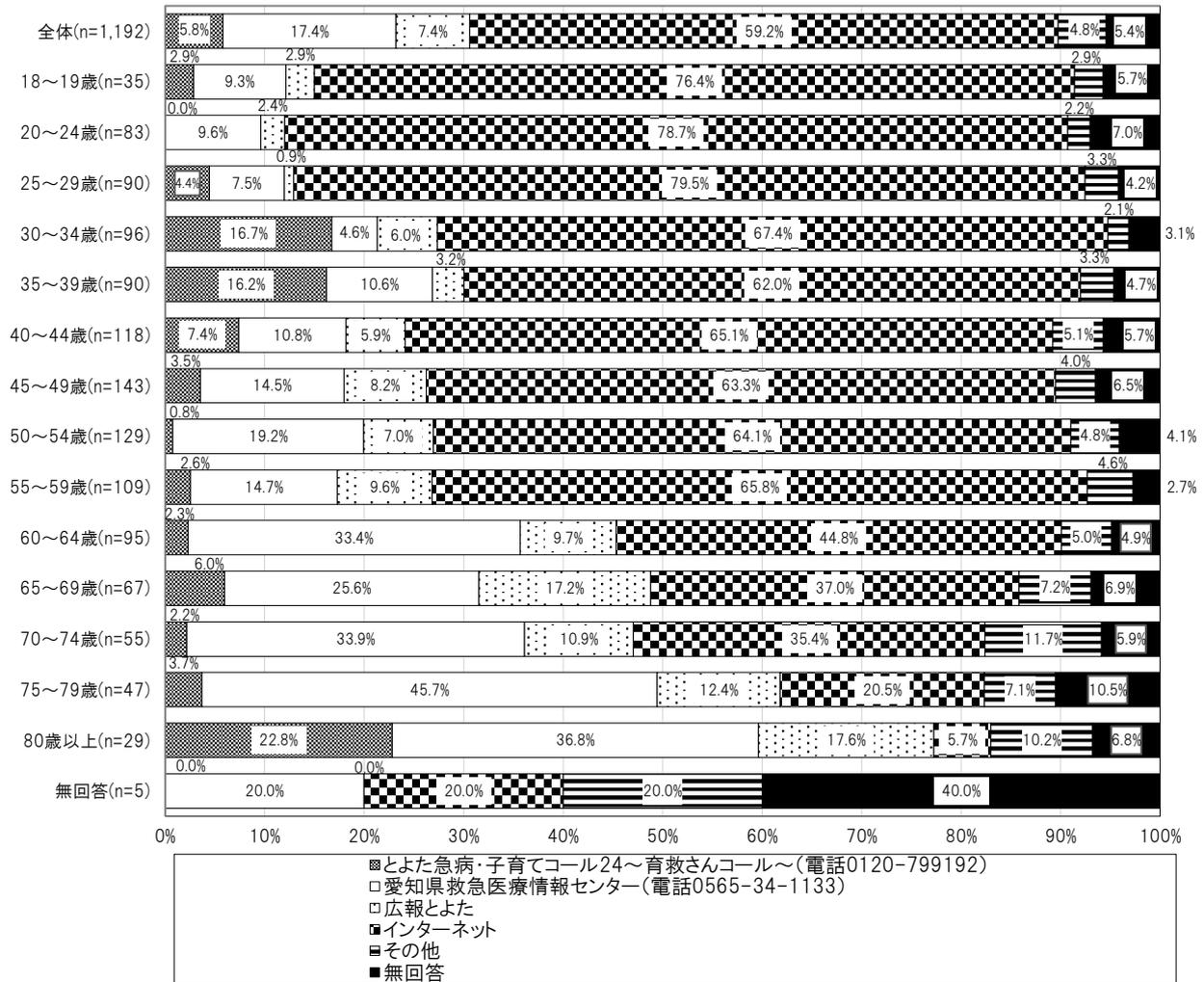


## 2) 属性分析結果

ここでは特徴的な結果が得られた「年齢別」の属性分析を行います。

年齢別にみると、80歳以上及び30～39歳では、「とよた急病・子育てコール24～育救さんコール」を利用して医療機関を探す市民の割合は、他の世代と比べ高くなっています。また、18～29歳では70%以上が「インターネット」を利用して医療機関を探すと回答しています。さらに、「愛知県救急医療情報センター（電話 34-1133）」と回答した市民の割合は、年齢が高くなるのに比例して増加する傾向が見られます。

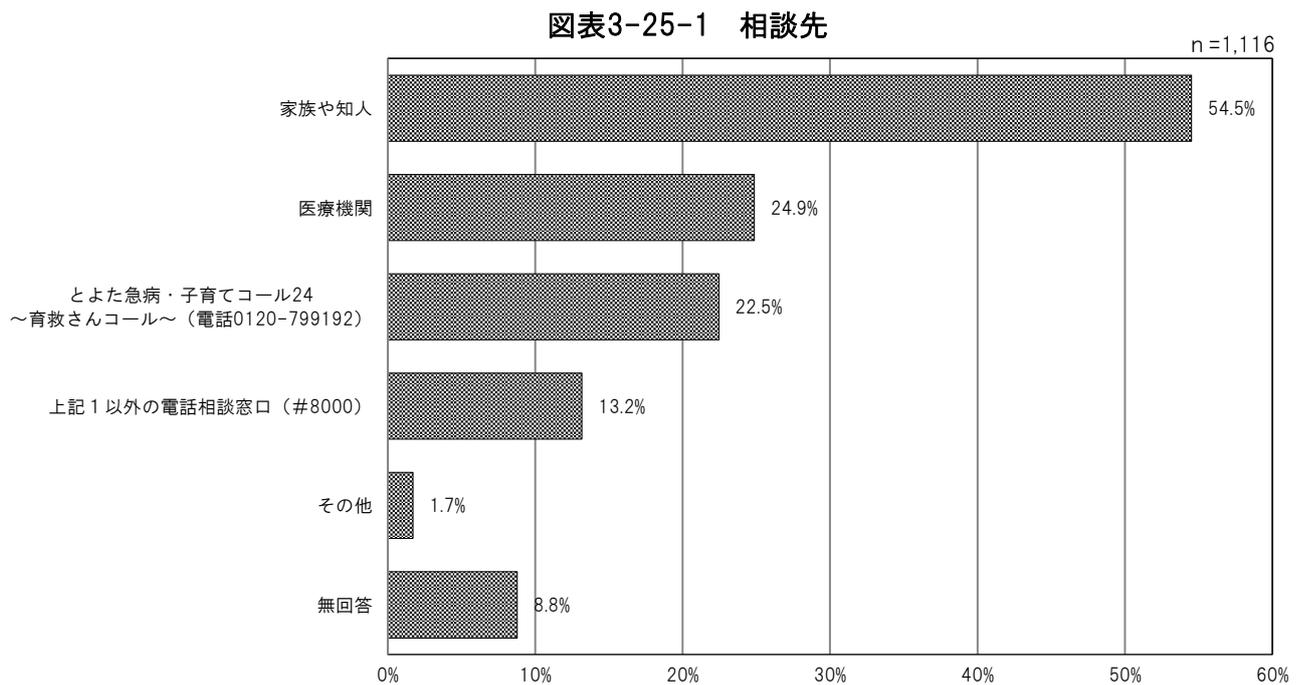
図表3-24-2 受診が必要との判断に至った時の医療機関の探し方(年齢別)



<b>問 18-3</b>	問 18-1 で「2 電話相談窓口 (0120-799192) や医療機関、家族などに相談する」とお答えの方にお聞きします。どこに相談しますか。(当てはまるもの全てに○)
---------------	---

## 1) 全体集計結果

主な相談先として「家族や知人」と回答した市民の割合は、54.5%と最も高く、次いで「医療機関」が 24.9%、「とよた急病・子育てコール 24～育救さんコール～(電話 0120-799192)」が 22.5%となっています。



## 2) 属性分析結果

ここでは特徴的な結果が得られた「年齢別」の属性分析を行います。

年齢別にみると、どの年齢でも「家族や知人」と回答した市民の割合が最も高くなっており、18～24 歳では 65%を超えています。また、30～39 歳では「とよた急病・子育てコール 24～育救さんコール～(電話 0120-799192)」と回答した市民の割合が 50%以上と高くなっています。

図表3-25-2 相談先（年齢別）

n=992

	家族や知人	医療機関	799192（電話予約サービスコール）	5924（緊急・子育て）	口上（#1以外の電話相談窓口）	その他	無回答
全体 (n=992)	54.5%	24.9%	22.4%	13.2%	1.7%	8.8%	
18～19歳 (n=17)	69.3%	28.9%	17.3%	5.8%	0.0%	1.8%	
20～24歳 (n=41)	78.7%	4.6%	5.8%	8.0%	2.5%	13.4%	
25～29歳 (n=37)	64.0%	11.5%	20.8%	15.3%	0.0%	11.7%	
30～34歳 (n=47)	46.2%	9.6%	61.6%	24.1%	2.1%	2.1%	
35～39歳 (n=75)	45.8%	11.3%	57.1%	23.3%	0.0%	5.6%	
40～44歳 (n=87)	52.2%	8.6%	41.7%	15.6%	3.8%	8.0%	
45～49歳 (n=80)	41.9%	23.7%	41.5%	16.3%	2.2%	4.6%	
50～54歳 (n=85)	47.9%	20.2%	13.8%	18.1%	1.2%	16.0%	
55～59歳 (n=72)	52.9%	35.8%	14.0%	9.3%	2.3%	6.9%	
60～64歳 (n=62)	53.2%	30.0%	17.4%	12.8%	1.6%	8.3%	
65～69歳 (n=83)	60.0%	31.0%	12.3%	5.7%	2.4%	7.7%	
70～74歳 (n=110)	58.7%	30.0%	5.5%	12.7%	2.0%	10.9%	
75～79歳 (n=97)	59.3%	35.4%	11.2%	7.8%	1.0%	6.2%	
80歳以上 (n=87)	60.7%	42.9%	8.4%	6.9%	1.1%	12.4%	
無回答 (n=11)	8.9%	35.7%	8.9%	26.8%	0.0%	19.6%	

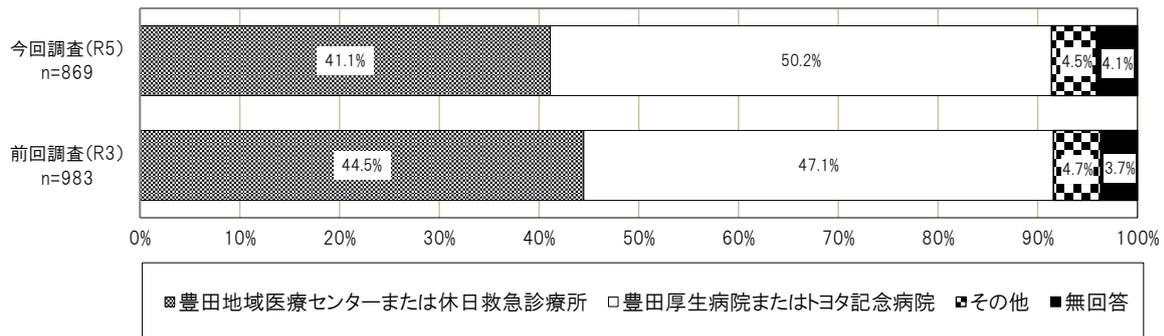
※回答を見やすくするよう、回答率40%以上に濃い影、20%以上40%未満に薄い影をつけました。

<b>問 18-4</b>	問18-1で「3 特に調べたり相談したりすることなく医療機関を受診する」とお答えの方にお聞きします。どこの医療機関を受診しますか。(〇はひとつ)
---------------	--

### 1) 全体集計結果

医療機関の受診先では、「豊田厚生病院またはトヨタ記念病院」と回答した市民の割合が50.2%で、前回調査と比較して3.1ポイント増加しています。

図表3-26-1 医療機関の受診先(前回調査との比較)



## 6 災害・事故への備え

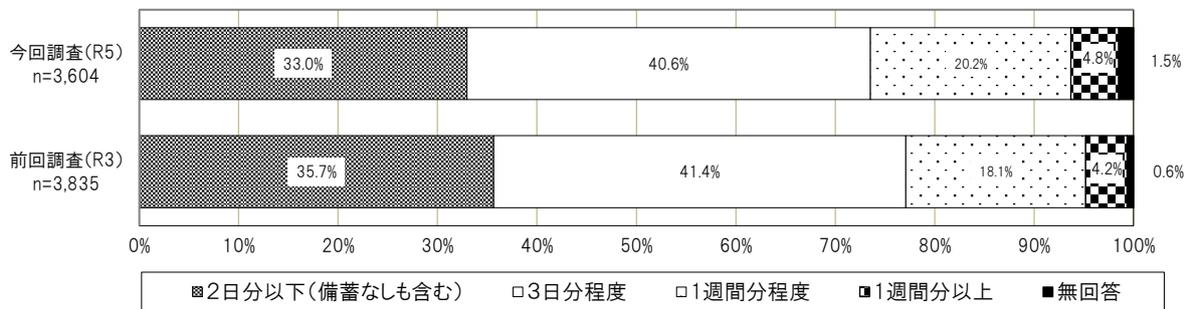
### (1) 食料、飲料の備蓄

<b>問 19</b>	あなたは、どれくらい食料、飲料水（冷蔵庫や倉庫などに保管している食料、飲料水も含む。）を備蓄していますか。（○はひとつ）
-------------	--

#### 1) 全体集計結果

食料、飲料の備蓄状況は、「3日分程度」が40.6%と最も多く、前回調査と比較して0.8ポイント減少しています。また、「3日分程度以上」の備蓄をしていると回答をした市民の割合は、65.6%であり、前回調査から1.9ポイント増加しています。

図表3-27-1 食料・飲料の備蓄(前回調査との比較)



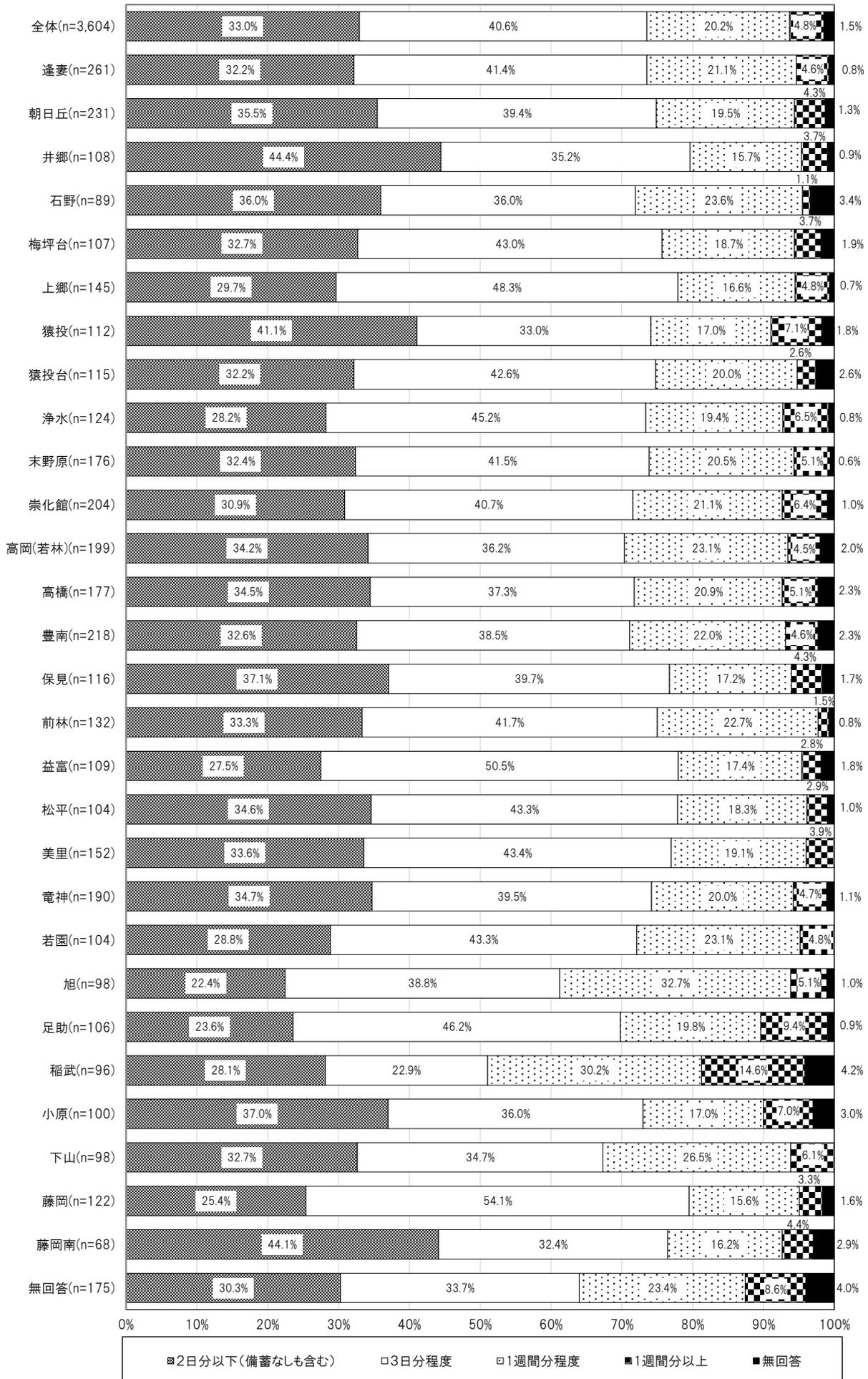
#### 2) 属性分析結果

ここでは特徴的な結果が得られた「居住地区別」「年齢別」「家族構成」の属性分析を行います。

##### ① 居住地区別

居住地区別にみると、「3日分程度以上」の備蓄をしていると回答した市民の割合は、旭が76.6%で最も高く、次いで足助が75.4%、藤岡が73.0%となっています。また、「2日分以下（備蓄なしも含む）」と回答した市民の割合は、井郷で44.4%、藤岡南で44.1%と高くなっています。

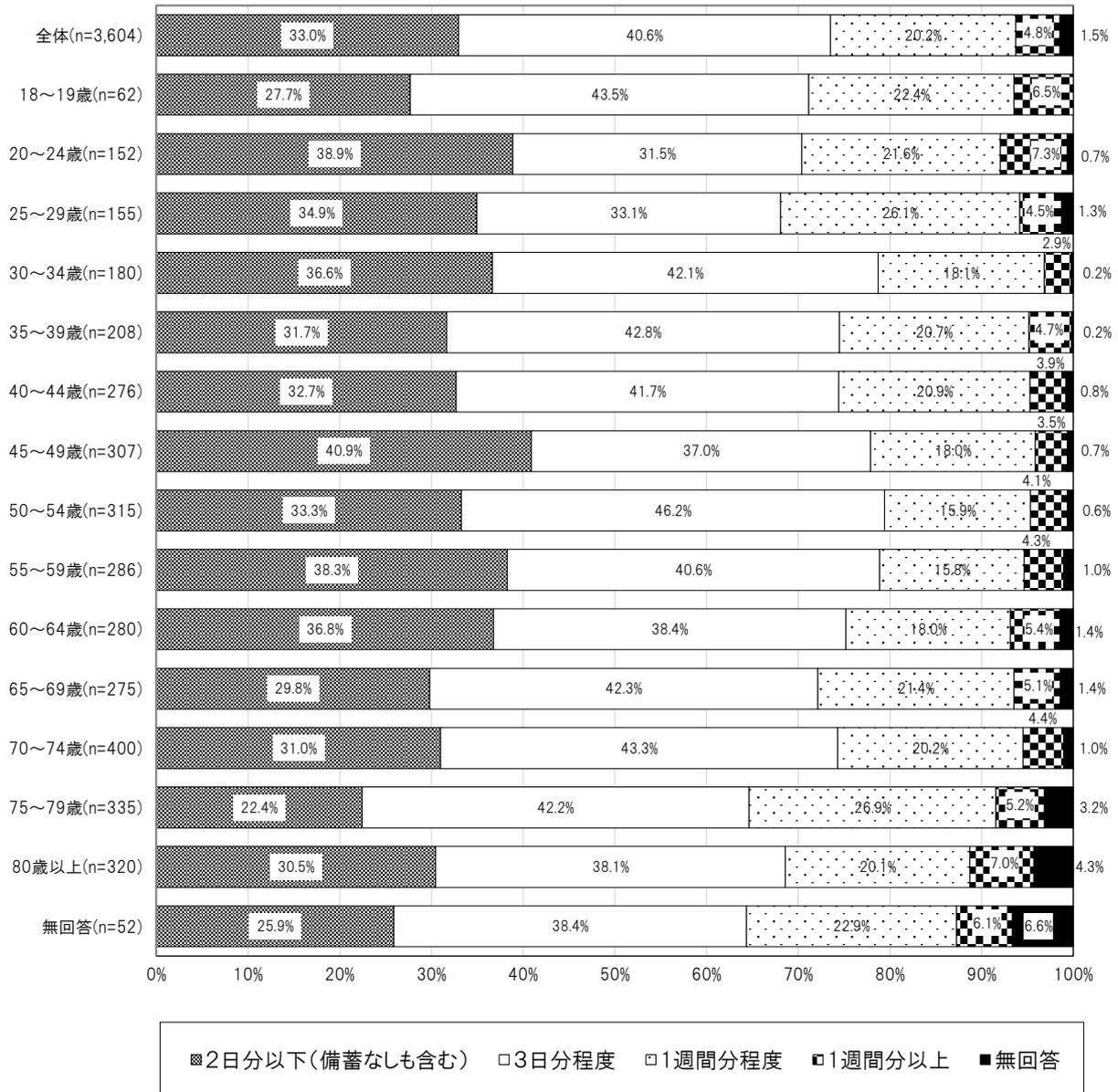
図表3-27-2 食料、飲料の備蓄(居住地区別)



## ② 年齢別

年齢別にみると、「3日分程度以上」の備蓄をしていると回答した市民の割合は、75～79歳で74.3%と最も高く、次いで18～19歳が72.4%、65～69歳が68.8%となっています。また、「2日分以下（備蓄なしも含む）」と回答した市民の割合は、45～49歳で40.9%、20～24歳で38.9%と高くなっています。

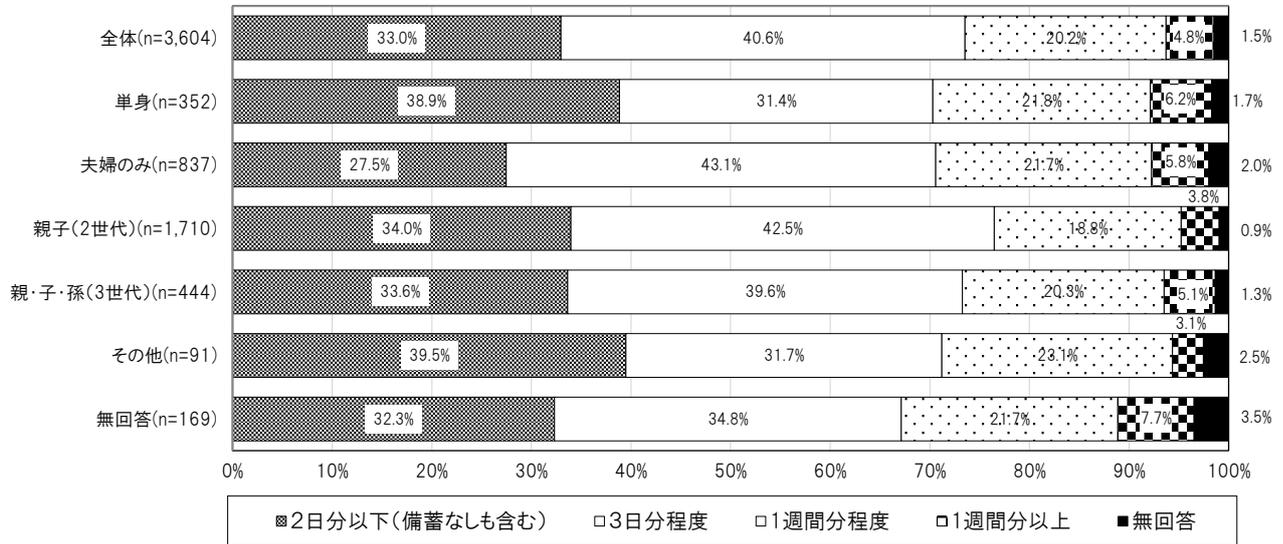
図表3-27-3 飲料、食料の備蓄(年齢別)



### ③ 家族構成別

家族構成別にみると、「3日分程度以上」の備蓄をしていると回答した市民の割合は、夫婦のみの70.6%が最も高く、次いで親子（2世代）の65.1%となっています。「2日分以下（備蓄なしも含む）」と回答した市民の割合は、単身世帯が38.9%と最も高くなっています。

図表3-27-4 食料、飲料の備蓄(家族構成別)



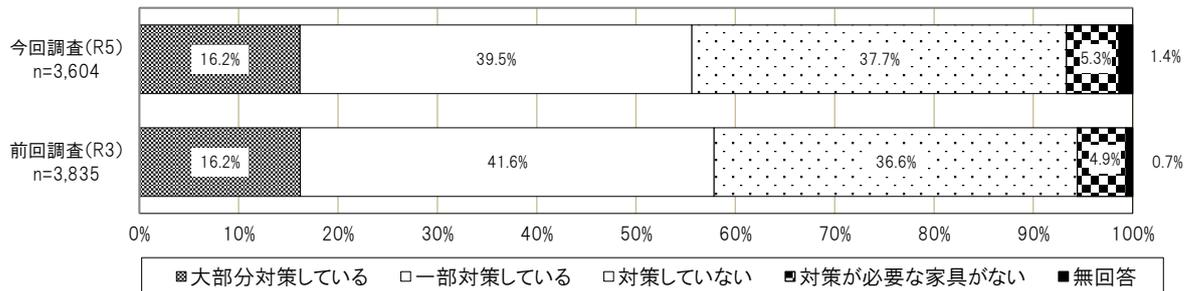
## (2) 家具の転倒防止対策

<b>問20-1</b>	あなたは、家具（例：タンス、棚、書庫、テレビ、冷蔵庫、ピアノなど）の転倒防止対策を行っていますか。（○はひとつ）
--------------	--

### 1) 全体集計結果

家具の転倒防止対策をしている（「大部分対策している」＋「一部対策している」）と回答した市民の割合は、55.7%となっており、前回調査と比較して2.1ポイント減少しています。

図表3-28-1 家具の転倒防止対策(前回調査との比較)



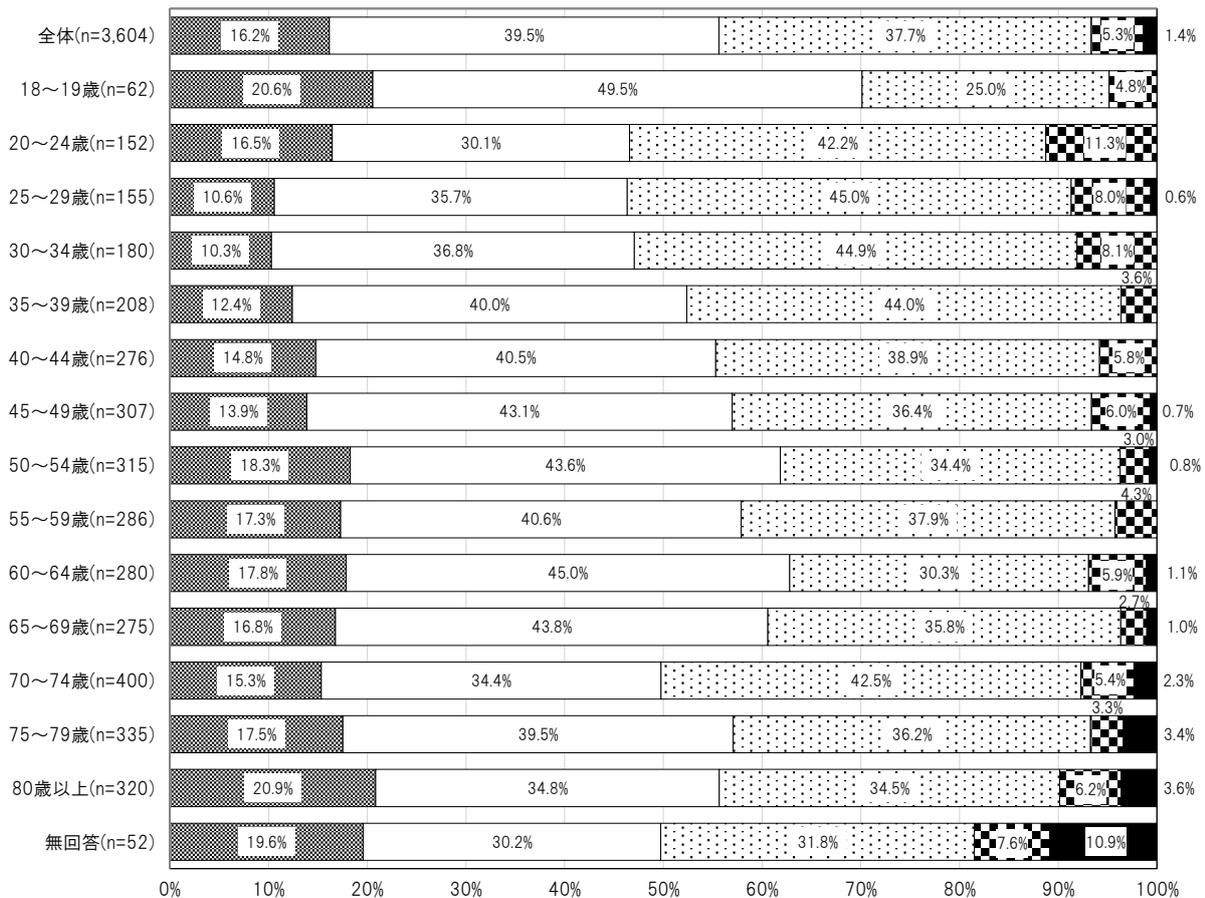
## 2) 属性分析結果

ここでは特徴的な結果が得られた「年齢別」「居住形態別」の属性分析を行います。

### ① 年齢別

年齢別にみると、家具の転倒防止対策をしていると回答した市民の割合は、18～19歳が70.1%と最も多く、次いで60～64歳が62.8%となっています。一方、25～29歳が46.3%、20～24歳が46.6%と低くなっています。

図表3-28-2 家具の転倒防止対策(年齢別)

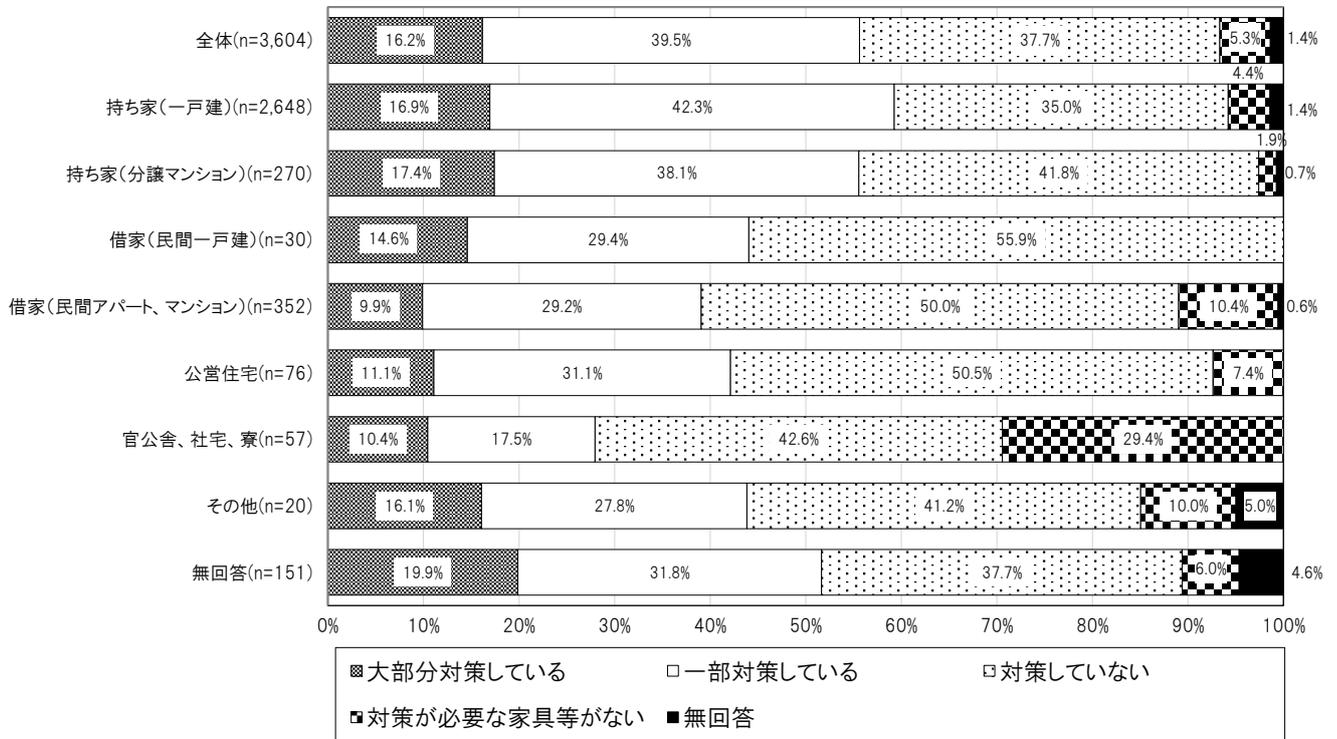


■大部分対策している □一部対策している □対策していない ■対策が必要な家具がない ■無回答

## ② 居住形態別

居住形態別にみると、家具の転倒防止対策をしていると回答した市民の割合は、持ち家（一戸建）で59.2%、持ち家（分譲マンション）で55.5%と持ち家で高い傾向にあります。

図表3-28-3 家具の転倒防止対策(居住形態別)

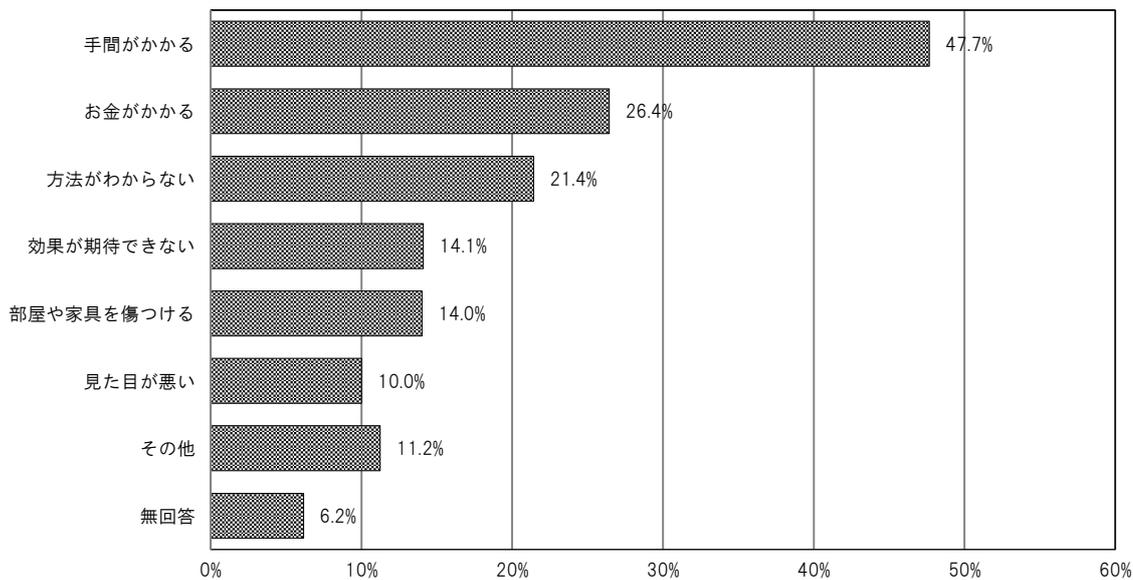


<b>問20-2</b>	問20-1で「2 一部対策している」または「3 対策していない」とお答えの方にお聞きします。家具の転倒防止対策を行わない理由は何ですか。(当てはまるもの全てに○)
--------------	---

### 1) 全体集計結果

家具の転倒防止対策を行わない理由として、「手間がかかる」が47.7%と最も多く、次いで「お金がかかる」が26.4%、「方法が分からない」が21.4%となっています。

図表3-29-1 家具の転倒防止対策を行わない理由 n=2,781



## 2) 属性分析結果

ここでは特徴的な結果が得られた「居住形態別」の属性分析を行います。

居住形態別にみると、家具の転倒防止対策を行わない理由として、おおむね全ての居住形態で「手間がかかる」と回答した市民の割合が高くなっています。

図表3-32-2 家具の転倒防止対策を行わない理由（居住形態別）

n=2,781

	手間がかかる	お金がかかる	方法がわからない	効果が期待できない	部屋や家具を傷つける	見た目が悪い	その他	無回答
全体 (n=2,781)	47.7%	26.4%	21.4%	14.1%	14.0%	10.0%	11.2%	6.2%
持ち家（一戸建） (n=2,046)	48.6%	26.1%	21.0%	13.7%	12.8%	10.8%	11.1%	6.2%
持ち家（分譲マンション） (n=216)	53.8%	25.5%	20.3%	20.9%	13.0%	12.5%	11.1%	4.6%
借家（民間一戸建） (n=26)	52.3%	17.6%	20.4%	12.7%	25.0%	4.7%	15.0%	3.9%
借家（民間アパート、マンション） (n=278)	44.4%	30.5%	20.7%	9.9%	22.1%	6.5%	10.1%	7.2%
公営住宅 (n=62)	24.6%	15.5%	31.6%	18.4%	18.9%	1.6%	8.1%	8.1%
官公舎、社宅、寮 (n=35)	65.3%	40.1%	22.5%	8.7%	8.7%	8.7%	12.1%	2.9%
その他 (n=14)	37.5%	47.5%	4.1%	7.2%	7.2%	7.2%	28.0%	7.2%
無回答 (n=105)	33.3%	24.8%	30.5%	19.0%	15.2%	5.7%	16.2%	5.7%

※回答を見やすくするよう、回答率 40%以上に濃い影、20%以上 40%未満に薄い影をつけました。

### (3) 危険箇所の認識

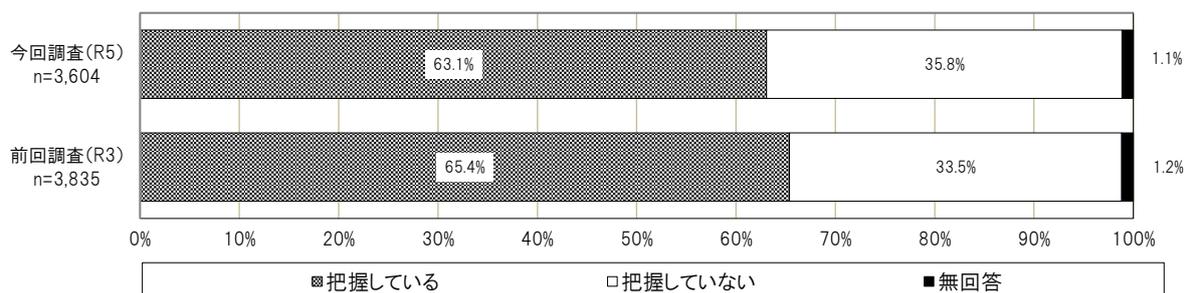
問 21

あなたは、自宅周辺の災害リスク（浸水、土砂災害など）や危険箇所について、ハザードマップ等により把握していますか。（○はひとつ）

#### 1) 全体集計結果

周囲の危険箇所（洪水、土砂災害、液状化など）について「把握している」と回答した市民の割合は、63.1%となっており、前回調査と比較して2.3ポイント減少しています。

図表3-30-1 危険箇所の認識(前回調査との比較)



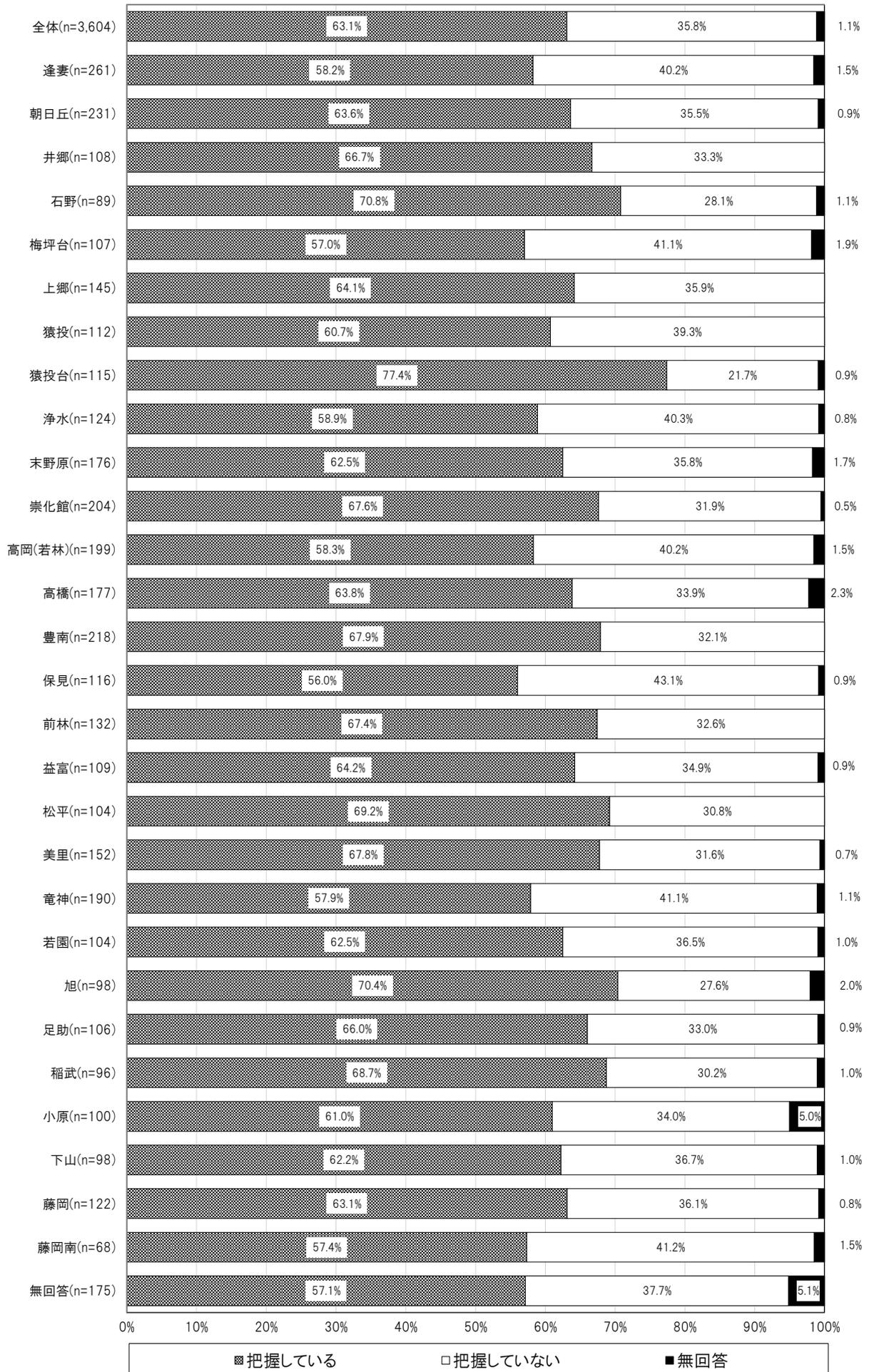
#### 2) 属性分析結果

ここでは特徴的な結果が得られた「居住地区別」「年齢別」の属性分析を行います。

##### ① 居住地区別

居住地区別にみると、周囲の危険箇所を「把握している」市民の割合は、猿投台が 77.4%と最も高く、次いで石野が 70.8%となっています。一方、保見が 56.0%、梅坪台が 57.0%と低くなっています。

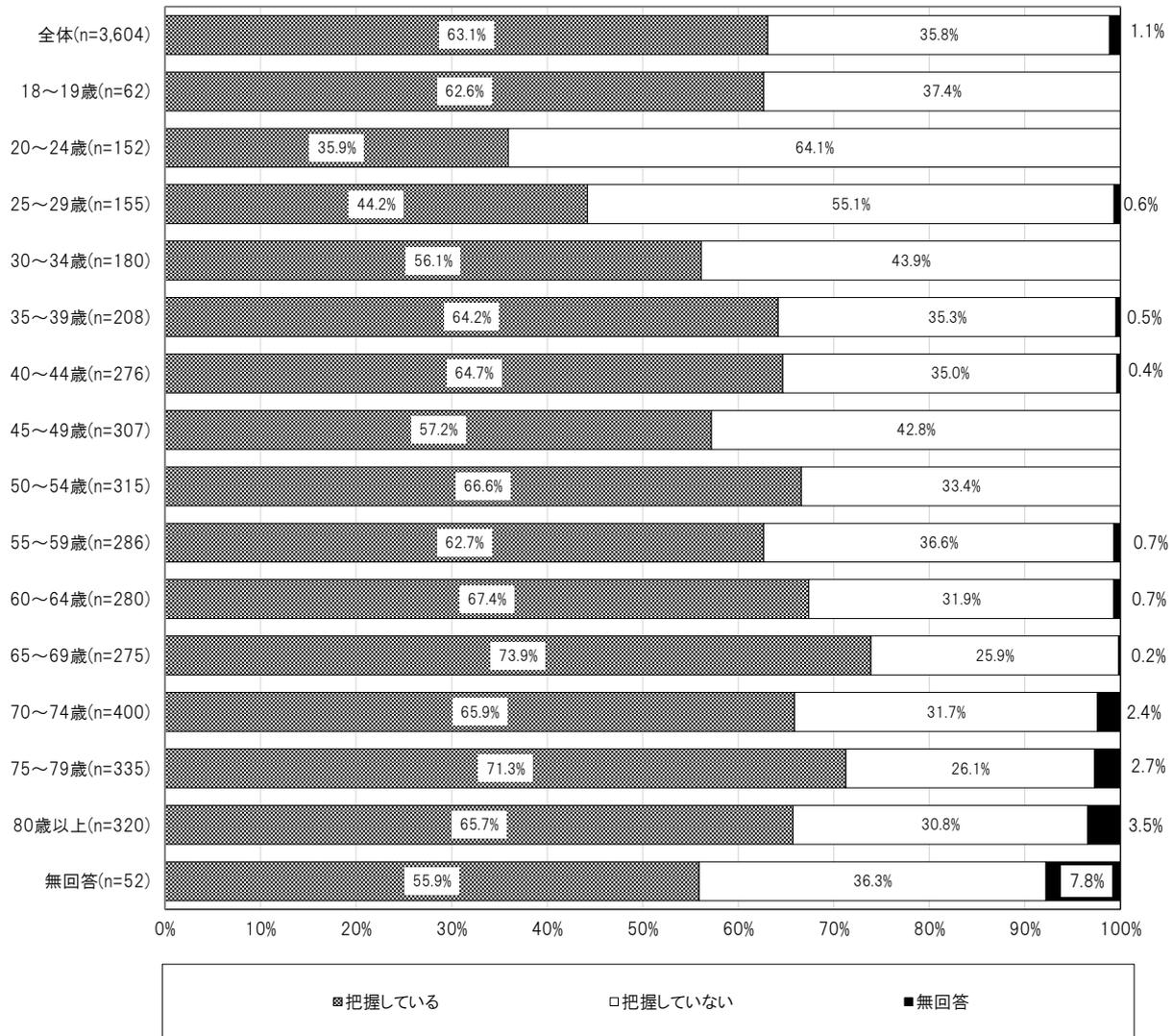
図表3-30-2 危険箇所の認識(居住地区別)



## ② 年齢別

年齢別にみると、周囲の危険箇所を「把握している」と回答した市民の割合は、65～69歳が73.9%と最も高く、次いで75～79歳が71.3%となっています。一方、20～24歳が35.9%、25～29歳が44.2%と低くなっています。

図表3-30-3 危険箇所の認識(年齢別)



## (4) 災害時の情報の入手

問22

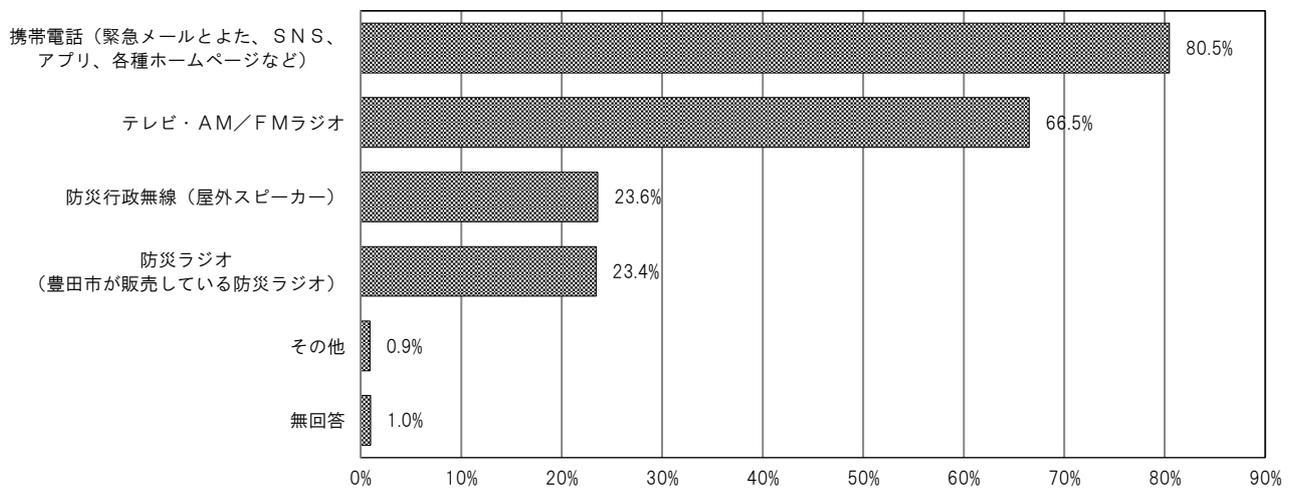
あなたが、災害時等に防災情報入手する手段として想定しているものは何ですか。(当てはまるもの全てに○)

### 1) 全体集計結果

災害時等における情報伝達手段として「携帯電話（緊急メールとよた、SNS、アプリ、各種ホームページなど）」が一番高く認識されており、80.5%となっています。次いで「テレビ・AM/FMラジオ」が66.5%、「防災行政無線（屋外スピーカー）」が23.6%、「防災ラジオ（豊田市が販売している防災ラジオ）」が23.4%となっています。

図表3-31-1 災害時の情報伝達手段

n=3,604



### 2) 属性分析結果

ここでは特徴的な結果が得られた「居住地区別」「年齢別」の属性分析を行います。

#### ① 居住地区別

居住地区別にみると、災害時等における情報伝達手段として、おおむね全ての地区で「携帯電話（緊急メールとよた、SNS、アプリ、各種ホームページなど）」と回答した市民の割合が高くなっています。また、旭、足助、稲武、小原、下山では「防災ラジオ（豊田市が販売している防災ラジオ）」と回答した市民の割合が高くなっています。

図表3-31-2 災害時の情報伝達手段（居住地区別）

n=3,604

	ページなど） リ、各 S、N メ、S 携帯電 話とよ （緊急	F M ラジ オ A M /	カ（防 屋外 行政 スピ 無線	オ（防 災ラ ジオ 販売 して 豊	そ の 他	無 回 答
全体 (n=3,604)	80.5%	66.5%	23.6%	23.4%	0.9%	1.0%
逢妻 (n=261)	84.3%	65.5%	11.1%	20.3%	0.0%	1.1%
朝日丘 (n=231)	86.6%	69.3%	17.3%	13.9%	0.4%	0.0%
井郷 (n=108)	88.9%	67.6%	27.8%	14.8%	0.9%	0.0%
石野 (n=89)	79.8%	60.7%	25.8%	39.3%	1.1%	0.0%
梅坪台 (n=107)	80.4%	65.4%	25.2%	13.1%	0.9%	0.9%
上郷 (n=145)	84.8%	71.7%	20.7%	21.4%	0.7%	0.7%
猿投 (n=112)	76.8%	62.5%	17.9%	21.4%	1.8%	0.0%
猿投台 (n=115)	80.9%	66.1%	35.7%	24.3%	0.9%	0.9%
浄水 (n=124)	84.7%	75.8%	19.4%	16.1%	0.8%	0.8%
末野原 (n=176)	83.0%	67.0%	19.3%	17.6%	1.1%	1.1%
崇化館 (n=204)	81.9%	64.7%	24.5%	20.1%	2.0%	1.0%
高岡(若林) (n=199)	77.9%	66.8%	16.1%	19.6%	0.5%	2.0%
高橋 (n=177)	79.1%	62.7%	35.0%	27.7%	0.6%	1.7%
豊南 (n=218)	85.3%	66.1%	16.1%	22.0%	1.4%	1.4%
保見 (n=116)	75.0%	65.5%	29.3%	25.9%	0.9%	0.9%
前林 (n=132)	78.8%	71.2%	28.8%	23.5%	0.0%	0.0%
益富 (n=109)	83.5%	70.6%	34.9%	30.3%	0.9%	0.9%
松平 (n=104)	84.6%	70.2%	21.2%	26.9%	1.9%	0.0%
美里 (n=152)	76.3%	64.5%	32.2%	28.9%	0.0%	0.7%
竜神 (n=190)	83.2%	64.7%	14.7%	20.5%	0.0%	1.1%
若園 (n=104)	80.8%	65.4%	19.2%	26.0%	1.0%	1.0%
旭 (n=98)	61.2%	68.4%	44.9%	75.5%	3.1%	1.0%
足助 (n=106)	72.6%	65.1%	43.4%	52.8%	0.9%	0.0%
稲武 (n=96)	65.6%	60.4%	43.7%	68.7%	2.1%	0.0%
小原 (n=100)	70.0%	65.0%	21.0%	46.0%	1.0%	3.0%
下山 (n=98)	68.4%	57.1%	27.6%	62.2%	2.0%	1.0%
藤岡 (n=122)	82.0%	62.3%	24.6%	13.1%	0.8%	0.0%
藤岡南 (n=68)	76.5%	64.7%	26.5%	14.7%	2.9%	1.5%
無回答 (n=175)	64.6%	66.3%	33.1%	30.9%	2.3%	3.4%

※回答を見やすくするよう、回答率40%以上に濃い影、20%以上40%未満に薄い影をつけました。

## ② 年齢別

年齢別にみると、災害時等における情報伝達手段として認識しているものとして、ほぼ全ての年齢層で「携帯電話（緊急メールとよた、SNS、アプリ、各種ホームページなど）」と回答した市民の割合が高くなっています。おおむね年齢が高くなるのに比例して、「防災ラジオ（豊田市が販売している防災ラジオ）」と回答した市民の割合が増加する傾向にあります。

図表3-31-3 災害時の情報伝達手段（年齢別）

n=3,604

	携帯電話（緊急メールとよた、SNS、アプリ、各種ホームページなど）	テレビ・AM/FMラジオ	防災行政無線（屋外スピーカー）	防災ラジオ（豊田市が販売している防災ラジオ）	その他	無回答
全体 (n=3,604)	80.5%	66.5%	23.6%	23.4%	0.9%	1.0%
18～19歳 (n=62)	91.1%	51.8%	20.0%	15.2%	0.0%	1.6%
20～24歳 (n=152)	93.3%	44.1%	13.2%	8.7%	1.2%	0.7%
25～29歳 (n=155)	91.7%	57.7%	12.0%	9.9%	0.6%	1.3%
30～34歳 (n=180)	92.1%	50.0%	23.3%	11.6%	0.5%	1.1%
35～39歳 (n=208)	95.5%	56.1%	22.5%	15.5%	1.0%	0.0%
40～44歳 (n=276)	89.8%	64.8%	22.7%	14.4%	1.9%	0.0%
45～49歳 (n=307)	90.4%	60.7%	18.3%	16.0%	0.9%	0.3%
50～54歳 (n=315)	93.4%	67.1%	19.9%	13.9%	0.3%	0.0%
55～59歳 (n=286)	90.2%	69.0%	19.7%	17.8%	0.8%	0.0%
60～64歳 (n=280)	87.6%	74.2%	25.3%	20.7%	1.6%	0.4%
65～69歳 (n=275)	84.3%	79.1%	29.6%	29.7%	1.0%	0.0%
70～74歳 (n=400)	69.9%	72.7%	27.1%	38.2%	0.2%	1.9%
75～79歳 (n=335)	58.5%	76.7%	28.9%	42.7%	1.2%	0.9%
80歳以上 (n=320)	44.3%	70.1%	31.8%	37.8%	1.1%	4.0%
無回答 (n=52)	43.6%	58.2%	24.7%	23.1%	1.9%	7.6%

※回答を見やすくするよう、回答率40%以上に濃い影、20%以上40%未満に薄い影をつけました。

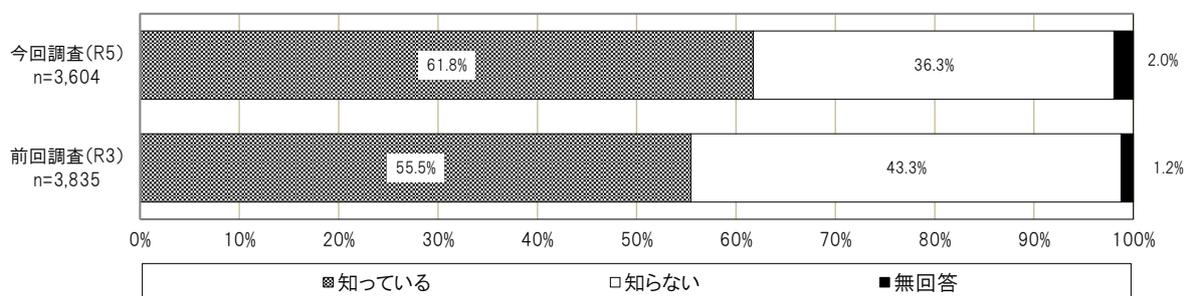
## (5) 避難情報の違いの認識

<b>問 23</b>	あなたは、災害発生の恐れがあるときに市が発表する「警戒レベル」や「避難情報（避難指示、高齢者等避難など）」について緊急度の違いやとるべき行動を知っていますか。（○はひとつ）
-------------	--

### 1) 全体集計結果

災害発生の恐れがあるときに市が発表する「警戒レベル」や「避難情報（避難指示、高齢者等避難など）」の違いについて、「知っている」と回答した市民の割合は 61.8%で、前回調査と比較して 6.3 ポイント増加しています。

図表3-32-1 避難情報の違いの認識(前回調査との比較)

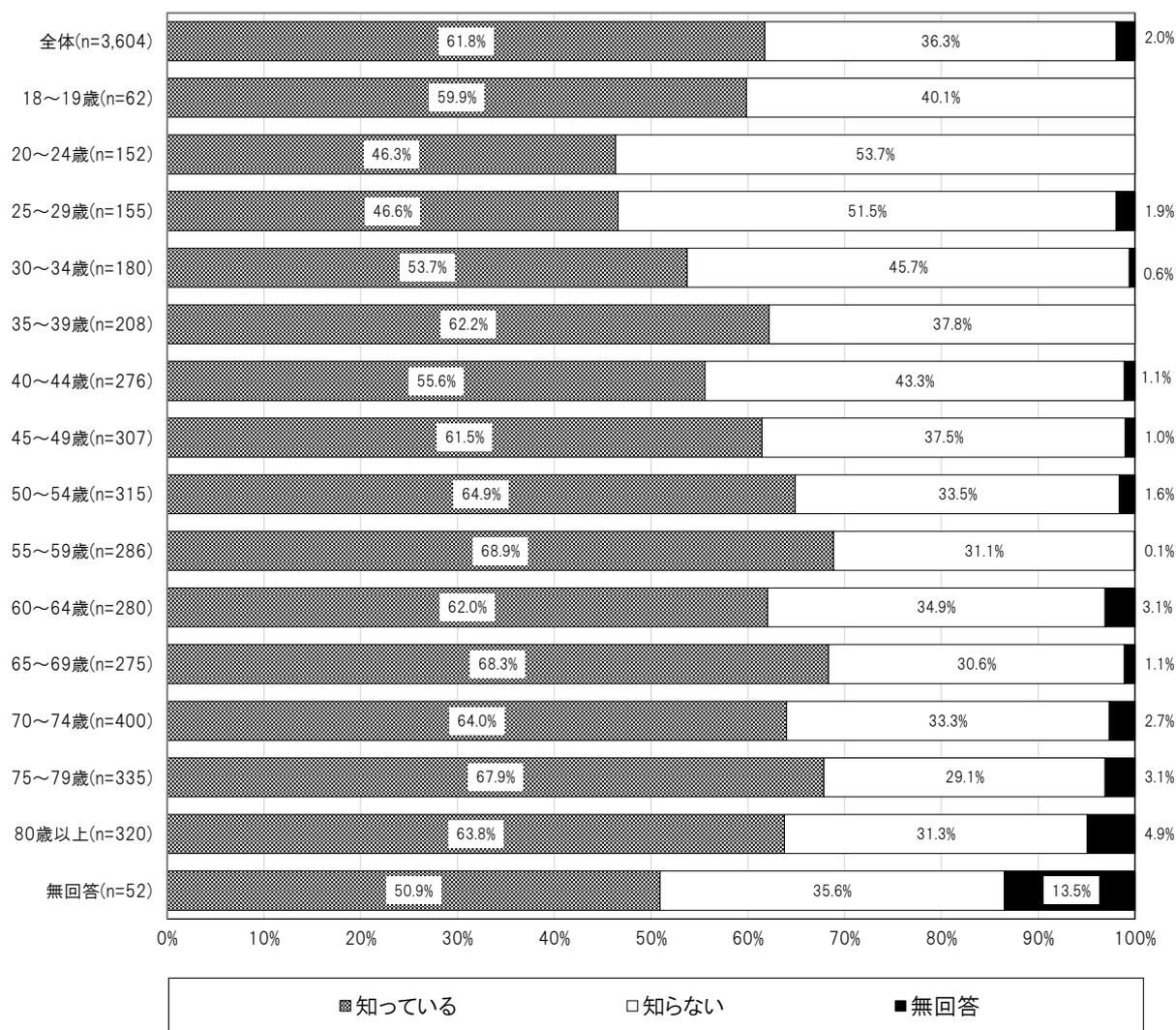


### 2) 属性分析結果

ここでは特徴的な結果が得られた「年齢別」の属性分析を行います。

年齢別にみると、避難指示、避難勧告、避難準備情報の違いについて、「知っている」と回答した市民の割合は、55～59歳で 68.9%と最も高く、次いで 65～69歳が 68.3%、75～79歳が 67.9%となっています。一方、20～24歳で 46.3%と低くなっています。

図表3-32-2 避難情報の違いの認識(年齢別)



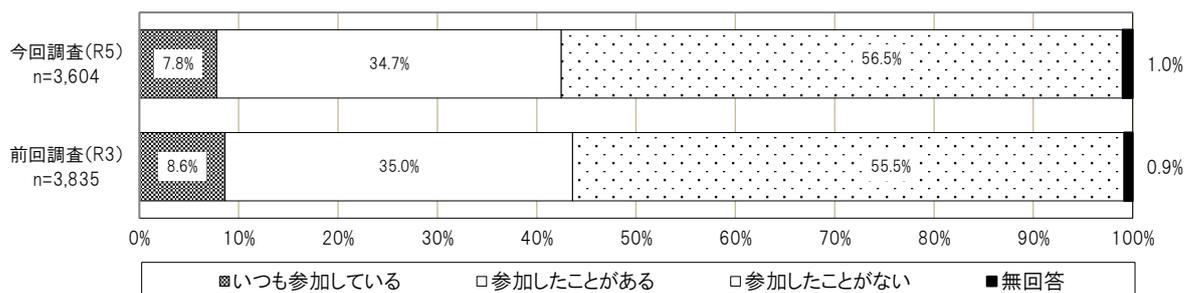
## (6) 防災訓練の参加状況

問24 あなたは、地域で実施している防災訓練に参加していますか。(○はひとつ)

### 1) 全体集計結果

地域で実施している防災訓練に参加経験がある(「いつも参加している」+「参加したことがある」)と回答した市民の割合は、42.5%で、前回調査と比較して1.1ポイント減少しています。

図表3-33-1 防災訓練の参加状況(前回調査との比較)



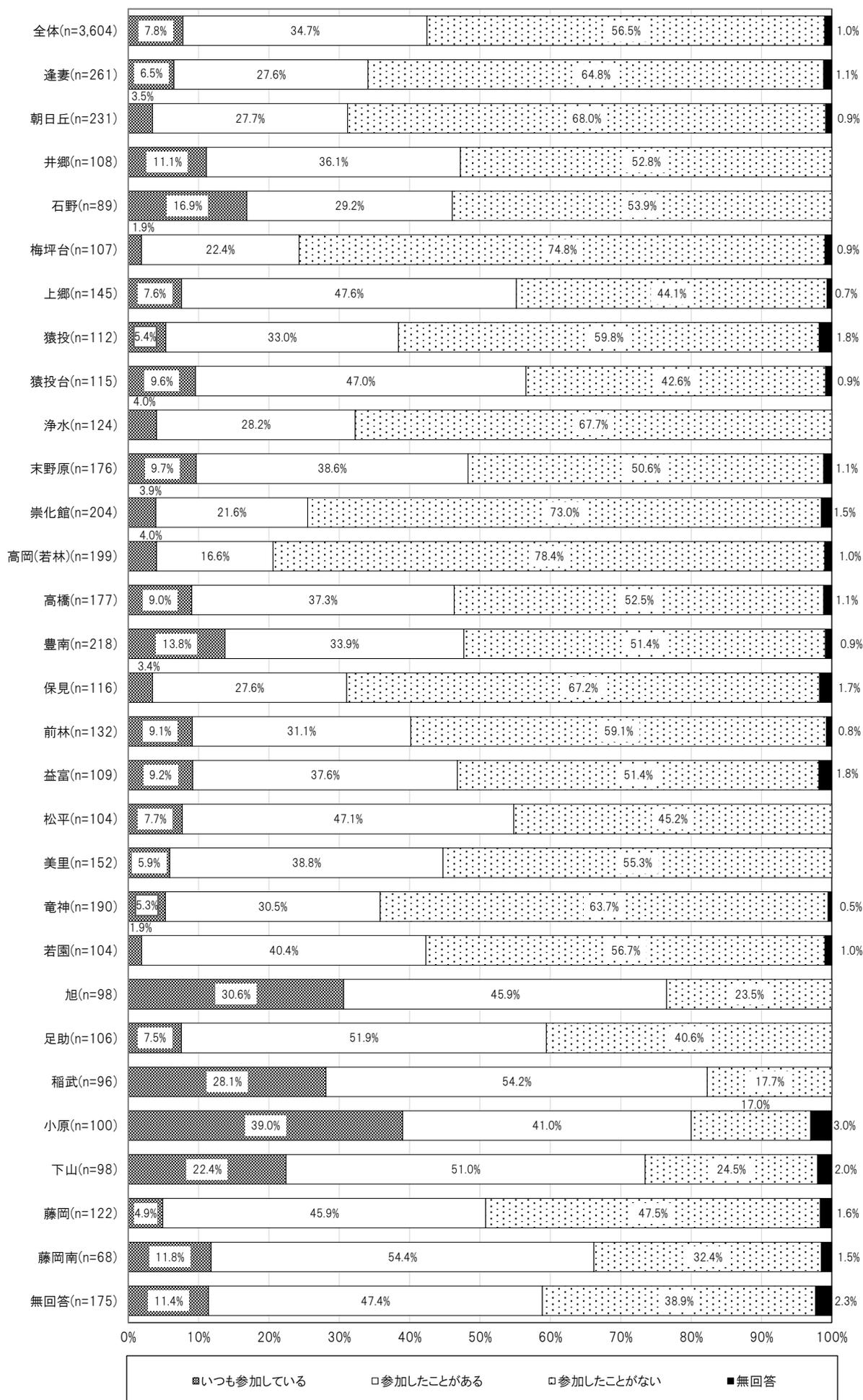
### 2) 属性分析結果

ここでは特徴的な結果が得られた「居住地区別」「年齢別」「居住形態別」の属性分析を行います。

#### ① 居住地区別

居住地区別にみると、地域で実施している防災訓練に参加経験がある市民の割合は、稲武が82.3%と最も高く、次いで小原が80.0%となっています。一方、高岡(若林)が20.6%、梅坪台が24.3%と低くなっています。

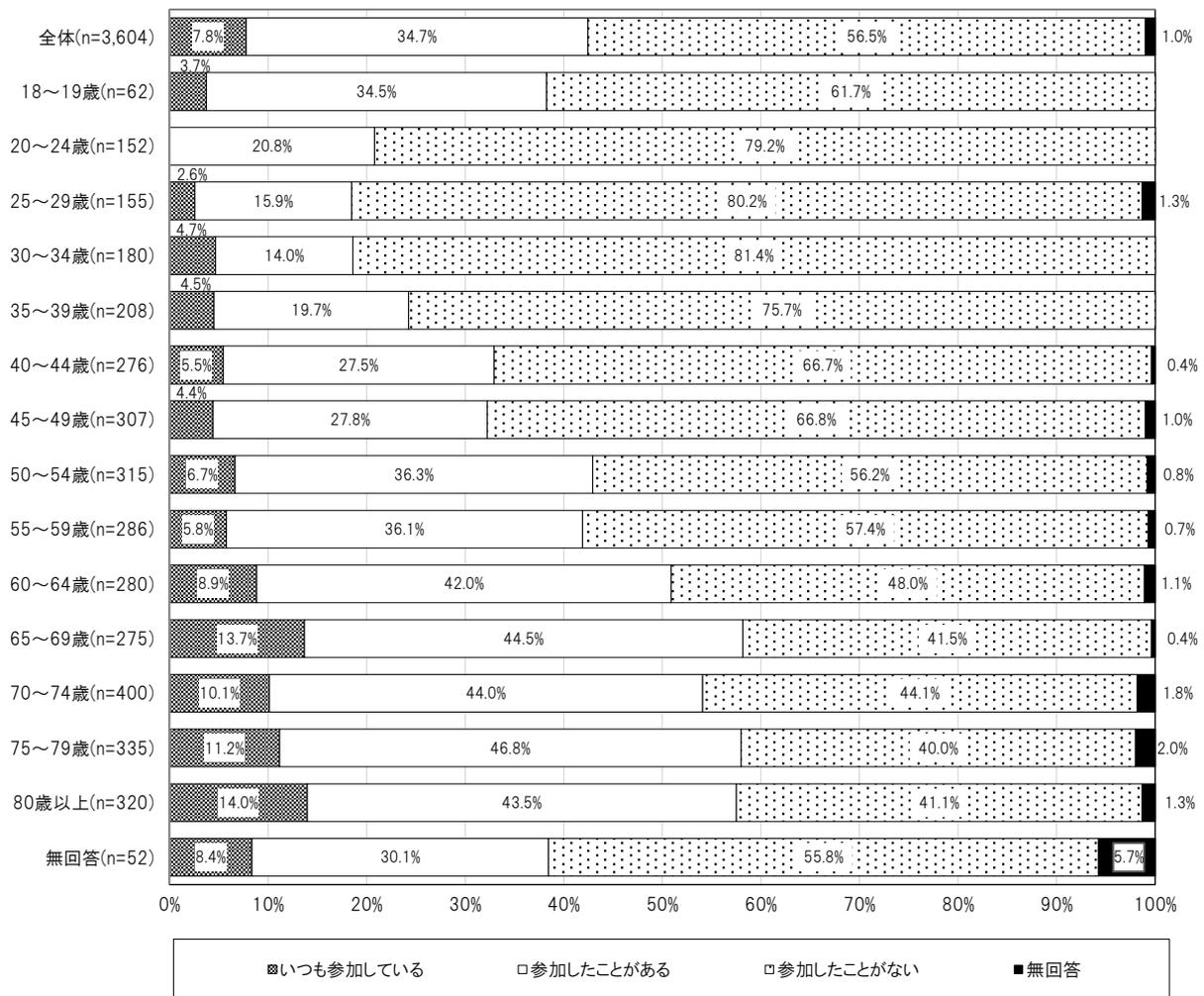
図表3-33-2 防災訓練の参加状況(居住地区別)



## ② 年齢別

年齢別にみると、地域で実施している防災訓練に参加経験がある市民の割合は、65～69歳が58.2%と最も高く、次いで75～79歳が58.0%となっています。一方、25～29歳が18.5%、30～34歳が18.7%と低くなっています。地域で実施している防災訓練に参加経験がある市民の割合は、おおむね年齢が高くなるのに比例して増加する傾向にあります。

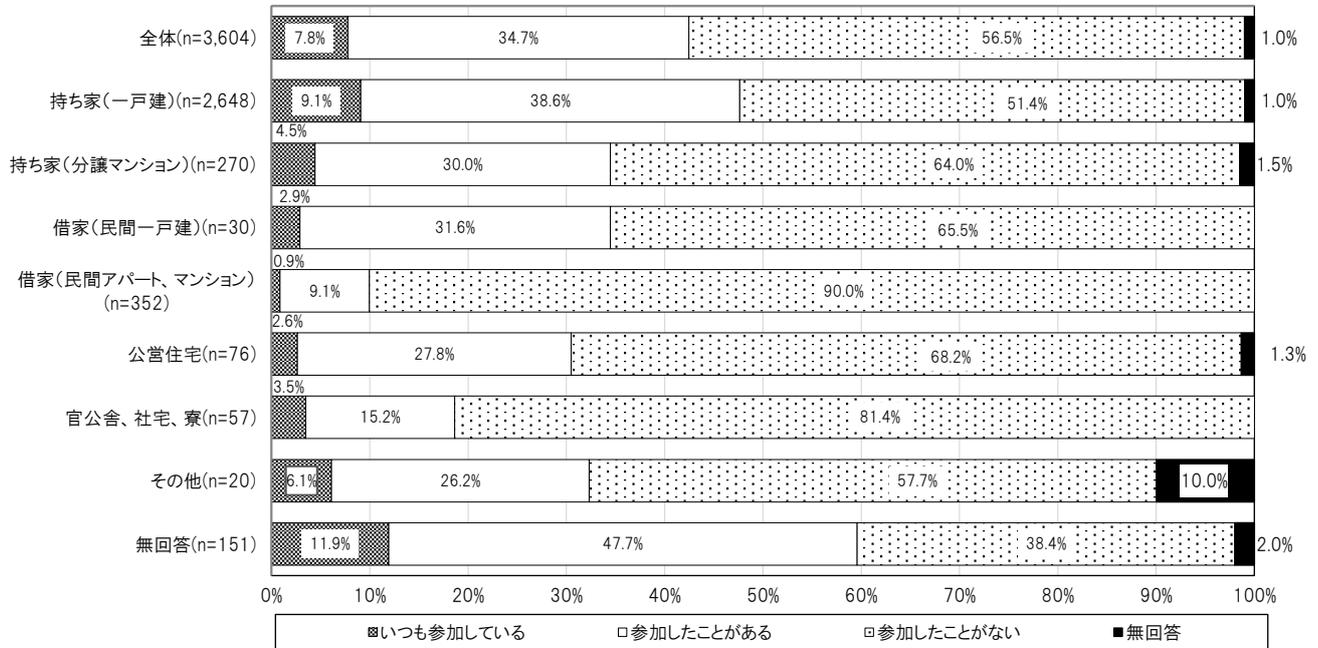
図表3-33-3 防災訓練の参加状況(年齢別)



### ③ 居住形態別

居住形態別にみると、地域で実施している防災訓練に参加経験がある市民の割合は、持ち家（一戸建）が47.7%と最も高く、次いで持ち家（分譲マンション）と借家（民間一戸建）が34.5%となっています。一方、借家（民間アパート、マンション）が10.0%と低くなっています。

図表3-33-4 防災訓練の参加状況(居住形態別)



## (7) 防火対策の実施状況

問25

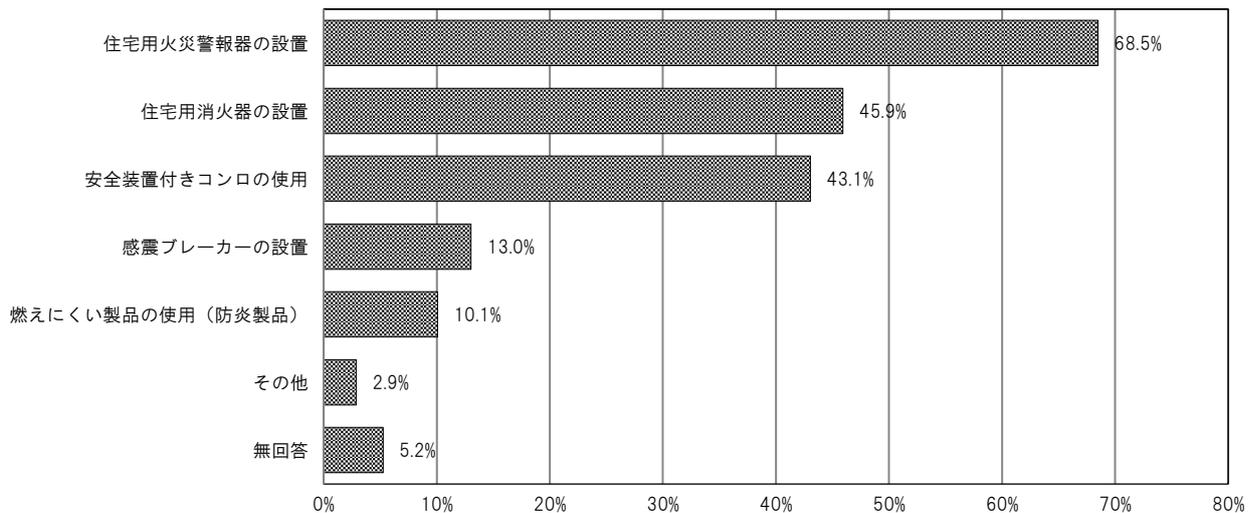
あなたは、お住まいの防火対策として何を行っていますか。(当てはまるもの全てに○)

### 1) 全体集計結果

住まいの防火対策として「住宅用火災警報器の設置」と回答した市民の割合は 68.5%と最も多く、次いで「住宅用消火器の設置」が 45.9%、「安全装置付きコンロの使用」が 43.1%となっています。

図表3-34-1 防火対策の実施状況

n=3,604



## 2) 属性分析結果

ここでは特徴的な結果が得られた「年齢別」「居住形態別」の属性分析を行います。

### ① 年齢別

年齢別にみると、住まいの防火対策として「住宅用火災警報器の設置」と回答した市民の割合は、35～39歳が79.9%と最も高く、次いで40～44歳が75.6%となっています。また、「住宅用消火器の設置」と回答した市民の割合は、おおむね年齢が高くなるのに比例して増加する傾向にあります。

図表3-34-2 防火対策の実施状況（年齢別）

n=3,604

	住宅用火災警報器の設置	住宅用消火器の設置	安全装置付きコンロの使用	感震ブレーカーの設置	燃えにくい製品の使用 (防炎製品)	その他	無回答
全体 (n=3,604)	68.5%	45.9%	43.1%	13.0%	10.1%	2.9%	5.2%
18～19歳 (n=62)	63.3%	33.9%	32.7%	7.8%	13.6%	1.6%	8.1%
20～24歳 (n=152)	65.0%	33.6%	25.1%	10.2%	9.5%	7.1%	5.9%
25～29歳 (n=155)	66.5%	31.2%	28.3%	9.7%	8.3%	2.3%	10.0%
30～34歳 (n=180)	67.3%	31.8%	44.3%	13.0%	14.1%	2.2%	6.3%
35～39歳 (n=208)	79.9%	32.9%	42.8%	13.1%	8.0%	2.8%	3.3%
40～44歳 (n=276)	75.6%	35.6%	41.7%	8.3%	10.3%	3.1%	5.4%
45～49歳 (n=307)	75.4%	31.4%	39.3%	9.4%	8.4%	2.2%	5.2%
50～54歳 (n=315)	73.4%	43.7%	46.6%	12.5%	10.5%	3.5%	3.7%
55～59歳 (n=286)	69.6%	42.0%	47.7%	12.8%	10.6%	3.0%	3.6%
60～64歳 (n=280)	65.3%	52.2%	49.2%	16.1%	13.2%	2.1%	5.4%
65～69歳 (n=275)	68.4%	60.1%	50.4%	15.5%	15.0%	1.8%	2.6%
70～74歳 (n=400)	67.3%	52.2%	44.8%	10.8%	8.2%	2.8%	5.3%
75～79歳 (n=335)	63.1%	59.1%	51.5%	16.9%	8.1%	2.1%	5.8%
80歳以上 (n=320)	59.2%	67.5%	37.1%	18.7%	7.3%	3.8%	5.0%
無回答 (n=52)	53.0%	41.9%	27.1%	15.0%	12.2%	4.2%	18.4%

※回答を見やすくするよう、回答率40%以上に濃い影、20%以上40%未満に薄い影をつけました。

## ② 居住形態別

居住形態別にみると、住まいの防火対策として「住宅用火災警報器の設置」と回答した市民の割合は、持ち家（分譲マンション）が83.4%と最も高く、次いで官公舎、社宅、寮が79.1%となっています。一方、借家（民間一戸建）が57.5%と低くなっています。

図表3-34-3 防火対策の実施状況（居住形態別）

n=3,604

	器 住 の 宅 設 置 火 災 警 報	設 住 置 宅 用 消 火 器 の	ン 安 口 全 の 装 使 置 用 付 き コ	の 感 設 震 置 ブ レ ー カ ー	品 の 燃 の 使 え 使 用 に （ く 防 火 炎 製 品	そ の 他	無 回 答
全体 (n=3,604)	68.5%	45.9%	43.1%	13.0%	10.1%	2.9%	5.2%
持ち家（一戸建）(n=2,648)	66.5%	45.6%	43.8%	14.1%	10.7%	2.7%	5.2%
持ち家（分譲マンション）(n=270)	83.4%	56.2%	45.6%	12.2%	12.2%	1.5%	3.0%
借家（民間一戸建）(n=30)	57.5%	30.3%	56.6%	13.4%	14.2%	3.3%	3.3%
借家（民間アパート、マンション）(n=352)	76.3%	38.0%	41.6%	8.1%	7.4%	2.0%	4.8%
公営住宅(n=76)	69.1%	38.6%	36.9%	7.1%	2.9%	5.3%	4.5%
官公舎、社宅、寮(n=57)	79.1%	39.3%	11.3%	8.7%	6.4%	8.7%	8.7%
その他(n=20)	35.8%	42.7%	24.9%	11.1%	7.1%	5.0%	21.5%
無回答(n=151)	60.9%	61.6%	43.7%	11.9%	5.3%	6.6%	8.6%

※回答を見やすくするよう、回答率40%以上に濃い影、20%以上40%未満に薄い影をつけました。

## (8) 自転車損害賠償保険等の加入状況

**問 26** あなたは、自転車損害賠償保険等（※）に加入していますか。（○はひとつ）

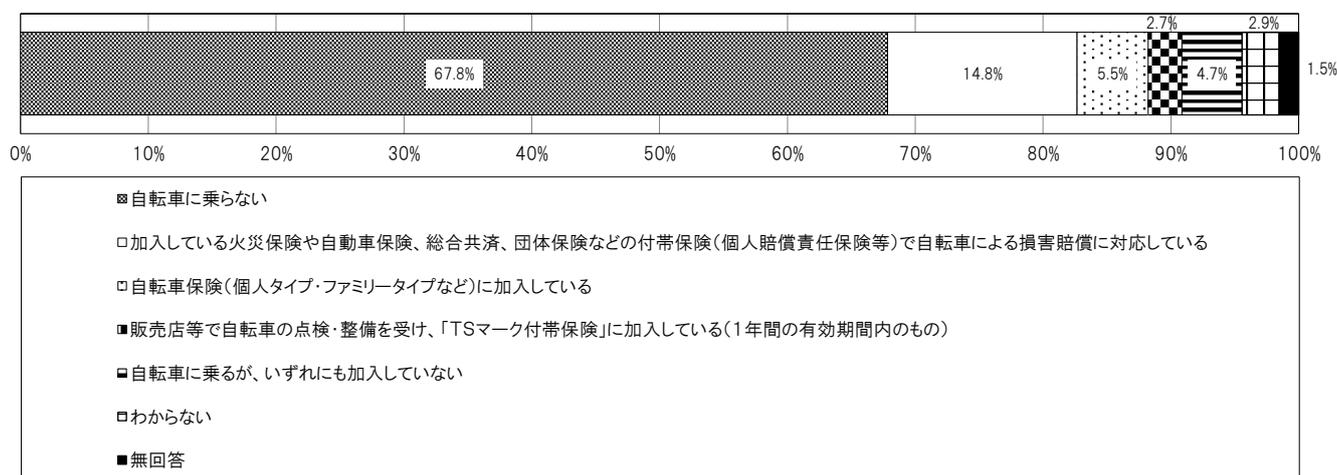
※「豊田市自転車の安全で適正な利用の促進に関する条例」において、自転車を利用する場合は自転車損害賠償保険等に加入することが義務付けられています。

### 1) 全体集計結果

自転車損害賠償保険等の加入状況は、「加入している火災保険や自動車保険、総合共済、団体保険などの付帯保険（個人賠償責任保険等）で自転車による損害賠償に対応している」が14.8%、「自転車保険（個人タイプ・ファミリータイプなど）に加入している」が5.5%、「自転車に乗るが、いずれにも加入していない」が4.7%となっています。また、「自転車に乗らない」と回答した市民の割合は、67.8%となっています。

図表3-35-1 自転車損害賠償保険等の加入状況

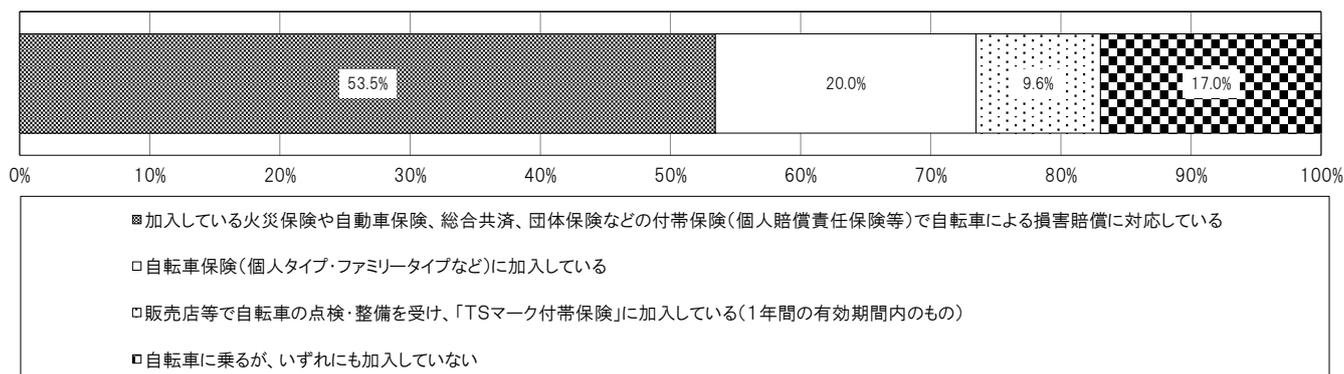
n=3,604



このうち、「自転車に乗らない」「わからない」「無回答」を除いて集計すると、「加入している火災保険や自動車保険、総合共済、団体保険などの付帯保険（個人賠償責任保険等）で自転車による損害賠償に対応している」が53.5%と最も高く、次いで「自転車保険（個人タイプ・ファミリータイプなど）に加入している」が20.0%となっています。

図表3-35-2 加入している自転車損害賠償保険の状況

n=999



## 7 国際交流

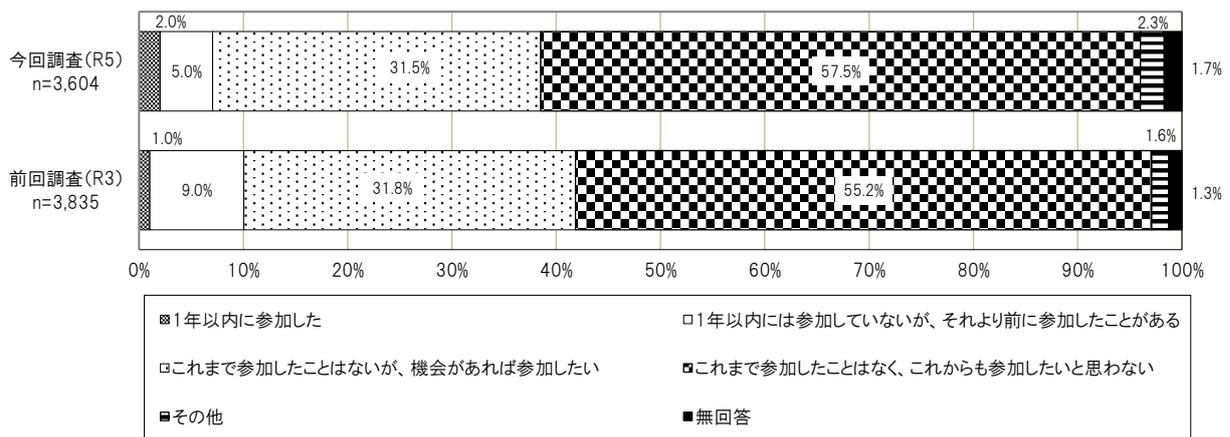
### (1) 国際交流活動の参加状況

**問 27** あなたは、国際交流に関する活動に参加したことがありますか。(○はひとつ)

#### 1) 全体集計結果

国際交流活動に参加したことがある(「1年以内に参加した」+「1年以内に参加したことはないが、それより前に参加したことがある」)と回答した市民の割合は、7.0%となっており、前回調査と比較して3.0ポイント減少しています。また、「これまで参加したことはないが、機会があれば参加したい」は31.5%で、前回調査と比較して0.3ポイント減少しています。一方、「これまで参加したことはなく、これからも参加したいとは思わない」と回答した市民の割合は、57.5%で前回調査と比較して2.3ポイント増加しています。

図表3-36-1 国際交流活動への参加状況(前回調査との比較)

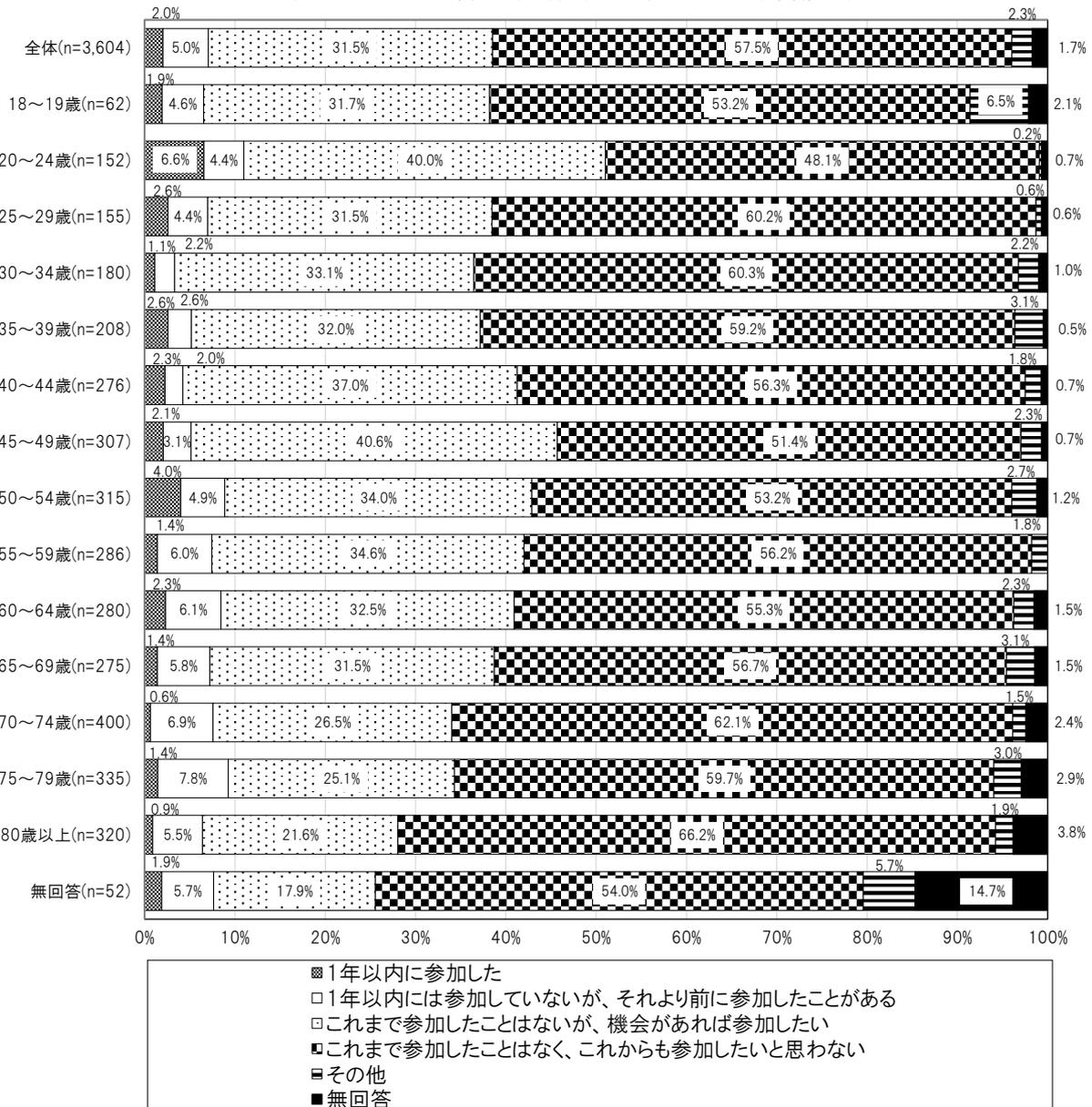


## 2) 属性分析結果

ここでは特徴的な結果が得られた「年齢別」の属性分析を行います。

年齢別にみると、国際交流活動に参加したことがあると回答した市民の割合は、20～24歳が11.0%と最も高く、次いで75～79歳が9.2%となっています。また、「これまで参加したことはないが、機会があれば参加したい」と回答した市民の割合は45～49歳が40.6%と最も高く、次いで20～24歳が40.0%となっています。

図表3-36-2 国際交流活動への参加状況(年齢別)



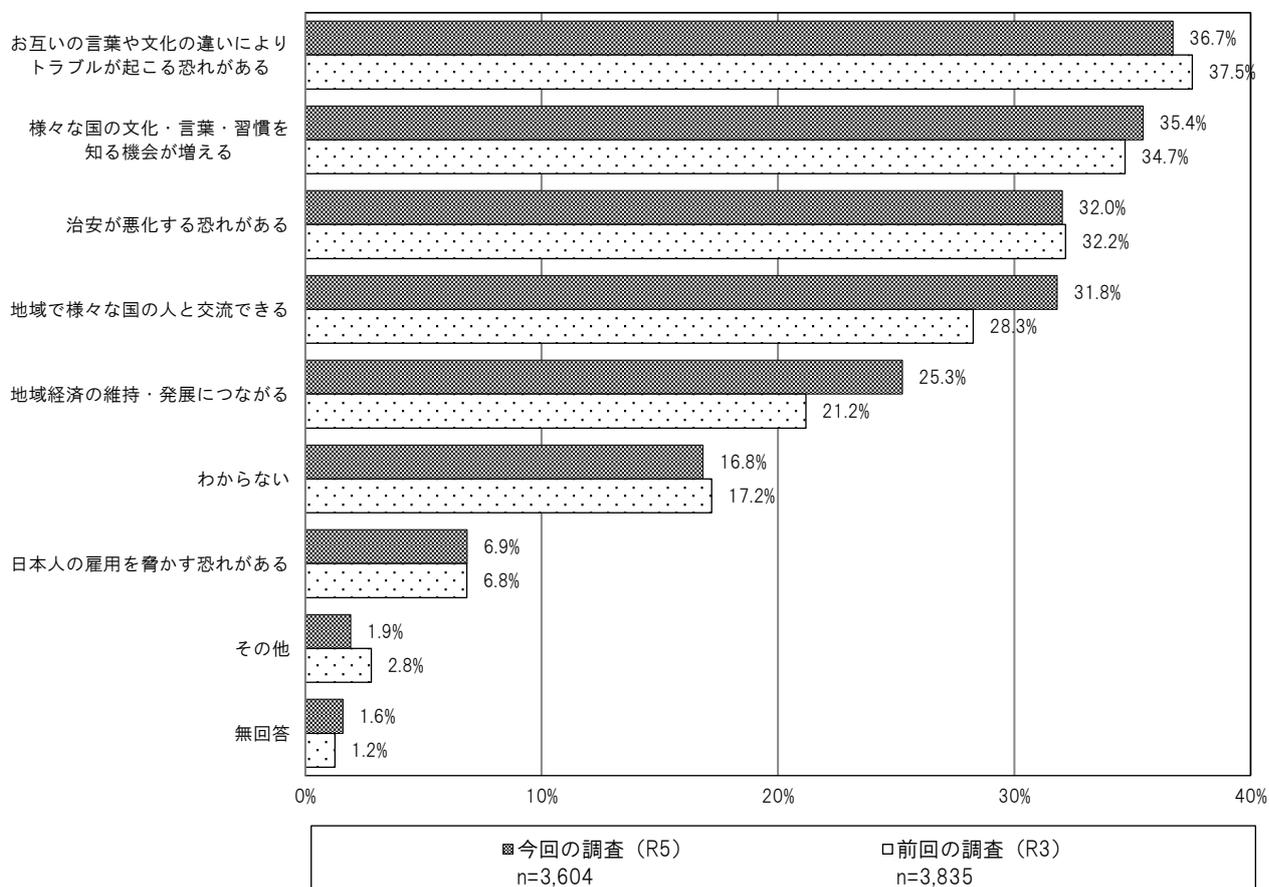
## (2) 外国住民への認識

<b>問 2 8</b>	豊田市は、県内でも外国人人口の多い自治体で、約 1 万 8 千人が居住されています。あなたは、市内に外国人住民が多いことについて、どう思いますか。(当てはまるもの全てに○)
--------------	--

### 1) 全体集計結果

市内に外国住民が多いことについて、「お互いの言葉や文化の違いによりトラブルが起こる恐れがある」と回答した市民の割合が 36.7%で、前回調査と比較して 0.8 ポイント減少しています。また、「様々な国の文化・言葉・習慣を知る機会が増える」と回答した市民の割合が 35.4%で前回調査と比較して 0.7 ポイント増加しています。

図表3-37-1 市内に外国人住民が多いことについて（前回調査との比較）



### 2) 属性分析結果

ここでは特徴的な結果が得られた「居住地区別」「年齢別」の属性分析を行います。

#### ① 居住地区別

居住地区別にみると、市内に外国住民が多いことについて、「お互いの言葉や文化の違いによりトラブルが起こる恐れがある」と回答した市民の割合は、保見が 44.8%と最も高く、次いで猿投が 42.9%、逢妻が 42.5%となっています。

図表3-37-2 市内に外国人住民が多いことについて（居住地区別）

n=3,604

	こり文お るト化互 恐ラのい れブ達の がルいい あがに葉 る起よや	えを化様 る知・々 る言業な 機会・の が習文 増慣	恐治 れ安 があ悪 る化 する	るの地 人とで 交流々 でき国	が持地 る・域経 発展済 につ維 な	わ か ら な い	る脅日 かす本 す人の 恐れ雇 があを	そ の 他	無 回 答
全体 (n=3,604)	36.7%	35.4%	32.0%	31.8%	25.3%	16.8%	6.9%	1.9%	1.6%
逢妻 (n=261)	42.5%	32.6%	38.7%	29.9%	24.1%	16.1%	6.9%	1.5%	1.1%
朝日丘 (n=231)	35.5%	42.4%	32.9%	37.2%	26.8%	13.0%	5.2%	2.2%	0.4%
井郷 (n=108)	41.7%	33.3%	36.1%	27.8%	22.2%	16.7%	8.3%	1.9%	1.9%
石野 (n=89)	31.5%	46.1%	21.3%	38.2%	24.7%	15.7%	7.9%	2.2%	4.5%
梅坪台 (n=107)	39.3%	28.0%	33.6%	28.0%	25.2%	19.6%	8.4%	1.9%	0.0%
上郷 (n=145)	40.0%	37.9%	33.8%	31.0%	22.1%	14.5%	7.6%	2.1%	4.1%
猿投 (n=112)	42.9%	31.3%	30.4%	32.1%	17.9%	17.0%	10.7%	1.8%	0.0%
猿投台 (n=115)	41.7%	33.0%	31.3%	33.0%	16.5%	15.7%	5.2%	2.6%	1.7%
浄水 (n=124)	38.7%	33.9%	35.5%	29.0%	24.2%	14.5%	2.4%	4.8%	2.4%
末野原 (n=176)	39.8%	39.8%	29.0%	34.7%	30.1%	15.3%	6.3%	1.1%	1.1%
崇化館 (n=204)	35.8%	41.2%	35.3%	35.3%	30.9%	10.8%	5.9%	3.4%	0.5%
高岡(若林) (n=199)	34.2%	28.6%	31.7%	32.2%	36.2%	15.1%	9.0%	1.5%	0.5%
高橋 (n=177)	37.3%	28.8%	31.6%	23.2%	19.2%	23.2%	6.2%	1.7%	2.3%
豊南 (n=218)	39.4%	40.4%	31.2%	33.9%	30.7%	13.8%	4.6%	2.3%	1.4%
保見 (n=116)	44.8%	31.0%	36.2%	31.0%	19.8%	14.7%	6.0%	1.7%	2.6%
前林 (n=132)	32.6%	35.6%	27.3%	34.1%	26.5%	16.7%	6.8%	0.8%	0.8%
益富 (n=109)	38.5%	44.0%	27.5%	33.9%	29.4%	9.2%	2.8%	0.0%	1.8%
松平 (n=104)	32.7%	32.7%	39.4%	29.8%	23.1%	19.2%	8.7%	0.0%	1.0%
美里 (n=152)	28.9%	36.8%	30.3%	34.9%	17.1%	21.1%	5.3%	2.6%	2.6%
竜神 (n=190)	31.1%	37.9%	27.4%	34.2%	30.0%	19.5%	8.9%	2.1%	0.5%
若園 (n=104)	36.5%	32.7%	35.6%	26.0%	26.9%	20.2%	12.5%	1.9%	1.9%
旭 (n=98)	32.7%	33.7%	29.6%	33.7%	27.6%	16.3%	10.2%	1.0%	1.0%
足助 (n=106)	38.7%	43.4%	32.1%	36.8%	20.8%	15.1%	4.7%	2.8%	3.8%
稲武 (n=96)	25.0%	38.5%	18.8%	31.2%	24.0%	24.0%	4.2%	1.0%	4.2%
小原 (n=100)	31.0%	40.0%	35.0%	32.0%	27.0%	23.0%	13.0%	1.0%	3.0%
下山 (n=98)	29.6%	39.8%	23.5%	33.7%	24.5%	25.5%	6.1%	3.1%	1.0%
藤岡 (n=122)	38.5%	34.4%	30.3%	29.5%	23.0%	19.7%	8.2%	0.8%	0.0%
藤岡南 (n=68)	27.9%	44.1%	30.9%	35.3%	20.6%	19.1%	8.8%	1.5%	1.5%
無回答 (n=175)	29.7%	23.4%	26.9%	25.7%	22.3%	25.1%	7.4%	1.7%	4.6%

※回答を見やすくするよう、回答率40%以上に濃い影、20%以上40%未満に薄い影をつけました。

## ② 年齢別

年齢別にみると、市内に外国住民が多いことについて、「お互いの言葉や文化の違いによりトラブルが起こる恐れがある」と回答した市民の割合は、65～69歳が43.4%と最も高く、次いで45～49歳が42.6%となっています。また、「様々な国の文化・言葉・習慣を知る機会が増える」と回答した市民の割合は、20～24歳と30～49歳までの年齢層で高い傾向が見られます。

図表3-37-3 市内に外国人住民が多いことについて（年齢別） n=3,604

	るのお が違互 起いの こにの るよ言 恐れ葉 がトラ あ文 ぶ化	が葉様 増・々 え習な る慣国 をの文 知化 機・化 会言	が治 あ安 るが 悪 化 す る 恐 れ	と地 交域 流で でき る々 な 国 の 人	展地 に域 つ経 な済 がるの 維持 ・発	わ か ら な い	す日 恐本 れ人の があ る雇 用 を 脅 か	そ の 他	無 回 答
全体 (n=3,604)	36.7%	35.4%	32.0%	31.8%	25.3%	16.8%	6.9%	1.9%	1.6%
18～19歳 (n=62)	27.2%	36.2%	25.4%	29.8%	18.1%	25.9%	8.7%	3.2%	0.0%
20～24歳 (n=152)	22.8%	42.1%	22.4%	44.8%	27.0%	14.2%	5.0%	1.8%	0.0%
25～29歳 (n=155)	30.1%	36.1%	30.1%	31.4%	27.7%	17.0%	8.3%	2.2%	0.6%
30～34歳 (n=180)	33.7%	48.0%	34.8%	38.1%	31.2%	15.1%	10.6%	1.1%	0.7%
35～39歳 (n=208)	41.0%	43.6%	36.0%	43.8%	24.2%	11.2%	6.6%	2.8%	0.0%
40～44歳 (n=276)	37.6%	45.8%	36.7%	38.5%	22.3%	12.8%	7.8%	1.8%	0.4%
45～49歳 (n=307)	42.6%	40.1%	37.7%	37.7%	20.0%	10.9%	7.7%	2.4%	0.0%
50～54歳 (n=315)	40.9%	40.0%	38.8%	35.2%	25.9%	11.2%	8.0%	1.9%	0.4%
55～59歳 (n=286)	42.0%	35.1%	30.1%	31.0%	26.6%	15.8%	5.5%	2.1%	0.0%
60～64歳 (n=280)	41.3%	37.1%	31.7%	28.8%	26.5%	16.1%	7.0%	1.3%	0.5%
65～69歳 (n=275)	43.4%	29.6%	30.5%	30.9%	31.9%	15.9%	5.4%	1.6%	1.3%
70～74歳 (n=400)	40.1%	27.8%	31.9%	22.5%	24.2%	19.6%	6.8%	0.8%	3.7%
75～79歳 (n=335)	30.2%	31.0%	30.4%	27.9%	26.2%	20.4%	3.9%	2.8%	2.9%
80歳以上 (n=320)	27.5%	23.5%	26.3%	22.9%	22.6%	27.6%	8.3%	2.7%	5.3%
無回答 (n=52)	20.8%	11.5%	16.5%	15.3%	17.2%	36.6%	1.9%	0.0%	12.8%

※回答を見やすくするよう、回答率40%以上に濃い影、20%以上40%未満に薄い影をつけました。

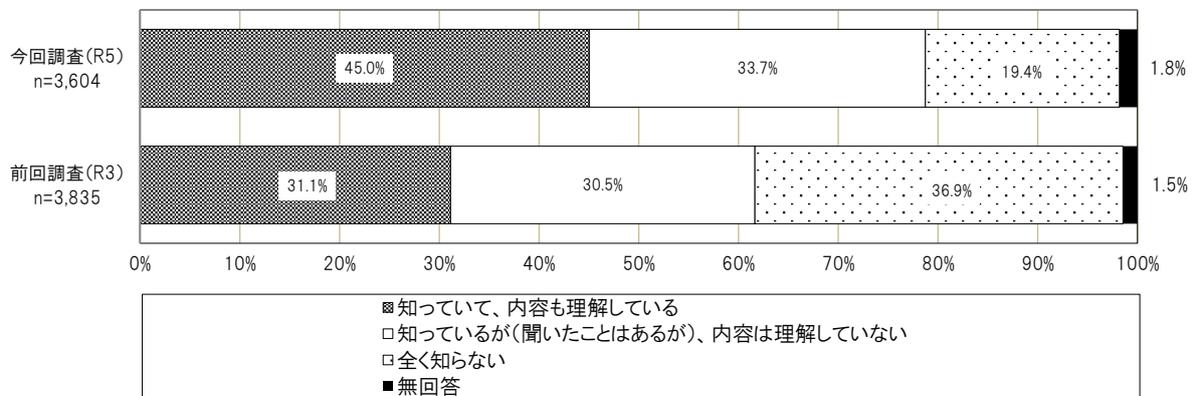
## 8 SDGs（持続可能な開発目標）

問29-1	あなたは、SDGs（持続可能な開発目標）について知っていますか。（○はひとつ）
-------	---

### 1) 全体集計結果

SDGs（持続可能な開発目標）について知っている（「知っている、内容も理解している」+「知っているが（聞いたことはあるが）、内容は理解していない」）と回答した市民の割合は78.7%で前回調査と比較して17.1ポイント増加しています。一方、「全く知らない」と回答した市民の割合は、19.4%で前回調査と比較して17.5ポイント減少しています。

図表3-38-1 SDGsについて(前回調査との比較)

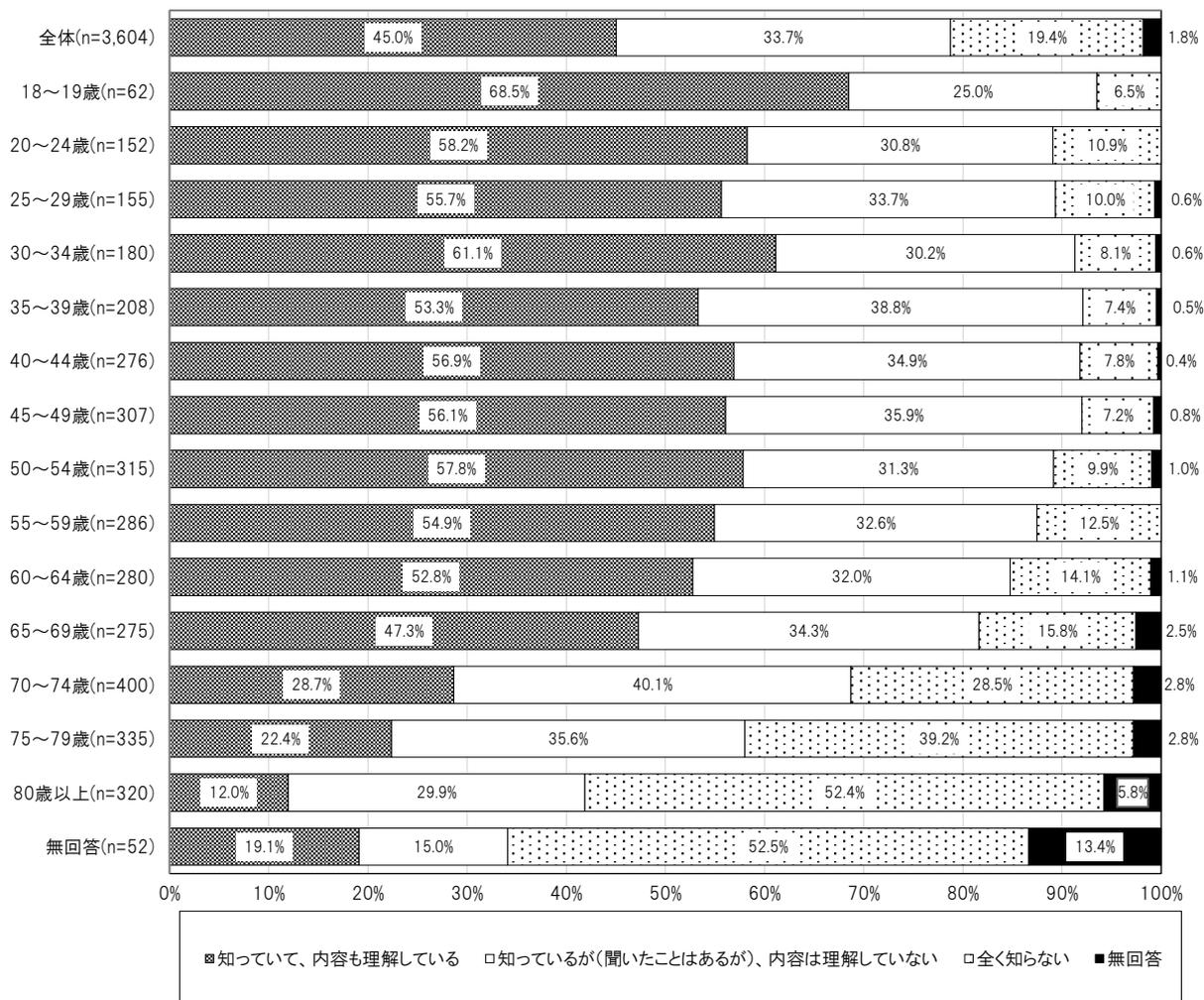


## 2) 属性分析結果

ここでは特徴的な結果が得られた「年齢別」の属性分析を行います。

年齢別にみると、SDGs（持続可能な開発目標）について知っていると回答した市民の割合は、18～19歳が93.5%と最も高く、次いで35～39歳が92.1%、45～49歳が92.0%となっています。一方、80歳以上では41.9%、75～79歳では58.0%と低くなっています。

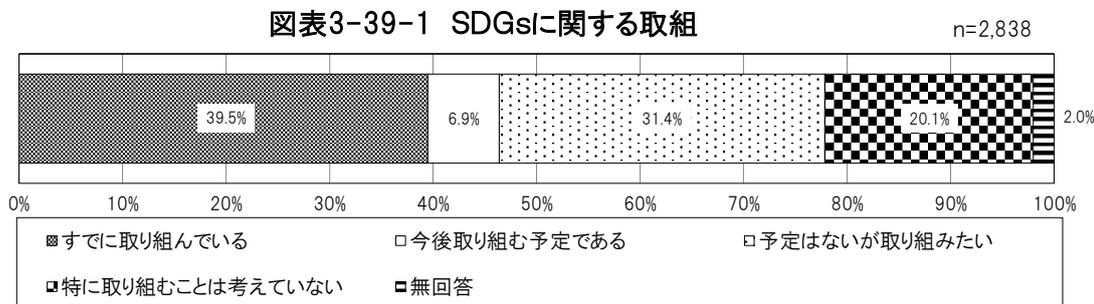
図表3-38-2 SDGsについて(年齢別)



**問29-2** 問29-1で「1 知っていて、内容も理解している」または「2 知っているが（聞いたことはあるが）、内容は理解していない」とお答えの方にお聞きします。SDGsに関する取組を行っていますか。なお、取組を行う単位は問いません（個人または所属されている企業・団体など）。（○はひとつ）

### 1) 全体集計結果

SDGs（持続可能な開発目標）について、知っている（「知っていて、内容も理解している」+「知っているが（聞いたことはあるが）、内容は理解していない」と回答した市民が、SDGsに関する取組を行っているかについては、「すでに取り組んでいる」が39.5%で最も高く、次いで「予定はないが取り組みたい」が31.4%、「特に取り組むことは考えていない」が20.1%となっています。

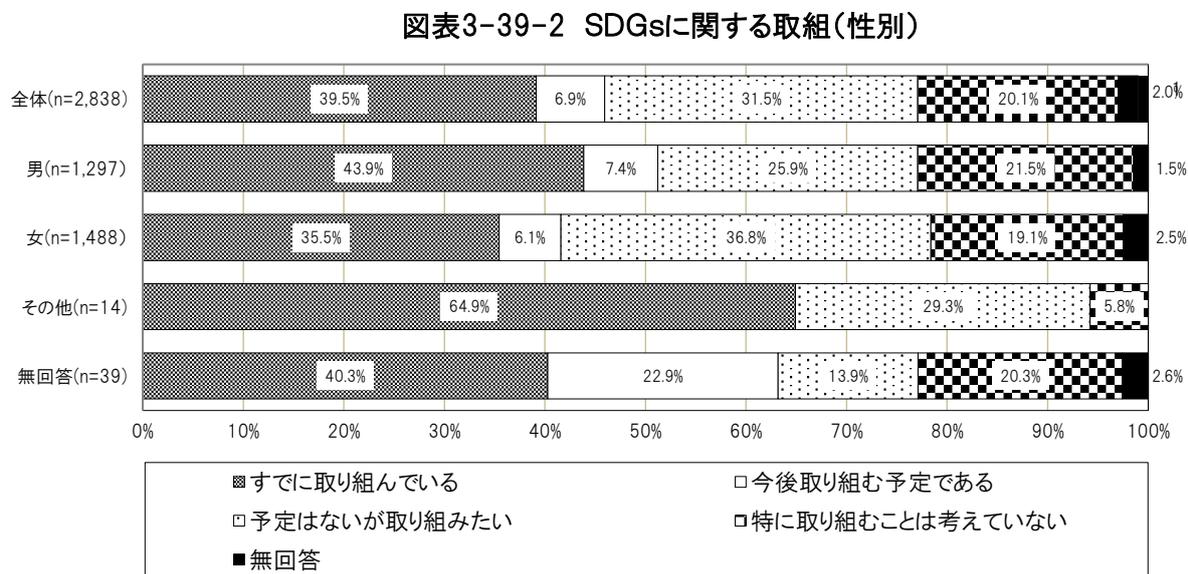


### 2) 属性分析結果

ここでは特徴的な結果が得られた「性別」「年齢別」「職業別」の属性分析を行います。

#### ① 性別

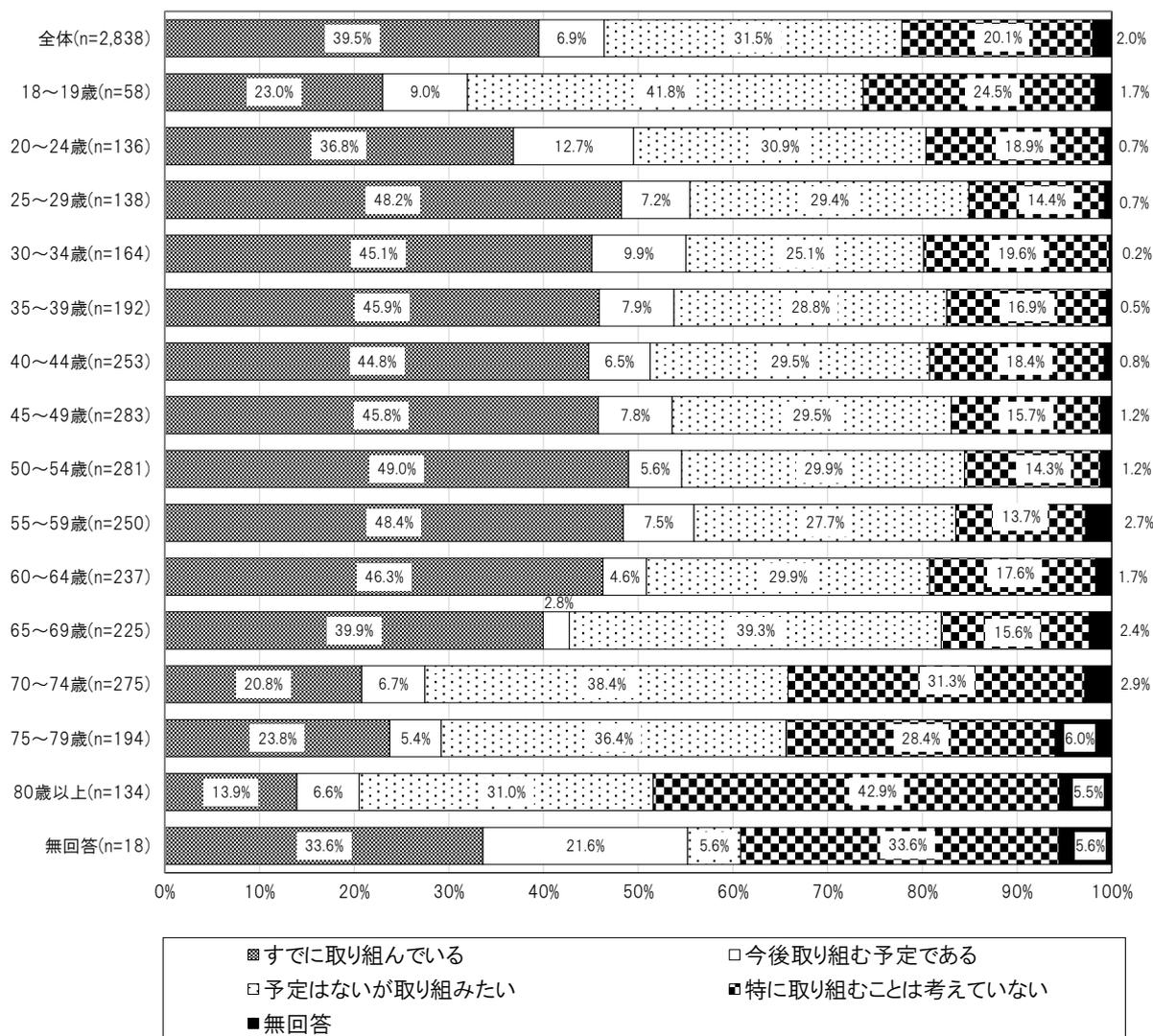
性別でみると、すでに取り組んでいると回答した市民の割合は、男性は43.9%で、女性では35.5%となっています。



## ② 年齢別

年齢別でみると、すでに取り組んでいると回答した市民の割合は、50～54歳が49.0%で最も高く、次いで55～59歳で48.4%となっています。一方、80歳以上では13.9%、70～74歳で20.8%と低くなっています。

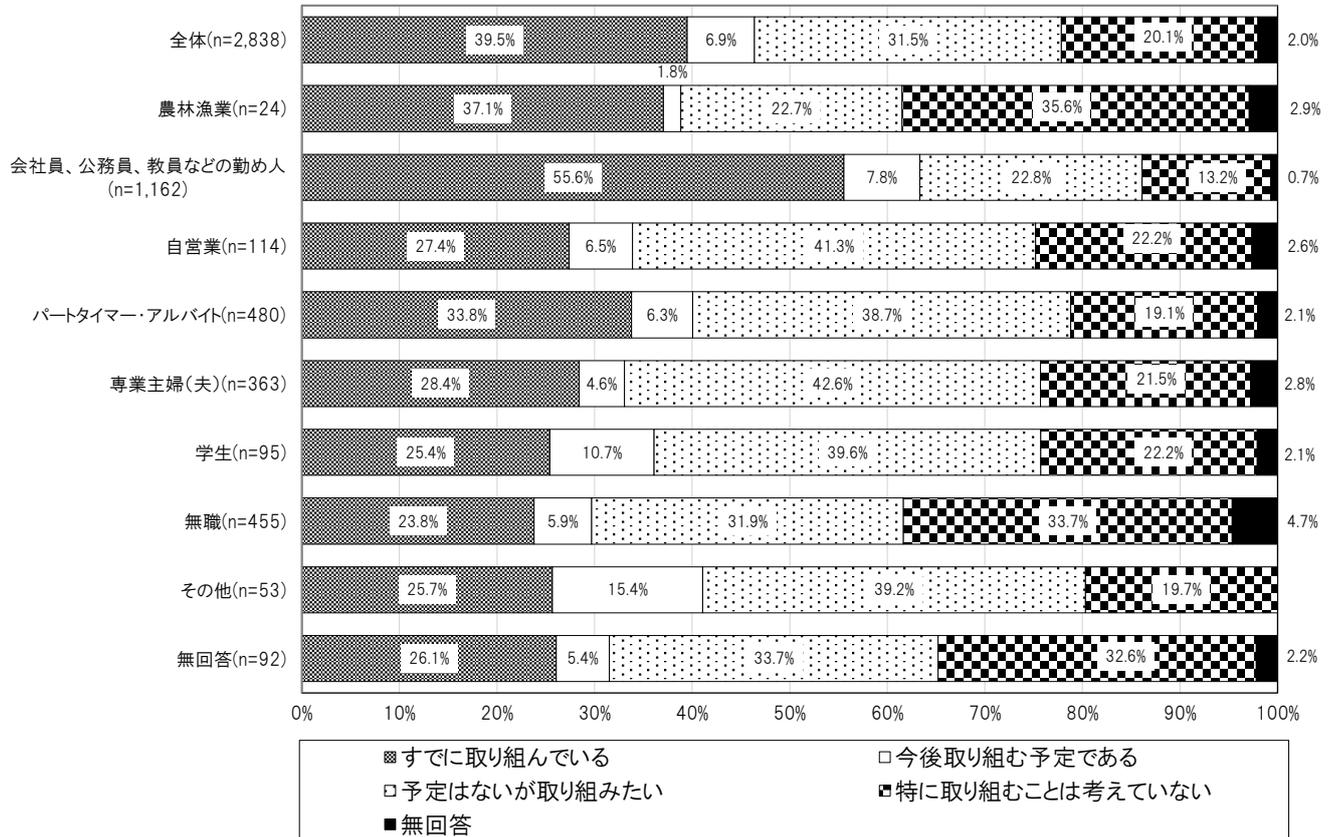
図表3-39-3 SDGsに関する取組(年齢別)



### ③ 職業別

職業別にみると、すでに取り組んでいると回答した市民の割合は、会社員、公務員、教員などの勤め人が 55.6%で最も高く、次いで農林漁業で 37.1%となっています。一方、無職では 23.8%、学生で 25.4%と低くなっています。

図表3-39-4 SDGsに関する取組(職業別)



## 9 地域活動やボランティア活動

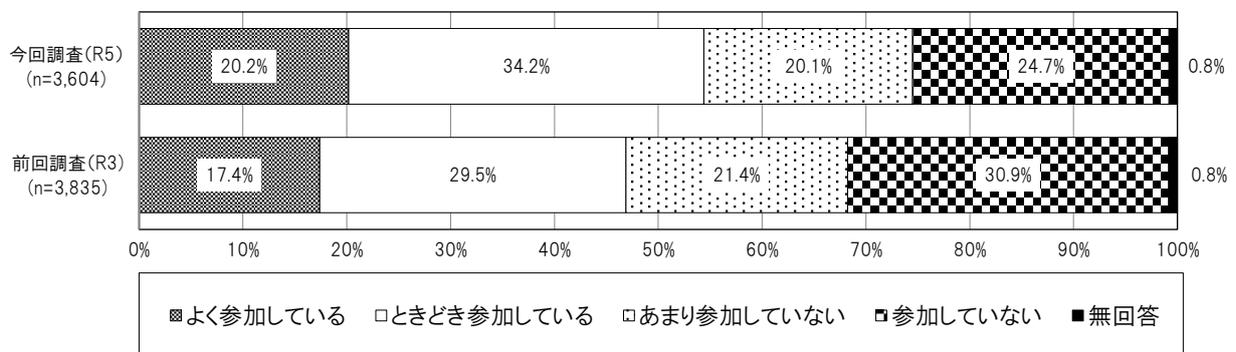
### (1) 自治区・地域活動への参加状況

<b>問30</b>	あなたは、地域の活動（自治区活動や地域の行事など）に参加していますか。 （○はひとつ）
------------	--

#### 1) 全体集計結果

地域の活動に参加している（「よく参加している」＋「ときどき参加している」）と回答した市民の割合は、54.4%となっており、前回調査と比較して7.5ポイント増加しています。

図表3-40-1 自治区・地域活動への参加(前回調査との比較)



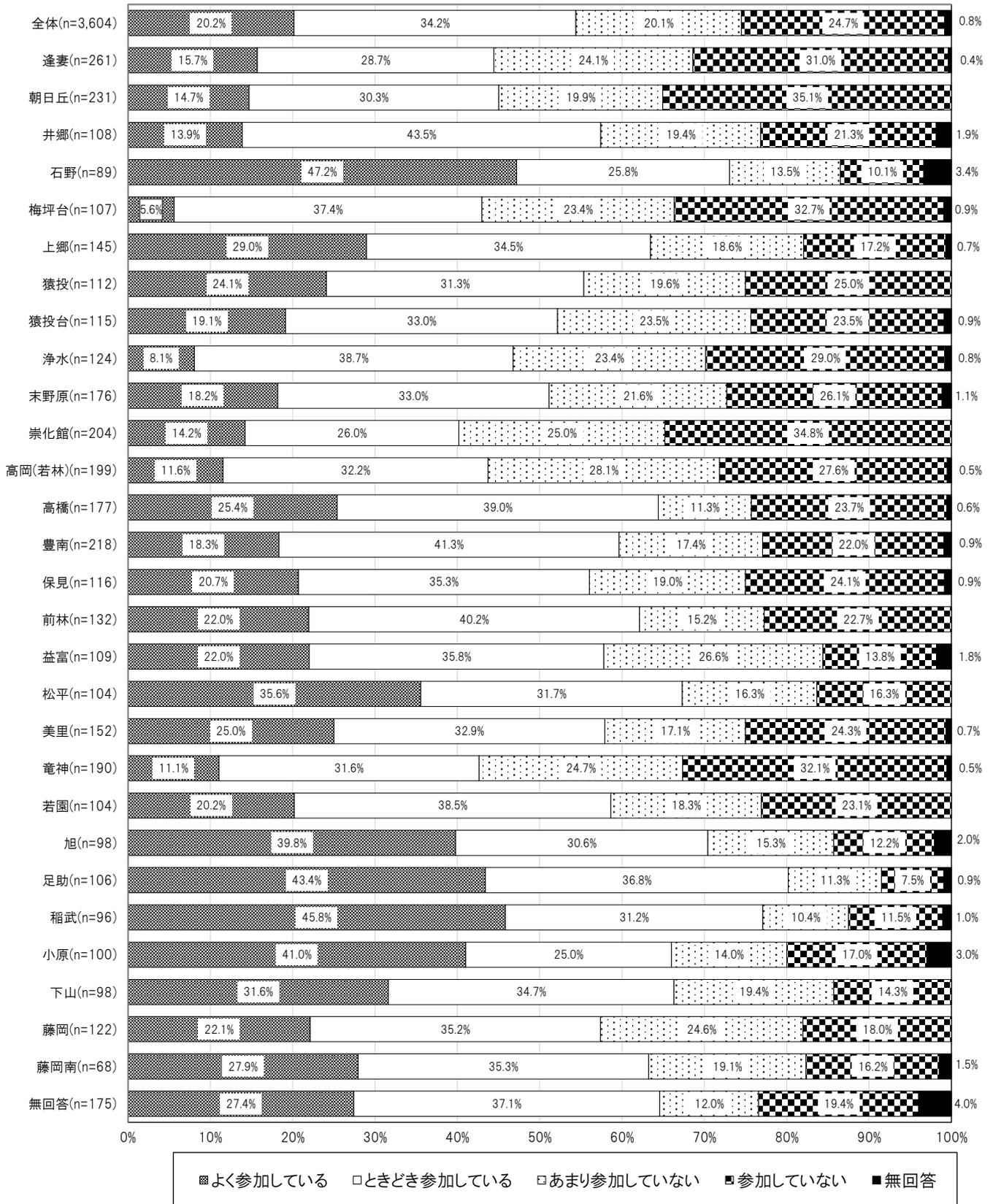
#### 2) 属性分析結果

ここでは特徴的な結果が得られた「居住地区別」「年齢別」「居住形態別」「家族構成別」の属性分析を行います。

##### ① 居住地区別

居住地区別にみると、地域の活動に参加していると回答した市民の割合は、足助が80.2%と最も高く、次いで稲武が77.0%となっています。特に、石野は「よく参加している」と回答した市民の割合が47.2%と最も高くなっています。また、足助、稲武、小原も「よく参加している」と回答した市民の割合が40%を超えています。一方、地域の活動に参加していない（「あまり参加していない」＋「参加していない」）と回答した市民の割合は、崇化館が59.8%、竜神が56.8%、梅坪台が56.1%と高くなっています。

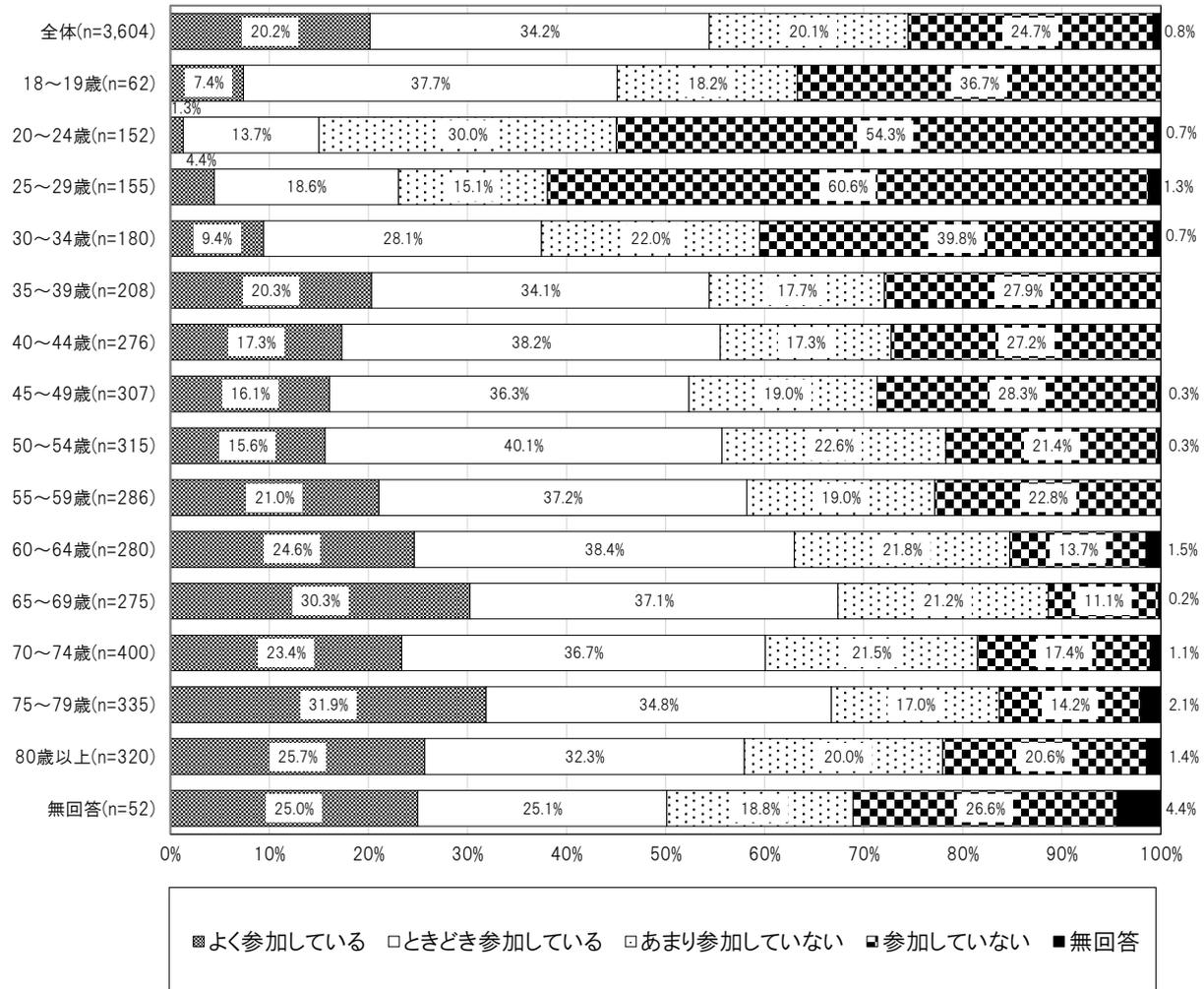
図表3-40-2 自治区・地域活動への参加(居住地区別)



## ② 年齢別

年齢別にみると、地域の活動に参加していると回答した市民の割合は、65～69歳が67.4%と最も高く、次いで75～79歳が66.7%、60～64歳が63.0%となっています。一方、20～24歳が15.0%、25～29歳が23.0%と低くなっています。

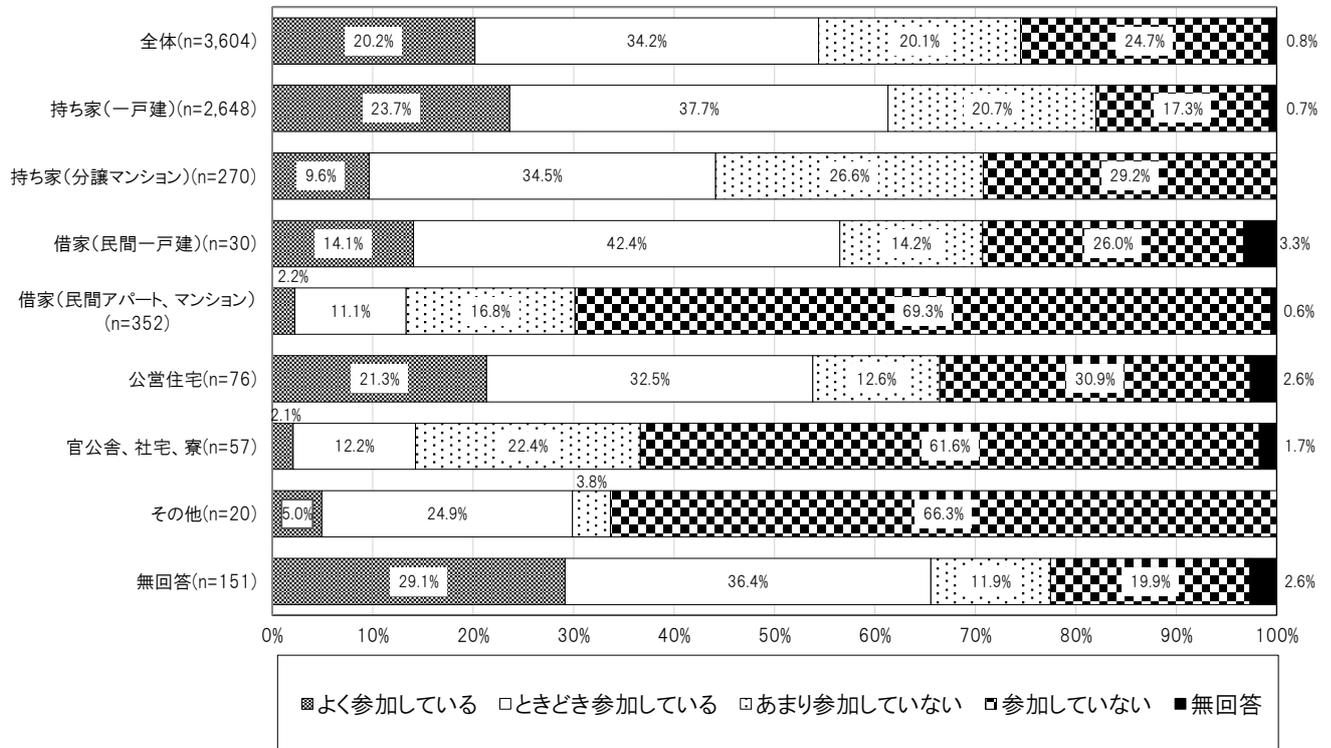
図表3-40-3 自治区・地域活動への参加(年齢別)



### ③ 居住形態別

居住形態別にみると、地域の活動に参加していると回答をした市民の割合は、持ち家（一戸建）が61.4%と最も高く、次いで借家（民間一戸建）が56.5%となっています。一方、借家（民間アパート、マンション）が13.3%と低くなっています。

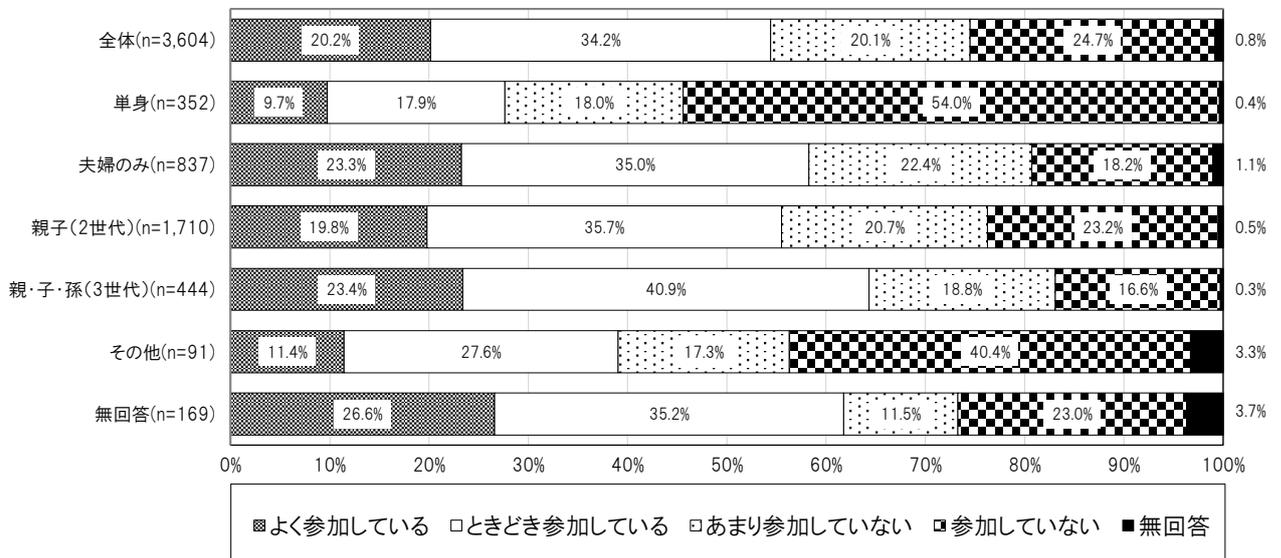
図表3-40-4 自治区・地域活動への参加(居住形態別)



### ④ 家族構成別

家族構成別にみると、地域の活動に参加していると回答をした市民の割合は、親・子・孫（3世代）世帯が64.3%と最も高く、次いで夫婦のみ世帯が58.3%となっています。一方、単身世帯が27.6%と低くなっています。

図表3-40-5 自治区・地域活動への参加(家族構成別)



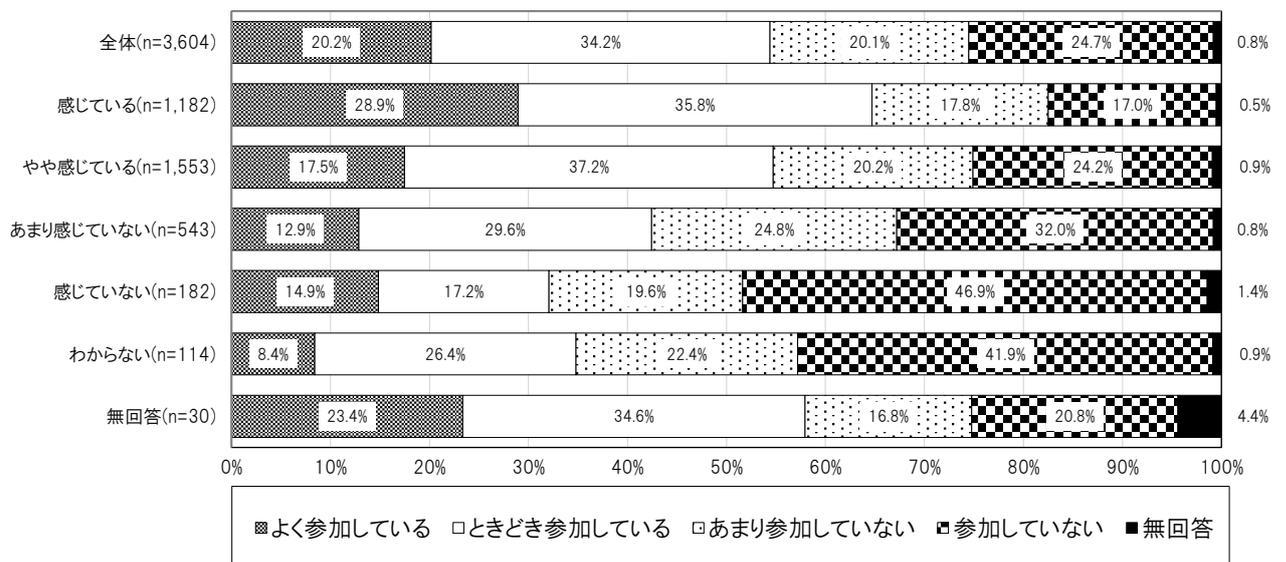
### 3) 設問間分析結果

ここでは特徴的な結果が得られた「自治区・地域活動への参加状況」と「今の豊田市や居住地域への愛着」「実際の近所づきあい」の設問間分析を行います。

#### ① 豊田市や居住地域への愛着別

豊田市や居住地域への愛着別にみると、地域の活動に参加していると回答した市民の割合は、「感じている」と回答した市民で64.7%と最も高くなっています。一方、「感じていない」と回答した市民では32.1%と低くなっています。地域の活動に参加していると回答した市民の割合は、今の豊田市や居住地域への愛着を感じている市民ほど高い傾向にあります。

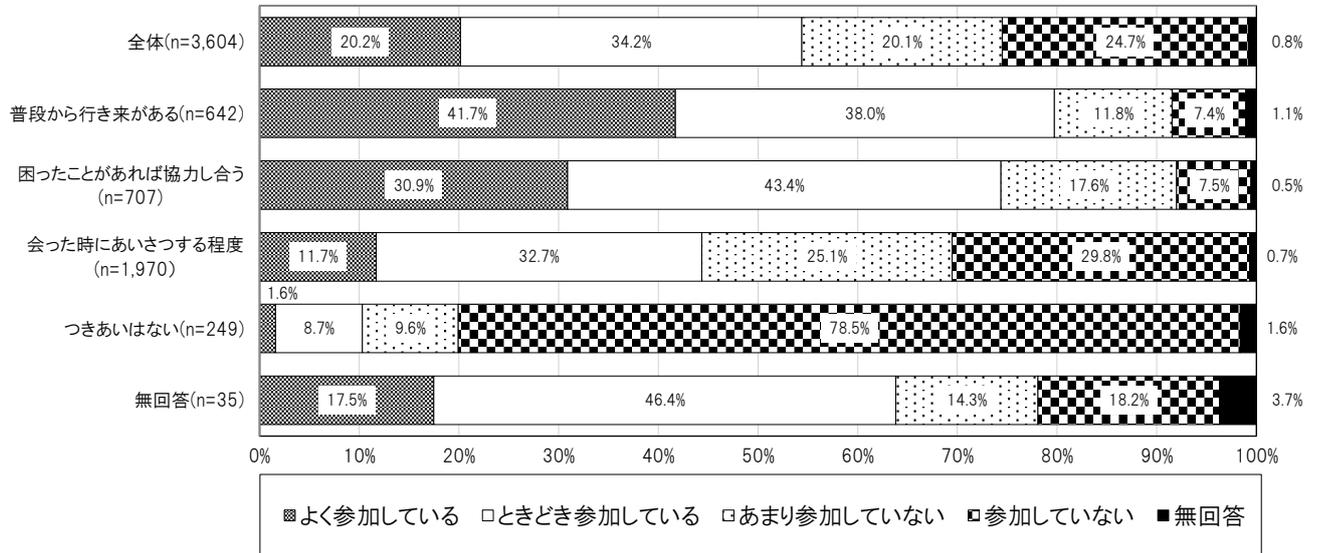
図表3-40-6 自治区・地域活動への参加(地域への愛着別)



## ② 実際の近所づきあいの状況別

実際の近所づきあいの状況でみると、地域の活動に参加していると回答した市民の割合は、「普段から行き来がある」と回答した市民で 79.7%と最も高くなっています。一方、「つきあいはない」と回答した市民では 10.3%と低くなっています。地域の活動に参加していると回答をした市民の割合は、実際の近所づきあいが多いほど高くなる傾向にあります。

図表3-40-7 自治区・地域活動への参加(近所づきあい別)



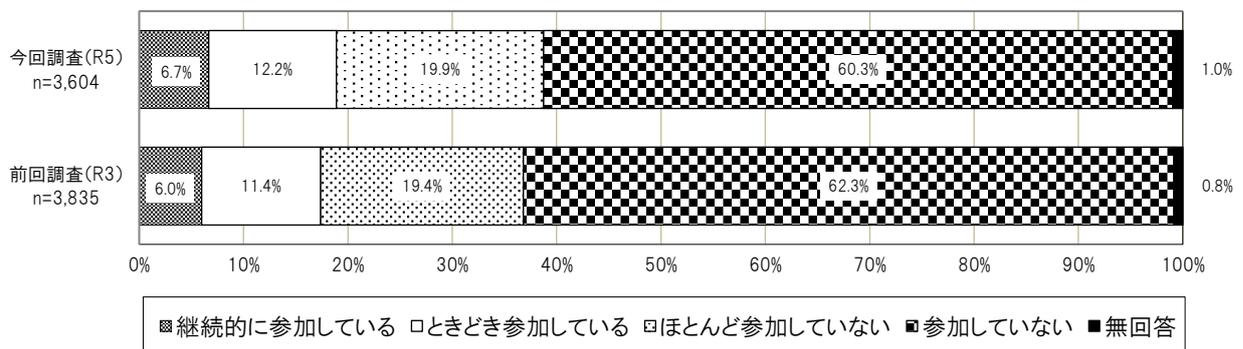
## (2) ボランティア・NPO活動への参加状況

<b>問31</b>	あなたは、ボランティア活動やNPO活動などに参加していますか。(○はひとつ)
------------	--

### 1) 全体集計結果

ボランティア活動やNPO活動に参加している(「継続的に参加している」+「ときどき参加している」と回答した市民の割合は、18.9%となっており、前回調査と比較して1.5ポイント増加しています。

図表3-41-1 ボランティア・NPO活動への参加状況(前回調査との比較)



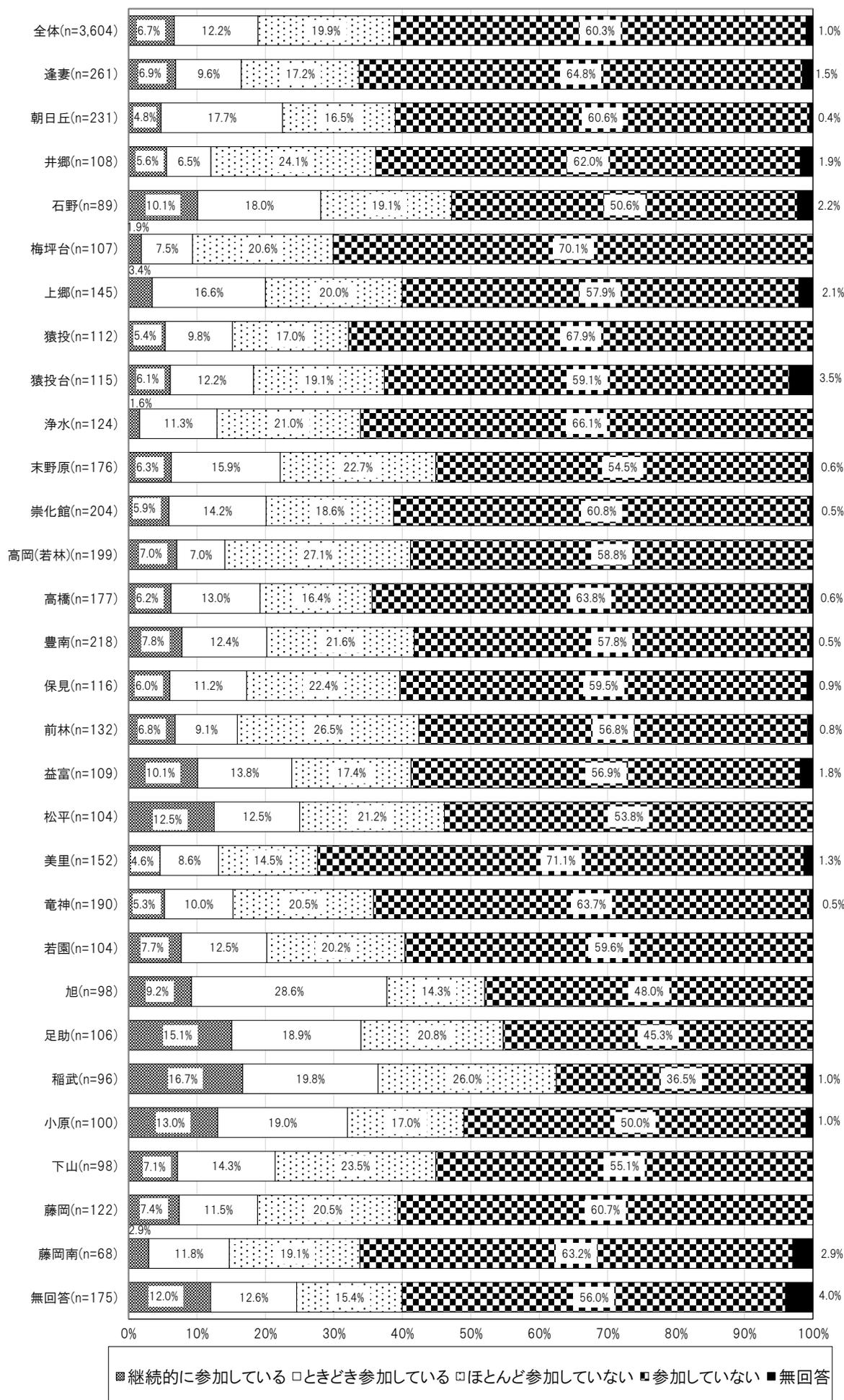
### 2) 属性分析結果

ここでは特徴的な結果が得られた「居住地区別」「年齢別」「職業別」の属性分析を行います。

#### ① 居住地区別

居住地区別にみると、ボランティア活動やNPO活動に参加していると回答した市民の割合は、旭が37.8%と最も高く、次いで稲武が36.5%、足助が34.0%となっています。一方、梅坪台が9.4%、井郷が12.1%、浄水が12.9%と低くなっています。

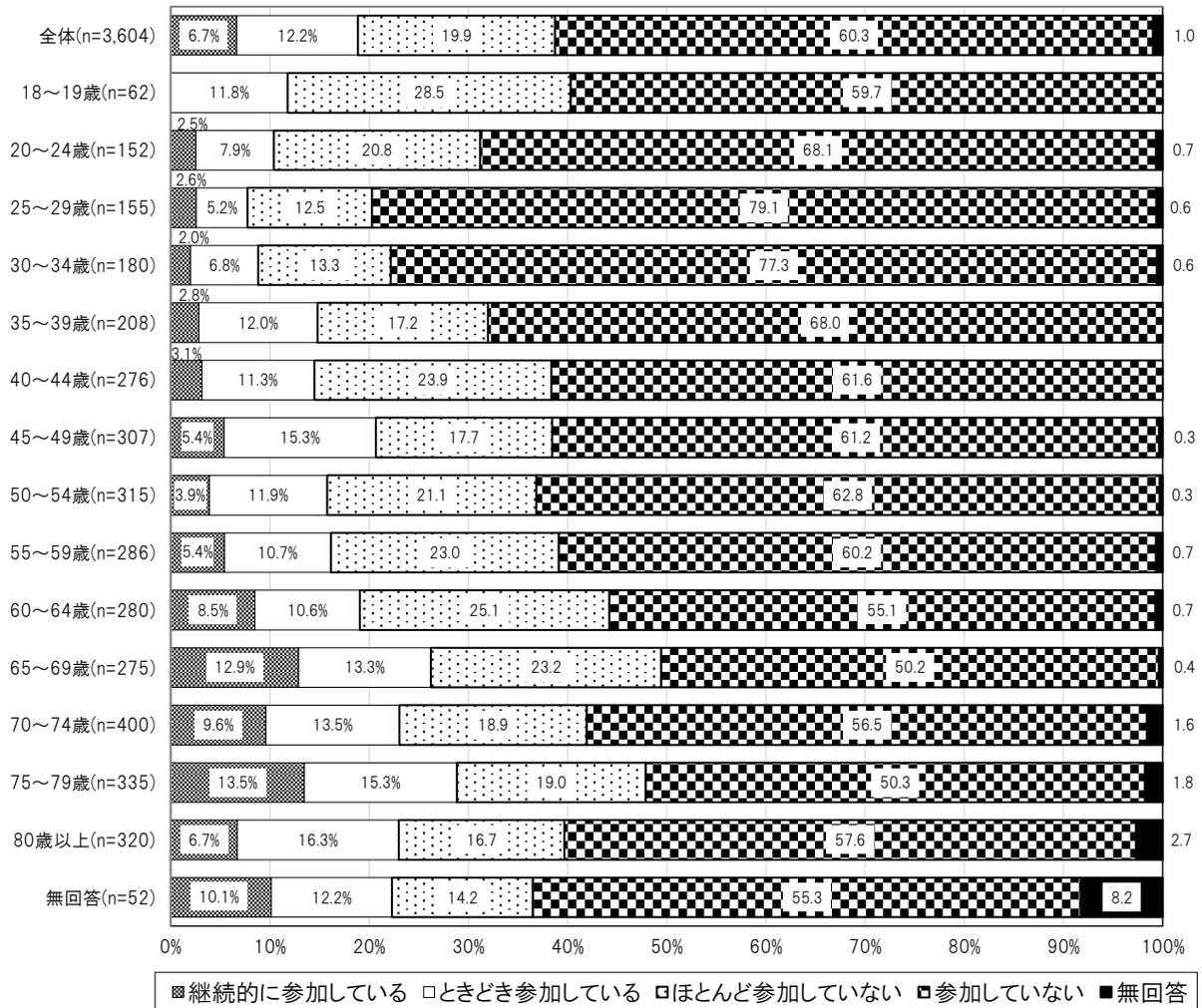
図表3-41-2 ボランティア・NPO活動への参加状況(居住地区別)



## ② 年齢別

年齢別にみると、ボランティア活動やNPO活動に参加していると回答した市民の割合は、75～79歳が28.8%と最も高くなっています。ボランティア活動やNPO活動に参加していると回答した市民の割合は、65歳以上の年代で増加する傾向があります。

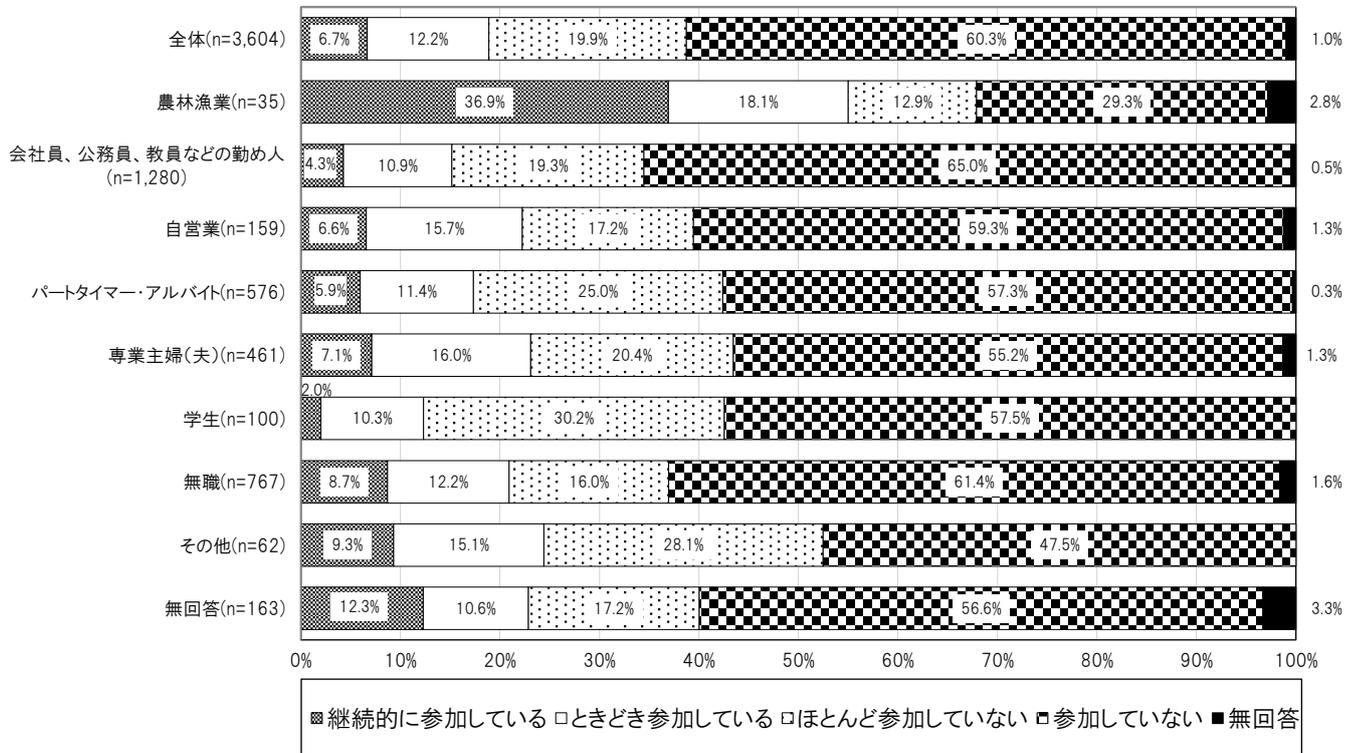
図表3-41-3 ボランティア・NPO活動への参加状況(年齢別)



### ③ 職業別

職業別にみると、ボランティア活動やNPO活動に参加していると回答した市民の割合は、農林漁業が55.0%と最も高く、次いで専業主婦（夫）が23.1%となっています。一方、学生が12.3%、会社員、公務員、教員などの勤め人が15.2%と低くなっています。

図表3-41-4 ボランティア・NPO活動への参加状況(職業別)



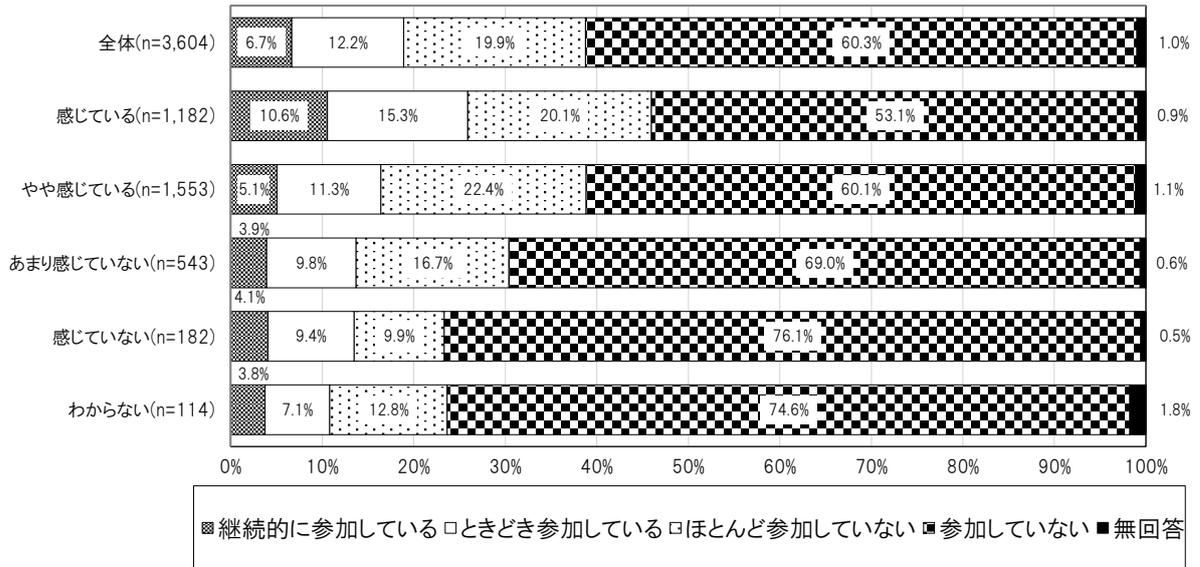
## 3) 設問間分析結果

ここでは特徴的な結果が得られた「ボランティア・NPO活動への参加状況」と「豊田市や居住地域への愛着」「自治区・地域活動への参加状況」の設問間分析を行います。

### ① 豊田市や居住地域への愛着別

豊田市や居住地域への愛着別にみると、ボランティア活動やNPO活動に参加していると回答した市民の割合は、「感じている」と回答した市民が25.9%と最も高くなっています。一方、「感じていない」と回答した市民では13.5%と低くなっています。ボランティア活動やNPO活動に参加していると回答した市民の割合は、豊田市や居住地域への愛着を感じているほど高い傾向にあります。

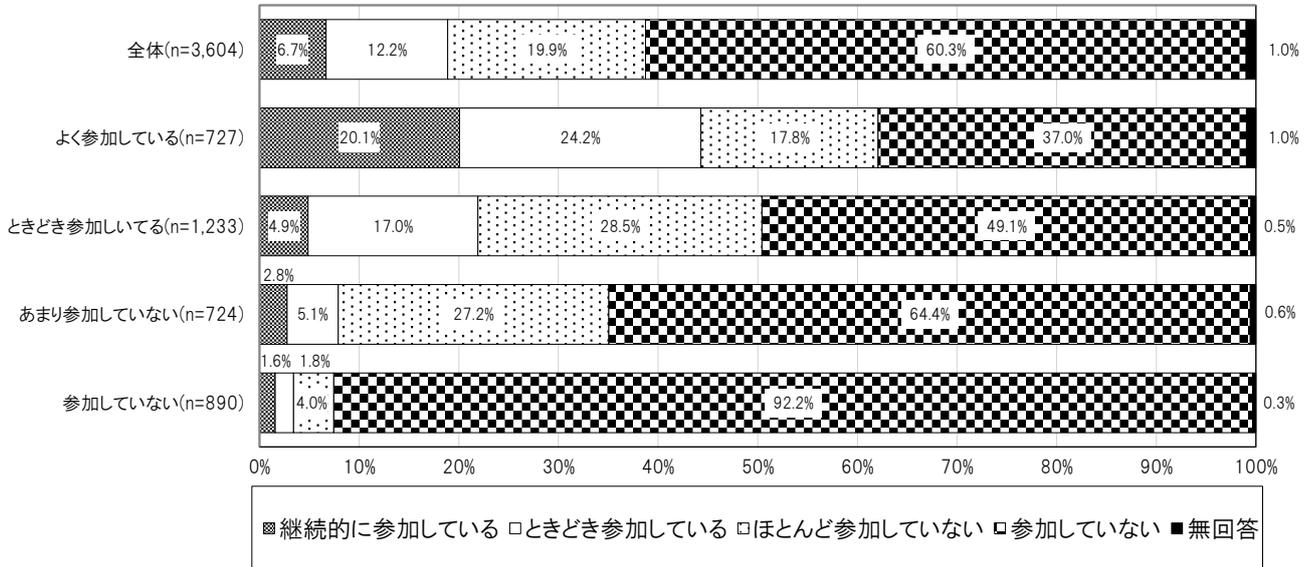
図表3-41-5 ボランティア・NPO活動への参加(地域への愛着別)



② 自治区・地域活動への参加状況別

自治区・地域活動への参加状況別にみると、ボランティア活動やNPO活動に参加していると回答した市民の割合は、「よく参加している」と回答した市民で44.3%と最も高くなっています。一方、「参加していない」と回答した市民では3.4%と低くなっています。

図表3-45-6 ボランティア・NPO活動への参加(地域活動への参加状況別)



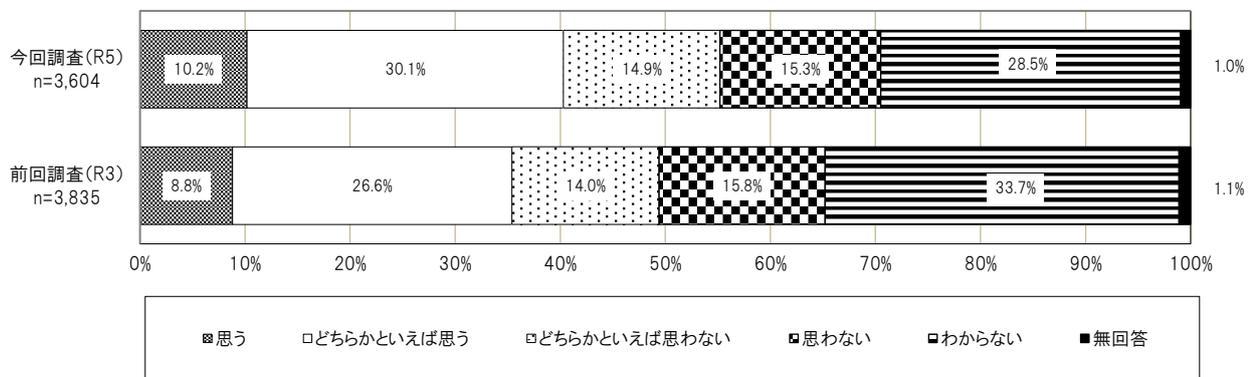
## 10 行政サービスのデジタル化

<b>問32</b>	あなたはデジタル化によって豊田市の行政サービスが便利になったと感じますか。(〇はひとつ)
------------	--

### 1) 全体集計結果

デジタル化によって豊田市の行政サービスが便利になったと感じる(「思う」+「どちらかと言えば思う」)と回答した市民の割合は、40.3%となっており、前回調査と比較して4.9ポイント増加しています。一方、感じない(「どちらかと言えば思わない」+「思わない」)と回答した市民の割合は30.2%で前回調査から0.4ポイント増加しています。

図表3-46-1 行政サービスのデジタル化の利便性(前回調査との比較)



## 2) 属性分析結果

ここでは特徴的な結果が得られた「年齢別」の属性分析を行います。

年齢別にみると、デジタル化によって豊田市の行政サービスが便利になったと感じると回答した市民の割合は、25～29歳が66.9%と最も高く、次いで20～24歳が65.0%、30～34歳が60.6%となっています。

図表3-46-2 行政サービスのデジタル化の利便性(年齢別)

